

平成 **22** 年度

こどもの城 事業年報

財団法人 児童育成協会



平成 **22** 年度

こどもの城
事業年報

1 事業の概要

- 7 平成22年度の活動 ————— はじめに／一般事業活動／その他の活動／
国庫補助による事業活動／開館時間・入館料(ことも活動エリア)
- 15 平成22年度活動一覧表 ————— 来館児・者数／グループ活動実施状況／講座・クラブなど／
視察・見学実績
- 20 一年の歩み

2 開館25周年を迎えて

- 23 開館25周年記念事業 ————— はじめに／開館25周年記念事業
- 28 平成22年度記念事業一覧表 ————— みんなあつまれ！チャレンジ25／その他の記念事業
- 31 25年の歩みをふりかえる
- 32 25年の歩み(各部) ————— 体育事業部の25年／プレイ事業部の25年／
造形事業部の25年／音楽事業部の25年／AV事業部の25年／
保育研究開発部の25年／小児保健部の25年／
企画研修部の25年／劇場事業本部の25年／
“センター機能”の25年

3 各部の事業

体育事業部

- 57 平成22年度の活動 ————— はじめに／スポーツ遊びプログラム／まとめ
- 60 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど

プレイ事業部

- 67 平成22年度の活動 ————— はじめに／プログラム活動／健全育成と野外活動／まとめ
- 70 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど

造形事業部

- 77 平成22年度の活動 ————— はじめに／オープンスタジオ～造形アニマルパラダイス～／
まとめ
- 80 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど／その他
- 85 平成22年度プログラム一覧表 ————— 親子コーナー／クリエイティブコーナー

Contents 目次

音楽事業部

- 87 平成22年度の活動 ————— はじめに／音楽口ビーの活動から／まとめ
- 90 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど／その他

AV事業部

- 97 平成22年度の活動 ————— はじめに／ビデオライブラリー「歴史特集」／
その他の活動／まとめ
- 101 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど／その他

保育研究開発部

- 105 平成22年度の活動 ————— はじめに／保育事業の活動から／まとめ
- 110 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど／その他

小児保健部

- 113 平成22年度の活動 ————— はじめに／診療・相談活動／
家庭環境の変化と「心理相談」による援助／まとめ
- 118 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／講座・クラブなど

企画研修部

- 121 平成22年度の活動 ————— はじめに／事業調整機能の強化／
ホランティアの活動と養成／講座・クラブ／まとめ
- 124 平成22年度活動一覧表 ————— 一般利用／ホランティアの活動／講座・クラブなど
- 132 平成22年度「グループ活動」プログラム一覧表

劇場事業本部

- 133 平成22年度の活動 ————— はじめに／主な自主・提携公演／まとめ
- 140 平成22年度公演演目一覧表 ————— 青山劇場／青山円形劇場／その他

広報部

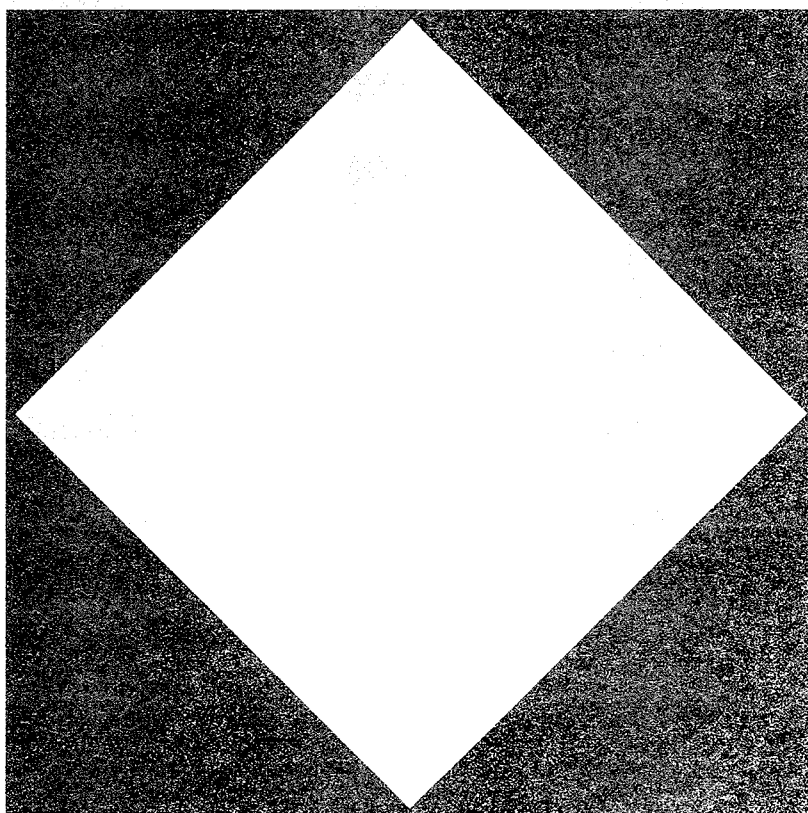
- 145 平成22年度の活動 ————— はじめに／限られた予算で効果的な広報を／まとめ
- 147 平成22年度活動一覧表

4 こどもの城から全国へ

- 151 平成22年度の活動 ————— はじめに／事業の概要／まとめ
- 153 平成22年度活動一覧表 ————— 講座・クラブなど／〈動くこどもの城〉（派遣プログラム）ほか
／助成金による事業

1

事業の概要



事業の概要



平成 22 年度の活動

1. はじめに

〔こどもの城〕は、少子化時代に対応しながら児童の健全育成、資質の向上に資するため、各種事業を推進してき。本年度は、新体制で新しい視点から改革に取り組んだ。開館 25 周年を迎える本年度は、累積入館児・者数も 2,500 万人に達することから、これを機に、これまでの課題を整理し、〔こどもの城〕の存在感を社会へ訴えていく事業展開を行った。

しかし、10 月に実施された行政刷新会議の事業仕分けと平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災が、〔こどもの城〕の事業運営に大きな影響を与えた。

なお、3 月 11 日の東日本大震災発生時は、交通事情により帰宅困難になった来館児・者 48 組、92 人の親子に対し、館内で一晩を過ごしていただき、安全確保に努めた。さらに 3 月 19 日からは、義援金箱を館内に設置し来館児・者に募金を呼びかけを行った。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の「こども活動エリア」来館児・者は 277,347 人、劇場入場者 345,579 人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総推計は 797,105 人で、前年度比 10,868 人の減少となった。

「こども活動エリア」来館児・者は、前年度から続いていたインフルエンザの影響が落ち着いた 6 月以降からは、増加傾向が続き（対前年度比）、開館 25 周年記念事業の展開も加わり、11 月 3 日には累計 2,500 万人を達成した。しかし、2 月までは前年度に比べて増加していたが、3 月 11 日の東日本大震災の影響で一週間の休館を余儀なくされたうえ、再開後の低迷により、3 月の来館児・者数は大きく減少し、結果的に前

【来館児・者数（対前年度比較）】

(人)

来館児・者区分	平成 22 年度実績①	平成 21 年度実績②	差し引き増減①－②
有料来館者（大人）	100,816	98,761	2,055
有料来館児（子ども）	77,159	81,197	▲4,038
有料来館児・者（団体）	19,409	22,475	▲3,066
小計（有料来館児・者）	197,384	202,433	▲5,049
3 歳未満児推計	50,480	49,454	1,026
招待者・児	29,483	34,259	▲4,776
「こども活動エリア」来館児・者	277,347	286,146	▲8,799
劇場入場者	345,579	353,428	▲7,849
講座・クラブ受講生	72,024	68,186	3,838
その他	102,155	100,213	1,942
合計	797,105	807,973	▲10,868

年度より減少となった。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【25 周年事業の実施】

こどもの城開館 25 周年記念事業は、〔こどもの城〕の役割、健全育成の意味と課題を社会に向けて訴えていく機会とするとともに、来館児・者に魅力的な〔こどもの城〕像を印象付けることで、今後の来館へつなげていく機会とした。

「みんなあつまれ！チャレンジ 25」は記念事業の中心として、〔こどもの城〕の開館以来各事業部が展開してきたさまざまな事業のなかから、選りすぐった企画をさらに発展させて実施した。10 月 9 日から 11 月 28 日までの約 2 か月間に、各事業部協力のもとに総数 25 の事業を連続的に実施し、25 周年の特別感を演出した。10 月、11 月の「こども活動エリア」の来館児・者数は 49,654 人となり、前年度比 9,355 人の増加となった。

「ティーンズ・カフェ 2010」は、中高生世代に向けた〔こどもの城〕の新機軸事業として実施した。中高生世代が興味のあるテーマについて、グループでディスカッションを行うなど、思春期後期の不安定な心にアプローチするこの事業は、中高生世代の居場所作りプログラムの試金石となった。

【社会への発信】

◎ピロティの有効活用

青山通りに面した前庭「ピロティ」で事業を実施し、〔こどもの城〕の存在感を社会へ訴える努力をした。

具体的には、クリスマスにこどもの城児童合唱団によるミニコンサート「サンタにとどけ！うたおうクリスマス」、お正月に桐が丘児童館太鼓クラブ（東京都北区）の子ともたちによる和太鼓の演奏「新春～ひびけ！めでタイコ～」、企業協力の展示「GO! GO! ヴィークル～クラシックカーがやってくる～」（トヨタ自動車）、「ガリバー大きな靴の展示」（20 世紀 FOX 映画）、「熊本みかんの無料配布」（JA 熊本果実連、東京新宿ベジ



サンタにとどけ！うたおうクリスマス（12 月 18 日）

フル他）、「青森りんごの無料配布」（青森 JA つがる弘前、エヌケイベジフル他）、館内で実施しているプログラムをピロティで展開する「みんなで『みちくさ』あそぼうみんなで、外あそび！」（春休み特別期間）を行った。

〔こどもの城〕の事業内容やその価値を社会へ伝える機会となるとともに、子どもたちには、より期待感あふれる遊び場への導入となった。

◎館外でのプログラム展開

国立の総合児童センターとして、国庫補助事業による事業実施にとどまらず、本年度の新たな試みとして館内で実施していたプログラムを館外で実施し、センター機能の発信に努めた。

東京国際フォーラムで開催された「子供未来とうきょうメッセ 2010」（子育て応援とうきょう会議主催／12 月 7 日）へ参加し、音楽事業部のミニコンサート、造形事業部の帽子作りのワークショップ、企画研修部の外遊びキットのワークショップを行った。

◎乳幼児プログラムの充実

本年度から、毎週火曜日の午前中に子育て支援プログラムの一環として、乳幼児と親を対象にしたプログラム「赤ちゃんサロン」と「ぽかぽか広場」を毎週交互に実施し、日常的な広場事業の定着をめざした。また夏休み特別期間から、各特別期間ごとに全期間をとおして、乳幼児と親の居場所となる「バブバブベビータウン」を運営した。

これらの取り組みは、近年増加する 3 歳未満の子ども連れの家族のニーズを満たす事業。特に乳幼児を持つ父親がスタッフのサポートで、子どもとの遊びをとおした接し方を学ぶ機会となり、子育て支援プログラムとしての社会的意義があるものと考えている。今後、総合的な視野での事業展開が課題である。

◎外部団体、企業との協賛・連携事業の積極的導入

児童健全育成事業の社会啓発活動の一環として、また外部団体、企業との良好な関係を築き、開かれた施設運営をめさすために、外部団体、企業との協賛・連携事業を積極的に導入した。主な協賛・連携事業は下記のとおり（順不同）

- 造形スタジオ 日常活動（リンテック／山田タンホール）
- 二足歩行ロボットワークショップほか（トヨタ自動車）
- 宇宙教育ワークショップ 宇宙の謎をさくってみよう（JAXA）
- ペダルカーの寄贈（メルセデスベンツ日本）
- こともエコ絵画コンクール展（ブリシストンタイヤ）
- 木製エコトイの寄贈（プラントイシャパン）
- 世界でたった一つのかたち with ノッポさん（コスモ石油）
- マタニティ・コンサート（和光堂／大島椿／タカタ／ユニチャーム／クラランス／ヒーンスターク・スノー）
- 小児保健セミナー（ユニ・チャーム／ヒーンスターク・スノー）

○赤ちゃん大集合（和光堂／大島椿／タカタ／大塚製菓／ピーンスターク・スノー／クラランス／アイクレオ／ピション／江崎クリコ／赤ちゃんとママ社／カトーシ／ケイシェイシー／コンヒ／持田ヘルスケア／ヘヒーリース）

○ニッサンゆかいな絵本と童話展（ニッサン自動車）

○家族写真展（富士フィルム）

○カリハー旅行記 小人国ツアー（20世紀FOX映画）

○輪島塗りを楽しもう（彩漆会 石川県輪島市）

◎各部の協力強化による事業の実施

平常期間の土・日曜日に、各事業部相互協力による事業を実施した。各事業部の専門性を融合させ、総合施設ならではの特徴を生かした。

また、「とり+かえっこ」「とり+かえっこ×ドルッチャ=あそび市」では、子どもたちの意見を生かした参画型プログラムを実施し、自発的な取り組みを支援することにより、子ども同士の交流の場の確保に取り組んだ。

○とり+かえっこ（6月）

○秋祭り（9月）

○とり+かえっこ×ドルッチャ=あそび市（平成23年2月）

○小学生スペシャル（2月）

（ウ）講座・クラブ

児童の知的・社会的能力を高めるとともに、継続的、体系的に「こどもの城」を利用してもらうために、講座・クラブ活動を実施した。本年度は、充足率、効果の側面から各講座を見直し、コース数を精査して改革に臨んだ。また、小児保健部、保育研究開発部、企画研修部が実施する専門指導者向け講習会について、領域や内容の明確化を行い、より多様なニーズに応えられるよう配慮した。その結果、延べ受講者数が3,838人となり、対前年度比増加となった。

○講座および短期講習会 38種、72コース、受講者数1,485人 ×短期講習会受講者数は期ごとの平均（前年度 38種、70コース、受講者数1,482人）

○クラブ 6種、6コース、受講者数746人（前年度 6種、6コース、受講者数710人）

○講習会 7種、19コース、受講者数483人（前年度 7種、19コース、受講者数480人）

○短期集中講習会 14種、103コース、受講者数1,283人（前年度 17種、125コース、受講者数1,469人）

○専門指導者向け講習会 13種、18コース、受講者数721人（前年度 11種、20コース、受講者数738人）

（エ）グループ活動

平日の「こどもの城」の開館前の午前中を利用して、

保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、特別プログラムを提供している。一般来館児対象のプログラムに比べ、集団性を活用したプログラム内容を実施できることや、ハンディキャップを持つ児童など、より個別性に配慮した展開が必要な場合に対応するため、特別支援学校、インターナショナルスクール、自主保育グループなどの施設、団体からの申し込みがあり、利用件数は安定している。

しかし、ここ数年、過去に開発したプログラム提供にとどまっており、新たなプログラムの開発が課題である。本年度は152グループ、3,055人（前年度156グループ、3,267人）を受け入れた。

（オ）保育研究開発部・小児保健部

〈保育研究開発部〉

○「保育クラブ」は、2歳児クラスの増設をはかるなどさまざまな工夫を行った結果、利用者数が増加した。また「親子教室」は開催日を月曜日から土曜日に、時間も短縮し、名称も「おやこクラブ」とし父親がより参加しやすいよう工夫した。

○指導者向け講習会は、保育関係者同士の情報交換を主に実施していた「保育セミナー」から、具体的な保育内容を中心にした「子育て支援講習会」（1日コース）へ変更した。「家庭支援の理論と実践」（年3回）では、保育者ができる子育て支援・相談のあり方を学んだ。

○「子育て支援のニュースレター」は、本年度から小児保健部、企画研修部との合同企画となり、さまざまな子育て支援の情報を掲載した。

〈小児保健部〉

○小児保健クリニックでは診療・相談を実施。件数は2,409件（前年度2,161件）であった。身近な心配ごとでも受診しやすいように広報した結果、小児科や乳幼児健康診査の件数が大幅に増加した。

○「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」および「マタニティ・スイミング」、子育て支援関係者のための講習会（「小児保健セミナー」等）を年6回実施した。

○乳幼児とその親を対象にした広場事業「赤ちゃんサロン」は、年間17回開催し2,108人（前年度18回2,505人）が参加。若干減少したが、夏休み特別期間に開催した「赤ちゃんほっとタイム子育て学習会」のような、子育て広場のなかで講義を受ける形式のものが盛況であった。

○インフルエンザ流行の影響で中止した「赤ちゃん大集合」を復活させ、870人の参加者を集めた。また、妊娠中の女性とその家族を対象とした「マタニティ・コンサート」を青山円形劇場で実施し、266人（前年

度 196 人) の参加者を集めた。

(カ) 劇場事業

劇場事業は、児童・青少年の芸術・文化の振興を目的として運営しているが、社会・経済環境の悪化にともなって、より一層の劇場事業収入の改善をめざした事業運営を行うものとし、「自主・提携公演のガイドライン」を策定した。

ガイドラインにそって、自主公演を青山劇場で 2 公演、青山円形劇場で 6 公演、提携公演を青山劇場で 1 公演、青山円形劇場で 10 公演実施した。このうち『ア・ラ・カルト 2 〜役者と音楽家のいるレストラン〜』『高円宮殿下記念 ローザンヌ・ガラ 2010』『TOKYO DANCE TODAY Vol 6』は文化庁の芸術創造活動特別推進事業に選ばれた。

劇場貸与については青山劇場が 21 件、青山円形劇場が 21 件で国費による工事期間等を除いた稼働状況は以下のとおりであった。

また、劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成を図るためのセミナー「APAS = Aoyama Performing Arts Seminar」を 19 件実施した。

※公演演目一覧表 (140 ページ) 参照

【青山劇場・青山円形劇場の稼働状況】

	使用可能日数 (日)	使用日数 (日)	稼働率 (%)	前年度稼働率 (%)
青山劇場	331	292	88.2	88.3
青山円形劇場	359	315	87.8	88.2
計	690	607	88.0	88.3

(キ) 利用者サービス事業

「こどもの城」を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、運営を行うとともに、児童厚生員等を対象とした研修など、各種研修、会合等のための研修室の管理・運営を行った。

新型インフルエンザ流行の影響を強く受けた前年度の低迷状態を脱却し、全体として回復基調にあったが、3 月 11 日に発生した東日本大震災により 3 月実績が落ち込み、前年度を若干上回る程度に止まった。

3. その他の活動

(ア) 広報

「こどもの城」の事業・活動内容をより理解、認識してもらうことを目的として、各種の広報活動を積極的に行った。取材件数は、新聞、テレビなど年間 157 件 (前年度 171 件) にとどまったが、25 周年事業では、

主要報道機関からの取材があり、「こどもの城」の存在を広く社会に知らしめることができた。

今後、「こどもの城」の存在意義や児童健全育成事業の社会的な役割を訴えていく広報機能だけでなく、「こどもの城」をめぐる環境を把握する公聴機能の強化を行う。

(イ) 実習生・研修生の受け入れ

大学、専門学校などの要請に応じて、「こどもの城」の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生、研修生を受け入れている。本年度は実習生 21 人、研修生 22 人 (前年度 実習生 22 人、研修生 2 人) を受け入れた。

中・高校生の職場体験の依頼が多くよせられ、本年度は中学生 7 件 20 人、高校生 3 件 31 人 (前年度 中学生 5 件 9 人、高校生 7 件 20 人) を受け入れた。

増加する中・高校生の職場体験、大学からのインターシップ生 (実習生に含まれる 5 件) の受け入れは、社会的にますます重要になっている。

(ウ) 講師派遣

「こどもの城」で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館や子育て支援センター、放課後児童クラブなど、全国の児童健全育成や子育て支援にかかわる施設・団体などからの要請により、講師派遣という形で協会職員が各地に出向き、「こどもの城」のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。本年度の派遣実績は 139 件 (前年度 172 件) であった。

【講師派遣実績】

講師の派遣分野	件数
ゲーム・運動遊び (ゲーム・運動・科学・伝承など)	4
表現活動 (音楽・造形など)	24
児童健全育成 (児童館活動支援・援助技術など)	19
子育て支援 (親子援助・子ども理解・保健など)	91
その他	1
計	139

(エ) 国際交流事業

イタリア・マントヴァ市の子どものための国際美術・演劇フェスティバル事務局の要請で、造形事業部と企画研修部のスタッフが、同市で「かげをうつそう」のプログラムを実施した。イタリアの子ども約 200 人 (30 人定員を 7 回) と幼稚園教諭などの指導者 24 人が参加し、大好評のワークショップとなった。

2 月にはイタリアからアーティストが来日し、「せ

かいの色はどんな色？」という子ども向けワークショップを実施した。

例年同様に、京浜地区の外国人学校の合同造形展「アートスケープ 2011」にギャラリーを提供した。また、夏休み短期講座のなかで、アフリカやブラジルの民族楽器を紹介し、演奏をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

(オ) こどもの城友の会

〔こどもの城〕が利用者のニーズを的確に把握し、より利用者サイドに立った施設運営を可能にするために、モニターの役割を担う家族会員で構成されている。本年度も友の会会員の増加、機能の強化を目的に、さまざまな努力をした。

年間 12 回の「友の会ニュース」の発行をはじめ、会員サービスとして、映画『アーサーと魔王マルタザールの逆襲』試写会招待、フリーマーケット、輪島塗漆器紹介、ハンドマッサージのプログラムなどを実施したが、本年度末現在の会員数は、600 家族（前年度末 760 家族）に減少している。

今後は、会員ニーズの調査をはじめ、友の会本来の機能を十分に発揮できるように、事業のあり方を見直していく必要がある。

(カ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受け、「屋外遊びを通じたネットワークづくり事業」を行った。児童館における児童の屋外遊びの活性化を目的に、全国 3 か所でモデル事業を実施、移動式屋外遊具キットの開発、報告書「もっと外で遊ぼうよ！～移動型遊び場による地域ネットワークづくり」の作成と全国の児童館等への配布を行った。日本のセンター児童館として、先駆的な事業展開のあり方を研究、提言していくことは重要な役割である。

イタリア・マントヴァ市の子どものための国際美術・演劇フェスティバルへの参加に際しては、国際交流基金の助成を受けた。

4. 国庫補助による事業活動

(ア) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、併せて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度は、学童もしくは学童が大人と一緒に参加できるプログラムへの要望が、ここ数年派遣実績の半数近くを占めていた乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラムを上回った。

○乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム＝「ぽかぽか広場」「すくすくスキンシップ」など 9 か所

○幼児や学童を対象とした遊びのプログラム＝「身近な道具でスポーツあそび」「アニメワークショップ」など 20 所

○展示とワークショップ＝「造形ワークショップ展」「全国児童館おりかみ作品巡回展」18 か所

合計、北海道ほか 24 都道府県政令市 47 か所（前年度 47 か所）で開催した。また、研修会後のアンケートや、過去の派遣先での事業定着への聞き取り調査を実施するなど、事業効果の検証にも力を入れた。

(イ) 中央児童厚生施設事業

児童の健全育成の幅広い活動ができるボランティアの養成と、施設スタッフに向けたボランティアの拡充および活動内容の充実をはかるコーディネートシステム構築のためのアドバイスなどの支援を行った。

本年度末までのボランティア講習修了者数は 2,686 人で、うちボランティアとして登録しているのは 366 人（前年度 347 人）、本年度中の〔こどもの城〕の事業活動に参加したのは延べ 5,441 人（前年度 4,973 人）であった。

また、全国各地におけるボランティア育成のためのボランティア交流事業や、技術向上のための研修会（長崎県）など、地域における活動への支援も行った。

(ウ) 啓発活動

児童の健全育成にかんする冊子を地方自治体へ配布し、事業事例の紹介と理念の普及に努めた。地域児童館における折り紙作品展出品作の制作過程なども積極的に取材するとともに、地域の児童健全育成事業へのすぐれた取り組みについても、その実践例を具体的に紹介した。

5. 開館時間・入館料（こども活動エリア）

(ア) 平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12 時 30 分～17 時 30 分
土・日曜日・祝日	10 時 00 分～17 時 30 分

月曜日 休館(祝日・振替休日にあたり
きは開館。翌火曜日が休館)

■春休み特別期間■
3月25日～4月5日(3月23日は休館)

(イ) 特別期間

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)を特別期間とし、多数の来館児・者を楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5月5日「こどもの日」と、〔こどもの城〕開館を記念した11月3日「文化の日」は“こども”の入館料を無料とした。

開館時間は、特記した日を除き、10時～17時30分。

■児童福祉週間(ゴールデンウィーク) 特別期間■

4月29日～5月5日 × 4月30日は12時30分開館

■夏休み特別期間■

7月21日～8月31日(毎日開館)

■冬休み特別期間■

12月25日～平成23年1月10日

(12月29日～1月2日は休館)
× 1月3日は12時30分開館

(ウ) 入館料

【入館料】

一般	こども(18歳未満)	400円
	(保護者が同伴した3歳未満児は無料)	
	大人(18歳以上)	500円
回数券	こども(6枚つづり)	2,000円
	大人(6枚つづり)	2,500円
団体(20人以上)	こども	320円
	大人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス(1年間有効)	大人	3,000円
わくわくパス(夏休み期間限定)	大人	1,800円
ドキドキパス(夏休み期間限定)	こども	1,500円
小・中学生土曜日パス(1年間有効)	小・中学生	2,500円

【こどもの城】の付帯事業 (平成23年3月31日現在)

業 種	店 名 等	場 所	利 用 客 席 数	営 業 日 ・ 営 業 時 間	備 考
宿泊施設	こどもの城 ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 68	無休(12月28日～1月2日を除く)	洋室24室(シンクル3、Aツイン10、 Bツイン11) 和室3室(5人用1、6人用1、12人用1) × 1泊7,455円～
貸し室	研 修 室	8・9階	研修室 10 ×一部通して使用 できる。利用人員 400人くらいまで	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=900～2100	研修および会議など × 1単位時間13,335円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=1000～1730	各種展示会など × 1日31,500円
物品販売	売 店	1階アトリウム	1か所	営業日時=「こども活動エリア」の 開館日の1230～1730	がん具、文具、スポーツ用品、講座指 定水着、催事関係用品、印刷出版物、 衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食販売 40か所 コイン式インターネット 1か所 カプセルトイ 2か所	無休	トリンク類、牛乳類、カップ麺類など
公衆電話		館内各所	5か所 7台	無休	
駐 車 場		屋内(地下2階～ 地下4階)、屋外(1 階)	約126台 (業務車両分含む)	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=800～2200	普通車両は地下駐車場、バスなど大型 車両は屋外(1階)に駐車 ×普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間1,260円
飲食関係	レストラン	1階	客席数 140	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=730～1900	レストラン、弁当仕出し、パーティ ー、宿泊施設利用者の食事など
	劇場内 「スナック」	青山劇場内地下お よび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前・幕間	喫茶、軽食

〔こどもの城〕の概要

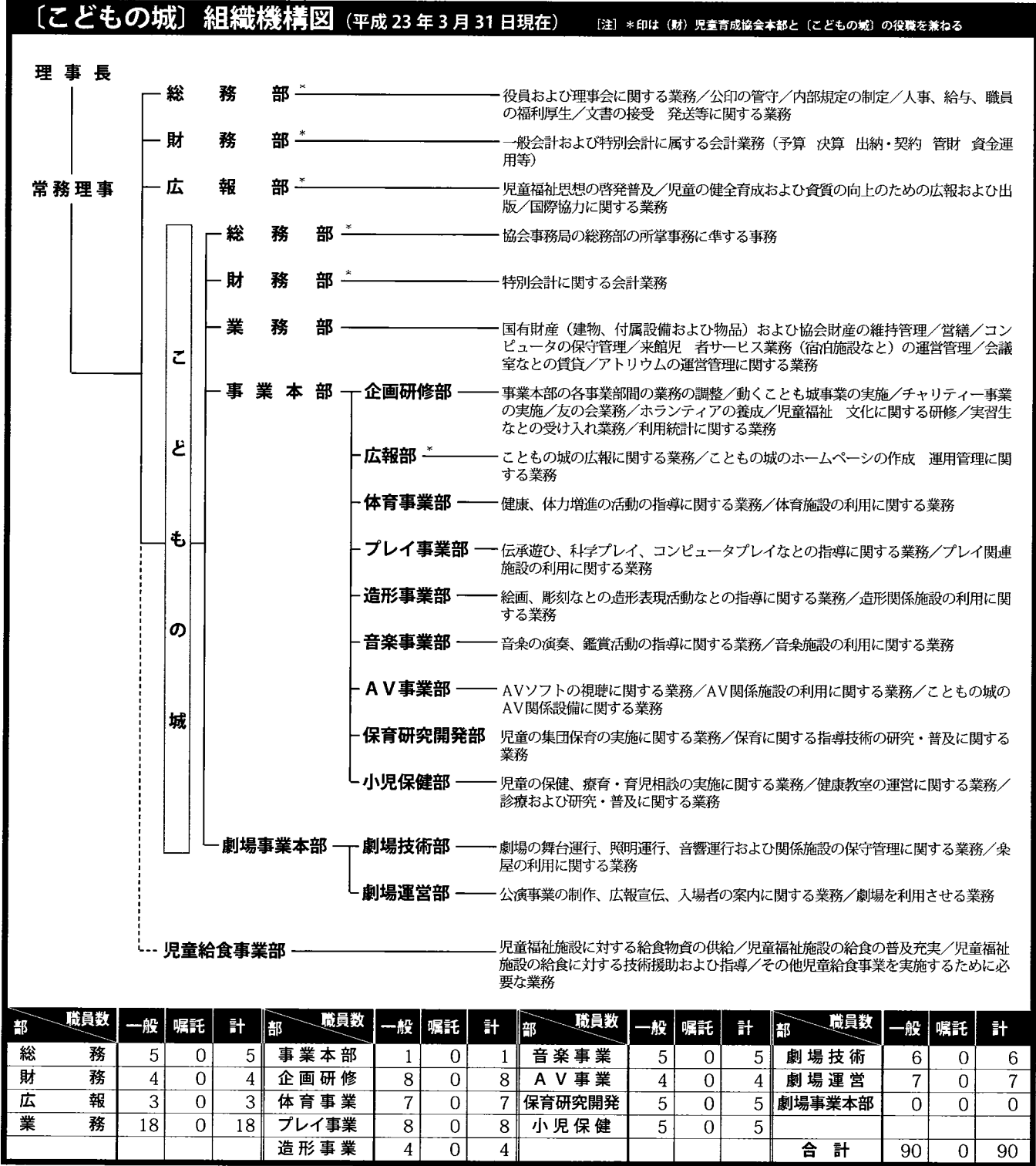
			オフィス	13 F 12 F 11 F	
			パソコンルーム	10 F	
			研修室	9 F 8 F	
			ホテル	7 F 6 F	
5 F	屋上遊園 プレイポート		小児保健クリニック 保育室	5 F	ふしが丘
4 F	ヒテオライブラリー		音楽ロビー A・Bスタジオ	4 F	
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場		プレイホール コンピュータプレイルーム	3 F	
2 F	ギャラリー	屋 外 通 路	ファミリーラウンジ	2 F	青山劇場
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F	
B 1	プール観覧室		フリーホール	B 1	
B 2	体育室／プール／健康開発室			B 2	
			駐車場	B 3 B 4	

建 築 概 要

所在地 ・ 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
 建築主 厚生労働省（当時・厚生省）
 敷地面積 9,923 平方メートル
 建築面積 6,001 平方メートル
 延床面積 .. 41,699 平方メートル
 建ぺい率 .. 60.48%
 容積率 ・ 345.38%
 階数 ・ 地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階

最高高さ GL + 57.6 メートル
 基礎下端 GL - 28.5 メートル
 主要構造 ・ 高層部 鉄骨造り
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
 地 下 鉄筋コンクリート造り
 着工 .. 昭和 56 年 11 月
 完成 昭和 60 年 9 月（11 月 1 日開館）

×〔こどもの城〕は 1979 年（昭和 54 年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。



(財) 児童育成協会役員 (平成 23 年 3 月 31 日現在)					
役 職	氏 名		役 職	氏 名	
理 事 長	小山 敬次郎	千葉商科大学理事	理 事	坪田 秀治	日本商工会議所理事・事務局長
常務理事	藤田 興彦	(財) こども未来財団理事長	理 事	山口 規容子	総合母子保健センター所長愛育病院名誉院長
理 事	廣瀬 友久				
理 事	鈴木 一光	(財) 児童健全育成推進財団理事長	監 事	秋山 昭八	弁護士
理 事	品川 正治	(財) 国際開発センター会長	監 事	藤間 秋男	公認会計士

平成 22 年度活動一覽表

1. 来館児・者数

	一 般 来 館 児 ・ 者		総 数	劇 場			そ の 他	計
	日	時		青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4 月	大人	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
	子とも	6,707	23,431	20,764	8,356	29,120	8,361	60,912
	団体	5,925	推計					推計
	受講生など	516	(26,792)					(64,273)
5 月	大人	9,039	24,637	26,393	7,890	34,283	8,926	67,846
	子とも	5,796	推計					推計
	団体	954	(29,161)					(72,370)
	受講生など	8,848						
6 月	大人	6,223	20,804	21,184	6,354	27,538	8,735	57,077
	子とも	4,089	推計					推計
	団体	1,102	(23,921)					(60,194)
	受講生など	9,390						
7 月	大人	10,574	30,516	33,445	6,736	40,181	7,309	78,006
	子とも	8,648	推計					推計
	団体	4,075	(35,807)					(83,297)
	受講生など	7,219						
8 月	大人	19,144	49,027	19,526	5,277	24,803	8,151	81,981
	子とも	18,780	推計					推計
	団体	3,454	(58,608)					(91,562)
	受講生など	7,649						
9 月	大人	7,700	22,963	15,897	7,898	23,795	7,651	54,409
	子とも	5,228	推計					推計
	団体	943	(26,817)					(58,263)
	受講生など	9,092						
10 月	大人	7,242	22,130	28,169	11,803	39,972	9,265	71,367
	子とも	4,831	推計					推計
	団体	909	(25,728)					(74,995)
	受講生など	9,148						
11 月	大人	7,095	20,342	21,690	7,121	28,811	9,697	58,850
	子とも	3,838	推計					推計
	団体	539	(23,896)					(62,404)
	受講生など	8,870						
12 月	大人	5,536	16,890	20,408	5,983	26,391	8,008	51,289
	子とも	4,073	推計					推計
	団体	775	(19,666)					(54,065)
	受講生など	6,506						
平成 23 年 1 月	大人	8,123	25,409	29,614	5,861	35,475	8,022	68,906
	子とも	6,194	推計					推計
	団体	3,839	(29,475)					(72,972)
	受講生など	7,253						
2 月	大人	7,044	22,262	21,812	8,574	30,386	10,813	63,461
	子とも	4,242	推計					推計
	団体	1,553	(25,790)					(66,989)
	受講生など	9,241						
3 月	大人	6,389	20,480	0	4,824	4,824	7,238	32,542
	子とも	5,333	推計					推計
	団体	750	(23,680)					(35,742)
	受講生など	8,008						
計	大人	100,816	198,891	258,902	86,677	345,579	102,176	749,846
	子とも	77,159	推計					推計
	団体	19,409	(349,341)					(797,126)
	受講生など	101,507						

注) 「一般来館児 者」の“推計”は、3 歳未満児の推定来館児数を含めたもの。

「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。

「その他」は、宿泊施設 研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	特 別 支 援 学 校	特 別 支 援 学 級	障 害 児 施 設	自 主 保 育 グ ル ー プ	計
件数		40	50	25	3	21	11	0	2	(件) 152
月別 内 訳	4月		1							1
	5月	5	1	4		2				12
	6月	7	15	4		3				29
	7月	4			1	1				6
	8月									
	9月	2		6		4				12
	10月	1	4	3	1	3	6			18
	11月	2	6			2				10
	12月	6	2				2		1	11
	平成22年1月	4	5	1	1	3			1	15
	2月	8	11	5		2	3			29
	3月	1	5	2		1				9
地域別 内訳	東京都	40	48	25		14	7		2	136
	区 市					3	3			6
	他府県		2		3	4	1			10
参加児童数 別 内 訳	10人未満	1	1	1		6	5		1	15
	10～19	24	31	12		9	4		1	81
	20～29	13	4	11	2	5	1			36
	30～39	1	8		1	1	1			12
	40～49	1	2							3
	50～59		2							2
	60～79		2							2
	80～99									
	100～149			1						1
	150人以上									
参加児童数	延べ人数	741	1,167	561	86	322	150		28	3,055
	1件当たり人数	18.5	23.3	22.4	28.7	15.3	13.6		14.0	20.1
引率者数		139	189	74	10	230	85		3	730
付添者数		7	49	4		60	2			122
活動部門	体育	15	10	4		3	4		1	37
	プレイ	17	16	5		5	5			48
	造形	4	15	9		3				31
	音楽	5	20	2		11	2			40
	AV	1	3	8	3		1			16
	プレイ自由利用								1	1
	AV自由利用									
	その他自由利用									

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することもあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2 コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	" 5 "	270 (人)
	幼児体育	"	" 3 "	120
	小学生水泳	小学生	" 5 "	300
	小中学生水泳	小・中学生	" 2 "	80
	小学生体育	小学生	" 2 "	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	" 1 "	30
	シニア・スイミングフレッシュ	"	" 1 "	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	" 1 "	35
	シニア新体操	小・中・高校生の女子	" 1 "	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	" 1 "	15
プ レ イ	キッズクラブ	小学生	" 1 "	30
	ユースクラブ	小・中学生	" 1 "	40
造 形	こともクリエイティブクラブ～クレイワーク	"	" 1 "	16
	" ～ゆかいな造形	"	" 2 "	32
	" ～親子でアート	幼児 親	" 1 "	10 (組)
	" ～絵本の世界へ	小・中学生	" 1 "	16 (人)
	" ～ハンスワーク	小・中・高校生	" 1 "	16
	大人のための造形表現教室	一般	" 1 "	25
音 楽	みんなて楽しいリトミック	幼児・親	" 3 "	60 (組)
	リズム・ムーヒンク	幼児	" 1 "	20 (人)
	リズム・ムーヒンク＆パーカッション	小学生	" 1 "	15
	おんかく大好きミュージック・パーク	ダウン症の幼児 小学生と親	" 2 "	20 (組)
	合唱講座	小学生	" 1 "	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了の小・中学生	" 2 "	120
	カムラン講座	小・中・高校生	" 1 "	15
	三味線	"	" 2 "	24
	混声合唱	高校生以上	" 1 "	40
	和太鼓グループ	小・中・高校生	" 1 "	12
	レッツ・プレイ・サンハ	小・中・高校生	" 2 "	20
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	" 1 "	20
計	31 種		51 コース	1,616

〈クラブ〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	—
	レディース・コース	一般女性	" 1 "	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	" 1 "	300
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1 "	24
	保育クラブ	"	" 1 "	450
企画研修	L I T (高校生ボランティア)	高校生	" 1 "	30
計	6 種		6 コース	—

〈講習会（1 か月以上のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III（1・2 歳）	幼児・母親	3 か月 3 コース	90（組）
	幼児・母親体育 I・II・III（2・3 歳）	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくラント I・II・III	5 か月～・母親	〃 3 〃	90
	ぱちぱちファミリースイム I・II・III	幼児・親・祖父母	〃 6 〃	180
音 楽	おんかく星みつけた I・II・III	幼児・親	3 か月 3 〃	90
保 育	親子教室	幼児・親	〃 3 〃	54（人）
計	6 種		21 コース	594

〈短期講習会（1 か月未満のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休みこども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5 日間 2 コース	100（人）
	〃（B・D）	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 カンハ	小学生	〃 1 〃	30
	春休みこども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7 日間 12 〃	240
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1 日 25 〃	375
音 楽	夏休みリサイクル楽器のワークショップ	小・中・高校生（親子）	1 日 6 〃	120
	ふれよう世界の音楽	〃	1 日 3 〃	60
	Dance [E] プロジェクト Vol 3	小学生	2 日 1 〃	15
A V	夏休み子ども映像研究室	小・中・高校生	〃 36 〃	424
小児保健	夏休みこども 1 日トック	小・中学生	1 日 1 〃	10
	季節の離乳食	乳児・親	〃 9 〃	90
	赤ちゃんほっとタイム夏・冬・春休み子育て学習会	〃	〃 3 〃	90
劇 場	青山・パフォーミング・アーツ・セミナー 2010（APAS）	小学生～一般	1・2 日 19 〃	585
計	15 種		122 コース	2,309

〈専門指導者向け講習会など〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
保 育	保育セミナー	保育関係者	1 コース	50（人）
	子育て研修会～家庭支援の理論と実践～	〃	3 〃	150
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1 〃	100
	食育講習会	〃	1 〃	50
	子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」	〃	2 〃	120
	事例から学ぶ心理的な理解と対応	〃	1 〃	30
	事例から学ぶ食生活の理解と対応	〃	1 〃	30
企画研修	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	児童厚生員など	2 〃	100
	〃 つくって演じる人形劇	〃	1 〃	30
	〃 おりかみにつよくなる講習会	〃	1 〃	50
	ボランティア講習会	18 歳以上	2 〃	60
	ボランティア・クレートアップ講習会	ボランティア登録者	2 〃	30
計	12 種		18 コース	800

4. 視察・見学実績

年 度		都道府県・市区町村 の本庁その他の行政 部 局、公 共 団 体		児童館、保育所、幼 稚園、学校、施設、 サークルなどの団体		海外からの 視察・見学		そ の 他		計	
昭和 60 年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61 年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62 年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63 年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成 元 年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2 年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3 年度		(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4 年度		(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5 年度		(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6 年度		(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7 年度		(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8 年度		(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9 年度		(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10 年度		(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11 年度		(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12 年度		(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13 年度		(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
14 年度		(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
15 年度		(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142
16 年度		(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(181)	1,285
17 年度		(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231)	1,300
18 年度		(3)	31	(184)	1,267	(15)	229	(2)	7	(204)	1,534
19 年度		(1)	2	(175)	903	(19)	192	(6)	21	(201)	1,118
20 年度		(11)	29	(145)	604	(17)	136	(2)	29	(175)	798
21 年度		(12)	32	(121)	441	(17)	210	(3)	43	(153)	726
平成 22 年 度	4 月	(1)	2	(4)	5	(1)	10	(1)	29	(7)	46
	5 月	(2)	10	(10)	29	(1)	30	(1)	3	(14)	72
	6 月	(1)	3	(12)	38	(3)	77	(0)	0	(16)	118
	7 月	(0)	0	(19)	143	(1)	6	(1)	4	(21)	153
	8 月	(1)	8	(13)	165	(1)	3	(0)	0	(15)	176
	9 月	(0)	0	(7)	16	(0)	0	(0)	0	(7)	16
	10 月	(1)	1	(20)	122	(2)	12	(0)	0	(23)	135
	11 月	(1)	3	(13)	43	(0)	0	(1)	1	(15)	47
	12 月	(1)	2	(6)	47	(1)	1	(0)	0	(8)	50
	H23 1 月	(1)	4	(7)	21	(1)	6	(2)	5	(11)	36
	2 月	(0)	0	(9)	20	(0)	0	(0)	0	(9)	20
	3 月	(0)	0	(3)	3	(0)	0	(0)	0	(3)	3
	合 計	(9)	33	(123)	652	(11)	145	(6)	42	(149)	872
累 計		(1,477)	11,064	(3,396)	30,959	(473)	4,756	(373)	3,314	(5,719)	50,093

注) () 内は、団体数。

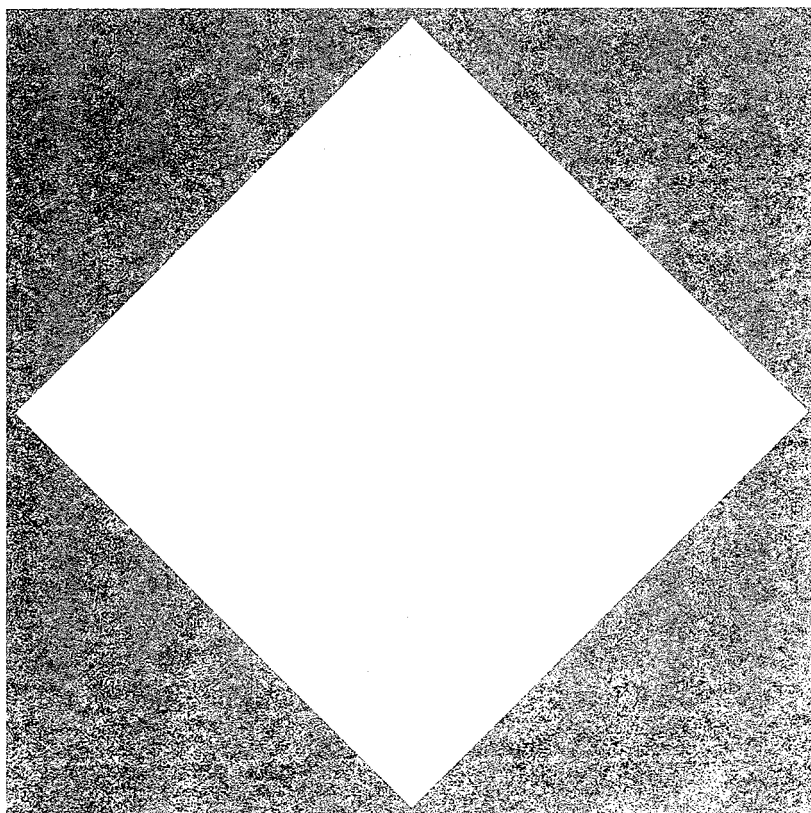
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1 年の歩み

月日	事 項	月日	事 項
4 29 ~ 5 5	児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間 「GW あそひイキイキ GO! GO! こともの城」 キャスルクエスト 2010 〜紋章の騎士団〜/ Wall Cup Soccer / こともの城 時記「端午の節句」/ みんなでダンス! ノッチャって! おとっちゃって! / 時空図書館〜みんなてなろう! 戦国キッズ〜/ 恐竜復元コンピュータ/ ハブハブヒータウン〜ババママいっしょのスペースたよ〜 ほか × 5 月 5 日は、こともの入館料は無料	10 30	小児保健セミナー「多様化する親子へのかかわり方〜話し の聴き方・伝え方〜」（研修室）
5 27	こともの城子育て支援講習会「心とからだの健康 012 歳児 〜事例から学ぶ〜心理的な理解と対応」（会議室） × 10 月 8 日に「食生活の理解と対応」のテーマで開催	10 30 ~ 11 28	いきいき家族写真展〜かけかえのない、いま〜 (4 階ロビーほか)
6 9・10	平成 22 年度第 1 回こともの城児童厚生員等実技指導講習会 「遊びの専門技術〜手技を楽しむ②」（研修室）	11 4	赤ちゃん大集合
6 12	こともの城子育て支援講習会「家庭支援の理論と実践〜気になる子どもへ の対応〜2 歳児から低学年までの子どもの行動と対応〜」（会議室） × 第 2 回は 9 月 25 日「気になる保護者への対応」。第 3 回は平成 23 年 2 月 12 日「家族を支える子育て支援とは」	11 13	平成 22 年度第 3 回こともの城児童厚生員等実技指導講習会 「おりかみにつよくなる講習会」（研修室）
6 26	こともの城子育て支援講習会「心とからだの健康 012 歳児 〜小児保健の基礎と実際〜」（会議室） × 平成 23 年 2 月 25・26 日（2 日コース）開催	12 4~26	ア・ラ・カルト 2 〜役者と音楽家のいるレストラン（青山円形劇場）
7 4	こともの城マタニティ・コンサート（青山円形劇場）	12 5	第 23 回水泳記録会（プール）
7 7~18	青山演劇 LABO #004 モダンスイマース「真夏の迷光とサイコ」（青山円形劇場）	12 11	小学生ラホスペシャル「TOYOTA 科学のひっくり箱! なせなににレクチャー 〜二足歩行ロボット」（プレイホール）
7 16	こともの城食育講習会「乳幼児期からの健康づくり〜生活習慣 病予防に向けて〜」（研修室）	12 25 ~ H23 1 10	冬休み冬休み特別期間 「冬休み元気にビョン! あそひいっぱいこともの城」 めさせ! うこキッズ〜マスター選手権大会〜/ 2011 新春あそひのお年王 びょんとこいこい福よこい! みんなてあそんでおめでと卵! / こともの城時 記「お正月」/ うたってファミリーほか
7 21 ~ 8 31	夏休み特別期間 「GO! GO! 夏休みいいいいいいいっぱい あそぼう こともの城」 スポーツナヒケーション in こともの城/ オープンスタジオ〜造形アニマ ル・パラダイス/ 時空図書館〜夏だ! 発見・冒険! 幕末トラベル〜/ アニ メフェスタ 2010 / みんなてあそぼう 夏本番! とれみふぁプレミアム/ メ カロホット研究所/ ウォーターアートベンチャー 2010 ― ほか	1 3~9	こともの城・キリン ファミリー・オペレッタ「タントさんのふしぎなレ ストラン〜タントさんときょうりゅうのひみつ〜」（青山円形劇場）
7 21 ~ 8 31	第 27 回渋谷スタンプラリー	1 19~21	平成 22 年度第 4 回こともの城児童厚生員等実技指導講習会 「遊びの専門技術〜手技を楽しむ②」（研修室）
7 22~25	月猫えほん音楽会 2010（青山円形劇場）	1 29・30	中西俊博 Leapingbow 2011 Reel's Trip 〜水の記憶〜（青山円形劇場）
7 27	こともの城カラムン講座開講 25 周年記念「みんなてカラムンを演奏しよう」（青山円形劇場）	2,1 ~ 13	2011 保育活動展〜ことものよう PART8（ギャラリー）
8 7・8	高円宮殿下記念ローサンヌ・カラ 2010 〜青山劇場 25 周年記念事業〜（青山劇場）	2 11~13	集まれ小学生! ボコ・ア・ボコ土曜音楽倶楽部 スペシャル/ ヒックサタデー スペシャル/ 小学生ラホスペシャル/ クリエイティブコーナー スペシャル
8 12~15	TAIKO JAPAN 2010 × 第 9 回東京国際和太鼓コンテスト(14 15 日/ 青山劇場)、青山太鼓見 聞録〈伝統のチカラ〉(13 日/ 青山劇場)、青山太鼓見聞録外伝〈大江戸 助六太鼓、一本!〉(12 日/ 青山円形劇場)、和太鼓カレッジ・ワーショ ップ(13~15 日/ 青山円形劇場、ピロティほか)	2 19・20	JAXA 宇宙教育ワークショップ/ コスミックカレッジほか (フリーホールほか)
8 22	平成 22 年度第 2 回こともの城児童厚生員等実技指導講習会 「つくって演じる人形劇 2010」（会議室）	2 19・20	とり+かえっこ×トルッチャあそび市（ギャラリーほか）
8 28	こともの城子育て支援講習会「保育室で使えるあそびのメニ ュー（実技）」（保育室）	2 26 ~ 3 6	アートスケープ展 2011（ギャラリー）
9 26	三味線講座 25 周年記念「三味線の調べ」（B スタジオ）	2 27~ 3 21	トキトキスオンステーシ（B スタジオ・音楽ロビー） 花のお江戸の助六太鼓 (227) / ひらけ! リズム・ムービング (36) / 三 味線三味 (320) / サンハ・フェスティバル! (321) × 313 の「イントネシアジャワ島のカムランコンサート」は東日本大震災のため中止
10 10 ~ 11 28	こともの城開館 25 周年記念「みんなあつまれ! チャレンジ 25」 スポーツ鬼ごっこ大会こともの城 CUP (1011) / 忍者マスター決定戦 (1030・31) / 造形発見展 (1026 ~ 31) / おはなし音楽オンパレード (1113・ 14・20) / 不思議な映像実験室 (1024・1128) / あそびか山もり! ト ン村!! 「トントンエキスポ 2010」(1120 21・23) ほか	3 11	東日本大震災（帰宅困難となった来館児・者か館内に宿泊）
		3 16~21	TOKYO DANCE TODAY # 6「あらかしめ」（青山円形劇場）
		3 25 ~ 4 5	春休み特別期間 「はしけてビョン! みちくさたのし こともの城」 みんなて「みちくさ」あそぼうみんなて、外あそび! / 春だ! エンジョイ スポーツあそびフェスティバル/ 迷路であそぼう〜めいろにメロメロ/ あ そび横丁 みんなてハシけてへんのへん! / やってみよう! つくってみ よう! 〜あの道 この道 とんな道? / ミラクルライブラリー〈冒険特集〉 春くる! ミラクルアートベンチャー/ パソコンフレントシップカートほか

2

開館25周年を
迎えて



開館 25周年を 迎えて



開館 25 周年記念事業

1. はじめに

開館 25 周年記念事業は、〔こどもの城〕の役割や健全育成の意味と課題を社会に向けて訴えていく機会とするとともに、来館する子どもたちに対して魅力的な〔こどもの城〕像を印象づけることで、今後の来館児・者増へつなげていく機会とした。開館記念日の 11 月 1 日を中心にして、子どもたちや家族向けの記念事業を展開したほか、指導者向けの事業など、年度内にさまざまな事業を展開した。

〔こどもの城〕は、昭和 60 年＝85 年 11 月 1 日の開館以来、児童の健全育成をめざして、一人ひとりの子どもが発達年齢に合わせてのびのびと遊び、それぞれのライフステージに応じた充実した時間を過ごすことのできる環境を提供するため、さまざまな事業を行ってきた。この 25 年間に、子どもを取巻く社会環境は、少子化の進行だけではなく、家庭における母親・父親の役割意識の変化、ゆとり教育から学力重視の指導への見直し、地域社会の機能低下とその再構築のためのさまざまな試みなど、子どもが属するコミュニティそのものが著しい変化を見せている。

児童健全育成の現場でも、主に未就園児とその親への〈子育て支援〉、子どもの社会性の獲得、子育てを起点とした地域社会の再構築の試みや男女共同参画のための取り組みなどの、新たな課題が出てきている。

2. 開館 25 周年記念事業

〔こどもの城〕では、一人ひとりの子どもを大切にするという大前提のもとに、この 25 年間の社会の変化に呼応して、次のような重点項目を掲げて、開館 25 周年記念事業を行った。

《こどもの城がめざすもの》

□子どもたちに遊びの場所ときっかけを提供し、子どもたちへのかかわりを大切に事業を行うこと□

〔こどもの城〕は、何よりもまず施設としての充実が求められる。そして、運営にあたっては、遊びをとおしての子どもの体験、子どもと子どもあるいは子どもと大人のコミュニケーションを重視する。こうした運営を効率的・機能的に行うことで、来館児・者の支持を得て、多くの人たちに喜びと充実感をもたらすことをめざしている。施設と

■「国際児童年」と

〔こどもの城〕■

〔こどもの城〕は、昭和 54 年＝79 年の国際児童年を記念して、厚生省(当時)が計画・建設した施設。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前 5-53-1 の約 1 万㎡の敷地に、地上 13 階、地下 4 階の建物か造られ、昭和 60 年＝85 年 11 月 1 日に開館した。

■こどもの城の基本構想■

昭和 54 年＝79 年 6 月 8 日に出版された「こどもの城」(仮称)の基本構想に関する意見では、「こどもの城の性格」として、「全国の子どもの健全育成に役立たせる施設」「全人としての子どもに接近する施設」「先導的・開拓的なプログラムを大胆に試行する施設」「子どものニーズに柔軟に対応する施設」の 4 点があげられている。

■長期ボランティア及び協力者への感謝状授与■

開館25周年を記念して、これまで長期にわたりさまざまな形で「こどもの城」を支えてくれた、こどもの城ボランティアと各事業部の活動に協力してくれた企業、団体、個人に感謝状を贈った。これにより、「こどもの城」が社会に開かれた施設であることを再確認するとともに、今後も良好な関係を継続していけるきっかけとした。

【感謝状授与者数】

こどもの城ボランティア 45人／各部協力者（企業、団体、個人など） 9件

しての充実があった上で、国庫補助事業〈動くこどもの城〉をはじめとする、情報の発信・受信などの“センター機能”が十分に果たされると考えている。

□乳幼児とその家族に対して支援すること□

児童健全育成の理念は、すべての子どもを対象にしている、子どもをもつ家庭への支援も大切な要素の一つ。〔こどもの城〕では、保育事業や「赤ちゃんサロン」「ぽかぽか広場」などの子育て支援プログラムをとおして、乳幼児とその家族に対する支援に積極的に取り組んできた。こうした取り組みを、さらに充実させていきたいと考えている。

□中高生世代の活動を支援すること□

講座・クラブ、グループ活動や小学生以上を対象とした土曜日プログラム、職場体験の受け入れなどをとおして、中高生世代の活動を支援してきた。今までの活動を再検討しながら、学校カリキュラムの変化や地域での取り組みなどを考慮に入れ、〔こどもの城〕が求められている中高生世代への支援の姿を探したい。

□社会的需要を取り込み、センター機能を果たすとともに地域施設としての役割を意識すること□

公的な資金によって運営されている施設として、変化する社会にあわせて、さまざまな需要に積極的に取り組んでいかなければならない。国立の総合児童センターとして、児童健全育成事業を行う事業体として、社会の負託に応えていかなければならない。大型児童厚生施設として、広域な社会的需要を取り込みつつも、平日の利用者への対応のように、地域の施設としての機能も意識しながら事業を行っていきたいと考えている。

《開館25周年記念事業プログラム》

開館25周年記念プログラムを行うにあたっては、〔こどもの城〕の活動を以下のように分類・整理し、それぞれの活動を象徴するプログラムを実施した。

□子どもが参加するプログラム□

〔こどもの城〕では、これまでの25年間にたくさんの“遊びのプログラム”を行ってきた。〔こどもの城〕で独自に開発をし、試行錯誤を繰り返しながら、多くの子どもたちが楽しめるように育ててきた“遊びのプログラム”である。

そのなかから、25周年にちなんで、25種類の“遊びのプログラム”を行うことにし、10月10日から11月28日まで、約2か月にわたって「みんなあつまれ！チャレンジ25」を開催した。

□子どもたちと家族に対するプログラム□

児童館における日常の象徴的な活動として、子どもを含めた家族で参加できるプログラムである「秋まつり」と「家族写真展」を企画・実施した。25周年記念事業の先行プログラムとして9月に実施した「秋まつり」では、「みんなあつまれ！チャレンジ25」の実施案内を中心に、記念事業について積極的にアピールし、開館25周年を来館児・者へ周知する機会とした。また、25周年記念プログラムとして特別に、ゲーム大会と記念プレゼントの抽選会を実施した。

□乳幼児とその親に対するプログラム□

近年は、来館児・者層の低年齢化が進み、未就園児とその保護者への対応が課題となってきた。子育て支援や仕事との両立支援の観点からも、児童健全育成施設としても対応する必要がある。〔こどもの城〕では、小児保健部、保育研究開発部を中心に、乳幼児親子向けのプログラムにも力を入れてきた。さらなる充実をめさして、25周年事業として「マタニティ・コンサート」と「赤ちゃん大集合」を実施した。

□児童館と子どもの指導者に対する支援活動□

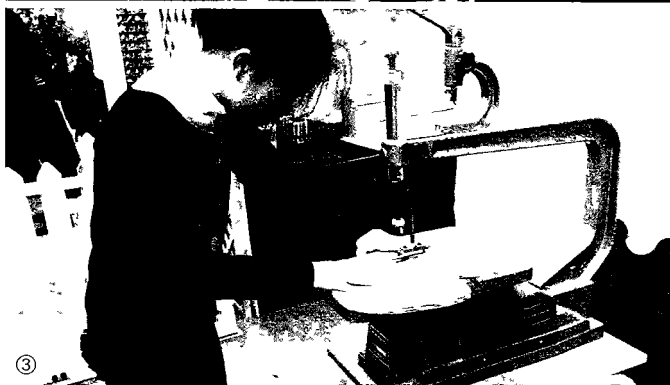
子どもにかかわる指導者へ常に情報を発信し、また情報を交換することは重要であり、25周年を節目として、情報発信の機会を強化した。記念事業として、「戦後美術教育を考える一野々目桂三を追って」展、「小児保健セミナー」ほかを開催した。



みんなあつまれ！
チャレンジ25（ちらし）



こどもの城
開館25周年事業の
共通ロゴ・マーク



「みんなあつまれ！チャレンジ 25」から
 ①不思議な映像実験室（25th スペシャル）
 ②うたっておとってハッピーハロウィン
 ③造形発見展「ポントタイコ」
 ④忍者マスター決定戦
 ⑤世界スポーツめくり

（ア）こどもの城開館 25 周年記念 みんなあつまれ！チャレンジ 25

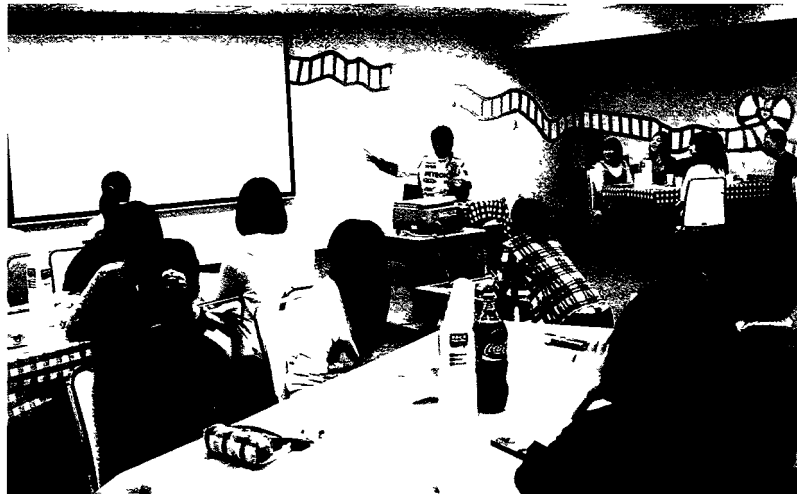
〔こどもの城〕の“遊びのプログラム”は、だれもが楽しめるように、常に手直しを行い、新しいプログラムとして提供している。「みんなあつまれ！チャレンジ 25」を行うにあたって、プログラムの内容・進行などを改めて見直し、新たなアレンジを加えて 25 周年記念プログラムとして実施した。

参加カードを用意し、各プログラムに参加するたびに、参加シールをはっていった。5 回目には、特別な記念シールを配布し、10 回目、15 回目、20 回目、25 回目には、抽選会に参加できるようにし、記念品をプレゼントした。

（イ）こどもの城開館 25 周年記念 ティーンズ・カフェ～大人に伝えたいホントのトコロ～

児童館における中高生世代支援の必要性が高まる昨今、〔こどもの城〕が新たに取り組む〈中高生世代の居場所事業〉として、小児保健部、保育研究開発部、企画研修部の 3 部のスタッフがプロジェクトを組み、事業運営に臨んだ。事業実施にあたって、次のような目標を定めた。

- ①中高生世代が本音や悩みを語り合える場を作る
- ②中高生世代が夢を持てる場にする
- ③中高生世代を支える〔こどもの城〕の存在の意味を考える場にする



ティーンズ・カフェ 2010

現代社会に生きる中高生世代の子どもたちは、「地域活動・居場所機能の低下」「民間・行政の中高生世代へのアプローチ活動の減少」「職業社会や大人社会への移行（境界横断）が多様化し、ストレートでなくなっている」などの環境に置かれていると考えられる。こうした状況の改善をめさし、まずは〔こどもの城〕が、中高生世代にとって互いを認め合って本音や悩みを語り合える場、社会へ一歩踏み出す夢を持てる場となる〈居場所作り〉をめざした。

□こどもの城大学生ボランティアの組織化□

中高生世代が自由に自己表現するには、年齢の近い大学生が直接アプローチをすることが重要と考え、〔こどもの城〕大学生ボランティアの組織化をはかった。趣旨に賛同する 18 人が集まり、8 月から意見交換を行い企画を練り、ボランティア一人ひとりが主体的、意欲的に取り組んでもらえるように配慮した。

あわせて、多感な中高生世代から本音を引き出しながら、グループで焦点を絞った話し合いを行うために必要な技術として、「ファシリテーション」や「コミュニケーション」を学ぶトレーニングも実施した。

□高校生実行委員活動□

より充実した居場所にするためには、中高生世代が問題意識を持って、自らアクションを起す必要がある。大人の予定調和的な結果に終わるのではなく、彼ら自身が課題を見つけ、何をすべきかを考えて行かなければならない。

高校生が主体的に取り組める環境を醸成するためには、「仲間と集い、仲間と話し合い、仲間と作業する」プロセスが重要だと考え、9 月下旬から、高校生実行委員「カフェスタッフ」を募集し、10 月下旬から 11 人のメンバーが活動を開始した。当初は 2 回程度の集まりを予定していたが、結局当日まで 5 回の準備作業を実施した。

高校生実行委員会の積極的な取り組みの背景にあるのが、大学生ボランティアの存在である。彼らと一緒に悩み、考え、対等な立場で準備作業に臨む大学生ボランティアの姿が、高校生の身近な目標になり、彼らの日常を輝かせて、手ごたえのある毎日をおくるきっかけになったと考えている。

□ティーンズ・カフェ 2010 □

12 月 5 日の 14 時～17 時 30 分に、会議室で「ティーンズ・カフェ 2010」を開催した。12～18 歳の 36 人が参加した。

【オープニングメッセージ】レーシングドライバーの脇阪寿一さんの講演。10 代のときの体験談をもとに、「自分に自信を持てるようになったきっかけ」や「レーサーという仕事を選んだ理由」などを話してもらった。

【ティーンズカフェ】4～5 人のグループで、3 つのテーマ「自分らしくってなんだろう」「他人の目が気になりますか～ひとりごはんできる？」「ケイタイっている？ いらな

■「ファシリテーション」や「コミュニケーション」を学ぶ大学生ボランティアのトレーニング・カリキュラム■

①中高生世代の援助がなぜ必要か？＝児童健全育成の視点から、今なぜ中高生世代への援助が重要か、その理念を考える、講義とワークショップ。

②聴く事、話す事、引き出す事＝中高生代カリラックスをして、本音を話せる場作りのために、必要な技術とその考え方を学ぶワークショップ。

③ファシリテーションという考え方＝ファシリテーターの役割を理解するために、その考え方を学ぶ講義。

④グループティスカッションの実践＝5 人程度のグループに分かれ、進行役と参加者の役に分かれてロールプレイを実施。

い？」に分かれてデスカッション。各グループに大学生世代のファシリテーターが1人加わり、カフェのような自由な雰囲気の中で話し合った。

□まとめ□

参加者のアンケートでは、脇阪寿一さんのオープニングメッセージは90%以上が「良かった」と回答。テーマ別の話し合いでは、「自分らしくってなんだろう」は70%、「他人の目が気になりませんか」は73%、「ケイタイっている？ いらない？」は90%の参加者がよかったと答えた。

その他の意見や感想として、「楽しかった」「来てよかった」「悩んでいるのが自分だけじゃないんだとわかって安心」「素敵なイベントだった」「リーダーで参加したい」「今後も参加したい」「意見を言い合えてよかった」「脇阪さんの話を聞けて良かった」などがあつた。

今回は、記念イベントとしての性格を持っていたため、すべてを集約して決められた時間内に、非日常的な空間で実施した。本来の〈居場所事業〉には、連続性と日常性が非常に重要な要素と考えられる。今回の取り組みでできた、大学生ボランティアと高校生実行委員の人間的な関係を基盤に、[こどもの城]において、どのようにこの事業を定着させていくかが、次の課題である。

(ウ) こどもの城開館25周年記念 合唱団コンサート「こどもたちからのサウンドメッセージ～スタートライン～」

〔こどもの城〕とともに成長してきた、こどもの城児童合唱団。さまざまな人の助けを借りてここまで成長できたことに感謝し、青山劇場で記念コンサートを実施した。

コンサートタイトルは「こどもたちからのサウンドメッセージ～スタートライン～」。気持ちも新たにスタートラインに立ち、次のステップに向けて新しい1歩を踏み出そうという願いをこめた。公演日は11月7日。13時と16時30分の2回公演。

合唱団と何度もジョイントコンサートを行い、楽曲も提供していただいている音楽家のクニ河内さんをゲストに迎え、マリンバ奏者の野田美佳さん、テノール歌手の近藤均さんも賛助出演。華やかな舞台となった。

出演は、250人のメンバーに加え、リトミック講座生約45人も参加。さらに、こどもの城新体操クラブ約30人、南千住ひろば館(荒川区立児童館)の竹キッズ約25人も加わり、総勢350人を超える大コンサートとなった。こどもの城劇場事業本部、AV事業部の協力を得て、全30曲約2時間30分の公演を行った。(株)クレヨンハウスの協賛、(有)オフィス・ダムの制作協力を得た。

■開館前に発足した

こどもの城児童合唱団
こどもの城児童合唱団は、開館前にシミュレーション活動として発足した。新聞の公募掲載で定員の倍近い応募があり、抽選によりメンバーを決定。2クラス61人で昭和60年＝85年1月から活動を開始した。25年を迎える平成22年度＝10年度の団員数は4クラス289人となっている。



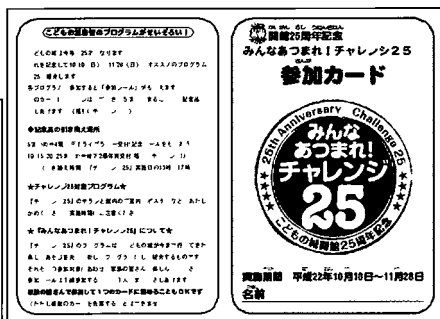
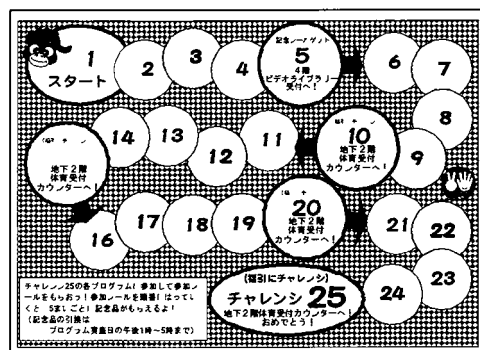
合唱団コンサート「こどもたちからのサウンドメッセージ～スタートライン～」

開館 25 周年記念事業一覧表

1. みんなあつまれ！チャレンジ 25

名 称	日 時	内 容
体 育 事 業 部	スポーツ鬼ごっこ大会 こともの城 CUP	10 11 13 30 / 14 30 / 15 30 / 16 30 自分のチームの“宝”を守りながら、相手チームの“宝”を取る〔こともの城〕独自の“スポーツ鬼ごっこ”。点数制。集まった子どもたちでチームを作り対戦。（体育室）
	スポーツあそび 3 点盛り	10 17、24 14 00 / 16 00 定食屋をイメージし、ホールを使った遊びは「弾み団子の盛り合わせ」、飛びはねる遊びは「シャンプinksweetsの詰め合わせ」と、遊びをメニュー化し、1 回 3 品目実施。（体育室）
	みんなのからたは 芸術品	10 31、11 3 14 00 / 16 00 体の部位（心臓、肺、筋肉など）を意識した運動遊び。それぞれの部位の機能を高める運動をしなから、その部位の働きや大切さを伝えた。（体育室）
	世界スポーツめくり	11 7 14 00 / 16 00 世界には、みんなが知っているものから知らないものまで、さまざまなスポーツがある。いろいろなスポーツを紹介し、ゲームを行った。あわせて、その国の紹介も。（体育室）
	伝承あそびと スポーツ	11 14、21 14 00 / 16 00 昔から伝わる遊びのなかには、運動的な要素をたくさん含んでいるものがある。その遊びに類似したスポーツを行った。例えば、“けまり”とサッカー。（体育室）
	鬼ごっこは スポーツの原点だ	11 23、28 14 00 / 16 00 ラクビーは、ホールを使う“鬼ごっこ”とみることもできる。鬼ごっことスポーツの共通点は多い。いろいろな鬼ごっこを行ったのち、最後はスポーツのゲームをした。（体育室）
ブ レ イ 事 業 部	忍者マスター 決定戦	10 30・31 11 00 ～ 16 00 (受け付け時間) 「忍者の達人を決める忍者マスター決定戦がやってきた。さまざまな忍者修行をして忍者のナンバーワンをめざせ！」という設定のレクリエーションゲーム大会。〈動くこともの城〉のプログラムであり、指導者向け研修会で各地の児童厚生員が考えた“修行ゲーム”を、〔こともの城〕で実施。参加 351 人。（プレイホール）
	パペットラント ～人形をつくって あそぼう～	10 16・17 「作る」 11 00 ～ 16 30 (受け付け時間) 「あそぶ」 開館時間中 (上演中はお休み) 「演じる」 15 00 ～ 15 30 「パペットラント」など人形遊びのワークショップから、「作る」「あそぶ」「演じる」の遊びをとおして人形を使った表現遊びを楽しんだ。『おむすひころりん』の世界で、参加する子どもの人形がネスミの国で遊ぶという会場設定にした。 「作る」＝紙コップで口がパクパク動く人形を作る。ネスミの人形に限らない。 「あそぶ」＝『おむすひころりん』にちなんだ遊び道具を用意。 「演じる」＝集まった子どもたちと舞台の演者として、人形を手に『おむすひころりん』の人形劇遊び。（プレイホール）
	ハンスオン広場 ～みんなて体験 たのしく発見～	11 13 ～ 23 開館時間中 「遊ぶことをとおして何かを発見する」「遊びながら学ぶ」をねらいとして、過去にプレイホールで行った 3 つのプログラムを同時に実施。「おしろマーケット」は、お店やさんと買い物をする人に分かれ、ままことの食べ物やお菓子の空き箱などを使って買い物っこ。「おしろ探偵団」は、犯人を探すための手かかりを探したり、暗号を解読したりと、いくつかの事件を解決するというもの。「ねしてあそぼう」は、ホルトやナット、ステンレス金具などを使用し、自由に取り付けたり外したりして、道具（部品）をおもちゃとして楽しんだ。要素が異なる遊びを用意し、異なる年齢層をターゲットにしたため、多くの参加者が興味に合わせて参加していた。（プレイホール）
ア レ キ ア 部	小学生ラホ スペシャル	11 6・7 12 30 ～ 16 30 小学生ラホの前身となる「サタデー・ラホラトリー」の AV・プレイ事業部の第 1 回プログラム「そらとふおもちゃ大集合」「アニメをつくろう」を実施。（プレイホール）
造 形 事 業 部	素材との出会い展	10 19 ～ 24 開館時間中 素材の特徴に注目する〈素材との出会い展〉のプログラムのなかから、「ペーパータウン」（親子／10 月 19 ～ 24 日）と「竹・タケ・たけ」（小 3 ～／10 月 23・24 日）を実施。（造形スタジオ）
	造形発見展	10 26 ～ 31 開館時間中 光や音などから発想を広げる〈造形発見展〉のプログラムのなかから、「はんしゃめかね」（親子／10 月 26 ～ 31 日）と「ポントタイコ」（小 3 ～／10 月 30・31 日）を実施。（造形スタジオ）
	オープンスタシオ	11 2 ～ 7 開館時間中 さまざまな素材を、素材に適した方法で造形する〈オープンスタシオ〉のプログラムのなかから、「まちをつくろう」（親子／11 月 2 ～ 7 日）と「アルミハッシ」（小 3 ～／11 月 3・6・7 日）を実施。（造形スタジオ）

名 称	日 時	内 容
音 楽 事 業 部	うたっておとって ハッピーハロウィーン	10 30・31 11 30 / 13 30 × 31 日は 15 00 の回も 〔こどもの城〕でハロウィーンパーティー。生ハントの演奏にあわせて、ステージで歌って踊るプログラム。本年度の新規プログラム。 (音楽ロビー)
	めずらし楽器に チャレンジ プレミアム	11 3・6・7 13 30 ブラシルのサンハ(3 日)、イントネシアのカムラン(6・7 日)の体験プログラム。サンハでは、カンサ(手作りのシェーカー)を片手に元気にタンズ。カムランでは年齢ごとのクループに分かれて演奏を体験した。 (音楽ロビー)
	おはなしおんかく オンパレード	11 13・14・20 13 30 大型紙芝居『わかままお姫様の冒険』(13・14 日)、『ゆかいなツウカイ! 金魚のパネルシアター へにとロク』(20 日)を上演。どちらもオリジナル作品。見るだけでなく、歌ったり、踊ったり、かけ声をかけたりと大人も子どもも楽しみながら参加。 (音楽ロビー)
	秋た! 集まれ! あそびの広場	11 21・23 13 30 音楽を使った手遊びやゲーム。クライマックスでは、大きなコムの輪が登場。親子で伸ばしたり、縮めたり、くくったり。参加した家族が一緒になって楽しんだ。 (音楽ロビー)
	元氣かてるリズム!	11 27 13 30 アフリカの太鼓・タムタムの大合奏。20 年前から続いているオリジナル遊び。音楽ロビーにある、約 50 個の“ハケツタムタム”はこのプログラムのために作成。 (音楽ロビー)
A V 事 業 部	おもしろビデオ館 スペシャル	10 10・11 14 13 30、14 30、15 30 × 絵本作りは 12 30～16 30 2 か月にわたってスペシャル上映を行った。10 月には「マトレーヌ特集」、11 月には「日本の絵本アニメ特集」と題して、海外の古典絵本と日本の現代絵本のアニメを上映した。1 日 3 回の上映を行い、その合間に「手作り絵本コーナー」を実施した。 (B スタジオ)
	不思議な映像実験室 (25th スペシャル)	10 25、11 28 12 30～17 00 ワークショップコーナーを通常と変更して実施。13 時から「ばたばたアニメ」、15 時 30 分から「おはなしばたばたアニメ」を開催。「おはなしばたばたアニメ」では、4 コマの「ばたばたアニメ」を作成、セリフを録音してストーリーのある作品を制作した。 (B スタジオ)
	ふっかつ! インフォヒョン わくわく映像 冒険ツアー	10 30・31 13 00、15 00 開館初期にヒテオライブラリーで親しまれた対話型映像ソフト・インフォヒョンを特集。「ゆかいな動物クイズ」「恐竜世紀」を連続上映。本来はコンピュータが対応したクイズの題と解答は、演者が行った。 (フリーホール)
	なかよし映像広場 スペシャル	11 3 13 30、15 30 『そらをとひたいモモちゃん』というオリジナルストーリーの映像遊びプログラムを制作し、スクリーンに映し出される映像や照明効果などを活用したプログラムを展開。「なかよし映像広場」のスペシャル版。 (B スタジオ)
企 画 研 修 部	ニコニコあそびの おもちゃ箱	11 20・21・23 13 00～15 30 児童福祉週間(コールテンウィーク)特別期間に行っているイベントを開館記念特別プログラムとして実施。ボランティアの活動グループ(人形劇・影絵・絵本・パネルシアターなど)の 8 公演と、来館した子どもたちが 1 時間練習して公演する、ペープサートを使ったオリジナル人形劇「キッス人形劇団」(2 公演/1 日)を実施した。 (フリーホール)
	あそびか山もり! トトン村!!「トトン エキスポ 2010」	11 20・21・23 11 00～16 00 世界のさまざまな国からトトン村に集まり、遊びのお祭「エキスポ」を開くという設定。「まっぼく共和国」の小物作り(木の実のクリスマスツリー)や、「スポン王国」(ホール運動遊び)など、8 種類以上の遊びに挑戦。10 個スタンプを集めると《名誉村民》として、記念のエキスポポストカードがもらえる。 (ふしきが丘)
	こどもの城友の会による フリーマーケット	10 16・17 12 30～15 00 「こどもの城友の会」会員家族が中心となって出店のフリーマーケット。一般来館児・者が買い手として参加。扱う物品は子どもに関連したものに限定。 (フリーホール)



「みんなあつまれ! チャレンジ 25」参加カード

「みんなあつまれ! チャレンジ 25」の各プログラムに参加すると、1 枚のシールをもらえる。それを台紙に張りつけていき、5 枚たまるとにプレゼントをもらえるようにした。5 枚集めると特別記念シール、10・15・20・25 枚集めると「記念抽選会」に参加できる。

2. その他の記念事業

名 称	日 時	内 容
秋まつり	9・18・19 15:00～19:00 × 17:00 以降入館無料	縁日遊び。焼きそばや焼き鳥、綿菓子、駄菓子などの飲食の店と当てくしや的当て、コリントなどゲームのほかに、[こともの城]の活動を生かしたワークショップのコーナーや音楽演奏などのステーション活動なども行う。25 周年を記念して「ゲーム大会」「抽選会」を行った。 (屋上ふしきか丘)
戦後美術教育を考える－ 野々目桂三を追って展	10・19～11・7 開館時間中	子どもたちの表現の自由について、戦後民主教育のなかで実践をとおして考えてきた野々目桂三氏（映画『絵を描く子どもたち』＝羽仁進監督／1956 年＝て造形指導をした教師）が約 40 年間にわたり指導してきた子どもたちの作品約 150 点を展示。また、民間造形教育の流れを資料、作品もあわせて展示した。学校、児童館、美術館など公民を超えた造形活動につながる「自由に絵を描く、自由にものをつくること」をあらためて考え、顕彰する展示になった。 (ギャラリー)
第 25 回造形スタシオ展	10・19～12・7 開館時間中	開館から平成 22 年＝10 年 9 月までの「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタシオ」のなかから選んだプログラムをパネル化し、テーマ別に活動写真パネルとともに約 200 点を展示した。期間中、象徴的なプログラムを造形スタシオで実施。25 年間の活動を俯瞰することで、造形活動の幅の広さ、子どもたちの表現の豊かさ、自由さを検証した。 (造形スタシオ)
いきいき家族写真展	10・30～11・28 開館時間中	いきいきとした“家族の姿”をとらえた写真をとおして、家族を見直す写真展。「かけかえのない、いま」をテーマに公募。106 点の応募があり、全作品を館内に展示した。協賛企業と協会独自に優秀賞を選び、表彰（記念品の贈呈）を行い、作品はホームページおよびこともの城ニュース紙面で公開した。 (4 階ロビー、プレイホール)
こともの城からの サウントメッセージ ～スタートライン～	11・7 13:00／16:30	こともの城児童合唱団は、シミュレーションの意味も含めて開館前から活動を始め、昭和 60 年＝85 年 1 月から正式にスタートした。開館 25 周年を迎え、たくさんの人に支えられて成長できたことを感謝し、記念コンサートを実施。協賛 (株)クレヨンハウス／制作協力 (有)オフィス・タム。 (青山劇場)
ティーンズカフェ 2010 ～大人に伝えたいホ ントのトコロ～	11・27 14:00～17:30	子どもとして自分たちのことを考える討論会を、中高生がボランティアなどと一緒に企画・運営する。中高生は公募し、企画の段階から参加。子どもが大人になることの不安や課題について討議することで、一緒に元気になることをめざした。 (会議室)
マタニティ・コンサート	7・4	「小児保健部」（113 ページ）の項参照。
小児保健セミナー	10・30	〃
第 16 回赤ちゃん大集合	11・4	〃
全国児童館おりかみ作品展	11・11～26	「こともの城から全国へ」（151 ページ）の項参照。

25年の 歩みを ふりかえる



皇太子（現・天皇陛下）ご夫妻ご視察
（昭和60年＝85年12月6日）

〔こどもの城〕は、多くの人たちに支えられて、平成22年＝10年11月1日に開館25周年を迎えた。翌々日の11月3日には、2,500万人目の来場者を迎えることができた。これも、国立の総合児童センター（児童福祉施設）としての活動が評価されているからだといえよう。

昭和54年＝79年の「国際児童年」を記念して厚生省（当時）が計画・建設し、昭和60年＝85年11月1日に開館した〔こどもの城〕には、芸術・科学・体育・保健・保育など、子どもの文化と福祉・健康のためのさまざまな機能が総合的に整えられている。これからの日本、世界を支えていく子どもたちに、たくましく、健やかに育ってほしいという願いを込めて、〈あそび〉をキーワードにした活動を展開。〈あそび〉を子どもたちが成長・発達していくうえの大切な“栄養”にとらえ、〈あそび〉をとおして子どもたちの“育ち”をサポートしている。

コンピュータやビデオなどの時代の先端を行く道具（ツール）を使った〈あそび〉は、子どもを対象にしたプログラムの前例も少なく、ゼロからのスタート。パソコンという優れた道具を取り入れて〈あそび〉を豊かなものにするパソコン遊び、映像を作るという視点からのビデオ活動やアニメーション作りなどの映像遊び——先駆的・実験的な活動を行ってきた。また、体育や造形、音楽などの部門では、従来とは別の新しい視点から見直して、新しい形の〈あそび〉を模索し作り上げてきた。鬼ごっこなどに注目して〈あそび〉と運動を融合させたスポーツ遊び、展示・体験・制作で構成される独自のワークショップで展開する造形遊び、リズムにあわせて体を動かして自己表現をしながら音楽を楽しみ、みんなで音楽を共感する音楽遊びなど、〈あそび〉をキーワードにさまざまな出会いと発見ができるプログラムを開発・提供してきた。多様化するライフスタイルにあわせた保育プログラムの開発から子育て支援へと活動をひろげる保育研究開発部、小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士などのメディカルスタッフが連携して総合的な視点で子どもの体と心の健康を考える小児保健部——それぞれの部門が専門性を生かすと同時に、協力しあって、時代の変化に対応して子どもの育ちを支えてきた。

開館当初は、健全育成をはかる総合的な児童福祉施設として、スタッフの専門性を生かした子どものための新しいプログラム作りが行われた。試行錯誤を重ねながら数年を経てプログラムが形になるころ、今度は〔こどもの城〕の利用者の低年齢化が目立つようになり、必然的に低年齢児にあわせたプログラム開発を迫られることになった。新たな課題の登場だ。そして、「157ショック」（昭和64年＝89年）を受けて、「エンゼルプラン」（平成6年＝94年）、「新エンゼルプラン」（平成11年＝99年）、「少子化対策プラスワン」（平成14年＝02年）、さらに平成16年＝04年に「子ども・子育て応援プラン」、平成21年＝10年に「子ども・子育てビジョン」が打ち出された。〔こどもの城〕も、子育て中の親子を対象にしたプログラムの充実をはかるようになり、〈子育て支援〉への取り組みにも力をいれるようになった。

利用者層の変化は、社会の変化に対応していると考えられる。児童の健全育成という基本は変わらないが、児童を取り巻く環境は変化している。その変化に対応しながら、これからも健全育成に資するための〈あそびのプログラム〉を開発し、提供していきたい。〔こどもの城〕が開館したころから、各地で大型の児童館・児童センターが作られるようになり、活動を始めた。25年間の経験を大切にしながら、〈動くこどもの城〉事業などをとおして、各地の児童館・児童センターなどと手をたずさえて児童の健全育成に努めて行きたい。

25 年の歩み (各部)

体育事業部の 25 年

1. はじめに

〔こどもの城〕設立の基本理念には、遊びをとおして体力作り、健康作りをしていこうという《体育プレイ》の考えがあった。分かりやすい例として、現在使用している 25m 競泳用プールが“ひょうたん型”という構想があったほどである。

《体育プレイ》から、教育的要素が含まれる《体育》という考え方に変わり、現在に至っている。ただし、《体育》となると〈学校体育〉が一般的であるが、“遊びをとおして”という設立当初の基本理念を受け継ぎ、《運動(スポーツ)遊び》という考えを軸としている。

〈運動〉なのか〈遊び〉なのか、中途半端に思われるかもしれないが、〈運動〉を前面に打ち出すより〈運動〉と〈遊び〉を統合することにより、子どもたちの運動へのアプローチが容易になるため、《運動(スポーツ)遊び》という表現にしている。

2. 体育事業部の今

□運動遊びで体力作り□

体育事業部では、3つの柱(講座・クラブ／一般来館児・者対応プログラム／18歳以上の大人のスポーツクラブ)を軸に運営している。《運動(スポーツ)遊び》の考え方は、一般来館児・者対応プログラムのなかで全面的に押し出して活動をしている。

一般来館児・者対応プログラム——特別期間のプログラムでは、親子や幼児にも楽しめることを考え、タオルや新聞紙など家にある物を使って運動量が期待できる「身近な道具でスポーツあそび」(平成8年度＝96年度のゴールデンウィーク、開館記念、春休み特別期間)、スポーツ選手が勝つために研究・実施している科学的な最新トレーニング方法を子どもたちにもできるようにアレンジした「スポーツとサイエンス！身近な動きを科学する」(平成9年度＝97年度ゴールデンウィーク特別期間)、道具を使わなくても誰にも楽しめて運動量が期待できる鬼ごっこスポーツ(ラグビーやサッカーなどの球技)の共通点に着目した「鬼ごっこはスポーツの原点だ！」(平成8年＝96年春休み特別期間以降、サブテーマを変えて数回実施)などを行ってきた。「トライ＆ゴール～鬼ごっこはスポーツの原点だ！」(平成9年度＝97年度春休み特別期間)では、ラグビー元日本代表、元Jリーガー、バスケットボール実業団選手を招いて、スポーツ(運動)と鬼ごっこ(遊び)を融合させた、《運動(スポーツ)遊び》を展開した。

プログラムを実施するに際しては、各スポーツにある運動の基本動作(歩く、走る、は這う)や行動体力(柔軟性、瞬発力、敏捷性、平衡感覚、巧緻性)の要素を、ウォーミングアップ時から意識的に組み込み、子どもたちの体力作りに役立てるなど、《運動(スポーツ)遊び》の視点を生かした活動をしている。

《運動(スポーツ)遊び》をしているとき、“汗をかくのは気持ち悪い”と一人の子どもが話していた。体を動かして汗をかくことは、気持ちがよいことだと考えている私たちにとっては、驚きの発言だった。みんながみんな、気持ちが悪いと思っていはいないと思うが、時代の変化のなかで、子どもたちの意識も変わってきたのかもしれない。

“汗”をテーマに、「汗はすばらしい友だち」(平成14年度＝02年度特別期間通年)を一般来館児・者向けプログラムで取り上げた。体を動かしてかく汗は、気持ちのよい

■一般来館プログラム■

その日に来館した子どもたちを対象にしているため、年齢、人数などはその場にならなければならない。幼児の参加も多く、みんなが理解できて、楽しめるように、プログラムを工夫してきた。指導するスタッフには、臨機応変さが求められる。一般来館児・者対応プログラムは通常の土・日曜日、祝日に行われる球技系を中心にしたものと、春、夏、冬休みの特別期間には球技系以外に体操系やニュースポーツ系、さらに運動会の種目や身近な物を使った運動遊び、親子体操も組み込んで行っている。

■世界の鬼ごっこ■

世界各地で行われているものだけでなく、オリジナルのものまでさまざまな鬼ごっこを取り上げた。よく知られている手つき鬼、氷り鬼、色鬼などはもちろんのこと、2人組や3人組、動ける場所や動きに制限をつけた鬼ごっこなど、子どもたちの年齢や人数に合わせて実施した。(『平成9年度＝97年度こどもの城事業年報』から)

ものだということを子どもたちに伝えるプログラムだ。日韓合同開催のサッカーワールドカップの開催年でもあり、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間はサッカー、夏休み特別期間は欧米のスポーツ、冬休み特別期間は日本・アジア、春休み特別期間は総集編と、世界各地のいろいろなスポーツを紹介する「世界スポーツめぐり」をとおして、体を動かして汗をかくことのよさや、“汗の生理”なども伝えた。

さらに、スポーツへの興味・関心を高め、そのおもしろさ・楽しさを知ってもらおうと、さまざまなスポーツの紹介にも力を入れている。「ワールドゲームズ」(トップアスリートが参加する国際的な総合スポーツ大会で、オリンピック競技に採用されていない競技を取り上げる)をヒントに、なじみのあるスポーツからあまり知られていないスポーツまでを集めた「キャスルスportsゲームズ」を平成 17・18 年度= 05・06 年度の 2 年間にわたり実施した。クリケットやスポーツブーメランは、それぞれの競技団体の協力を得た。



みかけ！
みんなの運動センス
(平成 12 年度= 00 年度)

「体育の日」の「サッカーフェスティバル」に、J リーグ FC 東京のコーチングスタッフを招いてサッカークリニックを開催したり(平成 16～20 年度= 04～08 年度)、本田技研工業の協力を得て電動ミニバイクを組み立てて体育室の仮設コースを走る「モータースポーツにチャレンジ」(平成 10 年度= 98 年度、17～19 年度= 05～07 年度)などのコラボレーションも行った。一般来館児・者向けのプログラムは、その年ごとに社会情勢や子どもたちの動向を照らして、子どもたちが興味を引くようにテーマを設定している。

オリンピックイヤーには、日ごろ目にしない種目がテレビで上映されるため、いろいろなスポーツを身近に感じることができる。スポーツと子どもたちを結ぶよいチャンスなので、興味をもった種目を子どもたちが体験できるようにアレンジして提供している。サッカーワールドカップも同様であり、サッカーを楽しむだけでなく、世界の国々を知ることにも役立てた。

平成 14 年度= 02 年度から始まった学校週 5 日制にあわせて、高学年を対象に毎週土曜日の午前中に「ビッグサタデー」を行っている。球技を中心に、高学年だからこそできること——それぞれのスポーツ固有の体の使い方を指導したり、ルールを掘り下げた戦法や戦術などをふまえた練習や試合——を行っている。

□講座・クラブ活動□

体育事業部の中核的活動の一つとして、講座・講習会・クラブがある。水泳、体育、スポーツクラブのコースがあり(24 講座、5 講習会、2 クラブ 平成 22 年度= 10 年度現在)、平日の活動の中心となっている。

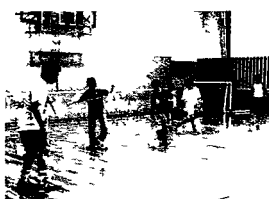
「親子水泳」には 1、2 歳の幼児と親のクラスがあり、常に満員の状態。「幼児水泳」は

■体のことを知る

スポーツ遊びプログラム■

「みんなのからたは芸術品」(平成 11 年度= 99 年度特別期間通年)では、体を動かすことに必要な人間の部位をキャラクター(心臓=トキトキさん、肺=セイセイくん、筋肉=キンくんなど)に置き換えて伝えるようにした。運動すると、どうして心臓はトキトキするの? 肺はセイセイするの? 体の一部分を意識するスポーツ遊びをシリーズ化して実施した。

さらに、スポーツにはいろいろな感覚(センス)が必要である。倒れないようにバランスをとったり、速さや力かけを調節しなければならず、引き続いて「みかけ! みんなの運動センス」(平成 12 年度= 00 年度特別期間通年)をテーマに取り上げた。



ヒックサタデー
(平成 14 年度= 02 年度)

■幼児水泳について■

「幼児水泳」では、水慣れが一番の目標である。歴史的にみても、川などでの水の事故を防ぐために始められたといわれている。[こともの城]でも、どのような状況でもおぼれない技術や力を備えてほしいという願いがある。講座の受講生が家族で公園に遊びに行った際、子どもが誤って沼に落ちてしまったが、背浮きて呼吸をして岸にたどりついたという実話がある。

■多彩な野外活動■

夏休み特別期間に、合宿的雰囲気を出した「スポーツキャンプ」(小4～中3対象)、初めて親元を離れて生活する「チャレンジキャンプ」(小1～3対象)、冬休み特別期間にはスキーを楽しむ「スキースクール パート1」(小2～中3対象/2回)、春休み特別期間には雪合戦などのレクリエーションを盛り込んだ「スキースクール パート2」(小1～3対象)の野外活動も行っている。

3～5歳のクラスがある。「小学生・中学生水泳」は10段階のレベルに区切りコース別で指導をしている。上級になると「シニアスイミング」のクラスに移行し、タイムを競うレベルの練習になる。ここ数年、渋谷区や辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行う水泳大会、さらにジュニアライフセービング大会に参加して、優勝するなど上位の成績を修めるようになった。

「母と子のパチャパチャスイム」は、平成13年度＝01年度から「ぱちゃぱちゃファミリースイム」に変わり、父母・祖父母のうちの2人と幼児の組み合わせで参加できるようにした。子育て環境の変化にあわせたものである。

春休みと夏休みの特別期間には、短期集中型の講習会を開催している。幼児、小学生の水泳講習会と体操の講習会は例年大盛況である。この講習会を機に、通常の講座申し込みのきっかけになっている。

3. 今後の活動へ向けて

運動することは、生きていくうえで必要不可欠である。〔こどもの城〕に遊びにくる子どもたち(講座、一般来館児・者向けプログラム)に、運動の大切さや必要性を運動遊びやスポーツに託して伝えていくことが、私たちの使命であると考えている。

世界情勢や日本経済がめまぐるしく変化している今日、この使命をつらぬくためには、まわりの変化をいち早く察知してプログラムを考えなければならないだろう。開館25周年を迎えた今、次の節目である30周年に向けて、子どもたちにたくさんの運動プログラムを提供していきたい。

プレイ事業部の 25 年

1. はじめに

「こどもの城の基本構想」では、プレイ事業部は、伝承遊び・科学遊び・造形遊び・コンピュータ遊びを主な活動内容とし、〈遊び〉や〈体験活動〉をとおして、子どもの情操・創造性を豊かにし、健康の増進、社会性(人間関係の発展)の育成をめざすことを主目的にしていた。活動の中心となるプレイホールは、当初予想より多い利用者があり、さらに乳幼児から高校生・大人までの幅広い来館児・者があった。そのため、プレイホールの活動は混乱を招くことも多く、意図したプログラムも実施できない状況となっていた。その後、さまざまな試行錯誤が行われた。遊びスペースも発達年齢や遊びの種類によってコーナー分けをし、また意図を明確にしたプログラムを計画的に実施・提供できるように、活動全体の整理を進めた。

2. プレイ事業部の今

□遊び環境の整備＝よりよい遊び場を目指して～□

プレイホールは、さまざまな遊具や遊びのコーナー、また多くのプログラムが実施される〔こどもの城〕の中心的な遊び場所である。プレイ事業部ではこのプレイホールで、より多くの人々が楽しく安全に、より有意義な遊びや体験ができるように、《遊び環境の整備》という視点をもって活動を進めてきた。遊ぶ場所には、〈遊具〉(ハード)と〈遊びのプログラム〉(ソフト)と遊びを支援する〈人〉の3つがうまく組み合わせることで、子どものためのより有意義な遊び場所が機能するという考え方である。

平成2年度＝90年度に設置した、ままごとや絵本を楽しめる「幼児コーナー」に加え、さらなる来館児・者の低年齢化に応えた「0・1・2歳のあそびば」を設置した。また、

■遊びのコーナーの整備■

プレイホールに設置された大型遊具は、開館当初は鉄パイプとネットを組み合わせた遊具であったが、平成4年度＝92年度にスウェーデン製の木製遊具「わくわくラント」に変更し、さらに平成17年度＝05年度に同じメーカーでリニューアルした。遊びをより充実させるということと、当時欧米の遊具の安全基準が新しくなり、また国内でも同様の安全基準の導入が始まり、より安全な遊具が求められたからであった。

小学校高学年以上の子どもの遊びを確保し、交流を進めるするために昭和 61 年度＝86 年度に設置された「高学年コーナー」は、平成 20 年度＝08 年度からは利用対象の年齢をひろげ、「小中学生コーナー」として整備した。

遊びのソフトであるプログラムの充実も進められた。[こどもの城]は親子で来館することが多い。開館当時は、親は遊びを我慢して、子どもを存分に遊ばせて満足させようという意識が強かった。そこで“親も子ども平等に楽しもう”をコンセプトに、平成 7 年度＝95 年度に家族のためのプログラム「ファミリープレイタイム」をスタートさせ、以降の人気のプログラムとなった。また学校の完全週 5 日制をきっかけに、平成 14 年度＝02 年度から、小学生以上を対象とした科学遊びを中心とした「サタデーラボラリー」(平成 22 年度＝10 年度に「小学生ラボ」と改称)も始まった。このころから、子どもたちの交流を進める活動や、子どもの実体験・社会体験をテーマにしたプログラムもさまざま実施されるようになった。

□人と人とのかかわりを大切にするプログラム□

〔こどもの城〕に多く来館する幼児期から児童期の子ともたちにとって、その成長発達に〈あそび〉や〈仲間関係〉が与える影響は小さくない。

子どもたちの遊びの形態が「群れ型」から「孤立型」へ変化したといわれる状況のなかでは、意図的に集団遊びやグループ体験ができるプログラムを提供したり、またすでに行われている子どもたちの遊びを、より良い人間関係や、集団体験の場としても機能するように運営することが必要になってきた。活動の基軸に置いてきた“遊びのなかでの人と人とのかかわりをとおし、学びあい育ちあう”ことが、ますます重要となった。

夏休みなどの特別期間には、ごっこ遊びをとおして子どもとの交流をはぐくむことをねらって、[こどもの城]で出会った子ども同士がチームを作って参加するロールプレイングゲームや、スーパーマーケットの店の運営と客役を交代しながら楽しむプログラム、またパソコンルームでは、グループでコンピュータグラフィックスやロボット操縦の協同プログラミングを楽しむ活動など、集団遊びやグループの体験を楽しむプログラムが多く実施された。

遊びのなかには、子どもが相互に尊重しあい、成長しあう場面が多くある。今後もさまざまな場面で、遊びをとおして子どもたちが学びあい、育ちあう機会を多く提供することがプレイ事業部にとって大切なテーマである。

□遊びと学びの体験プログラム□

〔こどもの城〕が開館した前後は、急速な都市化や生活様式の変化などによる、子どもの直接体験の不足や体力の低下が話題となっていた時期であった。その後も、生活体験不足、社会体験不足など、子どもの〈実体験不足〉が大きな問題として取り上げられ

■遊びのなかで育ちあう■

「キスクラブ」と「ユースクラブ」の遊びのクラブ、「ちひっこ冒険団」や「フェロシップキャンプ」などのキャンプの活動は、まさに遊びをとおした人間交流の活動であり、〈遊びのなかで育ちあう〉ことが一番の目的。「ファミリープレイタイム」も、家族間の人間関係を遊びによって応援するプログラムである。遊び場所を整備する場合も人と人のかかわりか進むように配慮した。

■「群れ型」から「孤立型」へ■

昭和 64 年＝89 年の「157 ショック」で急速に関心が高まった少子化の問題や、核家族化や地域社会の機能低下など、子どもたちを取り巻く人間関係も希薄なものになってきていた。さらに子どもたちの生活や遊びも、テレビや携帯ゲーム機、携帯電話に代表されるように、大人のような情報社会化、パーソナル化が進み、子どもたちの遊びの形態も、「群れ型」から「孤立型」へ大きく変化したと言われた。

■伝統的なプログラムも■

七夕やひな祭り、伝承遊び、人形劇や折り紙といった伝統的なプログラムも、プレイホールの大切なプログラムとして、開館以来継続して実施している。現在も、子どもたちに人気の定番プログラムとなっている。これらのプログラムは、スタッフと補助指導員、さらに熱意をもったボランティア——多くの〈人〉が子どもたちとかわって、企画・運営をされている。



みんなてひなまつり～つるしかさきをつくろう～
(平成 15 年度＝03 年度)



わくわくカレンダー
(パソコンルーム)
(平成 16 年度 = 04 年度)

■子どもの経験・体験不足■

パソコンルームの活動で、パソコンでデザインしたものをプリントアウトして工作するプログラムがあるが、キーボードやマウスを軽やかに操作していた子どもが、いざハサミで紙を切ろうとすると、まともに切れないという場面も多く見られた。ひもが結へない、ハサミやナイフが使えない、自分で創意工夫できないといった、まさに実体験不足が引き起こしたことはないかと思われた。



サタデー・ラボラトリー
～あったかいぞ!! カイロをつくらう～
(平成 14 年度 = 02 年度)

るようになってきていた。

家庭のなかでは、家電製品などの進歩・普及により、大げさに言えば、ボタンを選んで押せば生活ができるようになってきていた。またパソコン（インターネット）の家庭への普及も進み、子どもの遊びはテレビゲームや携帯ゲームが中心となり、やはりコントローラーのボタンを押すことで遊びが成り立つようになってしまった。その結果、今までは生活や遊びのなかで身につけていた、知恵や技術、体力や創意工夫する心などが、経験不足、体験不足によって身につける機会を失ってきていた。

このような現状認識のもとで、新たに取組んだのが「サタデー・ラボラトリー」（平成 14 年度 = 02 年度）や「発見・体験遊びの広場」（平成 18 年度 = 06 年度／後の「ハンズオン広場」）であった。「サタデー・ラボラトリー」（平成 22 年度 = 10 年度から「小学生ラボ」に改称）は小学生以上を対象とした科学遊びのプログラムであり、「発見・体験遊びの広場」はスーパーマーケットや大工さんになる体験、自分の体の仕組みを知るプログラムなど、社会の成り立ち、物事の原理や仕組みを知ることなどを自分自身で体験し、そこからさまざまなことに“驚き”や“興味”を持たせて、“学び”につなげようというプログラムであった。

またキャンプの活動も、まさに実体験のプログラム活動である。大自然のなかに飛び出し、都会に比べて不便な生活のなかで、自分の力を発揮し、創意工夫を重ね、仲間と力を合わせ、いかに便利に、いかに楽しく生活することを考え、活動することが、小さな子どもたちにとっても、楽しく、自分の力を発揮する喜びに満ちた活動となっているようだ。

このような〈実体験〉を重視し、〈遊び〉と〈学び〉を大切に考えた活動は、この 25 年の流れのなかで、プレイ事業部にとって中心となる活動となってきた。

3. 今後の活動へ向けて

プレイ事業部の活動も 25 年が経過した。伝承遊びからコンピュータ遊びまで、さまざまな遊びが取りそろえられた時代からスタートし、子ども同士また親子などのコミュニケーションを中心にした時を経て、子どもの〈体験〉と〈学び〉を重視する——時代の変化に対応して、実施するプログラムの視点が移り変わってきた。

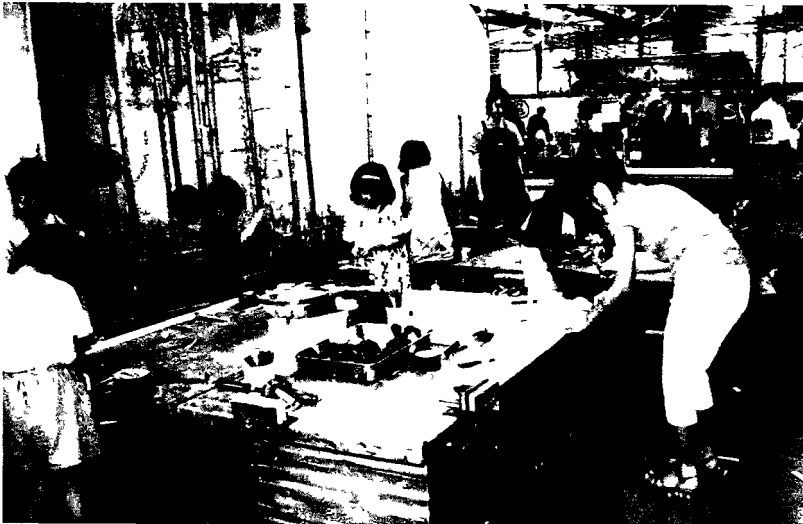
〈遊び〉のなかには、子どもたちにとって重要な、さまざまな〈体験〉が含まれている。自分の体を上手に使うこと、自分の心を表現すること、仲間と協力し力を合わせることで、新しい知恵や技術を知ることなど——これらの〈体験〉のなかには、子どもにとって重要な〈気づき〉と〈学び〉があり、子どもがその後の人生を自分の力で生きていくための大切な要素だと考える。

児童健全育成とは、子どもが心身ともに健やかに成長発達するように支援することである。改めてこの意味を問い直し、子どもたちにとって、人生の準備の一つとなるような活動＝〈遊びのプログラム〉を提供し、さらに広くその内容を伝えるように考えたい。

造形事業部の 25 年

1. はじめに

造形事業部の基本コンセプトは、〔こどもの城〕の創設および運営の理念である“児童の心身の健全育成と豊かな情操”を培うことを前提としている。先駆的・実験的な子どものための造形プログラム活動をとおして、子どもたちの自発性を喚起すると同時に、〈もの〉に出会い、体験したことのないイメージを発見し、事物の意味や存在感を体験



竹と造形 2
(平成 12 年度 = 00 年度)

できるものとした。スタッフは、創造する喜びを体験できるように、子どもたちが主体的に造形活動ができるスタジオ環境を整え、豊かで個性的な発想を大切に指導するとともに、個人の活動あるいはグループでの活動をとおして、互いを思いやったり、助け合ったりする社会性や協調性を培うことを目的とした。

造形スタジオは、「学校」「美術館」「画塾(アトリエ、絵画教室)」などとも異なり、日常的に造形活動を行える施設である。不特定多数の異年齢の子どもたちを対象にしたプログラム活動「一般来館児活動」が、造形スタジオの活動の中心になる事業と考えた。子どもたちが自発的に活動できるように、〈見る(展示)〉〈触る(五感での体験)〉〈作る(制作)〉の三つの要素で構成される〈ワークショップ〉という独自の概念を打ち出した。

さらに、来館する子どもたちにとって常に新鮮で、興味をいだかせるプログラムを提示できるように、3種類のテーマを企画運営できるように構成した。紙、木、土などの造形素材の特性からアプローチする〈素材との出会い展〉、音、光、時間など造形領域以外の分野からアプローチする〈造形発見展〉、子どもたちが〈材料〉と〈道具〉と〈技法〉のかかわりを体験する〈オープンスタジオ〉の3つのテーマである。

2. 造形事業部の今

開館前は、小学校高学年を中心とした来館児を想定していたが、実際には親子で来館する幼児から小学生が中心であったため、開館してからしばらくの間は、来館する子どもの年齢層にあわせてスタジオの環境設定、プログラム実施方法などを試行錯誤しながら運営していった。開館から5年までは、1年間に3つのテーマを取り上げ、春・夏・冬休みの特別期間に〈素材との出会い展〉〈造形発見展〉〈オープンスタジオ〉をそれぞれ企画し、実施した。特別期間が始まるまでの2～3週間ずつをかけて、新プログラムを実践できるようプログラム開発を行った。

5年目からは、1つのテーマをよりじっくりと体験できるよう、1年から2年くらいの期間で一つのテーマを掘り下げていった。また、一般来館児活動では実施が難しいと思われるプログラムも、講座・クラブやグループ活動のなかで実験的にを行い、その成果を一般来館児活動プログラムへと還元している。

〔こどもの城〕は、ハード(施設や設備など)を中心とした施設と異なり、人がかかわるソフト(活動プログラムなど)で充実した活動をしていく施設である。常勤スタッフが中心となって企画立案をし、他のスタッフがサポートしながらプログラムを開発している。常に時代に即したテーマを模索し、造形活動の新しい素材、新たな分野などをスタッフ自らが新鮮な感覚で探す行為は重要である。

子どもたちの活動の様子や造形スタジオへの取材申し込み、協力要請などを考えると、

■造形スタジオの活動■

【素材との出会い展】

紙と造形(昭和60・61年度=85・86年度)／紙と造形～造形通りに春かきた(昭和62年度=87年度)／木と造形(昭和63年度～平成2年度=88年度～90年度)／土と造形(平成4・5・8年度=92・93・96年度)／金属と造形(平成9年度=97年度)／竹と造形(平成11・12年度=99・00年度)／布と造形(平成16・17年度=04・05年度)

【造形発見展】

音と造形(昭和61・62年度=86・87年度)／光と造形(昭和63年度・平成元年度=88・89年度)／絵本と造形(平成2年度=90年度)／造形宝島(平成6年度=94年度)／ひかりとあそぼう(平成10年度=98年度)／建築と造形(平成13・14年度)／アートと造形(平成18・19年度=06・07年度)／道と造形(平成22年度=10年度)

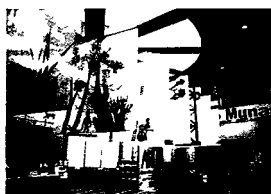
【オープンスタジオ】

春休みオープンスタジオ(昭和61年度=86年度)／造形ファクトリー(昭和62年度=87年度)／造形シャンクル(昭和63年度=88年度)／顔シリーズ(平成元年度=89年度)／やってみよう!つくってみよう!(平成2、4、6～9年度=90、92・94～97年度)／おいしいさんの道具箱(平成4・5年度=92・93年度)／造形動物園(平成8年度=96年度)／造形実験室～パイプってなんだ?(平成9年度=97年度)／すみかと造形(平成13年度=01年度)／からくりと造形(平成20年度=08年度)／造形菜園(平成21年度=09年度)／造形アニマルパラタイス(平成22年度=10年度)



ビクトル・タミコ展～
こどもアートカーニバル
(平成 7 年度＝ 95 年度)

■ブルーノ・ムナリー・コレクション巡回展示キット■
開館記念特別行事「ブルーノ・ムナリー展」を機に「こどもの城」に所属した氏の作品で構成された巡回展示用キットである。昭和 61 年＝ 86 年 4 月から広報し、貸し出しを始めた。(中略)内容は①クラフィックアート ②オブジェ ③プロタクト作品 ④遊具 ⑤絵本書籍 ⑥ビデオ作品・写真資料 ⑦スタッフおよび指導員によるワークショップ。
(『昭和 62 年度＝ 87 年度
こどもの城事業年報』から)



「ブルーノ・ムナリー～もっと豊かにもっと自由に」展
(平成 17 年度＝ 05 年度)

開館以来の造形スタジオの運営理念・概念は、時代を超えたシステムであると考える。

講座・クラブは、常に放課後の子どもの時間が学校のカリキュラムに左右されている現状はあるが、新しい取り組みとコストパフォーマンスを考えた運営を心がけている。特に、4・5 歳児親子の「親子でアート」など未就学児を対象とした活動は、講座の枠にとらわれないで企画・実施したい。

グループ活動も、開館時から毎年平均 30 ～ 40 件を実施し、定着した活動となっている。「木をつくろう」「かげをうつそう」「竹体験」などのように、美術・造形活動だけではなく科学的・社会的な内容を含んだ、学校ではできない内容のプログラムを開発していく必要を感じている。また、学齢をまたいで継続して参加できる“発展する”プログラムの開発にも取り組みたい。

造形スタジオは、開館以来、〈ワークショップ〉を前面に打ち出してきたことや、5 年から 10 年に一度、造形教育に貢献してきた人物の顕彰展 ―「ブルーノ・ムナリー作品展」(昭和 60 年＝ 85 年 11 月 22 日～ 12 月 15 日)、「フランツ・ゼック展 1865-1946 子ども・感性・環境」(平成 2 年＝ 90 年 11 月 1 ～ 30 日)、「ビクトル・タミコ展～こどもアートカーニバル」(平成 7 年＝ 95 年 10 月 28 日～ 12 月 3 日)、「ブルーノ・ムナリー～もっと豊かにもっと自由に」展(平成 17 年＝ 05 年 11 月 15 日～ 12 月 1 日)、「戦後美術教育を考える ― 野々目桂三を追って」展(平成 22 年＝ 10 年 10 月 19 日～ 11 月 7 日)などの大きな展覧会を実施したことで、県立児童館や美術館などの教育普及担当者からの問い合わせや、協力依頼も多くきている。

アウトリーチ活動として、〈動くこどもの城〉をはじめ外部講師、移動展示、海外の児童施設などでのワークショップ、展示など、また、外部団体との共同事業にも積極的にかかわって、プログラム普及活動と広報的な役割もあわせて行っている。

3. 今後の活動へ向けて

開館から 25 年を経て、子どもを取り巻く環境は変化してきた。環境問題、テクノロジーの進歩、メディアの変更などで使えなくなった素材や機器、新たに開発された素材や技術などに加え、社会的なニーズも変化している。子ども自体の本質が変わってきているわけではないので、環境の変化をふまえながら、造形する喜びを子どもたちに伝えていきたい。

予算の制約などの課題もあるが、人がかかわるソフト(活動プログラム)が重要な役割を果たす造形スタジオの活動では、常に外部の情報を取り入れながら、スタッフ自らが互いを認めあいながら企画をし、助け合うという当たり前のことが重要になってくる。

造形スタジオの一般来館児・者活動では、開館以来、およそ 3 週間ごとに親子向けと小学生向け(クリエイティブコーナー)に新しいプログラムを提供している。その数は、年間で 36 プログラムに上る。講座やイベントなどで行うプログラムを入れると、毎年 50 前後のプログラムを実践していることになる。繰り返し実施したものもあるが、単純計算すると 25 年間で 1,250 プログラムになる。「開館 25 周年記念～第 25 回造形スタジオ展」(平成 22 年＝ 10 年 10 月 19 日～ 12 月 7 日)で、その一部を展示して 25 年間の歩みの概要を紹介した。これまで、活動記録集やプログラム集を刊行しているが、すべてを記録しているわけではない。過去の数多くの、そして今後も続く活動プログラムのデータ化(アーカイブ化)を進めていき、一般に公開し社会に還元していきたい。「こどもの城」が全国の、そして世界の子どもの表現活動の発信基地になるよう心がけたい。

「子どもは、未来の社会である」と言われているように、現在の子供たちに、「こどもの城」の創設および運営の理念である“児童の心身の健全育成と豊かな情操”を培っていくことは大切である。開館以来堅持している活動の基本的な方針は変わらないが、子どもを取り巻く社会の変化に対しては柔軟に対応し、常に新しいテーマ・プログラム

を開発し、地域の児童館や施設等への普及を含め、子どもたちが「より豊かに、より自由に」表現できるように実践していきたい。

世の中のさまざまな事物には、時間というフィルターをとおして、普遍となるものがある。造形スタジオの活動プログラムも、日常のなかに普通にありながらも、子どもたちの心に新鮮に響いていくようなものとしていきたい。

音楽事業部の 25 年

1. はじめに

〔こどもの城〕がスタートしたとき、音楽事業部は他の事業部と少し異なる形態にあった。音楽の講座・クラブを担当する外部講師のほとんどが、〔こどもの城〕の顧問を兼ねていて、事業部職員はその庶務的な仕事が業務の大半であった。開館当初は、講座・クラブ活動が事業の中心に位置づけられていて、外部の音楽専門家チームによる運営方針にもとづいて運営されていた。

一般来館児・者活動は、日曜日・祝日に B スタジオで、外部ゲストの音楽家などを招いてミニ・コンサートを行う「わいわいスタジオ」が中心であった。

平成元年に顧問制度が廃止され、少しずつ職員の手によるユニークなプログラムが生まれてきた。一貫したテーマは、「他に類をみないユニークな直接体験で、さまざまな角度から子どもと音楽と遊びの出会いを演出する」ことである。活動の拠点として、建物設計段階はもちろん、開館当初でも活動エリアとしては考えられていなかった音楽ロビーを活用していくことになる。

2. 音楽プログラムの今

□一般来館児活動□

開館して 10 年をすぎたころから現在に至るまで、音楽ロビーの一般来館児・者プログラムは、国内のみならず世界にも類をみないオリジナリティあふれるものが数多く生まれた。

25 周年を迎えた今現在、音楽事業部の一般来館児プログラム活動コンセプトをまとめると以下の 3 点となる。

《リズムカルな楽曲で音楽の楽しさ、共感の喜びを伝える》

音楽ロビーの催しに参加する児童は、乳児から小学校低学年（0～7 歳）が中心であ



ダンス [E] プロジェクト
(音楽ロビー／
平成 19 年度＝ 07 年度
夏休み特別期間)

■開館前の

プログラム企画案■

開館前に検討されたプログラム企画案は、講座・クラブ的な内容のもので小・中学生を対象にしたものが多く(中略)スタッフの多くは、講座・クラブなど、継続的な利用や集団での利用を中心に運営される〔こどもの城〕をイメージしていた。

(『こどもの城の 10 年』から)

■面白楽器商店街■

夏休み後半は「面白楽器商店街」というタイトルで、音楽のエリアを楽器屋が立ち並ぶ商店街に見立て、各店がさまざまな楽器・音楽を紹介する企画を催した。カムラン屋(インドネシア・バリ島のカムラン)、めすらし屋(中国、日本、アフリカ、ブラジルなどの民族楽器)、竹屋(インドネシアのアンクルン)、電気屋(シンセサイザーなど)、からくた屋(手作り楽器)、和太鼓屋を 30 分ごとのローテーションで開店。

(『平成 6 年度＝ 94 年度
こどもの城事業年報』から)



(音楽ロビー／平成 13 年度＝
01 年度夏休み特別期間)

る。音楽の基本要素は、〈リズム〉〈メロディー〉〈ハーモニー〉と言われ、なかでも最も基本となるのはリズム。乳児でも、リズムカルな楽曲を聴くと自然に体が動き、太鼓をたたく動作をする。音楽ロビーでは、リズムカルな楽曲にあわせて自由に演奏できるようにさまざまな打楽器を用意し、異年齢で多人数の子ともたちがそれぞれに音楽を楽しみつつ、一体感をも得られるプログラムを展開している。

美しい楽曲鑑賞で情操を豊かにはぐくむなど、音楽の楽しみ方は多様であるが、音楽ロビーの活動では、子どもたちがまず能動的にエネルギーを発散して、自己表現しながら音楽を楽しむこと、そして集団で音楽を共感する喜びを得ることで、音楽に対する興味を持つきっかけとして欲しいということをコンセプトにしている。

具体的には、童謡のコンサートなどに打楽器を組み込んだアンサンブル形態をとり、楽曲にもリズム遊びの要素を取り入れたり、体を動かす場面を作るなどのアレンジをしている。また、サンバやアフリカンドラムなど、優れたリズムアンサンブルを持つ民族音楽を活動のなかに積極的に取り入れるなどの工夫をしている。

《世界の音楽、素材と音の関係に関心を持てるプログラム》

世界各地の音楽を紹介し、子どもたちが民族楽器を自ら演奏体験することで、世界のさまざまな音楽や音色に興味を持って欲しいと、アフリカや南米、アジア各地の楽器、約 50 種類以上を子どもたちが体験できるプログラムを実施している。

さらに、音と素材、音の出る仕組みにも目を向けてもらえるように、廃材を使った手作り楽器や、スプーンやちゃわんなど家庭の身の回りのものを使って演奏するコンサートやワークショップを展開している。

《音楽遊びで親子のコミュニケーションを》

0～3 歳児向けには、親子のスキンシップを大切にした音楽遊びのプログラム、そして幼児～小学校低学年には、少し親から離れて活動し、それを親が客観的に見るプログラムも行い、さまざまな角度から親子のコミュニケーションをはかれるように工夫している。

例えば、子どもたちがステージに上がって即興的にダンスを披露し、親が観客となるプログラム（「みんなでダンス のっちゃっておどっちゃって」「うたってハッピー たなばたスペシャル」など）では、我が子の意外な一面を発見したり、さまざまな年齢の子どもの姿を見ることで、我が子が成長していくプロセスを認識することもできる。

家庭に帰っても、〔こどもの城〕で遊んだその日の活動を会話のなかで取り上げてもらえるようになることが望ましいので、思い出に残る遊びを提供していくことも常に意識している。

□講座・クラブ活動□

音楽事業部の講座・クラブは、ピーク時には約 20 のコースがあり、そのほとんどが外部講師によるものであった。開館 20 年（平成 17 年＝05 年）を過ぎるころには、ニーズの減少や景気などの社会情勢も影響し、定員割れをするコースが増えてきた。開館当初は講座中心の運営をめざしていたこともあり、民族音楽を教えるクラスから、〔こどもの城〕の使命として継続していくべきとの意見も出されたが、25 年を節目に抜本的改革として、外部講師によるコースは 2 クラスを残して廃止に踏み切った。

講座運営についても、外部委託を脱して職員主導に移行することで、“こどもの城ならではの” “こどもの城らしさ” をより探求し、鮮明に打ち出す形となる。団員数約 290 人となった「こどもの城児童合唱団・混声合唱団」はその象徴的存在であり、〈こどもの城の顔〉の一つとしての役割をも担っている。

□コミュニケーションと心地よい遊び場□

ここ 5 年程で力を入れてきた事柄の一つが、「心地よい遊びの場」を意識した取り組みである。その一つは、積極的にコミュニケーションをはかることである。来館する児



■手作り楽器のワークショップ～アフリカン・シェンヘ■
（平成 12 年度＝00 年度）
×平成 9 年度＝97 年度の「作って遊ぼう手作り楽器～レインスティック（中南米の竹製民族楽器）」以後、毎年夏休み特別期間に、世界各地の民族楽器を題材に手作り楽器のワークショップを開催している。

■うたってハッピー■

うたってハッピー ひなまつり＝通常の歌のコンサートをひな祭りバージョン・参加型に変えたものだ。希望する女の子たちは頭に手作りの冠を飾り、「おひなタンサース」として台座のように装飾をしたステージに上がる。男の子は「五人はやし隊」としてフロアの楽器を元気よく演奏する。
（『平成 19 年度＝07 年度 こどもの城事業年報』から）

■こどもの城児童合唱団に 児童福祉文化賞■

こどもの城児童合唱団が平成 13 年度の児童福祉文化賞を受賞したのを記念して、平成 14 年 2 月 3 日に青山劇場で「こどもたちからのサントメッセ うたは友たち」の公演を行った。
（『平成 13 年度＝01 年度 こどもの城事業年報』から）

童はもちろんのこと、親に対してもスタッフが積極的に話しかける。子育ての話など、世間話のレベルで職員が聞き役になることで、リピーターが増えたという感触がある。

もう一つは音楽ロビーの装飾＝環境作りである。季節感を演出し、リピーターにも新鮮さを感じてもらおう。スタッフのアイデアによる手作り装飾を、主に天井や柱に施している。現在、春（桜）、端午の節句（鯉のぼり）、梅雨（傘や長靴）、七夕（星や短冊）、夏（雲や浮き輪）、ハロウィーン（かぼちゃ）、秋（紅葉やいちょう）、クリスマス（星やもみの木）、正月（紙風船）など、ほぼ1か月に1回、装飾を全面転換している。乳児もさまざまなカラフルなアイテムを目で追っている姿が多く見受けられる。

3. 今後の活動へ向けて

音楽事業部は25年間、試行錯誤を繰り返し、ユニークな、型破りともいえる活動を展開してきた。「とにかく新しいことをやってみよう！」を合言葉にした、猪突猛進型とも言えるスタンスであった。今後はこれまでに蓄積してきたノウハウを生かした成熟したプログラム、完成度の高い安定感のあるものをめざさなくてはならない。

財政的にも、ますます厳しさが増すことが予想される。今後必要なことは、少ない人員で、いかに質の高いプログラムを効率よく実践していくかである。そのためには職員一人ひとりの資質の向上をはかり、切磋琢磨して全体のレベルをさらに高めていくことが不可欠であると考えている。



■高学年

楽器体験コーナー■

×平成14年度＝02年度からスタート、平成18年度＝06年度から「ポコ ア ポコ土曜音楽倶楽部」に改称

AV 事業部の 25 年

1. はじめに

昭和60年＝85年の開館に向け、AV事業部では子どもたちの創造性や知的好奇心を刺激し、知識や技術の向上をはかるとともに、豊かな人間性をはぐくんでほしいという理念のもと、先駆的・独創的で質の高いプログラムの開発・実施をめざした。

当時子どもと映像メディアの関係を眺めてみると、そのほとんどが年齢・性別・志向などを一方的に定めて送られるテレビ放送の視聴が中心であった。衛星放送やビデオレンタル店の黎明期であったこと、現在のように多様なメディアの存在がなかったことなどから、無理からぬところであるが、〈映像＝一方通行的にみるもの〉という観念が支配的であった。そんな時代であるかゆえに、大きな広がりとお深さをもつ映像の世界に、あらゆる角度からアプローチしていこうと考えた。



カナダの人形アニメ作家のコ・ホートマンさんによるアニメワークショップ
(平成12年度＝00年度／「キンダー・フィルム・フェスティバル」関連企画)

■ヒテオライブラリーの所蔵作品■

準備段階でおよそ2000タイトルの映像作品を購入したが、そのジャンルは「学校の授業に関するもの」「自然科学」「歴史」「地理」「趣味」「スポーツ」「娯楽」などと広範囲にわたるものを満遍なく充足した。

「ヒテオソフトは、開館時700タイトルでスタート、年度末までには1,700タイトルが利用可能となった」

(『こともの城の10年』から)

〈映像〉は、自己表現のための媒体として非常に優れた特性を持ち、時には〈文章〉や〈絵〉をしのぐ。しかし、学校では〈文章〉や〈絵〉で自己を表現する取り組みは行われているが、〈映像〉を〈みる〉以外の側面からのカリキュラムは皆無といってもよい状況であったため、〈映像〉を〈つくる〉プログラムや、映像が動いて見える仕組みを解き明かすことができる〈しる〉プログラムの考案にも積極的に取り組んでいる。

AV 事業部では、〈みる・しる・つくる〉に軸足を置いて、開館以来活動が続けている。〔こともの城〕が児童館である以上、18 歳未満の子どもが等しく対象となる。〈映像〉をテーマとするプログラムということで、低年齢の子どもへの対応には限界があったが、試行錯誤の末、小学生から高校生への対応策はまとめることができた。

2. AV 事業部の今

□ 〈映像〉を〈みる・しる・つくる〉活動□

〈みる〉活動の中心となる「ビデオライブラリー」は、映像版の図書館という位置づけで、〈映像＝一方通行的にみるもの〉という状況を補完するものとして、子どもが自らの意思で好みの作品を選び、家族・友人単位で視聴し、後に作品の感想などを語り合うことのできる場の提供ということに主眼を置いた。当初、購入したもののなかから 700 タイトルを登録し、運営をスタート。現在は、22,000 タイトルが登録されている。もともと幅広い年齢を想定していたので、大きな問題もなくスタートできたが、中学生以上の利用が当初予測に反し少なかったため、作品の視聴率には大きなばらつきがあった。

上映プログラムには、平常期間の平日の「おもしろビデオ館」（昭和 60 年度＝85 年度～）、特別期間には「しねまていく」（昭和 61 年～平成 3 年度＝86 年～91 年度。平成 3 年度＝91 年度に「こともの城映画劇場」と改称）がある。子どもにぜひ見てもらいたいと思う国内外の作品（カナダ大使館のライブラリーなど、外部から借用）を厳選してプログラムを組んだ。上映に際しては、その作品の見どころや背景などをわかりやすく解説することで、子どもがより深く作品に傾注できるようにすることをめざした。

〈しる・つくる〉プログラムは、幼児からを対象とする「ぱたぱたアニメ」（昭和 61 年度＝86 年度～）を皮切りに開始した。子どもが描いた 2 枚の絵をビデオに交互に繰り返しコマ撮りし、これを再生することで動画の原理が解りやすく体験できる。「ぱたぱたアニメ」にストーリー性を持たせてせりふなどをアフレコする「おはなしぱたぱたアニメ」（平成 3 年度＝91 年度）、ビデオカメラを使った映像版のしりとり「ビデオで遊ぼう」（平成 2 年度＝90 年度～）、さらに各種の視覚がん具作りを体験するプログラムへと展開していった。そして、これらの取り組みは土・日曜日、祝日や特別期間などにも拡大し、一般来館の幼児から中学生くらいまでが楽しめるプログラムを展開している。

〈つくる〉活動として、講座や講習会などのワークショップがある。造形事業部との共催で実施したクラブ「アニメ体験」（昭和 62 年度＝87 年度。後に「映・造ワークショップ」と改称）や、夏休み特別期間に行っている短期コースのワークショップである。

開館当初は講座という形を模索していたが、“映像作りを学ぶ”という考え方は浸透しておらず、一般来館児・者活動や短期コースのワークショップなどで“映像作りを体験する”活動へシフト。もっと〈映像〉への興味・関心を高めてもらうことにした。短期コースのワークショップでは、じっくりと時間をかけて映像遊びや科学遊びを体験してもらっている。平成に入ってから、シミュレーション的に“工作”を中心としたワークショップを行い、平成 12 年＝00 年ころから夏休み特別期間の定例プログラムとして定着している。

映像遊びのプログラムは、使用する機材との関連が深い。開館当時は、一体型の家庭用ビデオカメラが出始めたころで、小学校低学年の子どもに使わせるにはまだ大きかった。25 年間の機材の進歩はめざましく、デジタルカメラやパソコンを使うことで簡単

■武藤行雄記念文庫■

武藤行雄記念文庫は平成 4 年 3 月に亡くなられた故武藤行雄さんの遺族の方から寄付された浄財を基にして開設したフィルム・ライブラリー。子ども向けに作られ、言葉が無い作品（字幕スーパーや吹き替え等、日本語版制作を必要としないもの）を中心にカナタ作品 50 本が収蔵されている。夏休み特別期間には、この文庫開設を記念して、カナタのアニメーションを 7 プログラム、計 21 作品を上映した。

（『平成 4 年＝92 年度 こともの城事業年報』から）
× 16mm フィルムのライブラリー。現在は「武藤行雄記念文庫 こともの城フィルムコレクション」と改称して、収蔵作品は 151 作品になっている。

■ビデオワークショップ■

ビデオカメラを使ったワークショップ「ビデオであそぼう」が一般活動に定期的に登場するのは平成 2 年度＝90 年度。しりとりで出てきた「言葉」を映像として撮影していく。撮影をゲーム化したプログラム。必要器材が充足したために一般活動への適用が可能になった。

（『こともの城の 10 年』から）



ビデオ・カメラを使って“映像によるしりとり”
（平成 13 年度＝01 年度「不思議な映像実験室」で）

にできるようになったものもあれば、逆にフィルムのようなアナログのタイプのものは消えかけている。社会の変化に対応して、プログラム作りをしていかなければならない。

開館 10 年目と相前後して、外部とのかかわりが盛んになり、全国の児童館のセンター的な役割を担うようになってきた。一つは、各地の児童館などからの要請を受けて行う、講師派遣や〈動くこどもの城〉(平成 6 年度＝94 年度～)である。AV 事業部の各種プログラムを外部へ紹介し、映像遊びのおもしろさ、大切さを啓発する機会が増えてきたこと、もう一つは外部団体との提携事業が増加し始めたことである。

宇宙開発事業団(当時)や宇宙科学研究所(当時)の協力を得て行った、ビデオライブラリーの「宇宙特集」(平成 5 年度＝93 年度)、キンダー・フィルム・フェスト・ジャパン実行委員会との共催で行った、こども映画祭「キンダー・フィルム・フェスティバル」(平成 7～17 年度＝95～05 年度)、本田技研工業(株)と提携した映画製作「THE WING～ウィング」(平成 9 年度＝97 年度)などと提携して事業を行った。

“ミレニアム”という言葉が使われた平成 12 年＝00 年前後から、平常期間の平日の利用者が小学校低学年や幼児などの低年齢方向へとシフトしてきた。さらに、土・日曜日や特別期間などは、まだ小学生が中心利用層であったが、こちらも徐々に低い年齢層へとシフトし始めた。そのような傾向のなか、〔こどもの城〕総体として幅広い年齢層の子どもを取り込むべきであるとの考えから、低年齢の子どもへの対応を進めることになった。その後、〔こどもの城〕の利用層はますます低年齢化の一途をたどり、近年は乳児までをも取り込まなければならなくなり、「親子の ZOO っと広場」(平成 20 年度＝08 年度～)や「なかよし映像広場」(平成 21 年度＝09 年度～)など、乳幼児向けの活動にも力を入れている。

開館以来の延べ利用者数は、ビデオライブラリー 351 万人、上映プログラム 14 万人、ワークショップ系プログラム 58 万人である。

3. 今後の活動へ向けて

〔こどもの城〕の開館当時に比べ、現在では比較にならないほど数多くの新たなメディアが台頭してきた。しかし、人間が情報を扱う能力に大きな変化があったわけではない。あふれ返る情報のなかから自身にとって本当に必要なものを選択し、またそのなかに秘められた本質を見出す能力を培うことがますます重要となってきた。

子どもに多くの情報(映像)を提供している私たちにとって、メディアリテラシーの能力をいかにして子どもたちに身につけさせるかが大きな使命である。

世の中が急速に進歩するにつれ、〈もの〉はどんどんブラックボックス化され、その原理や仕組みが見えづらくなった。目的が果たせれば、その中身など知る必要もないからである。このような環境の下、子どもの科学離れは進む一方である。〔こどもの城〕は科学館ではないが、今一度子どもが科学に関心を持てるような取り組みをしたいと考える。

■ビデオライブラリーのスペースの活用■

AV ライブラリー(現ビデオライブラリー)のスペースの一部を使って「立体メカネの制作コーナー」という企画を 8 月 11 日から 31 日の日程で実施した。(中略)自由課題のヒントになりそうな作品(ビデオ)を紹介するだけだったが、今回は一歩踏み込んで“ビデオの内容を子どもたちに具体化させる”ということにねらいをのこした。

(『平成 4＝92 年度
こどもの城事業年報』から)

■親子の ZOO っと広場■

なぜ“広場”なのか、乳幼児対策の実施にあたり、スタッフが“親子”を知り、より身近に接する必要があると感じたからである。場所はビデオライブラリー内のスペースを利用した。マットを敷き、親子が安心して過ごせる環境設定を行った。“親子”が安心して利用できるように、おもちゃの衛生面や誤飲などの危険性にも注意を払った。

(『平成 20 年＝08 年度
こどもの城事業年報』から)



なかよし映像広場

保育研究開発部の 25 年

1. はじめに

保育研究開発部は、就学前の乳幼児を対象とし、家庭や地域、保育機関でのさまざまな保育の問題について取り組んでいる。従来の枠にとらわれない先駆的・実験的な保育プログラムを実践すること、さらに全国の保育機関の情報交換の場、研修の場としての役割を果たすことを目標として、「保育事業」「研修事業」「一般来館児・者事業」の 3 つの実践をとおして活動している。

2. 保育研究開発部の今

□保育事業□

保育所でも幼稚園でもない、新しい保育形態はどのようなものと模索してきた「幼児グループ」の保育、地域性の少ない保育施設の都市型の保育室で、利用者ニーズに即した保育システムや内容作り、さらに一人ひとりが違う環境のなかで育つ子どもの成長に合わせたきめ細やかな保育対応などの家庭支援プログラム作りをていねいに実践してきた「保育クラブ」の保育、そして育児にかかわる家族の形態が変わってきたなかで、1 歳児の講座形式の保育——3 つに大別される保育事業を開館当初から行ってきた。保育内容は、社会の変化にあわせて変化させ、現在に至っている。

〔こどもの城〕の設立当初、母か 1 歳児の育児の楽しさを再発見する講座として「母子教室」を開講した。平成 6 年度＝94 年度から、母と父と 1 歳児と兄弟姉妹の家族も楽しめるように「親子教室」に変更。さらに、父親の参加が増えてきたこともあり、平成 22 年度＝10 年度からは、育児に主体的にかかわる父親のために、父と 1 歳児が参加しやすいように、親子遊びを中心に気軽に参加できる「おやこクラブ」へ変更した。背景には、週末にも低年齢児（1・2 歳）の家族が多く来館すること、就労する母親が子育てを楽しむ時間を持ちたいという要望があることなど。25 年の間に、親子の姿は少しずつではあるが、間違いなく変化している。

□研修事業□

昭和 62 年度＝87 年度から始められた「保育セミナー」は、子育てを取り巻く環境をどのように整えるかをさまざまな側面からとらえ、子育て支援の方法を考える講習会。平成 21 年度＝09 年度で終了し、平成 22 年度＝10 年度から実践的な講習会「子育て支援講習会（実技編）～保育室で使える遊びのメニュー」に替え、子どもと保護者が楽しめる遊びのプログラムの紹介に力を入れていきたいと考えている。平成 23 年度＝11 年度からは、保育事業で培ってきた保育内容を「親子で遊べるあそびのメニュー」で紹介することをはじめた。今後は、実践した保育内容の紹介に力を入れていきたい。

平成元年度＝89 年度には、児童福祉施設等が行う子育て相談事業に役立つ「保育（育児）相談のカンファレンス」を始め、平成 4 年度＝92 年度から「育児相談研修会」に名称を変更した。保育所における相談事業への関心が高まるなか、平成 7 年度＝95 年度には、相談事業実施予定者および初心者を対象とした「育児相談概論研修会」もスタートさせた。その後各地の相談体制も整ったことから、平成 18 年度＝06 年度に「子育て相談」の 2 つの研修会を終了した。平成 19 年度＝07 年度から、今日的なテーマ・問題（例 気になる子・親への対応）に合わせた実践的な研修「家庭支援の理論と実践（年 3 回）」を実施している。

研修会報告や全国各地の子育て支援にかんする情報を集めて紹介する「子育て支援のニュースレター」は、平成 4 年＝92 年度から開始し、平成 6 年度＝94 年度から有料配布とした。研修会報告に加えて、保育関係者コラム、〔こどもの城〕の事業紹介を加え内容の充実をはかっている。平成 22 年度＝10 年度から、保育研究開発・小児保健・企画研修の 3 部合同企画とし、子育て支援のフィールドを保育研究開発部から〔こどもの城〕全体に広げ、〔こどもの城〕の子育て支援ニュースレターに発展するように、編集メンバーを変えた。

□一般来館児・者事業□

開館当初から、平日は保育室として使用している部屋を、土・日曜日、祝日および夏休みなどの特別期間などに、一般来館児・者の低年齢児向けに開放する「保育室の一般利用」を行っている。低年齢児の親子がくつろげる場所として人気を集めている。

平成 10 年度＝98 年度から、一般来館児・者の親子を対象とした「土曜日企画」をス

■孤立する母子 —「母子教室」から「親子教室」へ■
母子教室に参加を希望する多くの母親がその理由に挙げることは、母子ともに友だちが欲しい、初めての子育てで戸惑っているなどである。（中略）育児はもはや母親一人では背負いきれないということか、母子教室のプログラムを進めていて明らかになり、父親の参加はもちろん、周辺の人たちとの交わりも大変大切なことが分かってきたからである。
（『こどもの城の 10 年』から）



親子教室
（平成 16 年度＝04 年度）
×「母子教室」から「親子教室」へ。そして「おやこクラブ」へと社会の変化にあわせて、講座名や内容を変えている。



保育活動展
（平成 15 年度＝03 年度）
×子どもたちの作品や写真をとおして保育活動を紹介。平成元年度＝89 年度から毎年開催している。



よちよちクラブ
(平成 13 年度 = 01 年度)

スタートさせた（平成 12 年度 = 00 年度から「よちよちクラブ」に改称）。シミュレーション的な色合いもあり、週替わりで 4 種類のプログラムを実施した。〔こどもの城〕には、低年齢児のプログラムが少ないことから、1・2 歳児の親子を対象にした「よちよちクラブ」に力をそそぐことになった。毎日の生活のなかで子育てを楽しめるように、親子のふれあい遊びを紹介するプログラムである。

平成 20 年度 = 08 年度から、乳幼児親子（3 か月～2 歳 11 か月）を対象とした「ぼかばか広場」が、全館事業としてスタートした。幼児施設などに入園する前の乳幼児親子が過ごしやすい〈広場〉をめざしている。〈広場〉開始にあたり、環境作りを保育研究開発部がコーディネートし、その他の部門が毎回親子向けの遊びを紹介する形で、乳幼児プログラムの開発に〔こどもの城〕全体で取り組んだ内容となっている。小児保健部が担当している「赤ちゃんサロン」（主な対象は、3～18 か月の乳幼児）とあわせ、〔こどもの城〕の〈子育て広場〉となっている。プログラムの開催時間は、火曜日の 11 時～14 時で、乳幼児親子が参加しやすいように、特別に〔こどもの城〕の開館時間前から実施している。

平成 6 年度 = 94 年度からは、一般来館児・者向けに、親子で制作することを楽しむ「親子工房」を特別期間に実施している。親子のコミュニケーションをテーマに、造形遊びを楽しむ活動。おもいおもいのペースで、親子で“つくる”ことを楽しんでいる。

3. 今後の活動へ向けて

育児不安のなかで、子育ての仕方（生活習慣の自立）がわからない、一緒に育つ子どもの友だちやお母さんの育児仲間が身近にいない——というのがある。家庭での育児に不安を感じ、家庭外の保育専門施設に通うことで、子育ての不安をやわらげたいと望む母親の存在が浮かび上がる。

親の就労の有無にかかわらず、子育てを家庭だけでするのではなく、社会資源のなかで行いたいと望む家庭は多い。児童館や子育て支援センターなどで行われる、乳幼児を対象としたプログラムが求められることになる。保育研究開発部では、さまざまなふれあいをとおして、子育てを楽しめるように一般来館児・者事業を行っている。

子育て家庭は、母親のみならず父親を含めた家庭全体の支援が必要になっている。「子どもが育つ」時間を共有したいという父親も増えてきた。男女共同参画社会というのは、仕事の面だけでなく、子育ての面でも着実に進行している。母親だけではなく、父親も子育てを楽しめる時間作りが望まれるようになってきた。子育てをする家庭のメンバーとして、家庭全員が子育てに加わり、それぞれが子育てを楽しめる仕組み作りが育児不安をかかえる家族の一助となると考える。

■土曜日企画■

一般の親子を対象にしたプログラム。（中略）1・2 歳児の親子を対象にした「よちよちクラブ」、3 歳児以上を対象にした数種類の制作プログラム、親を対象にした「リフレッシュトーク」、2 歳児以上の親子を対象にした「運動遊び」を行った。

（『平成 10 年度 = 98 年度
こどもの城事業年報』から）

■作ってあそぼう 親子工房■

夏休み特別期間と開館記念特別期間の 2 回、一般来館児・者対応のプログラムとして「作ってあそぼう 親子工房」を試みた。ここでは、親子ともに教えるのではなく、共通体験をしながらそのことを語り合うという形で親子のコミュニケーションを図ること、身近な素材を利用してちょっとした発想と工夫で楽しく遊べるということに気づくことの 2 つのねらいでプログラムを考えた。

（『平成 6 年度 = 94 年度
こどもの城事業年報』から）

設立当初に比べ、都市型保育所（ビル内保育所）施設、保育所内一時保育、家庭支援センター、民間ベビーシッター、幼稚園預かり保育、保育ママ制度など、保育に関連する事業が増え、育児環境が変わってきた。そのなかで現在、幼保一体化を含む新たな次世代育成支援のための包括的・一体的なシステムの構築について検討する「ことも・子育て新システム検討会議」が設けられ、検討が進められている。

保育研究開発部も今後、家庭支援・両立支援（短時間保育）を視野に入れ、子育て支援の現場として、家庭が求める支援のあり方を知り、現場に生かしていきたいと思う。

小児保健部の 25 年

1. はじめに

小児保健部は、小児保健クリニックの診療・相談と、子どもの健康作りや子育て支援の活動を中心としている。開館当初から小児保健クリニックでは、子どもの健康や発達上の悩みについて、予約制で時間をかけて相談できることを大切にしてきた。受診する親子に対し、小児科医師、保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士等の各職種が連携し、体と心の総合的な視点でみていくことを基本としている。

2. 小児保健部の今

□開館からの 10 年□

〔こどもの城〕が開館して 10 年ぐらゐの間は、核家族化、晩婚化、男女共同参画等の社会変化から子育てが難しくなりつつあり、少子化や虐待がテーマとして取り上げられるようになった。コンピュータ・ゲームの流行、早期教育、偏差値教育のひずみから不登校の増加やキレる子なども話題となった。

小児保健クリニックでは、開館以来一貫して、子どもの成長、発達、情緒、生活習慣にかんする悩みに対応している。小児科を中心に、精神科・神経科・耳鼻科・アレルギーなどの専門外来を月 1 回開設し、脳波検査や聴覚検査なども可能だった。ダウン症児や発達の心配事には、心理相談・言語相談・栄養相談も加えて総合的な診療を行っていた。日ごろの生活習慣を見直してもらう「ことも一日ドック」を行い、25 年間続いた。身体計測値、生活習慣や食事調査、性格検査、体力測定の結果をもとにアドバイスを行った。

“太りすぎ”や“ぜんそく”には、小児保健部と体育事業部が共同で「健康教室」という講座として対応した。治療の意味もあるが、どちらかという家庭での生活習慣の改善に向けた取り組みである。“ぜんそく”については、地域で家庭支援などの取り組みが確立し国の対策も進んできたので、2 年間で講座を終了した。“太りすぎ”については、まだ子どもの肥満は生活習慣病に移行しやすいという認識がなかったころであり、「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」にあわせて、養護教諭等を対象にした「小児肥満のための指導者講習会」（昭和 61 年度＝86 年度～平成 17 年度＝05 年度）を開催するなど、先駆的な役割を果たしてきた。

ダウン症については専門外来と連携を保ちながら、子どもの好きな音楽活動をとおしで発達の援助や良い親子関係の形成を目的とする講座「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」を音楽事業部と行った（現在は、音楽事業部が単独で担当）。この他に、妊婦さんに音楽を楽しんでもらいながら子育ての話を織りまぜる、妊娠中からの子育て支援プログラム「マタニティ・コンサート」を劇場事業本部と共催で実施している。

さらに、体育講座「マタニティ・スイミング」修了者の同窓会や、幼児と母親対象の

■小児保健クリニック■

小児科の相談のなかには、体の問題のほかに、落ち着きのなさ、友だちとの協調性のなさやトラブル、片づけがきかない、視線が合わない、言葉が遅いなどがある。また、病的なものかどうかかわからないが気になるくせ、といったさまざまな悩みもある。

診療・相談では、それまでの経過を聞きながら、子どもの様子や親子関係をきけるだけの確に把握して、問題解決に向けて働きかけている。子どもを考えると、保護者を切り離して考えることはできない。スタッフは、親子との十分なコミュニケーションやかかわりを大切にしながら、一つひとつの問題を、少しでも解決できるよう努めている。

■健康スポーツ教室

〈太りすぎクラス〉■

子どもの太りすぎは、生活習慣病につながりやすい。医学・栄養・運動のスタッフがチームを組んで、身体チェック、食生活の見直し、肥満児にとって負担の少ない運動を行う。劣等感を解消しながら、心身ともに健康的に太りすぎを改善していくプログラムである。小児保健クリニックで、親子一緒に、家庭で取り組みやすい具体的なアドバイスを受け、体育室、プールで、子どもたちは楽しく運動不足を解消する。場合により心理相談を行うこともある。野外活動、保護者向けレクチャー、夏合宿なども実施。体育事業部との共同事業。太りすぎの小児と保護者を対象に、土曜日の午後に開催している講座。

水泳講座「パチャパチャスイム」レクチャーなどの経験から、子育てには〈広場〉のような場が必要と考え、平成3年度＝15年度から乳幼児(当初は、3か月～2歳が対象)とその保護者・妊婦を対象とした「赤ちゃんサロン」を開始した。各地で行われるようになった、〈子育て広場〉のさきがけといえる。平成7年度＝19年度には、小グループで子育てについて親同士で話し合う「育児サークル・コアラッ子」を開始した。子育て支援活動の最初のステップであり、後にさまざまな子育て支援事業へと発展していく。

啓発活動では、年に1回、保育士を中心とした子育て支援にかかわる専門職を対象に、その時々の子育て事情を取り上げる「小児保健セミナー」を開催している。平成2年度＝90年度から7年間は、子育てが移り変わるなかでの最新の話題を取り上げて、現場の保育士等向けに全5回シリーズ・少人数制による夜間の講習会「新しい時代の育児講座」などを行った。

研究活動としては、関連学会で報告・発表をしているが、当初は基礎的な研究が多く、その後は臨床にかんする報告、実践プログラムにかんする研究へと変わっていった。

□ 10年後から現在まで□

小児保健クリニックの機能は、平成8年度＝96年度に専門外来について見直しを行い、ダウン症の療育相談(保険診療から相談料に変更)のみになった。しかし、平成10年度＝98年度には、小児科の一部として小児耳鼻科・精神科が再度整えられた。〔こどもの城〕の乳幼児対応が進むなかで、乳幼児健康診査(6か月・9か月児・1歳6か月健診)の利用者も増加した。

クリニックでの相談は、不適切な養育が問題になるとともに、生活リズム・食育など、子どもの基本的な健康や発達にかんする具体的な対応が必要になった。子どもの発達についても、平成17年度＝05年度に学校では特別支援教育の制度が施行され、保護者が子どもの行動を発達障害ではないかと疑って受診するケースが増えている。

乳幼児(現在、3か月～1歳6か月が対象)と保護者・妊婦を対象とした一般来館児・者向け「赤ちゃんサロン」は、参加人数の増加とともに会場を移し、現在では4階の音楽ロビーを会場とし、活動時間も11時～14時に拡大した。小児保健部の活動の重点も、〈子育て支援〉に置かれるようになったといえる。この間、平成7年＝95年末の「エンゼルプラン」をはじめとして、国の少子化対策・子育て支援策が打ち出され、地域での活動も活発になり、〔こどもの城〕も乳幼児とその保護者の来館が増えた。

一般来館児・者向けの子育て支援活動だけではなく、「季節の離乳食」「親子のほっとタイム」など、親同士が話し合ったり質問したりする小グループでの講習会も増やした。平成20年度＝08年度から年3回、夏休みなどの特別期間に行っている「赤ちゃんといっしょの子育て学習会」にはたくさんの参加があり、最近の傾向として講義をしっか



小児保健クリニック(診察)

■ 「赤ちゃんサロン」 の意味と目的■

子育ての最初の時期の母親(保護者)にとって、ゆっくりと親子で過ごしながら、人とのふれあいを楽しみつつ相談もてきる居場所は、不安を自然に解消するために特に有効である。スタッフは親子の遊びを見守り、子ともと遊び、母親と話し、母親たちをつなぐ役割をとおして、親子がリラックスできるように心がける。母親は、他の人の悩みを聞くだけでも参考になり、いろいろな子育てのやり方があるとわかる。子ともへのかわり方も、実際にほかの親子の様子やスタッフの遊び方を見て学ぶことが多い。このような自然な体験をとおして自信を持ってもらえることが目的である。



赤ちゃん大集合
(平成16年度＝04年度)

■学童から未就学児へ、 そして乳幼児へ■

開館前の想定と異なり、未就学児の来館が多かった。平成 4 年度＝92 年度の入館料の変更は、こうした事情を踏まえたもの。当初無料だった 3 ～6 歳が有料となった。屋上の遊具・プレイボートの利用対象を 3 歳以上としたように、施設利用の方法やプログラムにも反映された。平成 3 年度＝91 年度には、乳幼児と母親対象の「赤ちゃんサロン」（小児保健部担当）が始まった。現在は、「こともの城」全館で取り組むようになってきている。平成 6 年度＝94 年度に始まる「赤ちゃん大集合」や、「ハフハフヒータウン」（平成 19 年度＝07 年度～）など、複数の部が協力して行う子育て支援事業へと発展していった。

り受けて勉強したいという保護者の志向がみられる。

〔こともの城〕での実践をもとに小児保健部では、平成 13 年度＝01 年度から指導者向け講習会「心とからだの健康 0 1 2 歳児～小児保健の基礎と実際～」を開催し、地域で活動している子育て支援者に小児保健部スタッフがそれぞれの専門分野で講義を行うようになった。〈動くこどもの城〉のプログラムとしても、体育事業部と共同で、乳幼児への運動遊びの実践と保健の話を組み合わせたプログラムを平成 6 年度＝94 年度から実施。平成 20 年度＝08 年度から、児童館での乳幼児と親のための交流広場の持ち方や小児保健分野の講習会を受け持っている。

3. 今後の活動へ向けて

現在、小児保健クリニックには、複雑な家庭状況を抱えた親子の診療・相談が増えていく（113 ページ参照）。診療・相談で経験した個々の子ども・家族の経験から、現代の社会の子どもの健康や子育ての傾向を読み取り、全体的な支援のあり方を考え、啓発活動に生かしていくことが小児保健部の使命であろうと思う。最近の家族形態は多様であり、それぞれに適切な対応が必要とされることから、小児保健セミナーのテーマも「多様化する親子へのかかわり方」を取り上げ、これからの家族への援助に役立てられればと考えている。

週末などは、父親の来館が増える傾向にある。これからの子育ては、母親だけでなく父親、祖父母、地域の人などのかかわりも大切である。子どもは、さまざまな人のかかわりのなかで育っていくので、いろいろな人が子育てに参加しやすい環境作りが必要だろう。〔こともの城〕全体でも乳幼児を持つ家族への支援策の充実がさらに望まれる。

今後も試行錯誤しながら、地域の子育て支援の発展につながるよう、さまざまな形で事業の展開を考えていきたい。

企画研修部の 25 年

1. はじめに

企画研修部は、「こども活動エリア」の活動全体の事業の取りまとめ・調整を行う〈企画部門〉と、ボランティアの養成と活動のコーディネートを行う〈研修部門〉がある。

〔こどもの城〕の活動は、〈あそび〉という言葉に集約される。〈あそび〉にふさわしい“スペース”を用意し、さらに〈あそび〉を“サポート”し、子どもたちに〈あそび〉を“プレゼンテーション”する専門スタッフがいる。体育室・プール、造形スタジオ、パソコンルーム、ビデオライブラリー、音楽ロビー・スタジオなどで、運動遊び、造形遊び、パソコン遊び、映像遊び、音楽遊びなどを子どもたちがおもいっきり楽しみ、〈あそび〉を深めていけるように環境が整えられている。

周到な調査と準備を重ねて開館した〔こどもの城〕だが、学童よりも未就学児の来館が多いなど想定していなかったことも多く、開館して数年の間はさまざまな手直しを行い、現実にあわせて〔こどもの城〕を確立する時期であった。各事業部門の活動は、それぞれの拠点となるスペースを中心に展開され、発展してきているが、総合施設としての機能を生かすためには、各事業部門が連携して活動を展開していくことが重要になる。開館して数年が経過し、各事業部門の活動が軌道にのりはじめてから、全体の事業の取りまとめ・調整の役割がより重要になってきた。

〈研修部門〉では、開館前からボランティアを養成し、その活動をコーディネートしている。子どもの〈あそび〉を支える“遊びのボランティア”は、〔こどもの城〕の活動の

■企画部と研修教養部を 企画研修部に統合■

平成 9 年＝97 年 4 月に企画部と研修教養部が統合され 1 つの部となった。同時に、これまで企画部の業務の一部であった総合案内課の業務が業務部に移管されたため、全体として大幅に業務が入れ替わった。（中略）新しい企画研修部の業務は、①各事業部の業務の総合的な企画調整 ②〈動くこどもの城〉の総合的な企画および調整 ③児童福祉・文化にかんする研修 ④実習生・研修生の受け入れ ⑤ボランティアの養成および活動支援 ⑥チャリティー事業 ⑦こどもの城友の会の運営 ⑧利用状況の統計にかんすることとなった。

（『平成 9 年度＝97 年度
こともの城事業年報』から）



ボランティアによる「パネルシアター～パネルであそぼう」
(平成 16 年度＝ 04 年度)

なかで大きな役割を果たしている。

2. 企画研修部の今

□各部門の活動をつなぐ〈企画部門〉□

〈企画部門〉は、「こども活動エリア」の 5 部門と保育研究開発部や小児保健部の活動内容には該当しにくいものに取り組んだり、複数の部門の活動をつなぐ役割を担ってきた。全館に関連する「こどもの城友の会」「グループ活動」、さらに国際交流をはかる活動などである。

「こどもの城友の会」は、「[こどもの城] をより多くの人に理解してもらい、支援の輪を広げるとともに、利用の促進をはかることを目的」として、「ファミリーで[こどもの城] とのつながりを持ち、利用してもらおうことを願って、会員を家族単位にしたところに特色がある」(「こどもの城の 10 年」) 会員組織である。平成 2 年度＝ 90 年度の 3,978 家族をピークに減少し、現在は 1,000 家族を割り込んでしまった。「こどもの城友の会」の活動を活性化していくことが課題になっている。

「グループ活動」は、平常期間の午前中、開館前の時間帯を利用して保育所・幼稚園などの団体を対象に、[こどもの城] のオリジナルプログラムを提供するシステムである。年間 150 件以上の利用がある。日常活動の経験を生かしてプログラム開発を行い、その多くは〈動くこどもの城〉のプログラムに引き継がれている。

全館をつなぐ活動のなかで、最も力を入れ、時間をかけて取り組んできたのが、全館の事業のとりまとめだった。それぞれの事業部門の持ち味だけでなく、トータルで魅力的な[こどもの城] のイメージをつくりたいと願ってのことだった。そのためには、各部門の特質を理解しておくこと、各部門の活動のなかに全体のイメージを反映するように調整することなどが必要だった。

開館当初は、各種のメディアで取り上げられる機会も多く、多くの来館児・者があった。特にゴールデンウィーク(児童福祉週間)、夏休み、冬休み、春休みの特別期間には一日の来館児・者が、3,000 人から多い時は 5,000 人にもものぼった。食事・休憩場所の確保、研修室などの空きスペースの活用、屋上遊園・ふしが丘、青山円形劇場を利用した臨時の催しの実施などが具体的な取り組みであった。

繁忙期の対策という意味が強かったとはいえ、複数の事業部が共同で事業を実施したり、来館児・者のための環境整備に取り組んだ。[こどもの城] の草創期でもあり、単に複数の事業部を横につなぐ機能を果たすのが精一杯であった。

平成 6 年度＝ 94 年度に始まった国庫補助金による〈動くこどもの城〉事業は、私たちの目を外へ向けさせるきっかけになった。「こどもの城(仮称)」の基本構想に関する意

■さまざまな国際交流■

企画研修部が担当している首都圏のインターナショナルスクールの合同美術展「アートスケープ展」のほかにも、音楽事業部ではセネガルやインドネシアからアーティストを招いて民族音楽を紹介したり、こどもの城児童合唱団が中国で交流コンサートを行ったり、造形事業部がイタリアの子どもフェスティバルに招かれてワークショップを実施したり——それぞれの事業部門で国際交流を行っている。企画研修部では、そうした事業のサポートもしくはコーディネートを行っている。



LIT 春イベント「ワク
ワクスタジアム 2001」
(平成 13 年度＝ 01 年度)

■動くこどもの城■

〈動くこどもの城〉は、体育・プレイ・造形・音楽 AV などのいろいろな分野の専門スタッフが協力し、開発・研究に力をそそいできた〔こどもの城〕独自のプログラムを館外へ移動し、児童の福祉文化の活性化のために地域の児童館などと連携して、積極的に実践協力を進めるものである。

(『平成 6 年度＝ 94 年度
こどもの城事業年報』から)

見」書のなかにも、「地理的には東京の都心に設置される予定であるとしても、その内容と機能においては全国的な広がりを持つ必要がある」と記述され、例として「こどもの城における研究・実践の成果を地方にフィードバックすること」があげられている。〈動くこどもの城〉は、この構想を現実化するものであった。

〈動くこどもの城〉は、〔こどもの城〕で行っているプログラムを地域の児童館など子ども（親子）を対象に実践すること、あわせて児童健全育成の指導にかかわる人たちを対象に、そのプログラムの企画・立案からアレンジの仕方などの講習会を行うことが基本となっている。全国の児童館などのスタッフと情報を交換し、そこに集まる子どもたちとふれあうことは、〔こどもの城〕のスタッフにとっても貴重な体験となった。

□ボランティアの養成・コーディネートする〈研修部門〉□

平成 7 年＝ 95 年に発生した「阪神・淡路大震災」をきっかけに、“ボランティア”への関心が高まり、ボランティア講習会への申し込み人数、活動人数も増えていった。社会人の参加が多くなり、開館当初は学生が大半だったボランティア組織に、多様な価値観が持ち込まれるようになった。また、より充実したボランティア活動を展開するために、“コーディネート”業務の重要性が増していった。

ボランティアの活動は活発で、定期的に活動しているグループ数は 20 を超えている。特別期間のプログラムも、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間の「キャスルクエスト」（平成元年度＝ 86 年度～）、夏休み特別期間の「ウオーターアドベンチャー」（昭和 62 年度＝ 87 年度～）など、スタッフとボランティアが協力して独創性あふれるプログラムを開発。〔こどもの城〕の定番プログラムの一つとなっている。年間活動延べ人数も、平成 16 年度＝ 04 年度には 8,785 人に達し、ボランティアの活発な活動の様子が見て取れる。

〔こどもの城〕のボランティアに占める、学生の割合が減少している背景には、大学生世代を取りまく社会状況の大きな変化がある。景気の低迷がもたらすニートやフリーターの増加、大学 2 年生から始まる就職活動、夏休み等の長期休暇中に実施されるキャリア教育の「インターシップ制度」や資格取得の「実習制度」などのため、大学生が多忙になったことなどが考えられる。

さらに、ボランティア講習会の申込者の減少も顕著になってきた。平成 12 年度＝ 00 年度までは、毎回 50 人の定員を上回る申し込みがあったが、平成 21 年度＝ 10 年度には 14 人になってしまった。特に平成 20 年＝ 09 年ごろから始まった大学カリキュラムの変更は、土曜日や祝日に授業を実施したり、夏休みや春休みの短縮などの形となってあらわれ、大学生がボランティア活動に取り組む時間をますます奪うことになった。カリキュラムの見直しなど、ボランティア講習会の見直しを行っている。



ウオーターアドベンチャー
2002 ～西部の決闘～
(平成 14 年度＝ 02 年度)

思春期対策のグループ活動にも力を入れている。平成元年度＝89年度から始まった、高校生世代のグループ活動LIT（Leader In Training）は現在でも意欲的な自主活動を展開している。〔こどもの城〕が開館したころに比べ、中高生世代を取り巻く環境は大きく変化してきている。生活形態・価値観の多様化、人間関係作りの不得手、持久力の欠如など、さまざまな課題が浮かび上がってきている。

こうした状況は、全国の児童館や青少年活動にかかわるさまざまな団体・人からも指摘され、中高生世代への援助の必要性が言われるようになってきている。LITの活動も、「子どものためのボランティア活動」という活動基盤は同じだが、「より自己肯定感が醸成されるような体験活動」「本人にとって居心地のよい場所となるような環境作り」を重視するようになった。

グループワークの記録様式の開発を行い、1回1回の活動で個人とグループのダイナミズムを客観的に把握できるよう工夫を重ねている。これからは、単なる高校生のボランティア活動という枠にとらわれずに、彼らの自立を助け、不安定な社会環境のなかでも他者と協同しながら豊かな人生が歩めるようになるために必要な体験活動を準備・提供することと、適切なグループワークの技術を活用した支援が必要になってくるだろう。

開館当初から、各事業部で大学・専門学校の実習生を受け入れている。最近は中学校、高校からの職場体験、ボランティア体験の受け入れ件数が急増している。また、大学からはキャリア教育の一環として、インターシップ生の受け入れの要請が増えている。少子化対策の一つとして政府が打ち出した施策「若者の就労意識の向上」を反映したものと考えられる。長引く不況を乗り越えるために必要なキャリア教育の一環としても、職場体験やインターシップ生の受け入れは重要な要素だと考えられる。

3. 今後の活動へ向けて

平成22年＝10年の秋には、〔こどもの城〕も国庫補助金交付団体に対する事業仕分けの対象になった。そこでは、単に国庫補助金の効率的な運用を求められるだけでなく、社会的な要請に応じて大型児童館としての使命だけでなく、さらに広範な子育て支援をすること、両立支援に直接かかわる施設もしくは活動への支援などが求められた。具体的には、保育所や放課後児童クラブなどへの支援である。

〔こどもの城〕は大型児童館としての実績があり、子育て支援をふくめて健全育成のさまざまなノウハウを有しているが、今後はこうした社会的要請をふまえて対応していくことが必要である。〔こどもの城〕の特性を生かすこと——〔こどもの城〕だからできることを社会にフィードバックしていくことが、社会に対する最大の貢献につながるのではないだろうか。

さらに、〔こどもの城〕の外の力を活用して、事業の充実に努めることも重要である。今まで〔こどもの城〕は、直接子どもの〈あそび〉にかかわるプログラム作りを重視してきたが、今後はそれに加えて、社会資源をふくめて子どもが育つよりよい環境作りをプロデュースする能力が必要とされる。これからの企画研修部は、事業部間の調整役にとどまらず、社会的な役割を果たしていけるように、〔こどもの城〕のグランドデザインを描いていかなければいけない。

■野外活動■

企画研修部では、夏休み特別期間に「シュニア・アウトドア・スクール」(小4～中3対象)、春休み特別期間に「シュニア・スプリング・キャンプ」(小3～中3対象)を実施している。近年、野外活動は子どもの健やかな育ちを保障するプログラムとして価値が高まっているが、参加者は少しずつ減少している。特に夏のキャンプは75人の定員で、平成20年度＝08年度74人、21年度＝09年度70人、22年度＝10年度55人と減少傾向にある。なかでも小学生の減少が顕著で、親世代の自然体験不足の影響も大きいと考えられる。今後、親へ野外活動の価値を伝える機会を増やすとともに、「参加したい」「参加させたい」という気持ちを促進させる、実施形態の工夫を模索していく必要がある。

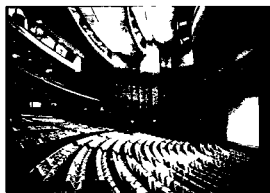
■社会福祉講座■

「子どものための手話講座」は、受講者数も定員を下回ることが多くなり、高校生と大人を対象にした「手話講座」も平成15年度＝02年度で廃止し、翌年16年度＝03年度からは、「子どものための社会福祉講座～しゅいんクラブ」(小4～中3を対象)を新規事業として実施した。しかし、定員の充足率が5割に満たない状況が数年続いたため、平成22年度＝10年度をもって廃止とした。

劇場事業本部の25年

1. はじめに

児童の福祉・文化の向上をめざして、児童に内外の質の高い舞台芸術・音楽を鑑賞す



■青山劇場■

全床スライト方式の主舞台や 24 基の小迫り機能などが備えられた舞台面を始め、音響・照明・客席等に最新鋭の劇場工学の粋を集めて建設された。これは劇場機構によって舞台表現が制限されることなく、あらゆる舞台芸術のジャンルにおいて、最大の芸術効果をあげられるよう作られている。
 (『昭和 60・61 年度＝85・86 年度こどもの城事業年報』から)



■青山円形劇場■

日本初の完全円形劇場としてユニークな特徴を持っている。既存の額縁型の劇場は、演者と観客が定まった位置に固定されていたが、青山円形劇場は、この関係を根本からとらえ直したため、より密度の高い斬新な演出効果が得られる。(中略)特徴の 1 つとしては、実験的なものも含めて円形というユニークな形態を生かすもの、そしてもう 1 つは、対象を青少年やファミリーに重点を置いたものが、セレクトされている。
 (『昭和 60・61 年度＝85・86 年度こどもの城事業年報』から)

る場を提供し、また児童をそれらの芸術活動に参加・交流させることにより、豊かな情操と創造性を育てる。併せて、優れた劇場機能を生かした斬新な活動を推進し、万人のためのよりよい舞台芸術・音楽の発展、普及に資する。

上記の運営目標を実現すべく、〈文化施設〉と〈文化事業機関〉の両面を併せ持つ劇場として運営している。つまり、演目を選定して劇場を貸す“貸し劇場公演”と、公演作品を企画・制作して発信していく“自主（共催）・提携公演”を行うことである。

2. 劇場事業部の今

青山劇場では、劇団四季が開館記念公演『ドリーミング』で、コンピュータ制御のハイテクな舞台機構を駆使した演出を披露して以来、その演出の流れはジャニーズ事務所『少年隊 PLAYZONE』、日本テレビミュージカル『アニー』へと受け継がれ、その後も数々のミュージカルが上演され、“ミュージカル劇場”としての評価が定着した。その傾向を引き継いで、日本テレビ以外のテレビ局や新進の制作会社のミュージカル制作への参入が顕著に見受けられる。

また、青山円形劇場は完全円形空間のおもしろさから、さまざまな実験的・先駆的な舞台作品が作られ、そのジャンルもダンス・演劇・人形劇・演芸・ライブパフォーマン・クラシックコンサートなどと多岐にわたっている。特に若手の劇団にとっては、青山円形劇場で上演することは羨望のまとなっている。最近も、若手劇団の台頭が徐々に目立つようになっている。

〔こどもの城〕発の作品を発信しようという強い意識から、開館当初から“自主（共催）・提携公演”に力を入れてきた。たくさんの作品が生まれ、それぞれシリーズ物として定着し高い評価を得て現在も継続中のもの、その使命をまっとうして終了したもの、その流れを汲む作品に発展的につながっているものとかある。主だった公演は以下のとおり。

【青山劇場】

『青山バレエフェスティバル』（昭和 61 年度＝86 年度～平成 12 年度＝00 年度）

→『ローザンヌ・ガラ』（平成 16 年度＝04 年度～）

【青山円形劇場】

『青山演劇フェスティバル』（昭和 62 年度＝87 年度～平成 13 年度＝01 年度）

『ア・ラ・カルト』（平成元年度＝89 年度～20 年度＝08 年度）

→『ア・ラ・カルト 2』（22 年度＝10 年度～）

『オブジェクト・シアター』（平成 2 年度＝90 年度～20 年度＝08 年度）

『五線譜のなかの動物たち』（平成元年度＝89 年度～12 年度＝00 年度）

『キリン・ファミリー（民話）劇場』（昭和 61 年度＝85 年度～平成 13 年度＝01 年度）

『こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ』（昭和 63 年度＝88 年度～）

『月猫えほん音楽会』（平成 12 年度＝00 年度～）

『こどもの城マタニティ・コンサート』（昭和 61 年度＝86 年度～）

開館して 10 年を経過するころには、青山劇場・青山円形劇場の基礎も固まり、一定の評価も得られるようになった。その後も、パブリックな〈文化事業機関〉として、先進的な文化・芸術を発信する役目、児童・青少年はじめ各年代・各層にわたる人々の福祉の向上に貢献する役目、できる限り廉価で質の高い公演の鑑賞機会を提供する役目を再確認して、以前からのシリーズ物のほか、演劇、音楽、舞踊などの各分野で、今後の活躍が期待されるカンパニー・アーティストなどと協力・提携して以下のシリーズ作品を生み出した。

【青山劇場】

『ダンスビエンナーレ（トリエンナーレ）TOKYO』（平成 14 年度＝02 年度～／青山円



青山劇場ハック
ステージツアー
(平成 14 年度＝ 02 年度)

形劇場ほかでも公演)

『TAIKO JAPAN』『青山太鼓見聞録』『東京国際和太鼓コンテスト』『和太鼓カレッジ』

(平成 18 年度＝ 06 年度～／青山円形劇場ほかでも公演)

【青山円形劇場】

『Aoyama First Act』(平成 14 年度＝ 02 年度～)

『青山円劇カウンスル』(平成 19 年度＝ 07 年度～)

『青山演劇 LABO』(平成 20 年度＝ 08 年度～)

『Dance Exchang』(平成 20 年度＝ 08 年度～)

『Tokyo Dance Today』(平成 19 年度＝ 07 年度～)

『中西俊博 Leaping Bow』(平成 17 年度＝ 05 年度～)

『ROLLY Glory Rolly』(平成 17 年度＝ 05 年度～)

『玉川大学 パフォーミング・アーツ・フェア in 青山』(平成 15 年度＝ 03 年度～)

時代の空気を読み取り、自主（共催）・提携公演作品をとおして常に新しいものを発信していくことが劇場に求心力を持たせ、劇場のポテンシャルを高める。そのことが、劇場使用希望者にも刺激を与えることにつながり、営業の効果（貸し館）にも結びつき、全体として高い稼働率を保てることになる。

3. 今後の活動へ向けて

劇場部門を運営するにあたっては、舞台機構の経年劣化に伴う機器の更新やメンテナンスに、膨大な経費と時間がかさむのは事実である。〔こどもの城〕を取り巻く社会的、経済的な変化を踏まえ、経費のかからない舞台機構への転換をはかることも視野に入れつつ、当分の間は〈文化事業機関〉に対する公的助成金や民間からの協賛金の確保など、外部資金の導入をはかる一方、劇団・カンパニーとの提携・連携によるリスクの少ない公演形態を模索しながら、〈文化事業機関〉として公演をとおしての発信を絶やさずに行い、劇場の顔をなくさないことが大事ではないだろうか。

のっぺらぼうな“はこ（劇場）”に、表情豊かな顔を与えるのは自主（共催）・提携公演である。豊かな表情の“はこ（劇場）”には、そこにふさわしい公演が集まり、貸し劇場の質を落とすことなく高い稼働率が確保できる。〈文化施設〉としての劇場の維持につながる重要な要素だと思う。

■新旧交代と

劇場が育てる作品■

新旧の交代のきさしみえてきた年であった。(中略) 入場料の設定など、老舗も新興プロダクションも変わらないのだから、企画の内容に同時代の意識が持てるかどうかの判断基準が大きいのだろう。しかしながら『アニー』『少年隊ミュージカル』など、〔こどもの城〕青山劇場ならでは企画も、(中略) それぞれ観客がいっぱいになる。これらは、青山劇場で生まれ育って、より完成度の高い作品になってきたのたといえよう。劇場が作品を育てる例なのかも知れない。

(『平成 14 年度＝ 02 年度
こどもの城事業年報』から)

■玉川大学パフォーミング・アーツ・フェア in 青山■

平成 15 年＝ 03 年 6 月の青山円形劇場でのミュージカル『トリ・ミンクボーイ』公演から、劇学提携事業（劇場と大学のコラボレーション）としてスタート。“開かれた劇場”と“開かれた大学”のこれからのあり方を模索して継続的に取り組んでいる実験的なプロジェクト。(中略) 公立文化施設や教育機関では、それぞれの知的・技術的資源などをもって他の機関と連携・交流し、積極的に社会発展に資することが求められている。

(『平成 16 年度＝ 04 年度
こどもの城事業年報』から)

■青山パフォーミング・アーツ・セミナー (APAS) ■

ダンス、ミュージカル、演劇、舞台の仕事などパフォーミング・アーツをより身近に体験できる“場”を青少年や一般にひろく提供するワークショップ&フォーラム・プロクラムとして、6月から12月までの16のワークショップと4つのフォーラムを開催し、延べ1135人か参加した。

(『平成 15 年度＝ 03 年度
こどもの城事業年報』から)
× APAS の名称を使う前 (平成 14 年度＝ 02 年度) から『ダンス・ヒエンナーレ TOKYO 2002 ～パニョレ』(フォーラム&ワークショップ)、『日本の音楽シリーズ～日本の太鼓、日本の日本のふるさと弦楽器』(ワークショップ) を開催している。

“センター機能”の 25 年

1. はじめに

■児童厚生員等を

対象とした講習会■

全国の児童厚生員等を対象にした「児童厚生員等実技指導講習会」は、ハプルの崩壊後、次第に定員の充足率が低下していった。要因として、派遣する自治体の経費負担の取り扱いが変化してきたことが考えられた（宿泊・食費の支出を見合わせるなど）。そこで、宿泊を前提としない講習会にした。さらに、研修テーマを“あそびの専門技術の獲得”に絞り込み、技術の獲得のみならず、文化・歴史的な背景もふくめて〈あそび〉を学習する機会とした。現在は、年々充足率も高まっている。

■「こともの城」の

ホームページ■

最新の情報は“新着情報(What's New)”，当該月の催し物については“カレンダー(月間)”という整理でホームページを作り、11月からシミュレーション的に公開している。ホームページに“カレンダー(月間)”をアップするにあたり、情報整理の仕方などをシミュレーション。印刷物(ちらし)の形で作成してみた。アップ後も、ホームページとちらしの2つの媒体で同じ情報を利用するなど、多角的な活用に心がけている。

(『平成 19 年度＝07 年度
こともの城事業年報』から)



全国児童館おりかみ作品展

(平成 13 年度＝01 年度)

×平成 12 年度＝00 年度に“家族”をテーマに第 1 回を開催。以後毎年開催。(こともの城)で展示したのち、全国を巡回。

子どもたちと直接かかわる活動をしている部門のほかに、〔こともの城〕の活動を支える部門がある。全国の児童館の“センター機能”を果たす活動や、〔こともの城〕の活動を多くの人に伝え、たくさんの人に利用してもらうように働きかけると同時に、〔こともの城〕の活動を理解してもらうために情報を発信する“広報＝Public Relations”などの活動である。

2. “センター機能”の今

全国の児童館活動に携わる職員を対象にした講習会を、開館以来継続して実施している。開館直後の昭和 60 年＝85 年 11 月 22～24 日に、開館記念行事「ブルーノ・ムナーリ作品展」を題材に「児童厚生員等造形実技指導講習会」を開催。その後「児童厚生員等実技指導講習会」に名称を改め、年 2～4 回開催している。実技を主体とした内容で、講習後すぐに実践できるなどのことから、毎回、全国各地から多数の参加者がある。講習会では、〔こともの城〕で開発したプログラム活動も順次紹介している。

〔こともの城〕のプログラムを全国各地に派遣し、地域の児童館などと協力して事業を展開する〈動くこともの城〉(国庫補助事業)は、平成 6 年度＝94 年度にスタートした。「実施したプログラムが地域に根づくことを目的にしているの、原則として“子どもとその家族を対象としたプログラム”と“児童厚生員を対象としたプログラム”を併せて実施する」(『こともの城の 10 年』から)のが原則になっている。

〔こともの城〕の活動を多くの人に伝える「こともの城ニュース」は、昭和 60 年＝85 年 11 月 15 日に創刊された。ブランケット判(一般の新聞サイズ)2 ページ(表面 4 色、裏面 1 色)で、年 6 回発行。国際家族年の平成 6 年度＝94 年度から年 9 回、11 年度＝99 年度から年 11 回、20 年度＝08 年度から年 12 回の完全月刊化に、発行日を毎月 1 日に変更した。

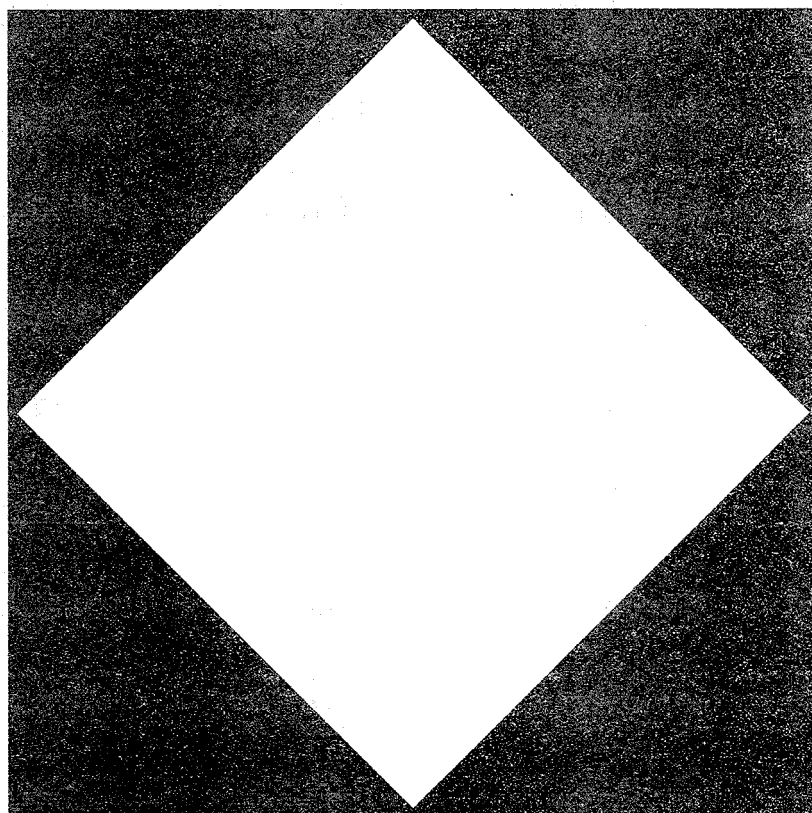
情報伝達の一つの媒体であるホームページも、平成 19 年＝07 年 11 月から全面的にリニューアルして再スタートした。

3. 今後の活動へ向けて

〔こともの城〕という児童福祉施設の運営だけではなく、さまざまな活動をとおして得たことがらを、さまざまな形で社会にフィードバックすることが求められている。〔こともの城〕という健全育成の現場があり、毎日たくさんの来館児・者を迎えて、“遊びのプログラム”を実践している。そこで得られた経験を〔こともの城〕のなかだけにとどめておくのではなく、研修会や〈動くこともの城〉の実技を中心とした講習、「こともの城ニュース」など媒体をとおして伝えていくことが、“センター機能”として重要になってくる。

3

各部の事業



体 育 事業部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に、そして土・日曜日、祝日および学校の季節休みなどの特別期間は一般来館児・者向けに、体育室でスポーツ遊びのプログラムとプールの開放を行っている。

子どもたちの体力低下が話題となっており、〔こどもの城〕を利用する子どもたちにいかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを伝えるかが、体育部門の使命と考えている。

25 m×5 コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート 1 面分の体育室と健康開発室がある。夏休み特別期間には、屋上に仮設のプールを設営。乳児も親とプール遊びが楽しめるように設定してある。

(ア) 一般利用

講座・講習会などが中心となっている体育事業部の活動のなかで、一般来館児・者向けのプログラムは、土・日曜日と祝日、学校の季節休みなどの特別期間に行っている。

日曜日（および、その前日の土曜日の午後）は、フライングディスクを使ったゲーム、ドッジボール、サッカー、プラスチックのスティックを使うユニホック（ホッケー）、そして家族で楽しめる卓球を行った。

土曜日は 14 時に 1 種目のスポーツ、日曜日は 14 時と 16 時に異なる種目のスポーツを体験できるように設定してある（活動一覧表参照）。2 種目を行うことで子どもたちの苦手意識の緩和や、新たなスポーツに興味・関

心を持つ機会の拡大に役立っていると感じる。祝日は 14 時と 16 時に、道具を必要とせず、運動量も期待できる鬼ごっこを行った。最近は、鬼ごっこを行う機会が少ないということから、これからも継続していきたい。

平日は講座・講習会などに使用しているプールも、日曜日・祝日（10 時 30 分～17 時）は、一般来館児・者に開放している（本年度は新規講座開設のため、土曜日の一般開放は廃止した）。寒い冬の時期は利用者が少ないのが通例であったが、本年度は例年になくにぎわいをみせていた。春から夏にかけては大盛況である。

健康開発室は、体力測定を有料で行っている。年齢・性別に応じて全国平均と比較し、簡単なコメントをつけて測定用紙を渡し、健康・体力作りに役立てられるようにしている。子どもから大人まで測定できるので、家族で互いに、どのくらいの体力があるのか比べあう姿が見られる。大人にとっては、体力維持のよい指標となっている。



ユニホック

(イ) 講座・クラブなど

親子、幼児、小・中学生（「シニアスイミング」「シニア新体操」は高校生も可）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週 1 回であるが、「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週 2 回、「シニアスイミング」は週 3 回ある講座枠のなかから選択して受講できるようにしている。

幼児の講座（水泳・体操）は、ここ数年、定員いっぱいまで運営しているが、小・中学生のクラスは学校の終了時間が遅くなったためか、早い時間帯のクラスは空きが目立ってきた。時間を後ろに変更することも考えたが、18 時からの「ダイナミックヘルスクラブ」（18 歳以上のスポーツクラブ）に重なってしまうことや、子どもたちが帰宅する際の安全面などを考えると、後ろに変更することは難しいところである。

成人向けコースとして、「レディースコース（スイミング/リズム&ストレッチ）」があり、平日の午前中に開講している。初心者から上級者まで、幅広く楽しめるように配慮している。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらう機会としている。3 月 20 日に予定していた「新体操発表会」は、東日本大震災のため延期し、5 月 15 日に実施した。

「シニアスイミング」「シニア新体操」受講生は年に数回、対外試合に参加して種目別で上位の成績を修めている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) 特別期間のスポーツプログラム

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年度ごとに利用者のニーズや季節に添ったテーマを決めてプログラ



親子で春の運動あそび

ム作りをしている。

一般来館児・者を対象にするプログラムは、参加年齢もさまざまであり、特に幼児にも分かりやすいように、遊びを取り入れたルールにアレンジして行っている。また、子どもだけではなく親子でも楽しめるように工夫し、スポーツを身近に感じてもらうように配慮した。

児童福祉週間（ゴールデンウィーク）では、「ウォールサッカーカップ」を行った。サッカーワールドカップ南アフリカ大会の年であり、子どもたちが選手になってワールドカップを身近に感じてほしいというねらいで考案された。

集まった子どもたちで即席のチームを作り（期間中トータル 32 チーム）、それぞれに国名をつけて擬似サッカーワールドカップ試合を、本番さながら 64 試合行った。日本以外の国（チーム）になっても、子どもたちはその国の代表選手になりきって試合をしていた。その姿は、国の名誉を背負って戦っている本当の代表選手のものであった。

また、午前中は「親子で春の運動あそび」を行った。対象を幼児と親とし、親子体操や親子でできる運動遊びを行った。幼児と親子のプログラムは今回が初めてではないが、期待した以上の来館児・者が集まった。

夏休み特別期間は「スポーツナビゲーション in こどもの城」。長丁場の夏休みであるが、いろいろなスポーツを提供するには絶好の場である。人気のあるスポーツ、サッカーやバスケットボールをはじめとし、あまり知られていないニュースポーツまで取り上げた。スタッフ（ナビゲーター）が子どもたちに指導しながら、途中途中で勝つためのポイントや、スピードをあげるポイントなどを子どもたちにナビゲートして、スポーツをより楽しめる方法を伝えた。

毎年、恒例になった一般募集の講習会「It's ！ライフセービング～たのしい夏にするために～」を夏休みに入る前に実施。日本ライフセービング協会の協力を得て、着衣泳の体験やアクシデントにあったときの対処法などをレクチャーした。

冬休み特別期間は、年末と年始の 2 期に分け、年末は「ウィンタースポーツ大集合」を行った。サッカー、ラグビー、バスケットボールなど、冬を代表するスポーツを 1 日 3 種類取り上げた。

年始は、体育室改修工事にともない体育室プログラムが行えないため、各事業部の協力を得て全館事業という枠組みで、体育事業部が担当して「めざせ！うごキッズ～マスター選手権大会」を行った。参加者は受け付けでレーダーチャートシートをもらい、全館に設置されたいくつかのエリア（有人、無人）をまわって、

ウォールカップサッカー大会



そこに書かれている運動プログラムをこなしてポイントを集める。全てをクリアすると、16時から行われる選手権大会に出場できて、マスターズカードがもらえるというプログラム。体育事業部が担当ということもあり、各エリアは体を動かす内容になっている。子どもだけのグループや親子で館内を元気に回っていた。

春休み特別期間は「春だ！エンジョイ スポーツあそびフェスティバル」を、ピロティで行った。冬休み特別期間に予定していた体育室改修工事が延びたため、初めての試みとして、ピロティという屋外でプログラムを実施することになった。青山通りを行き交う人も参加するため、大盛況であった。公園で遊ぶ感覚のイメージが強いため、体操の指導や球技を省き、大縄まわしやフープを地面に置いたケンケンパなど、いつでも自然に加われるように配慮した。今回から初登場した「スラックライン（綱渡り）」は、子どもたちから反響をよび、スラックラインを目的に毎日来館する子どももさえた。

（イ）その他のプログラム

本年度は「こどもの城」開館 25 周年であり、10 月 10 日～11 月 28 日の開館 25 周年記念特別期間に、これまでに行って人気があったプログラムをリニューアルして子どもたちに提供した。

「体育の日」は例年、体育事業部が中心となってプログラムを展開。本年度は「スポーツ鬼ごっこ大会」を開催した。小学生高学年ぐらいになると、点数制で勝敗がはっきり分けられるゲーム性がある遊びに興味が

めさせ！うごキッズ～マスター選手権大会～



でてくる。そこで、考案されたのが「スポーツ鬼ごっこ」である。自分の陣地の宝をとられないように、相手チームの宝をとりに行くこのゲームは、作戦を考え、より多くの運動量とチームワークが必要になる。

その日に集まった子どもたちで作ったチームと、講座に参加している子どもたちで作ったチームなどで優勝を争った。

3. まとめ

運動は、人が生きていくうえで食事、睡眠と同様、健康な体を作るために必要不可欠なものである。だからといって、運動はすべての人が好きというわけではない。もちろん、すべての人に強制的に運動を好きになってもらうことはできない。ある程度物心がついてきて過去を振り返ったとき、運動は好き、運動は嫌いという判断をする。

単純に、子どものときに運動をしてほめられた経験があると、またほめてもらえるようにがんばるという繰り返し現象がおき、好きになるケースがある。嫌いになるパターンは、この反対が考えられるのではなかろうか。運動を好きになるきっかけは多岐にわたり、さまざまである。地下 2 階の体育のフロアに来る子どもたちは、まさに“好き嫌い”の分岐点に立っているといえる。私たちには、子どもたちが運動好きになるための要素を含んだプログラムの研究と開発、そして子どもたちが運動を好きになるような指導法が求められている。運動を好きになって、子どもたちが健康な体を手にいれてほしいと願っている。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13 30～16 00 日曜日・祝日 10 30～17 00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18 歳以上 300 円、小 1～17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル(タオル・水着) 各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。(プール)
体育室一般利用	土曜日 14 00～15 00 日曜日・祝日 14 00～15 00 16 00～17 00	日曜日 14 時と 16 時の 2 回、土曜日 14 時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフラインクディスクのフリースローインク。第 1 日曜日 フラインクディスク(14 時)、サッカー(16 時)／第 2 日曜日 トッシーホール(14 時)、ユニホック(16 時)／第 3 日曜日 卓球／第 4 日曜日 サッカー(14 時)、トッシーホール(16 時)／第 5 日曜日 ユニホック(14 時)、フラインクディスク(16 時)。土曜日は、日曜日の 14 時の種目。卓球は終日卓球の自由利用(混み合う場合は各グループ 20 分交代で利用)。利用時間は土曜日が 13 時 30 分～16 時、日曜日が 10 時～17 時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼っこ。(体育室)
体力測定	土曜日 14 00／15 00 日曜日・祝日 11 00／13 00 ／14 00／15 00／16 00	8 種目の体力測定を行っている。4 歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は 1 回 100 円。(健康開発室)
ヒックサタデー	土曜日 10 30～11 45	小学 4 年生以上を対象としたプログラム。クリケット、タクラクヒー、ハレーホール、バスケットボール、ハトミントンなどの種目をほぼ 2 か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム(試合)の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。(体育室)
ファミリー アトベンチャー	6 7 8 2 10 25 H 22 3 14	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいなから、自然のなかの不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費＝500～2,000 円(1 人)。 □5 月 23 日＝パークアトベンチャー～なつかしのサリカニ釣りに挑戦!! (水元公園＝東京都) □8 月 1 日＝川遊びアトベンチャー～思いっきり川遊び(伊奈キャンプ場＝東京都) □10 月 31 日＝トレッキングアトベンチャー～クイズラリーに挑戦!(秦野市＝神奈川県) ×熊の出没情報があり中止 □平成 23 年 3 月 13 日＝タウンアトベンチャー～柴又の謎に迫れ!(葛飾区＝東京都) ×東日本大震災のため中止
It's ライフセービング	7 4 10 30～11 50	海の安全についての学習や着衣泳を実践。小学生以上の子とその親 37 人が参加。先着予約制。参加費 500 円。協力 日本ライフセービング協会。(プール)
親子 DE ばちゃばちゃ	7 10 14 00～15 00	体育講座「親子水泳」「ばちゃばちゃスイム」が人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちしている人もいる。そうした家族を対象に、一日体験コースを開催した。対象は 1・2 歳親子。26 組参加。(プール)
第 23 回水泳記録会	12 5 13 00～17 00	水泳講座生の記録会。25m 完泳できる講座生が対象だが、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ 25」も設けた。エントリー(1 人 2 種目＝1,000 円)を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児 29 人、小・中学生 164 人参加。(プール)
のってみよう! フレイブホート	H23 2 27 13 00／14 00／16 00	2 輪のスケートホート〈フレイブホート〉の体験プログラム。横乗りの姿勢で足を前後させると進むフレイブホートを、乗れるようになるまで、子どもたちはチャレンジしていた。(体育室)
第 23 回新体操発表会	3 20 10 30～12 00 14 00～15 30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1 年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「SNOW WHITE～しらゆきひめ～」新体操で、童話の世界を表現。3 歳以上を対象にした体験コーナーも。東日本大震災のため延期となり、5 月 15 日に改めて開催。(体育室)

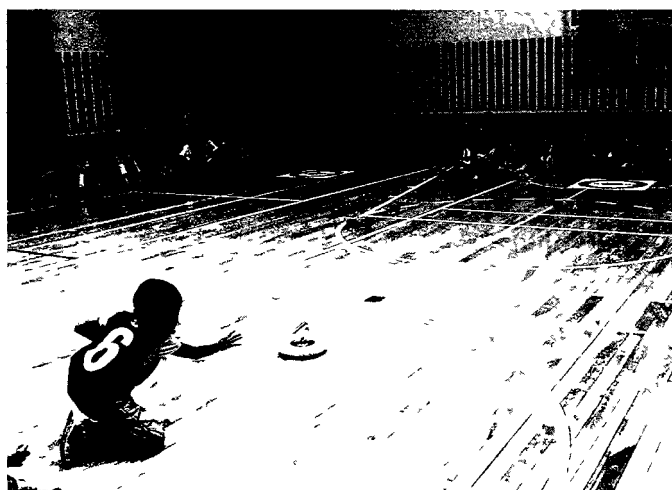
〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ウォールカップサッカー大会	5.1～5 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカーワールドカップ南アフリカ大会の年。集まった子どもたちで、即席のチーム（実際の参加国と同じ 32 チーム）を作り、参加国の代表になりきって 64 試合を行った。（体育室）
〈 " 〉 親子で春の運動あそび	5.1～5 11:00～12:00	幼児と親を対象に、親子のスキンシップ体操や運動遊びを実施。親子でチームを作り、サッカーのゲームも行った。（体育室）
〈夏休み〉 スポーツナヒケーション in こともの城	7.21～8.31 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカーやバスケットボールなどのよく知られているスポーツから、あまりなじみのないスポーツまで、長い夏休み特別期間中、1 日 2 種目を取り上げた。そのスポーツの楽しみ方や勝つための戦術などを、ナビゲーター（スタッフ）が、途中途中子どもたちに伝えた。スペシャルプログラムとして、外部から指導者を招き、セパタクロ（7 日）とカロリンク（20 日／室内でできるカロリンク）を行った。（体育室）
〈 " 〉 ちびっこプール	7.21～8.31 10:30～16:30	屋上に仮設プール（13.6 × 5m、水深 60cm）を設置、一般利用。利用料 200 円、レンタル（タオル・水着）各 200 円。（屋上遊園）
〈冬休み〉 ウインタースポーツ 大集合	12.25～28 14:00～15:30	サッカー、タグラグビー、バスケットボールのような、体があたたかくなるスポーツを行った。体育室が改修工事のため、ふしきか丘で実施。（屋上ふしきか丘）
〈 " 〉 めさせ！うこキッズ ～マスター選手権大会～	H23.1.3～10 10:00～15:00 (3 日は 12:30～)	改修工事で体育室が使えないため、全館を使ったラリー形式のプログラム。受け付けてリーダーチャート用紙をもらい、館内各所に設置してあるポイント进行。各ポイントで、簡単な運動プログラムに挑戦。一定以上のポイントを集めると、16 時から行われる「マスター選手権」に出場でき、マスターカードがもらえる。（プレイホールほか）
〈春休み〉 春た！エンジョイ スポーツあそび フェスティバル	4.1～5 13:30～14:30 15:30～16:30	東日本大震災の影響もあり、体育室改修工事の日程が延びたため、ピロティで開催。青山通りに面しているため、ホールを使う遊びを除き、フープや縄跳びを行った。「スラックライン」（綱渡り）が初登場し、子どもたちの人気を集めた。（ピロティ）
〈全期間〉 体力測定	11:00/14:00/15:00/16:00 (日 月曜日 祝日は 13:00 の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの 8 種目を測定。1 回 100 円。（健康開発室）
〈 " 〉 プール一般利用	10:30～17:00	18 歳以上 300 円、小 1～17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル（タオル・水着）各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。（プール）



スポーツナヒケーション in こともの城「セパタクロー」

スポーツナヒケーション in こともの城「カロリンク」

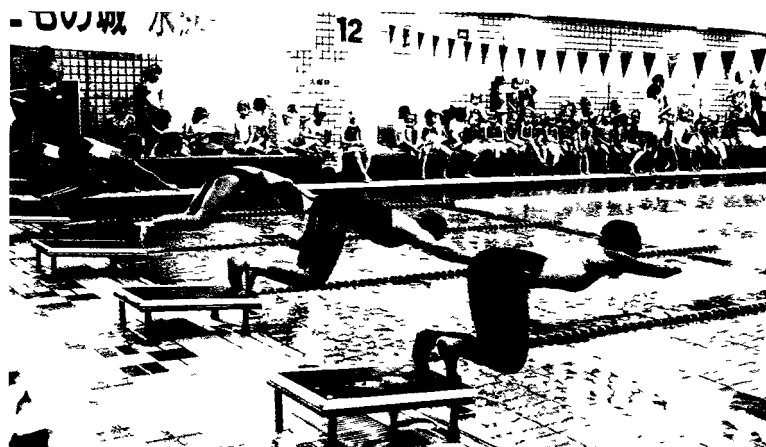


2. 講座・クラブなど

〈講座〉

×講座回数＝1・2期13回、3期9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳 A	(組) 1・2 歳児 と親 (30)	(組) ① 27 ② 25 ③ 22	水曜日 10 00 ～ 11 00 (全 35 回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きかてきる。 受講料＝1・2 期各 29,000 円、3 期 20 000 円。
〃 B	〃 (〃)	① 31 ② 30 ③ 30	土曜日 10 00 ～ 11 00 (全 35 回)	
幼児水泳 A	(人) 3・4 歳児 (50)	(人) ① 37 ② 42 ③ 35	木曜日 14 00 ～ 15 00 (全 35 回)	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやハランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6 段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2 期各 22 500 円、3 期 15,500 円。
〃 B	4・5 歳児 (60)	① 39 ② 38 ③ 42	木曜日 15 00 ～ 16 00 (全 35 回)	
〃 C	〃 (〃)	① 27 ② 27 ③ 32	金曜日 14 30 ～ 15 30 (全 35 回)	
〃 D	3～5 歳児 (50)	① 48 ② 50 ③ 50	火曜日 14 30 ～ 15 30 (全 35 回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6 段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
〃 E	〃 (〃)	① 43 ② 47 ③ 47	水曜日 13 30 ～ 14 30 (全 35 回)	
幼児体育 A	3・4 歳児 (40)	① 21 ② 24 ③ 23	水曜日 14 30 ～ 15 30 (全 35 回)	たくさんの友たちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料＝1・2 期各 20,500 円、3 期 14,000 円。
〃 B	4・5 歳児 (40)	① 25 ② 25 ③ 16	火曜日 15 00 ～ 16 00 (全 35 回)	「幼児体育 A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2 期各 20 500 円、3 期 14,000 円。
〃 C	〃 (〃)	① 9 ② 9 ③ 9	木曜日 15 00 ～ 16 00 (全 35 回)	



第 23 回水泳記録会

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 45 ② 43 ③ 34	水曜日 15 00～16 00 (全 35 回)	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4 泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10 級～1 級)。次への目標としている。 受講料＝1・2 期各 22 500 円、3 期 15,500 円。
〃 B	〃 (〃)	① 33 ② 31 ③ 26	火曜日 16 00～17 00 (全 35 回)	10 級 顔つけ もくり 息こらえ ホビーク 水なれ 9 級 伏し浮き 背浮き 板キック ホティーイメーシ 1 8 級 伏し浮きキック 背浮きキック ホティーイメーシ 2 7 級 ノーフレクロール ハックキック ホティーイメーシ 3 6 級 クロール・ハック(125) プレスト・ハタフライ(キック) 5 級 クロール・ハック(25) プレスト・ハタフライ(リズム) 4 級 クロール・ハック(50) プレスト・ハタフライ(呼吸) 3 級 クロール・プレスト(タイム) 個人メトレー 2 級 個人メトレー(100)(タイム) 1 級 個人メトレー(200)(タイム) ×ハランス良く発達かてきよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の 2 講座の受講かてきよう。 受講料＝1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円(2 コース合計)。
〃 C	〃 (〃)	① 51 ② 58 ③ 59	水曜日 〃 (全 35 回)	
〃 D	〃 (〃)	① 29 ② 29 ③ 25	金曜日 15 30～16 30 (全 35 回)	
〃 E	〃 (〃)	① 52 ② 48 ③ 51	木曜日 16 00～17 00 (全 35 回)	
小中学生水泳 A	小2～中3 (30)	① 22 ② 20 ③ 18	火曜日 17 00～18 00 (全 35 回)	×「小中学生水泳 A」は、クロールで 25m 以上泳げる人限定。
〃 B	〃 (50)	① 50 ② 49 ③ 39	木曜日 〃 (全 35 回)	
シニアスイミング	小1～高3 (30)	① 35 ② 31 ③ 33	火・水曜日 16 30～18 00 (全 70 回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4 泳法とも、自己記録の向上をめさす。指導者の推薦が必要。受講料＝1・2 期各 22 500 円、3 期 15,500 円。 ×「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習することかてきよう。
シニアスイミングフレッシュ	小3～高3 (30)	① 29 ② 30 ③ 29	金曜日 16 30～18 00 (全 35 回)	小学 3 年生以上で泳ぎか不得意な子どものクラス。クロールで 25 m 以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90 分の集中的な練習で上達の度合いか大きい。受講料＝1・2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
小学生体育 A	小1～6 (30)	① 27 ② 21 ③ 18	火曜日 16 00～17 00 (全 35 回)	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。 受講料＝1・2 期各 17,000 円、3 期 11,000 円。 ×ハランス良く発達かてきよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の 2 講座の受講かてきよう。 受講料＝1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円(2 コース合計)。
〃 B	〃 (〃)	① 29 ② 27 ③ 18	木曜日 〃 (全 35 回)	
ジュニア新体操	小1～3 の女子 (35)	① 16 ② 16 ③ 15	水・金曜日 15 30～17 00 (全 70 回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやホールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円。
シニア新体操	小4～高3 の女子 (35)	① 21 ② 18 ③ 16	水・金曜日 16 30～18 00 (全 70 回)	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現かてきように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1・2 期各 29,000 円、3 期 20 000 円。
手足の不自由な子の水泳	小1～中3 (15)	① 10 ② 10 ③ 11	土曜日 17 00～18 00 (全 35 回)	身体に障害かあり、水泳の機会に恵まれない小・中学生か対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1・2 期各 17 500 円、3 期 12,000 円。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	(人) 成人 メンバー ヒスター 法人	(人) 年間延へ 5,325 913 18	火～土曜日 12 00 ～ 13 30 18 00 ～ 21 00 日曜日・祝日 18 00 ～ 20 00	18 歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、シムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金 100%オフ、会費 20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金 0 円、年会費 50,000 円、4 か月会費 20 000 円、月会費 5,500 円、利用料(利用の都度) 300 円。利用パス券(月 3,000 円、4 か月 11,000 円)、ヒスター 1,500 円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18 歳以上 の女性 (122)	① 43 ② 36 ③ 43	火・木曜日 10 00 ～ 11 00 水曜日 10 00 ～ 11 00 土曜日 11 00 ～ 12 00	スイミング 3 コース、リズム&ストレッチ 1 コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は 6 回分の追加利用券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも 4 班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から 4 泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生み出す。受講料＝1・2 期各 22,500 円(13 回分)、3 期 15,500 円(9 回分)。利用券(6 回) 5,000 円。

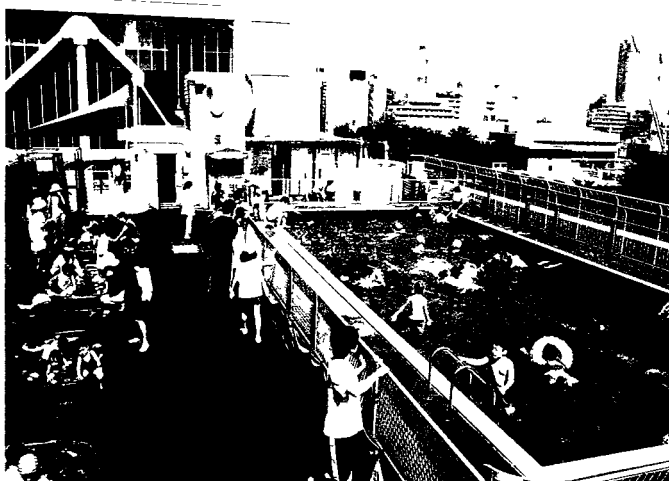
〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすく ラント	(組) おすわりの てきる乳児 (5～8 か月 前後)と母親 (20)	(組) ① 31 ② 30 ③ 26	金曜日 10 00 ～ 11 00 (全 29 回)	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び。お母さんのシェイプアップも。 受講料＝1・2 期各 24 500 円、3 期 22 000 円。
幼児・母親体育 A	1・2 歳の子 ともと母親 (30)	① 30 ② 30 ③ 28	火曜日 13 30 ～ 14 30 (全 29 回)	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳ひ、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。 受講料＝1・2 期各 20,500 円、3 期 18,000 円。
〃 B	2・3 歳の子 ともと母親 (30)	① 30 ② 32 ③ 29	水曜日 11 00 ～ 12 00 (全 29 回)	
ばちやばちや ファミリースイム A	1・2 歳の子 ともと父 母、祖父母 (30)	① 10 ② 16 ③ 10	金曜日 10 00 ～ 11 00 (全 29 回)	1 歳から始まる水泳のヒギナークラス。父母、祖父母のうち 2 人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。 受講料＝1・2 期各 26,500 円、3 期 23,500 円。
〃 B	〃	① 27 ② 30 ③ 19	土曜日 14 00 ～ 15 00 (全 29 回)	

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みことも集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7/21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料＝8,000円。
〃 B	4・5歳児 (40)	40	7/21～25 10:30～11:30	
〃 C	小1～中3 (50)	50	8/11～15 9:30～10:30	
〃 D	4・5歳児 (40)	40	8/11～15 10:30～11:30	
カンハ 2010	小1～3 (30)	30	8/4～8 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料＝9,000円。
春休みことも集中水泳講習会 A	小1～中3 (50)	50	H23/4/1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料＝8,000円。
〃 B	4・5歳児 (40)	40	4/1～5 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延へ 80	水・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習会。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円（各月7回）。

ちひっこプール



ヒックサタデー「ハトミントン」

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7 27 ～ 30	大自然に囲まれたニュー・クリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかり感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。参加費＝小学生 50,000 円、中学生 54,000 円。 (新潟県 ニュー・クリーンピア津南)
新体操夏合宿	8 2 ～ 5	緑深い矢祭町の自然に囲まれた環境のなかで、地域の人たちの協力も得て、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行うことかできた。今回は初めて、滝を見ながらの山登りにも挑戦した。講座生 24 人、OG 2 人、スタッフ 4 人の計 30 人か参加。 (福島県 東白河郡ユーパル矢祭)
水泳合宿	8 2 ～ 5	年々着実に泳力をつけている「シニアスイミング」受講生を対象とした水泳合宿。前年度まで、〔こともの城〕で“通い合宿”を行っていたが、本年度は 2 泊 3 日の合宿を新潟県で実施。1 回 2 時間の練習 2 こまのほか、筋力トレーニングや海水浴も行った。参加 14 人。 (新潟県・ウェルサンピア新潟)
チャレンジキャンプ	8 23 ～ 26	チャレンジの言葉とおり、何にても挑戦していく、低学年の体験キャンプ。かんはった子ともたちには、大きな満足感と達成感。生活面は、ホランテアリーダーを中心に、仲間と協力して過ごす。小学 1 ～ 3 年生 44 人か参加。参加費 48,000 円。 (東京 YMCA 山中湖センター)
スキースクール パート 1 1 期 " 2 期	12 26 ～ 29 H23 1 4 ～ 7	1 期はスキーレッスンに最適な北志賀高原まさせスキー場（長野県）。2 期はファミリー向けケレンテで安心して楽しめるニュー・クリーンピア津南（新潟県）。2 期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2 期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学 2 年生～中学 3 年生か対象。1 期は 46 人、2 期は 49 人参加。参加費＝1 期 58,000 円。2 期小学生 58,000 円、中学生 62,000 円。
スキースクール パート 2	3 26 ～ 29（中止）	小学 1 ～ 3 年生の低学年か対象のスキースクール。パート 1 と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含んでいる。参加費 59,000 円。東日本大震災のため、中止。 (新潟県 ニュー・クリーンピア津南)

プレイ 事業部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

〈あそび〉のプログラム体験をとおして、子どもの成長や発達を願うプレイ事業部の活動も、25年目を迎えた。活動の基本は、①子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮した遊び環境の整備 ②さまざまな児童文化財を素材にしたプログラムの提供 ③子ども同士の交流を促進するプログラムの提供 ― である。この3つの基本機能に時代の流れや社会変化、ニーズに合わせた内容を加え、年間のプログラム活動を構成した。

開館25周年記念事業の「みんなあつまれ！チャレンジ25」のプログラムとして、「忍者マスター決定戦」「パペットランド～人形をつくってあそぼう」「ハンズオン広場～みんなで体験 たのしく発見～」小学生ラボ スペシャル」を実施した。これらのプログラムを実施しているときは、プレイホールの活動がより充実したものとなり、多くの参加者を得ることができた。

また、本年度限りでコンピュータプレイルームを廃止し、パソコン活動をパソコンルームに一元化した。さらに、15年間実施してきた「フェロシップキャンプ」を、一定の成果を得られたとして本年度を最後に終了するなど、25年目を迎え事業活動の変化も大きな年度となった。

2. プログラム活動

(ア) 一般来館児・者向けプログラム活動

一般来館児・者向けの活動は、平常期間と夏休みなどの特別期間に分かれ、それぞれ特徴つけられている。

さらに、四季折々の季節の行事などが加わっている。

【平常期間のプログラム活動】

乳幼児の利用が多い平日には、人形劇・影絵・紙芝居を週替わりで行う「みんなのこここ広場」、毎週作品を変えて楽しむ「おりがみあそび広場」、毎週異なった遊具を提供する「金曜開店あそびやさん」を実施。小学生や家族連れの利用が多い土・日曜日には、小学生以上を対象にした科学遊びプログラム「小学生ラボ」（「サタデー・ラボラトリー」を改称）、プロの人形劇団の公演「おはなし人形広場」を年間をとおして実施した。

本年度の取り組みとして、都民の日、横浜開港記念日など近隣都県市の記念日を中心に、「あそぼうタイム」を実施。元気な小学生が多く来館するため、乳幼児が多い平日にも小学生向けのプログラムを行うことで充実したプレイホールになった。

【特別期間のプログラム活動】

特別期間は、実際にさまざまなことを遊びのプログラムとして体験することで、子どもの生活体験や社会体験を広げ、〈遊び〉が〈学び〉や〈気づき〉につながることを主なねらいとした。

夏休み特別期間は、“大工仕事”をテーマに、のこぎりなどの道具を使い、“家作り”のワークショップを実施。子どもだけでなく大人も、充実感をもって参加していた。生活に身近な“仕事”を遊びのワークショップにすることで、より社会への関心が深まることを感じた。

春休み特別期間は、“迷路”がテーマ。迷路を解くこと、作ることなどを、人と人がかかわりあって行うことを大切にして実施した。

特別期間に実施したプログラムは、その後の平常期間

にもアレンシして行い、プレイホールの内容の充実をはかるものとして位置づけた。

【季節行事】

季節行事は、日本の歳時記から、七夕・正月・節分・ひな祭りを実施。行事にちなんだ遊びのプログラムをとおして、伝えていきたい日本の伝統的な文化を理解・体験してもらえるようにした。

【その他】

春休み特別期間前までに、順次試行しながら、市販のソフトによるパソコンゲームがあった 3 階コンピュータプレイルームを廃止し、その場所に 10 階パソコンルームを移設した。同時に 3 階コンピュータプレイルームを「パソコンルーム」と改称した。

(イ) 講座・グループ活動・野外活動など

【講座「キッズクラブ」「ユースクラブ」】

2 つのクラブは、子どもたちが“やりたい”ことを実現するために、子どもの意見をもとにプログラムを作ったり、子どもたち自身がプログラムを作り上げていくのを、大人がサポートしていくという方法をとっている。

毎回の活動をとおして、メンバー間の仲間作りを進めてきたが、その集大成ともいえる 1 年間の最後の宿泊活動が、東日本大震災の影響で実施できず、子どもたちの“やりたい”気持ちが十分に実現できなかったことが残念であった。

「キッズクラブ」は、多様な種類の遊びを実施した 1 年であった。鬼ごっこなどの路地裏遊びから、ドッジボールなどのスポーツ遊び、段ボールや鏡を使った工作遊びやクッキングなどを行った。メンバーには、体を使って遊ぶのが好きで得意な子もいれば、もの作りのほうが好きで得意な子もいる。個々が満足するためにも、また仕掛けや工夫をすることで“苦手”が好きになってほしいと願って、プログラム構成を行った。

「ユースクラブ」は、活動の中心となる中学 3 年生が



みんなてひなまつり

少ないという状況であったが、その分中学 2 年生が全体を引っ張っていくという姿が多く見られた。本年度はメンバー間で、「新しいジャンルの活動を行う」という目標が立てられたため、特に 2 期以降、活動の企画会議でメンバーから発せられる意見に斬新なものも多く、新たな可能性を見出すことができた。活動の中心メンバーが中学 2 年生ということもあり、来年度以降の活動が楽しみである。

【グループ活動】

集団のなかでの自己表現や仲間作りを目的に、ごっこ遊び・劇遊びを中心に内容を考案している。ごっこ遊び・劇遊びのなかに、森、忍者、オリンピック、人形遊びなどの世界観を導入して、その目的を達成させている。例年、保育所・幼稚園・小学校（低学年）、特別支援学校の小学部が利用している。

子どもたちが“広い”と感じる空間（大型アスレチックもあるプレイホール全体）を、森や忍者修行道場などに見立てることで、体全体でプログラムの流れを感じ、ごっこ遊び・劇遊びの世界に入り込めるのである。スタッフは、照明や音響・装飾などを活用しながら、感情を言葉や身体で表現するきっかけを与える。ワクワクドキドキした感情や達成感は、その後の保育・教育現場で活用されている、と活動後のアンケートに記載されることが多い。

本年度から「魔法使いチャンピオンシップ」がプログラムとして登場し、ゲームを魔法の修行に見立て、照明や道具を工夫して“魔法使いの世界”で遊びを繰り広げた。

パソコンプログラムの名刺作りでは、特別支援学校の中学生の利用があり、デザインした名刺で自己紹介のための使い方をレクチャーし、社会にでる前の実用的な活動となった。

本年度は、「劇遊び～森へいこう」(5 件)、「劇遊び～忍者修行道場」(25 件)、「みんなであそぼうパペットランド」(5 件)、「こどもの城オリンピック」(7 件)、「みんないっしょに」(2 件)、「わくわくオリンピック」(3 件)、「パソコンであそぼう」(1 件)の 45 件（前年度 47 件）を実施。他に、東日本大震災後のキャンセルが 2 件あった。

3. 健全育成と野外活動

キャンプなどの野外活動は、自然を愛する気持ちを育て、仲間との協力の大切さや創意工夫の大切さなどを学ぶ機会となるなど、子どもたちの成長発達に非常に良い影響を与える活動である。屋内型の施設である「こどもの城」でも、より総合的な子どもの健全育成をめざし、

25 年前の開館当初から野外活動を実施してきた。

プレイ事業部では、子どもが野外活動のなかで経験する、以下の《4つの体験》をキャンプの大切な意義としてとらえ、活動を進めている。

- ①自然体験（自然に親しみ理解を深める）
- ②生活体験（生活を豊かにする技術を学ぶ）
- ③社会体験（人と人とのかかわり方を学ぶ）
- ④心の体験（自己理解と課題の達成）

本年度は、夏休み特別期間に小学1年生～3年生を対象とした「ちびっこ冒険団」と小学4年生～6年生を対象とした「フェローシップキャンプ」、冬休み特別期間に小学1年生～3年生を対象とした「ゆきんこ冒険団」と、3つのキャンプを実施した。

「ちびっこ冒険団」は、天候にもめぐまれ、子どもたちも貴重な自然体験をすることができた。キャンプ場周辺の野山を冒険（ハイキング）するプログラムでは、子どもたちに生き物や植物など、自然の不思議さやおもしろさをより感じてもらうように動機付けしてから出発した。結果、鳥の巣やおもしろい葉っぱの形など、自然のいろいろな物に目を向けることができたようである。ほかにも、木登りやブランコ作り、基地作りなどのグループごとに行うさまざまな活動をとおして、少しずつ交流を深めることができた。

「フェローシップキャンプ」の冒険プログラムでは、1 km の沢歩きハイキングに挑んだ。天候にも恵まれ、沢の深い場所では、自然と仲間同士が声をかけあい、助けあう場面が見られた。また、足をとられ、バランスを崩したり、転んだりすることも多かったが、はしゃぎながらゴールに到着するころには、心と体がすっかり解放されていたようだ。

「ゆきんこ冒険団」は積雪も多く、例年より自然をたっぷりと感じ、仲間作りにもじっくり取り組めた。新たなプログラムである“雪上ゲーム大会”では、氷おにや雪玉入れなどで雪上を思いっきり走り回り、班での活動では味わえないダイナミックな集団遊びとなった。今回で発足から 20 年を迎え、次回に向けて新たなスタートを切れるよう、準備をしていきたい。

近年、さまざまな企業や団体が、子どもたちの豊かな体験をうたったさまざまな宿泊活動を実施するようになっている。開館当初から、子どもたちの健全育成をめざして野外活動を実施してきた〔こどもの城〕だからこそ、より一層の活動の充実をはかり、活動内容を社会

ちびっこ冒険団



に伝えていくことが、より多くの子どもたちに、より豊かな体験をあたえることにつながると考えられる。

4. まとめ

本年度もプレイホールや屋上遊園、ふしぎが丘、パソコルムに子どもたちの元気な声が響き渡った。子どもたちが「遊ばなくなった」「遊べなくなった」ともいわれているが、そのようなことは微塵も感じさせない。子どもたちは、「遊びたい」という強い欲求を持っており、その機会と環境さえ整えれば、「遊べる」存在なのだということをあらためて強く感じさせられた。

居場所機能もあわせ持った、さまざまな遊びを体験するプログラム「あそぼうタイム」の実施や、特別期間で行ったプログラムをアレンジして、平常期間にも行う遊びのコーナーの設置は、まさに〈あそび〉の機会の作成と環境の整備であったといえるだろう。

また、より子どもが遊べる機会を持つこと、遊べる環境を得るためには、大人、特に保護者の協力も不可欠である。大人に〈あそび〉の意義や効能を伝え、理解をしてもらうことも大切であると考え、できるだけ親子で参加できるプログラムの実施を心がけた。

25 年の実績をふまえ、26 年目以降も〔こどもの城〕館内の活動はもちろん、野外活動においても、さらに〈あそび〉をとおした健全育成プログラムを充実させていきたい。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなのにこにこ広場	水曜日 15 00 ～ 15 30	ボランティアとともに運営。紙芝居、人形劇、影絵を週替わりで実施。1・2 歳児の親子の参加が多いため、導入である手遊びは親子でできるようなアレンシ方法を伝えることに留意した。そうすることで、参加性が高まり、親子で楽しんでいる姿も多く見られた。人形劇 10 回、影絵 11 回、紙芝居 17 回の全 38 回実施。参加延べ人数は、紙芝居約 505 人、影絵約 380 人、人形劇約 443 人。 (プレイホール)
おりかみあそび広場	木曜日 14 30 ～ 15 30	ボランティアとともに運営。児童文化の継承が主な目的。2・3 歳児を連れた親子の参加が多く、4・5 歳児が中心だった前年度より低年齢化が見られた。年間をとおして定着する子どもも多く、作品を仕上げていく過程をとおして、文化の継承はもちろん、スタッフと参加者、参加者同士のコミュニケーションも深まり、おたやかなひとときになっている。食へ物、動物、季節の作品、作品で遊べるものなど、1 回につき 1 作品実施。全 37 回、参加延べ人数は約 1 140 人。 (プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	つみき、ブロック、ハランスケームなど、期ごとに 3～4 種類のおもちゃを週替わりで体験してもらった。全 39 回。 1 期＝汽車／レゴブロック／かえるさんシャンプ＋バックンフィッシング 2 期＝トミノ／ワミー／手ひねりこま／はたらく車 3 期＝ハランスケーム（サルも木から落ちるほか）／絵合わせ（動物トミノ、Mee Too、ポケットパスル）／ネシブロック／マーブルラン (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日 15 00 ～ 15 40	プロ劇団による人形劇などの公演。演者の息づかいが感じられる生の舞台をみせることで、子どもの感性がより豊かにはくくまれることをねらいとした。毎回、幼児～小学校低学年を中心に、100 人近くの親子がおはなしの世界を楽しんだ。その後の親子の語らいが一層深まることも願った。遊び場と直結するオープンスペースで出入りか自由でいるため、乳幼児も気軽に公演を見ていけるようであった。公演回数は全 16 回。 (プレイホール)
小学生ラホ	土・日曜日（月 1 回） 13 00 ～ 16 00 （受け付け時間）	小学生以上を対象に、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。開催日が土・日曜日になったことに伴い「サタデー・ラホトリリー」から名称を変更。AV 事業部と交代でさまざまなプログラムを実施。 (プレイホール)
みんな集まれ あそぼうタイム	土・日曜日、祝日、近隣都 市の記念日 13 00 ～ 16 00 （受け付け時間）	来年度からの本格的実施にむけてスタート。催し物などの実施がない土・日曜日、祝日および都民の日など近隣都県市の記念日などに実施。さまざまな遊びのプログラムを自由に参加できる形式で行い、幼児～親子まで幅広い年齢が参加した。 (プレイホール)
〈七夕〉 天までとけ ねかいこと	7・3・4 10 00 ～ 12 00 13 00 ～ 17 00 7・6・7 11 00 ～ 17 00	伝統行事「七夕」の由来を伝えるため、ワークショップを展開。短冊を書いて笹竹に飾るほか、巾着やくすかこ、着物などの七夕飾りを折り紙で作った。また、親から子へ七夕の由来を話すきっかけとしてもらうため、七夕や七夕飾りの由来を書いた印刷物を用意し、作った七夕飾りとともに、持って帰ってもらった。参加延べ人数は 579 人。 (プレイホール)
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H23 1 29・30 14 30 ～ 15 30	節分の豆まきを子どもたちも参加する劇仕立てで実施。スタッフかふんする福の神が、節分の由来を紹介したり、スタッフ・ボランティアかふんする鬼軍団を相手に豆まきをした。登場した鬼の姿に涙を浮かべる子どもの姿もあったが、それも人知を超える存在への畏敬の念をはくくむよい機会。怖さを克服して鬼に一生懸命豆を投げ、みこと鬼を降参させることができた。怖さやそれをのりこえてかんはろうとする気持ち、鬼を退治した時の大きな達成感など、大きな心の動きは、子どもたちの情操を豊かにはくくんだ。参加延べ人数は 660 人（2 日間）。 (プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなてひなまつり	2 26・27 10 30 ～ 12 00 13 00 ～ 17 00 3 1～3 13 00 ～ 17 00	ひなまつりを伝えるプログラム。“流しひな”を取り上げた。布・照明などを利用して川に見立てたコーナーで、折り紙で作った女ひな・男ひなを流した（置いた）。「流し雛の館」（鳥取県用瀬町）と「岩槻人形協同組合」（埼玉県）から、写真などの資料と流しひなを提供してもらった。あわせて、プレイホール内各所にひな壇にかんする「ひなまつりクイズ」も実施。七段飾りのほか、ボランティアの制作したつるし飾りも飾った。 (プレイホール)

名 称	日 時	内 容
集まれ小学生！ 小学生ラホスペシャル	2.11～13 12.30～16.30 (受け付け時間)	土・日曜日に行っている「小学生ラホ」を、全館事業「集まれ小学生！」のなかで AV 事業部と共同で実施した。「機械の中を見てみよう」と題し、プリンタや炊飯器、ビデオデッキなど身の回りの電化製品を分解する体験をした。数人のグループで一つの機械を 40～60 分ほどかけて分解した。取り出したキアや発光タイオートなど、気に入った部品をうれしそうに持ち帰る姿が見られた。 (プレイホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 キャスルクエスト 2010 ～紋章の騎士団～	5.1～5 11.00～16.00 × 5.1 は 13.00～	勇者になって「こともの城」に現れた魔物を倒そう ― と設定された物語の世界で遊ぶゲーム大会。勇者になるための“修業ゲーム”と、技に磨きをかけるための“こともの城内武者修行の旅”、そして映像によって演出された“魔物との対決”の 3 部で構成されている。ボランティア・企画研修部・AV 事業部と共同で実施。 (ふしきか丘、B スタジオ)
〈 〃 〉 ゴールデンウィーク 人形劇フェア	5.3～5 11.00～16.00 人形劇+キッズ劇団上演 ① 11.30 ② 13.30 ③ 15.00	東京近郊の大学にある児童文化研究会などのサークルのネットワーク「しゃんくるしむ」、その OB・OG などで構成されている人形劇ネットワーク「パペットマーケット」と共同の企画・運営。人形を“つくる”、作った人形で“あそぶ”、人形劇を“みる”、子どもたちが人形劇を演じる「キッズ人形劇団」を実施。ワークショップでは、靴下人形(有料)、球体の発泡スチロールを使ったパクパク人形(有料)、紙コップのパクパク人形(無料)の 3 種類から制作。作った人形で遊ぶ子どもは、「しゃんくるしむ」の学生とコミュニケーションを深めながら、自然とおはなしの世界を作り出していた。〈キッズ人形劇団〉は、当日募集をした小学生を対象に実施。配役を決め、ペープサートの練習をして、たくさんの人の前で発表。約 1 時間 30 分の内容。1 日 3 回の人形劇公演にも多くの親子が訪れた。 (研修室)
〈夏休み〉 たたいま建設中 君もトコトン大工さん	8.17～26 開館時間中	子どもたちにとって身近な職業である〈大工/建築業〉をテーマに、のこぎりやかなつち、きり、やすりなどの大工道具を体験する遊びや、セメントでオブジェを作るワークショップを実施した。遊びに参加した子どもたちに“こともの城大工”の称号を進呈し、その後開催期間の 10 日間をかけて完成させる、高さ 2.5 m×奥行 2 m×幅 2 m の家のオブジェを作る共同制作に参加してもらった。制作途中の家の画像を、「こともの城」のホームページ上で毎日見られるようにするなどの新たな取り組みも実施。延べ約 2,000 人が参加。完成させた家のオブジェは、安全対策を施した後、しばらくの間プレイホールに設置し、「ままことの家」や「魔法使いの家」として子どもたちに楽しんでもらった。 (プレイホール)
〈 〃 〉 小学生ラホ 夏休みスペシャル	8.28～31 12.30～16.30	「小学生ラホ」の夏休みスペシャル版。「3 面ソーモトロープ」と、日替りて「日光写真にチャレンジ」「ライトパノラマ」「すすめ！ポンポン船」「遠近法で遊ぼう」を実施。 (プレイホール)
〈 〃 〉 第 46 回ハンパー大会	8.29 小学生の部 10.00～13.15 中・高生の部 14.00～15.30	プレイホールの小中学生コーナーにある遊具“ハンパー”の大会。小中学生コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施。小学生の部 5 人、中高生の部 3 人が参加。小学生の部の参加が減少し、今後への懸念もあるが、夏休みということもあり、大会前に練習に通う姿も見られ、大会以外のところでも交流している姿も見られた。 (プレイホール)



たたいま建設中 君もトコトン大工さん

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉 〜びよんといこい福よこい みんなてあそんでおめでと卯〜	H23 13 ~ 10 11 00 ~ 16 00 × 3 日は 13 00 ~ (受け付け時間)	世代を超えて参加できる昔遊びのプログラム。室内では、めんこ、あやとり、かるた、すころく、おはしき、へいこま、手ひねりこまなど、室外(屋上遊園)では、缶こまを実施。8 ~ 10 日には、ホランテアが中心になって三つ馬や、集団遊びのプログラム「みんなて折ろう! Big り! 折り紙」も開催。いろいろな遊びに参加してもらえるように、参加するともらえる「お年玉券」を配布した。3 枚集まると「おみくし」がひける仕組みもあり、たくさんの子ともたちが楽しみを倍増させていた。(プレイホール、屋上遊園、ふしぎか丘)
〈春休み〉 第 47 回ハンパー大会	3 21 小学生の部 10 00 ~ 12 30 中・高生の部 14 00 ~ 15 00	プレイホールの小中学生コーナーにある遊具「ハンパー」の大会。小中学生コーナーに集う子ともたちのさらなる交流促進をめざして実施した。小学生の部 6 人、中高生の部 6 人が参加。ハンパーをとおして、楽しいひとときを過ごした。(プレイホール)
〈 〃 〉 迷路であそぼう 〜迷路にめろめろ〜	3 25 ~ 4 10 開館時間中 迷路をつなこう 11 00 ~ 16 00 (3 25 ~ 4 5) 11 00 ~ 17 00 (4 6 ~ 10) みんなて迷路 (1 時間) ① 11 30 ② 14 00 (3 25 ~ 4 5) ① 11 30 ② 14 30 (4 6 ~ 10)	スタートからコールまでをたどる〈迷路〉という単純な遊びにじっくり取り組んだ。家に帰ってからも、家族で作って遊ぶきっかけになることを期待した。①市販の迷路で遊ぶコーナー(開館時間中)。②迷路をつなこう=スタートとコールの位置を指定したシートに迷路を作る。コース途中の仕掛けは各自に任せる。みんなてつないでいく迷路を作っていることを伝え、壁面にシートをつなげて大きな迷路にしていって。遊び道具を自分の手で作ることの楽しさと、ほかの人に遊んでもらうよろこびを伝えた。③みんなて迷路=子ともたちと、人が通れる大きな迷路を作る。完成後は、一般に開放し、いろいろな人に楽しんでもらうことを伝えた。各回の子ともたちに仕掛けは考えさせ、大人はアトハイサーとして参加。各グループ、個性的な迷路ができてきた。迷路組み立て参加者は延べ 221 人。(プレイホール)

〈パソコンルーム〉 × 平常期間は、3 階コンピュータプレイルームの一部で実施。

名 称	日 時	内 容
恐竜復元コンピュータ	4 20 ~ 6 8	パソコンでのカラーシユ遊び。昔生息していた恐竜の姿を想像しながら、あらかじめ用意した恐竜の部品を組み合わせ、恐竜の絵を作る。できたものは印刷をした。パスルの感覚で 1 体の恐竜をくみ上げたり、いろいろな恐竜のパーツを組み合わせ、新種の恐竜を作った楽しんでいた。
ネイチャークイズ	6 9 ~ 7 6	鳥や花の名前をパソコンの図鑑を使って調べる。本年度は、『鳥の聞きなし』を取り上げ、鳴き声を聞いて鳥の名前を調べるプログラムも実施し、鳥に興味を持ってもらえるような工夫をした。プログラムをとおして親子で話かすんだり、クイズの答えに一喜一憂する姿が多く見られた。
ペーパープレーンファクトリー	7 7 ~ 8 6	あらかじめ設計された 5 種類(カスタムジェット/へそひこうき/スーパーフィン/アロー/スカイクンク)の紙飛行機から 1 つを選択して、パソコン上でアレンシして制作。カスタムジェットは、翼の形などをさらにアレンシでき、上級者がより楽しめた。できた紙飛行機は、プレイホールで飛ばした。とうしたらうまく飛ぶのか、親子で考えたり、何度も折り返したりなど、工夫する様子が見られた。
メカメカ ロボット研究所	8 7 ~ 9 14	部品を組み合わせでオリジナルのロボット作り。部品は写真データで用意され、カラーシユのようにあわせて楽しんだ。ホルト、キアなどのほか、自動販売機や飲み物など「メカ」とは遠い素材も用意して、おもしろロボットを創造することも楽しんでいた。
パソコン ことはあそびの A ★ B ★ C	9 15 ~ 10 11	パソコンを使って「しりとり」「アナグラム」「ませこせ作文」「暗号解読」「聞き分けゲーム」などの「ことはあそび」を実施。「暗号解読」では暗号の答えかなそそになっていて、答えを解くと、宝箱のダイヤル錠の番号が導き出せるという仕組みの暗号も用意した。
うつしとトルトルなそってアート〜とれとれマーケットの巻〜	10 13 ~ 11 30	野菜や果物などの食材の写真を、タブレット(パソコン入力装置の一種)でなぞって、形を写し取って静物画風の作品作り。フォトタッチソフトで線を描く時も、鉛筆やクレヨン、水性マーカーなどの線が選べ、さまざまな雰囲気作品ができてきた。
パソコンでつくろう クリスマスボックス	12 1 ~ 25	箱の展開図にパソコンで色を塗ったり、イラストをつけ、クリスマスにプレゼントなどを入れる箱をデザイン。印刷をしたものを箱に組み立てて作品を作る。箱の種類は、さいころ型・ふた付六角形型・マッチ箱型・曲面型・茶巾袋型の 5 種類から選ぶ。できた箱に何を入れようか、誰にあげようかと思いをめぐらせながら取り組んでいた。

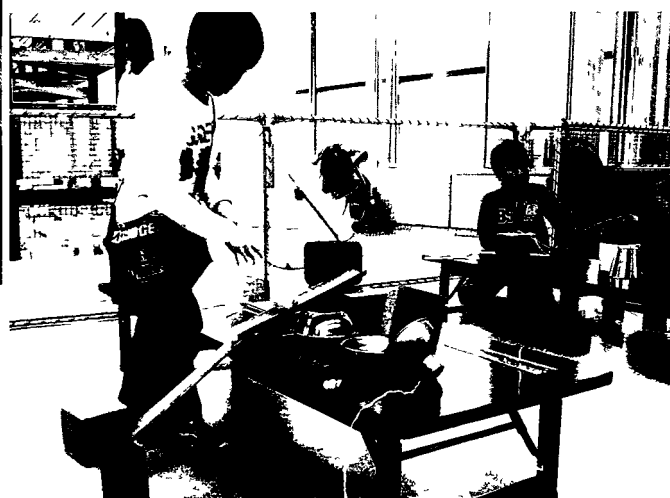
名 称	日 時	内 容
パソコン紙すもう こともの城場所	12 26 ～ H23 1 30	体・顔・足・左手・右手から、好みのパーツを選んで組み合わせ、色を塗る。印刷をして、力士に組み立てる。てきあかった力士を用意した土俵で戦わせ、取り組みを楽しんだ。との部品を選ぶと、強い力士がてきあくるのかを考えて作り、いろいろなタイプの力士と取り組みを楽しんでいた。力士 1 体では家で遊べないと、親子で力士を作っていく姿が多かった。
きみもパソコン アニメーター	2 1 ～ 3 1 1 × 3 1 2 ～ 2 4 は東日本大震災のため休止	お絵かきソフトを利用した“ぱたぱたアニメ”のパソコン版。絵を描く楽しさを味わうとともに、描いた絵の画面（2 シーン）を動かすことでアニメーションのように見える体験をした。動かす速度を変えたり、BGM をつけたり、パソコンならではの遊びがてきた。
フレントシップカード	3 2 5 ～ 4 1 0	名刺作りソフトを利用し、デザインされた名刺のなかから 1 枚を選び、名前・住所・趣味・特技・メッセージなどを入力。さらに、イラストを選んでレイアウトし、オリジナルの名刺を完成。また、パソコンに取り付けられたカメラを使って、自分の顔写真を入れた名刺作りも行った。趣味や特技、好きな食べ物など、親子や友だち同士でおしゃべりしながら入力していたり、てきあかった名刺を見せ合ったり、と交流する場面も多く見られた。

〈小学生ラボ〉

名 称	日 時	内 容
不思議な動きのやしろ へえ	4 1 7	針金とおもりて自由自在に形かえられる「やしろへえ」を作った。参加 55 人。 (担当 プレイ事業部)
4 コマまんか道場	4 1 8	4 つの場面で構成する「4 コマまんか」を創作する。参加 34 人。 (担当 AV 事業部)
海の生き物 チリメンモンスター	5 1 5	ちりめんしゃこに混ざっている海の生き物を見つけて標本作り。参加 30 人。 (担当 プレイ事業部)
ばらばらまんかをつく ろう！	5 1 6	絵がアニメのように動いて見えるばらばらまんかを作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。参加 38 人。 (担当 AV 事業部)
ふわりふわり「浮羽ウ ィンク」	6 5	薄切りの発泡スチロールの板で、空気に浮かぶようにして飛ぶおもちゃを作成。参加 45 人。 (担当 プレイ事業部)
ソートロープを作ろう	6 6	12 個のスリットのあいたトラムを回転させ、なかに入れた絵をスリットからのそくと絵が動いて見える視覚かん具を制作。参加 54 人。 (担当 AV 事業部)



新春あそびのお年玉



小学生ラボ「からくり大作戦」

名 称	日 時	内 容
「浮沈し」をつくろう	9 11	ペットホテルのなかで上下に動く、科学おもちゃ「浮沈し」を作成。参加 61 人。 (担当 プレイ事業部)
混虫工場（ませむし）	9 12	こともの城オリジナルの「混虫工場」を簡略化し製作。参加 45 人。（担当 AV 事業部）
小学生ラホススペシャル	11 6・7	ペットホテルを輪切りにして飛ばすおもちゃやブーメラン、立体折り紙飛行機作りの「空飛ぶおもちゃ大集合」と、紙で作ったキャラクターを動かす「アニメをつくろう」の 2 プログラムを同時に実施した。参加 6 日 70 人、7 日 96 人。
からくり大作戦	12 18	空き缶やスプーンなど、身近なものを組み合わせて、コールで音を鳴らすからくり装置を作成した。参加 39 人。 (担当 プレイ事業部)
モアレにチャレンジ！	12 19	モアレ現象を利用した、動きのあるはり絵 ― クリスマスにちなんでクリスマスツリーのモアレ絵を作成した。参加 26 人。 (担当 AV 事業部)
あったかいぞ！カイロをつくろう	H23 1 15	鉄粉と塩水を主材料にして、カイロを制作。作ったカイロがどのように温度変化するか、実験を楽しんだ。参加 44 人。 (担当 プレイ事業部)
竹をけずろう	3 5	竹をけすって箸作り。切り出しナイフを使う体験。参加 30 人。（担当 プレイ事業部）
計算器をつくろう！	3 6	めもりを動かすだけでかけ算や割り算かてきる計算尺を作成。参加 32 人。 (担当 AV 事業部)

〈みんな集まれ 遊ぼうタイム〉

名 称	日 時	内 容
記録に挑戦！ チャレンジゲーム	6 15	○分間にカウンターをとれたけ押せるか？ や、とれたけ一息で「あー」と言い続けられるかなど、自分の限界にチャレンジするゲームをいくつか用意した。
コロリンコースを作ってあそぼう！	6 19	定規や靴へらなど身の回りにある物を使って、ヒュー玉がころがるコースを作って遊んだ。チーム対抗で、どちらのコースが長くヒュー玉がころがるかのレースも行った。
記録に挑戦！ チャレンジゲーム	7 1	○秒間でとれたけエコキャップを高く積むことかてきるか？ や、とれたけ一息で「あー」と言い続けられるかなど、自分の限界にチャレンジするゲームをいくつか用意した。
科学あそび 「ストローフ라이어」	10 1	厚紙とストローを使ってひっくりするほど飛ぶ「空飛ぶおもちゃ」を作って、飛ばして遊んだ。
コマまわしてあそぼう！	12 4	投げこまや手ひねりこまをまわして遊ぶ。スタッフがひものまき方からまわしかたまで伝えることで、初めてこまにふれた子もまわせるようになった。
コマまわしてあそぼうⅡ	H23 1 22	投げこまや手ひねりこまをまわして遊ぶ。こま床を置いて“長生き”などのゲームも行えるようにした。



キッズクラブ～タンホールで遊ぼう！

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キスクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15 00～17 00 (原則) (1・2期6回、 3期4回開講)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめさす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、創造性・自覚性・協調性を養うこと、を目的とした〈あそび〉のクラブ。本年度は、3学期の活動日を4回とし、全17回実施。東日本大震災の影響を受け、1年間の総まとめとする宿泊活動が行えなかった。最終回の「振り返る会」では、卒会する4年生からのメッセージとそれを受け取る1～3年生の交流が見られ、この1年間の成果がしっかり感じられた。受講料＝1・2期10 000円、3期7,000円。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 33 ② 31 ③ 31	隔週日曜日 13 30～15 30 (原則) (1・2期6回、 3期4回開講)	小学5年生～中学3年生の〈あそび〉のクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおり、豊かな人間形成をはかるのかねらい。①いろいろな活動をとおり、さまざまな直接体験をする ②仲間をとおり人間関係を学ぶ ③計画から実施をとおり夢を実現する、の3つを目的とする。本年度から、3期の活動日を1回減らし、全17回とする。毎年、年度の活動のまとめとして、最終回の活動を自分たちで作りたすということを行っているが、本年度は東日本大震災の影響を受け、予定していたプログラムを行うことができなかった。受講料＝1・2期10,000円、3期7,000円。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちひっこ冒険団 2010	7 30～8 2 (3泊4日)	小学1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と“何をして遊ぼうか”“とうやうや遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、他者との関係性を学んでいったり、協調性や社会性を習得していくことを大きなねらいとしている。本年度は天候にも恵まれ、笹の生い茂る森を歩く冒険ハイキングや施設周辺での自然遊びなど、「自然のなかで自然をたくさん感じて遊ぶ」というねらいが十分に達成できた。参加 70人、LIT 3人、ボランティア20人、職員3人。参加費39,000円。(福島県/国立那須甲子青少年自然の家)
フェローシップ キャンプ 2010	8 6～10 (4泊5日)	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にヒハークする。小グループことによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的として実施している。本年度は、「沢歩きハイキング」をメインの活動とし、水の冷たさ、流れの強さ、そう快さなど、たっぷりと自然を満喫した。体が解放されていくなかで、心も解放されて仲間との距離感もくっと縮まったようだ。参加 38人、ボランティア13人、職員3人。参加費46,000円。 (福島県/国立那須甲子青少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2010	12 25～28 (3泊4日)	小学1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と“何をして遊ぼうか”“とうやうや遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、他者との関係性を学んでいったり、協調性や社会性を習得していくことを大きなねらいとしている。本年度は、曜日の巡りで朝から出発し、全員で遊ぶ時間を設けることができ、たっぷりと雪遊びを楽しむことができた。参加 70人、ボランティア19人、職員3人。参加費39,000円。(福島県/国立那須甲子青少年自然の家)

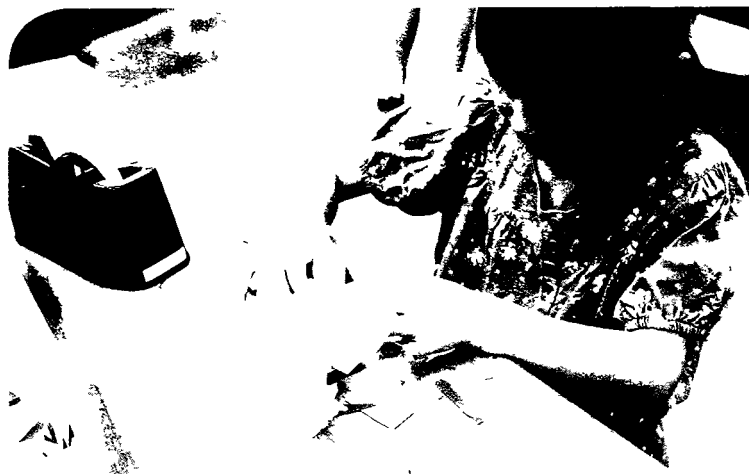
□キッズクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プログラム名	内 容
4 17	ゲームスタート 2010 年キッズクラブ	新メンバーを迎え、シャンケンや共通点で集まるなどのゲームやクイズ大会などで親睦をはかった。
5 8	キ・タ・ニをさかせ	〔こともの城〕 周辺でスタッフの名前になぞらえた物を探して、写真に撮って、グループごとに発表。
5 22	わんぱく集まれ、元気に遊ぼう！	屋上ネット広場で、手つなぎ鬼や王様鬼っこなど、さまざまな鬼っこを行った。
6 5	発見！チリメンモンスター	“ちりめんしゃこ”に混しっている、たこやかになどの海の生き物を探したす遊びを行った。
6 19	お団子をつくろう！	串団子作り。みたらしあんも手作りました。料理初体験の新入会者たちも上手に行うことかてきた。
7 3	ウオーターゲーム 2010	2 チームに分かれて、水鉄砲ゲーム。梅市の合間の曇りの日だったが、おもいきり発散かてきた。
9 11	キッスたんけん隊！	街のなかで、“動物や昆虫（本物でなくともよい）”を探し、写真に撮って、グループごとに発表。
9 25	公園であそぼう！	代々木公園に行き、鬼っこや陣取りゲームでおもいきり体を動かして遊んだ。
10 9	こともの城でクイズラリー！	トッシーホールの予定が、雨のためクイズラリーに変更。難しい問題も、班の仲間の協力て正解した。
10 23	キッス、秋の遠足 2010	電車に乗って、上野動物園へ。動物にちなんだクイズを解きながら、広い園内を班ごとに楽しんだ。
11 13	光とあそぼう！！	きれいな光が見える「万華鏡作り」や CD に光を当てて虹をつくる実験など。楽しく遊びながら学習。
12 11	フライパンでパン	フライパンでパンを作ったが、オープンて作ったものに負けないおいしさに。ハターも手作りました。
H23 1 15	東西対抗、新春ゲーム大会！	新年最初の回らしく、こまやカルタを使ったゲームの数々を行った。
2 5	トッシーホールをあそぼう！	10 月にてきなかったトッシーホールを実施。4 年生がルールを考え、そしてルール説明も行った。
2 19	タンホールて遊ぼう！	たくさんの段ボール箱を使って、高い建物を作成。戦艦型やケーキ型など、ユニークなものかてきた。
3 13	最後までたくさんたくさん遊ぼう！	3 月 11 日の東日本大震災の影響を考慮し、当初予定の 12・13 日の宿泊プログラムを中止し、日曜の午前中に 1 年をふりかえる会のみを行う。参加児童は少なかつたが、保護者も一緒にパーティーの準備をし、ゲームや鬼っこにも参加してもらった。短い時間たつたかたくさん楽しむことかてきた。

□ユースクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プログラム名	内 容
4 11	はしめまして☆これかユースた！ゲーム大会	新聞紙をテーマに、はしめて出会ったメンバーが、互いに知りあえることをねらいにしたゲームを行う。
4 25	みんなたいすき やっぱ代々木で泳ぎたいしょう？	都立代々木公園で野外ゲーム。長なわとひを行った後、くま狩りというしんとりゲームを実施。
5 16	こどもの城周辺の街探検「ユース 未来日記」	六本木ヒルズ森タワーまで出かけ、班のメンバーで知恵を出し合い『ユース未来日記』の謎をとく。
6 6	代々木上原の商店街で買い物をして、カレーを作て食べよう	“ちょっと贅沢なカレー”作り、上原商店街で班ごとに必要な食材を調達。社会教育施設上原社教館。
6 20	今か旬！ 書道パフォーマンス	2m 四方の紙に、大きな文字書く書道パフォーマンス。屋上ふしきが丘て実施。
7 18	三浦半島荒崎シーサイトウォーク	三浦半島荒崎方面への外出プログラム。荒崎公園からソレイユの丘まで海岸沿いを歩く。
9 12	またまた夏は終わらない！水鉄砲であそぼう！	チームに分かれ、水鉄砲を使ったしんとり遊び。全員て 2 期の目標「新しい活動をしよう」を決定。
9 26	タンホールの中でなんでも焼こう！「もくもくスモーク」	段ボールのなかにアルミホイルをはったオープンを作り、アウトドアクッキング。
10 24	ユースと言えば代々木でしよう？& 次回作戦会議もするよ！	都立代々木公園での野外ゲーム。くま狩りのみを約 2 時間。集中して何試合も行っていた。
11 7	フィールドアスレチック&鉄板野外炊事	横浜市にあるフィールドアスレチック・つくし野コースでの活動。鉄板を使った野外炊事も行う。
11 21	2 期最終回の作戦会議	2 期最終回の企画会議。今のユースに足りないものについて確認したのち、最終回の活動の企画会議。
12 19	全員企画ユースクリスマスパーティー	料理チームとエンターテイメントを企画するチームに分かれ、クリスマスパーティーを実施する。
H23 1 16	ユースクラブの連泊を作て、多摩川てあそぼう！	1 人 1 つずつエイトこを作り、二子玉川（多摩川河川敷）てあけた。最後は全員のたこを連ねてあける。
2 6	ユース最終回プロジェクト作戦会議	最終回の活動の作戦会議。〔こともの城〕館内を使った謎解きラリーを来館児・者向けに行うことに決定。
2 27	ビックリ・トッキ プロモーションムービー	館内謎解きラリーを PR する、特撮を使ったプロモーションビデオを作成。構成・撮影もメンバーて。
3 20	今てきることを、最後までとことん遊びこもう！	東日本大震災の影響を考慮し、予定のプログラムを中止。やりたいこと、てきることを考えて実行する形に変更。最後まで自分たちらしくとことん遊びこもうという意識の下、さまざまな遊びを楽しんだ。

造形事業部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかにはぐくんでいけるように、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ『素材との出会い展』②そのままでは素材になりにくい、音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ『造形発見展』③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係を、分かりやすく理解できるように視覚化したワークショップ『オープンスタジオ』——この3つを軸に活動を展開している。それぞれのワークショップを1～3年間継続し、それらを順次くりかえしながらスタジオを運営している。

ワークショップの構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的に活動にかかわれるようにした。

本年度は、夏休み特別期間まで「オープンスタジオ～造形 アニマル・パラダイス」、10月からは新しいテーマ「造形発見展～道と造形」を実施した。

本年度は、開館 25 周年の節目の年でもあり、通常の事業以外に今までの活動を俯瞰し、今後につながる内容の特別展なども実施した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」。夏休み特別期間までのプログラムステップとして、“動物”をテーマにプログラムを実施した。10月からは、“道”

をテーマに3週間ずつでプログラムを実施、平成 23 年＝11 年夏休み特別期間プログラムへ向けてのステップとした。また、季節のなかにある共通のイメージをテーマにした「こども歳時記」も開催した。

(イ) 講座

講座活動では、小学生 1 年生以上を対象にした「こともクリエイティブクラブ～クレイワーク」「同～ゆかいな造形(A コース)」「同～絵本の世界へ」の受講者数は、前年度と同様に少ないままだった。そのため、講座構成を見直し、「ゆかいな造形」は 2 コースを 1 コースに統合、「クレイワーク」と「絵本の世界へ」は本年度かぎりで閉講とした。また、「大人のための造形表現教室」も期ごとに参加者数にばらつきがあり、こちらも本年度で閉講とした。来年度以降、講座という形式にとらわれない、新たな形を模索していきたい。

(ウ) グループ活動

前年度より 3 件少ない 31 件を受け入れ、プログラム「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土体験」「竹体験」を実施した。なかでも「かげをうつそう」は 15 件と、利用数が多かった。特別支援学級などの受け入れは、前年度同様に 2 件だった。「粘土体験」「かげをうつそう」をそれぞれの団体に合わせアレンジし実施した。また、前年度に引き続き同じ小学校から「竹体験」の要望があった。本年度で、5 年連続の受け入れとなるが、子どもたちが、より竹の素材性を体験しやすい進行内容へと整理できた。

経費削減にとめない、打ち合わせや実施スタッフを最

小限に抑えている。また、各団体の引率者へ働きかけて、より積極的に手伝ってもらうことなどを試みた。今後、さらに少人数での実施方法や、新規プログラムの開発が引き続き課題である。

2. オープンスタジオ～造形アニマルパラダイス～

造形スタジオ活動の一つに、表現と表現する技術との関係を探り、素材と道具の特性、それにとまなうさまざまな技法とのかかわりあいを経験するワークショップ「オープンスタジオ」がある。本年度は、同じ地球にすむ身近な生物“動物”をテーマにして、オープンスタジオ形式のワークショップを展開した。

およそ 3 万 2 千年前に描かれた洞窟壁画のなかに、動物がモチーフになっているものが発見されたり、動物の骨を使った武器や生活用品、呪術道具などが各地で出土したりしている。このことから、人類と動物のかかわりは、とても古くからあったと推測される。動物は、食料として命の糧になるもの、逆に猛獣のような命の脅威となる存在、またある時は崇める対象といったように、さまざまな形態をとりながら人間と密接にかかわり、生活をともにしてきた。

現在、地球上に生息する動物はきわめて多種多様で、150 万ほどの種が知られている。しかし、いまだに未知の部分が多く、将来的には総数およそ 200 万種以上にのぼるとみられている。とても多くの種が存在しているように感じられるが、社会の高度成長にとまない、すでに絶滅してしまったもの、絶滅の危機にひんしているものも少なくない。

動物園では、いろいろな動物たちに出会うことができる。ぞう、ライオン、きりん、しまうま。それぞれの動物は、色、形、模様、動きにいたるまで、さまざまな特徴を持っていて、とても個性的だ。そうした動物たちの魅力を、造形活動を通じて再発見し、新たな発想で感じ取れるようなプログラムと環境設定を考えた。

□動物たちとピクニック

前年度の春休み特別期間には、「やってみよう！つくってみよう！～造形アニマル・ピクニック」を実施。夏休み特別期間へ向けてのステップとして、動物に会いに行くピクニックというシチュエーションを設定した。

動物への興味をわかせる動機づけのため、《よこはま動物園ズーラシア》の協力を得て、たくさんの動物写真を造形スタジオへ向かう廊下壁面に展示。ロビーには、動物の細部に注目してもらうために、目、鼻、耳など、その動物の特徴ある一部分だけが見えていて、何の動物か想像するコーナーや、いろいろな素材をはりつけ、凸凹模様を擦り出せる動物の形をしたパネル（期間中の親

子コーナープログラム「ごしごしアニマル」の擦り出しアイテムとしても活用）、動物の頭、胴、足といったパーツをマグネットにし、組み替えながら新しい動物を創り出すことのできるボードなど、五感を働かせ、楽しみながら動物の特徴を発見していく展示・体験コーナーに仕上げた。

□色、形、模様を発見する

夏休み特別期間までの平常期間は、主に動物の形や色、模様に焦点をあて、布、木、紙、金属、竹、石こうとさまざまな素材を使い、それぞれの素材にあった道具と技法で制作するプログラムの開発と実施を試みた。

モールで動物のシルエットを表現するもの、スポンジやフェルト、金網、ろうといった素材独特の質感を利用し立体的に表現するものなどを体験することで、動物の魅力の一つ、色、形、模様を再発見していった。

さらに、5 歳以上から親子でも参加できるイベント「粘土でジャングル旅行」を 3 日間、全 6 回（1 日 2 回、各回定員 10 組 20 人）実施。粘土の可塑性を体感しながら、ジャングルの木や動物の制作を楽しんで、動物たちの基本的な形体や特徴を感じ取ってもらった。

□動物たちの楽園

夏休み特別期間は、「オープンスタジオ～造形アニマル・パラダイス」を実施。色、形、模様に加え、触感にも着目した環境設定を心がけた。ステップ期間中に行ったプログラムを総合、整理したなかから、6 プログラム（親子コーナーとクリエイティブコーナーで各 3 プログラム）を展開した。

造形スタジオへの導入となる廊下壁面は、春休み特別期間に引き続き動物写真を展示。新たに、個々の生態がわかるような臨場感あふれる写真を加え、動物への興味をわかせるつつ、それぞれの動物の特徴が見つけられるように工夫をした。

フェイク・ファーやたわし、布などでいろいろな動物のしっぽを再現して壁に取り付け、特徴的な形、質感の疑似体験などを通じて、動物の個性を読み取ることを試みた。

3 階ロビーの青山円形劇場側面のスロープには、ほぼ実物大のくま、子ぞう、子きりん、だちょうのシルエットを紗の布にペイント。透きとおってみえる布の特性を生かし、スロープを通る来館児・者と動物の大きさを対比して楽しめるようにした。

スタジオ内には、動物の模様をデザイン化した壁面を設置。動物模様をめくれば、その模様を持つ動物の全身写真があらわれる仕組みを施し、発見する楽しさを演出した。

マジックテープで取り外しのできる、○△□などの形

造形アニマルパラダイス～しっぽ劇場



をした、いろいろな触感素材のパーツで不思議な動物を飾る、大きな「きせかえアニマル」は幼児も簡単に参加でき、人気のコーナーとなった。

ジャングルをイメージした「アニマル変身コーナー」には、とらのマスク、うさぎの耳や手足のカバー、しっぽのついたパンツといったアイテムが並び、自分自身が動物に変身し、動物の感覚を疑似体験できるように設定した。

アイテムを身につけた子どもたちは、鳴き声をまねてみたり、ポーズをとったり、四つんばいになって歩いてみたりして、それぞれの子どもが持っている動物のイメージを、体全体を使って表現していた。子どもと一緒に変身する親もいて、動物の楽園が「アニマル変身コーナー」からスタジオ中に広がっていった。

1年間、五感を刺激する環境や制作、体験をとおして、より身近に動物の魅力に気づき、新鮮な発想をもって見つめ直してもらえたようだ。

3. まとめ

造形スタジオでは、平成13年＝01年から「素材との出会い展」や「造形発見展」へのステップ段階として春休み特別期間に「オープンスタジオ」を開催。造形ス

造形アニマルパラダイス～造形スタジオ全景



タジオの活動の、基本となるワークショップの一つとして、重要な役割をはたしてきた。

〔こどもの城〕が開館して25年経って、改めて造形スタジオの活動を検証しながら、新たなテーマを模索していくために、具体的な場として「オープンスタジオ」が大きな意味を持つと考えた。そこで、平成19年＝07年10月から3年間、年度ごとにサブテーマを変えて、造形活動の基本となる素材と道具、そして、それぞれにかかわる技法の関係性をわかりやすく提示したワークショップ「オープンスタジオ」を、夏休み特別期間に集約して実施した。3年間で「からくり」「野菜、果物」「動物」とテーマを変えたことで、素材と道具のかかわりから生まれてくるプログラムにも変化が見て取れる。「素材との出会い展」「造形発見展」との違いが明確になった。

10月からは、平成23年度＝11年度の夏休み特別期間プログラム「造形発見展～道と造形」に向けたステップを開始した。今後も、異なるテーマによる造形の広がりを子どもたちが体験できるよう探求していきたい。

本年度も外部との協力活動を積極的に行った。相手先の要望にあわせ規模を変えながらも、今後も継続して造形遊びの普及活動を実施して行きたい。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう！ つくってみよう！ 「アニマル・ピクニック」	4 8 ～ 25、5 8 ～ 7 19、 9 4 ～ 26 開館時間中	夏休み特別期間プログラム「オープンスタシオ～造形アニマル・パラタイス」に向け、さまざまな素材と道具、技法を使って動物を表現するプログラムの開発とワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！ つくってみよう！ 「道と造形」	9 28 ～ 10 17、11 9 ～ 28、 H23 2 4 ～ 13、3 4 ～ 21 開館時間中	平成 23 年春休み特別期間「やってみよう！つくってみよう！道と造形～あの道 この道 とんな道」、同夏休み特別期間「造形発見展 道と造形～道みち つないて」に向けて、道にはどんな道があるのか、人類と他の生物との道の違いは何か、道のまわりには何かあるのか、そして人と人、町と町をつなげるための道とはどういうものなのか、といったことを造形的にとらえ、模索していくワークショップ活動を実施展開した。

ことも歳時記

端午の節句	4 27 ～ 5 5 開館時間中	ヒニールや金属を素材にしたこいのぼりを制作。スタシオ入口には、親子プログラム「およけアームコイ」の拡大版のヒニール製こいのぼりを展示し誘導役とした。マクネットをはりかえて、こいのぼりのうろこを飾ったり、制作した「およけアームコイ」を実際に泳かせて遊べる体験コーナーを設置。金属で制作したかふとのレリーフ、全国各地の民芸品、民芸品を図案化したタペストリーも展示した。
クリスマス	12 8 ～ 25 開館時間中	全館事業「みんなてかさろうクリスマス」で子どもたちが作ったオーナメントをツリーに飾り、スタシオ入口に展示した。スタシオ壁面には大きなサンタクロースやとなかいを設置し、親子プログラムの見本となるような街並みを再現した。天井からクリスマスをイメージさせる飾りをつるし、雰囲気盛り上げた。全館事業に合わせてクリスマスのオーナメントを制作できるスペースも設けた。
お正月	12 26 ～ H23 1 11 開館時間中	干支の〈卯〉を取り上げたプログラムを実施。スタシオ入口に、プログラム「お正月うさコロリン」を拡大した、動く張り子のうさを展示して誘導役とした。親子コーナーの「お正月うさくるま」を実際に走らせて遊べるコースも設置。例年と同様に正月や干支にちなんだ全国の民芸品を展示した。3 階ロビーには全国各地のたこを飾り、スロープにはその習わしの説明パネルを展示した。
節分	1 14 ～ 23 開館時間中	張り子で作った大小さまざまな鬼を、スタシオ入口に展示した。スタシオ壁面には、大きな鬼と福の神を設置し、全体は紙や布で作った豆や升などを飾りにきやかな雰囲気を演出した。親子プログラム「節分変身オニ」に合わせて、鬼の角や衣装を身につけて変身して遊べる体験コーナーを設置した。節分にちなんだ習わしの説明も掲示した。
桃の節句	2 23 ～ 3 3 開館時間中	民芸品をモチーフとしたレリーフをスタシオ入口に展示し、桃の節句の導入とした。スタシオ壁面には紙で作った大きなひな壇やはまり型のおひな様を設置。桃の節句にちなんだ「ひしもち」「ひなあられ」などの由来を説明した文章を掲示した。例年とおおり全国各地の民芸品と民芸品を図案化したタペストリーを展示した。プレイ事業部、音楽事業部と合同で催しのちらしを制作した。
第 17 回親子体験 ワークショップ	10 31、11 1、11 3 開館時間中	親と子がそれぞれに制作し、積極的にプログラムにかかわることかできるワークショップ。プログラムは「アニマルマペット」。親子で紙をもんで柔らかくしてから、封筒状にのり付けて、手にはめて遊べる動物のマペット。親子でお話を作ったりして楽しんでいた。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 オープンスタシオ 「造形アニマル・パラダイス」	7/21～8/31 開館時間中	紙、木、金属、ヒニール、ろうといった素材を使いながら、それぞれの素材に合わせた道具、技法によって動物を表現するプログラムを実施。色、形、模様、触感をとおして、身近な動物の魅力を再発見すると同時に、新しい発想で動物を見つめ直すきっかけになるようなワークショップ活動を実施した。
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ 「道と造形～あの道 この道 とんな道」	H23 3/25～4/5 開館時間中	平成 23 年の夏休み特別期間「造形発見展 道と造形～道みち つないで」に向けた活動。小さな子どもたちにも親しみやすい、感覚的な言葉である『擬声語』を取り上げた。「くねくね道」や「かたかた道」など、擬声語で表現するいろいろな道を展示・体験コーナーのなかに構成し、子どもたちが展示物を見たり触ったりしながら、道のさまざまな形や表情などを遊びを通して体験できるワークショップを実施。プログラムは「くねくねスカイウェイ」（親子）と「くみかえ道路」（新小4～）。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こともクリエイティブクラブ クレイワーク ～土の冒険～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 3 ② 4 ③ 3	火曜日 16:15～17:30	粘土を「まるめて球を作る」「のはしてヒモにする」「たたいて平らにする」などの技法や道具を使い、さまざまな形へと変化させていく。粘土の可塑性を体験しながら、子どもたちの表現力を養う。1期のテーマは、「かたまりからの形の変化～球からひもへ」。手に入りきれない量の粘土のかたまりや、小さなかたまりで、球作りを体験。大きな球は、「押す」「つまむ」技法で表面の形を変え、惑星に。小さな球は、表面に象かんで模様をつけて飾った。球からひもへ、形を変化させる技法の体験として、ひもをつなげて木を制作したり、リンクをつなぎ合わせたオブジェなどを制作した。2期のテーマは「板からの形の変化」。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って板状に切って〈たたら〉を作り、それを組み合わせて城を作った。また、板状の粘土の形を変えてピザを制作したり、板をおわん状に変形させて動物を制作するなど、板から形を変化させる技法を体験した。3期は、「ひもからの形の変化」がテーマ。ひも状にした粘土を渦巻き状にして、お弁当の具材を入れる器などを作った。さらに、これまでの活動を総合して「お弁当を作ろう」。いままで経験した技法や道具を使って具材を制作した。1年をとおし、粘土の可塑性を楽しみながら、子どもたちに馴染みのある“食べ物”をテーマにした制作も楽しんでいた。 受講料＝1・2期(各11回) 28,500円、3期(8回) 21,000円。各期ごとに焼成費 8,000円。



ことも歳時記～端午の節句「はしれ！コイ車」



やってみよう！つくってみよう！「道と造形～あの道 この道 とんな道」

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こともクリエイティブクラブ ゆかいな造形 ～素材の楽しみ～ A コース B コース	(人) 小1～2 (16) 小3～中3 (16)	(人) ① 10 ② 9 ③ 8 ① 11 ② 10 ③ 10	水曜日 14 45 ～ 16 00 " 16 15 ～ 17 30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を、素材にみあった道具を使い分けて、遊びを通してより深い造形体験。スポーツと造形を結びつけた「造形スポリンピック」を実施。1期は、ゴルフ場を作る活動として、まず自分の背丈にみあったパターを作り、ゴルフゲーム。その後、シオラマ風のゴルフゲーム盤を制作。ほかに、乗って遊べるカーリングのストーン、樹脂粘土で思い思いのピンを作るホーリンクなどに取り組んだ。2期は、発泡ウレタンのホティを、溶かしたろうでコーティングしながら装飾した帆船を制作。完成後は、水をはった簡易プール上で、別に作ったうちわであおきながらレースを行った。さらに、羊毛を縮毛させて作ったカラフル模様のフェルトを的にするスポーツターツ、羊毛球をハネ付きハットではしいて遊ぶ野球盤を制作した。3期は、高さか約1mほどの大型紙相撲、強力マクネットて選手を動かすサッカーゲームなど、さまざま表現活動を行った。さまざまな素材や道具、そして技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見出ししていた。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(12回) 31,000円、3期(8回) 21 000円。
" 親子てアート ～わくわくワーク～	(組) 4・5 歳児 と親 (10)	(組) ① 9 ② 5 ③ 7	木曜日 15 30 ～ 16 30	親子で協力しての制作、親と子それぞれの制作といった方法を取り入れ、造形活動をととした新しい親子のかかわり方、大人と子どもの関係を見つめ直すコース。身近にある材料、素材にふれながら、新しい触感や視覚を発見・体験する。羊の原毛からのフェルト作り、アルミ板を打ち出して作る皿、紙版画でプリントしたハック、石こうの型取り、軍手や靴下を活用した造形と、さまざまな材料と技法を体験。日常見慣れたものの変化や特殊な素材の触感や質感、工具の使い方などを親子で楽しんだ。「端午の節句」「クリスマス」などに合わせたプログラムを実施することで、季節感も満喫した。それぞれの親子が、ゆったりとまわりの親子とふれあい、互いに刺激しあいながら制作することで、さまざまな場面で親と子、大人と子どもの温かい関係が自然に出現した。 受講料＝1期(11回) 34,000円、2期(12回) 37 000円、3期(8回) 25,000円。
" 絵本の世界へ～イメーシする楽しみ～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 3 ② 4 ③ 4	金曜日 16 10 ～ 17 30	製本された本だけでなく、さまざまな素材や技法、描画材の体験をととし、“おはなし”を表現する造形力を養うことが目的。子どものなかにある想像力をさらに広げるきっかけ作りをめざした。1期は“動物”をテーマにプログラムを展開。破いた紙の形を生かした平面の動物、雑誌や広告のなかから見つけた色を素材にした張り子の動物、動物の模様を変化させて遊べるスタント、自分と動物のシルエットを投影したテーブルカハーなどを制作した。2期は、聞いた音のイメーシの模様で作る絵本、顔の形を凹凸のある壁に映して喜怒哀楽を表現した絵本、くし引きすることでお話を決めていく絵本など、2つ以上の場面で構成する造形物を制作。3期は、組み替えかてきる道とキャラクターを作り、“おはなし”の場面を撮影して絵本を制作した。1・2期で体験した素材や技法を集大成して、世界に1つしかない絵本を作った。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21 000円。
" ハンスワーク～創造探検～	小3～高3 (16)	① 6 ② 6 ③ 6	土曜日 15 30 ～ 17 30	素材、技法、道具などについて、より深い知識を蓄積し、造形表現の力を養うための、小学3年生以上の高学年向けコース。前年度から、15時間たった制作時間を、より充実した制作かてきるように2時間にした。プログラムの内容と素材にあわせ、電動工具なども積極的に使用。適切な工具を選択・使用することで、子どもたちは素材の持つ性質や特徴にふれると同時に、工具の仕組みや利便性などを体感する。木の枝を組み合わせた関節部が可動する動物、発泡スチロールをしんにした全身タイルはりの生物、羊毛を縮毛して道に見立てたフェルトのマフラー、鋳造技法によるクリスマスリースのオーナメントなど、さまざまな素材と技法にふれ、制作を楽しんだ。危険の伴う工具や制作過程をゆっくりと時間をかけ、各自が個々に、または周囲と協力しあいながら作業することで、他者への気配りやかかわり方を自然に身につけていったようた。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人のための造形表現教室	(人) 児童の福祉、文化、教育活動にかかわっている人、児童の造形教育、表現教育に興味のある人 (25)	(人) ① 16 ② 13 ③ 20	木曜日 1900～2030	児童の造形教育の新しい方法論を開拓した、ブルーノ・ムナーリのワークショップや、造形スタジオの子どものためのさまざまなプログラムを実践し、造形表現とは何かを体験していく講座。ムナーリの『読めない本』を中心にコラージュ、テキストチャーなど、さまざまなプログラムを実施。造形事業部元部長の岩崎清氏(キャリアリー TOM 副館長/武蔵野美術大学講師)を講師とし平成 15 年度～03 年度から始まった講座で、児童厚生員、幼稚園、保育所スタッフ、小中学校教諭から大学生まで幅広い層が受講。毎年異なる内容で継続者も多かったが、この数年は受講者が減って、講座継続が困難となり本年度で閉講となった。今後は、より参加しやすい形を考えた大人の講習会を企画していきたい。受講料＝1 期(9 回) 19,000 円、2 期(11 回) 23,000 円、3 期(8 回) 17,000 円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A 造形スーラント	(人) 小3～高3 (1日コース ／5日間 計75)	(人) 延へ 73	7/26～30 1010～1640	羊毛を縮毛して、手のひらサイズのコロンと丸みのある動物を制作。動物たちのすみかを、いろいろな素材を組み合わせ、箱のなかに表現。箱の1辺に取り付けたレンズシートを通して、幻想的な動物の世界を見ることができる。受講料＝5,000 円。
〃 B クレイアニマル 標本箱	小2～高3 (半日コース ／5日間 計150)	延へ 95	8/2～6 1010～1240 1400～1630	石こうの型に陶芸用の粘土を押しあてて、ねしや貝殻の形を写し取ってパーツを制作。さまざまに組み合わせながら架空の動物化石に仕上げ、名前や採集場所のデータを添えて、特製の標本箱を完成させる。受講料＝3,000 円。
〃 C アニマル パラダイス	小3～高3 (1日コース ／5日間 計75)	延へ 28	8/16～20 1010～1640	木の枝、葉っぱ、土といった自然の素材を組み合わせ、立体的で不思議な巣を制作。その巣にすんでいるところを想像しながら、丸太を使った動物を制作して完成。受講料＝5,000 円。
〃 D アニマルピクニック ～うきうきセット～	〃	延へ 30	8/23～27 1010～1640	耐熱ガラスのビンを使ったカンテラ、紙管とレンズシートでできた望遠鏡、スタンプやフェルトで飾りつけたお手製のハック、新聞紙をしんにした動物など、さまざまな技法を体験しながら、動物に会いにいくためのピクニックグッズを制作。受講料＝5,000 円。



こどもクリエイティブクラブ「ハンスワーク～創造探検～」



第 25 回造形スタジオ展

3. その他

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
フルーノ・ムナーリ展 ～アートの楽しい見つけ方	6.26～8.29	造形事業部所蔵の「フルーノ・ムナーリ・コレクション」の貸し出し事業。「機械とアート」「アートによるコミュニケーション」「空間を豊かにするアート」「生活を豊かにするアート」「手のひらのアート」「アートと遊ぼう」というカテゴリーで作品を再構成し展示し、ワークショップも実施した。さまざまなメディアでも取り上げられ、同美術館の夏の動員数を増やした。 (横須賀美術館)
マントヴァ国際子ども芸術・演劇フェスティバル	11.7～14	イタリアのマントヴァで毎年行われている国際子ども芸術・演劇フェスティバルに、主催者からの要請を受け、造形プログラム「かけをうつそう」で参加（造形スタッフ2人、企画研修部スタッフ1人）。11～14日の4日間、子どものためのワークショップ7回（延べ194人参加）と、指導者向けのワークショップ1回（24人参加）を行った。ワークショップは、参加した子どもをはじめ、その家族、関係者にも大変好評だった。主催者側からも来年度への再参加の要請をもらったが、23年度は事業の関係で参加を断念した。 (イタリア・マントヴァ)
特別ワークショップ「せかいの色はどんな色？」	H23.2.6 10:30～12:00 (年中～小2年／20人) 14:00～15:30 (小1～4年／20人)	イタリア人アーティスト、タリオ・モレッティ氏による大きな布に共同で絵を描くワークショップ。1回目は〈海〉、2回目は〈街〉をテーマに、大きな筆で大きな布に場所を変え、色や形と遊びながら、みんなて一つの世界を描いた。作品は乾燥後、3階ロビーに活動中の写真パネルとともに展示した。参加費 入館券＋1,000円。 (造形スタジオ)



特別ワークショップ「せかいの色はどんな色？」



マントヴァ国際子ども芸術・演劇フェスティバル「かけをうつそう」

平成 22 年度プログラム一覧表

1. 親子コーナー

名 称	内 容
アニマルパラダイス	パタパタアニマル 帯状の紙の両端にたこ糸をつけ、持ち手の紙から出たたこ糸をひっぱると、パタパタ動く動物になる。
	手のリヒニマル エアパッキンをカラーヒニールで包み、顔や手足の飾りをして動物にする。輪ゴムで腕につけて持ち歩ける。
	アニマル帽 もんんで柔らかくした紙を二つ折りにして、両端をのりつけする。顔や手足の飾りをつければ動物の帽子に変身。
	アルミ動物 新聞紙を丸めて動物の形にして、アルミホイルで包む。アルミ針金の手足を巻きつけ、銀紙で作ったしっぽや耳をテープでとめたり、油性ペンで模様を描いたりすれば、不思議な動物が完成。
	アニマルマペット 紙をもんで柔らかくしたら、封筒状にはりあわせる。目や鼻、手足の飾りをすれば動物のマペットが完成。
	パフッとアニマル 紙ひもの両端をとめて中央部分のよりをもとしたものを、2本組み合わせて袋状にする。紙やペンで動物の飾りつけをして完成。両端を持って縮めたり伸ばしたりすると、袋がパフパフと動く。
25周年スタシオ展	ペーパータウン ケント紙を折ったり曲げたりしながら建物を作り、切り込みを入れたり、穴をあけてトアや窓を作って飾る。完成後は、道のシオラマに移して、大きな街にする。
	はんしゃめかね 虫めかね型の枠に、トレーシングペーパーのスクリーンをはる。次に、銀紙の裏から自由に絵や模様を描いたものに光を針めからあてると、描いた絵や模様が反射してスクリーンに映る。
	まちをつくろう 台紙に段ボールや網、凸凹の壁紙など、さまざまな手触りや色の素材をはって、家を作る。完成後は、道のシオラマに移して、大きな街にする。
道と造形	スタンプマップル 直線や曲線など、さまざまなスタンプを台紙に押しつけて道を作り、まわりに建物や木などの飾りつけをすると、スタンプを使った地図がでる。
	くねくねスカイウェイ 紙の帯とアルミ針金を組み合わせて道に見立てたものを、土台にとめて自由に飾りつけをする。空に向かってくねくねと伸びる道が完成。
	ちぎって道路 ラシャ紙を手でちぎり、さまざまな形を作って自由に台紙にはる。形と形の間に道路に見立て、ペンや色紙で自由に飾る。
	葉みゃくロード 紙に印刷された葉っぱを切り抜き、葉脈を道に見立ててペンでなぞる。道のまわりを、木や家、動物などで飾れば完成。
ことも歳時記	およけ!!アームゴイ 傘袋にカラーヒニールや油性ペンで飾りつけをしてこいのぼりを作る。できあがったら、腕に通して泳がせることかてきる。
	うごクリスマスカード 2つに折った紙に糸を組み合わせて、クリスマスの飾りつけをする。糸をひっぱると、飾りが左右に動く、からくり仕掛けのクリスマスカードかてきあがる。
	お正月うさくるま 丸めたエアキャップにうさぎの飾りをし、紙の車輪とたこ糸をつける。たこ糸を引くと、走る干支のうさくるまの完成。
	節分変身オニ 紙を丸めて角を作り、ハントにとめて飾る。頭につければ、かわいい鬼に変身できる。
	らせんひな うすまき型に切った紙におひな様の飾りをつけて、上下にのひる、ひなまつりのオブジェを作る。
その他	ひかるアニマルラント 丸めた新聞紙と紙で動物の体を作り、蛍光紙で目や手足などの飾りをつける。できあがったら、ブラックライト仕掛けのアニマルラント（畳1畳大）に持っていくと、闇に光る動物になる。「秋祭り」のプログラム。

2. クリエイティブコーナー

名 称	内 容
アニマル バラ ダイス	金アミマル 金網を筒にして胴体を作り、アルミ板や他の金網と組み合わせて、金属の動物を作る。 (小3以上、1時間 30分)
	アニマルレリーフ 土台の板に木の板をならへて動物の形を作り接着する。くぎなどで飾りはレリーフの完成。 (小3以上、1時間)
	はねハネアニマル 銅線と真ちゅう線を巻いてハネを作る。銅線のハネは体、真ちゅう線のハネは足とし、銅板で顔を作って組み合わせ、ハンタつけすると、ハネでゆらゆら動く動物が完成。 (小3以上、1時間)
	スポンジアニマル スポンシで動物の体のパーツを作り、なかにアルミ針金を通して、各パーツを組み合わせる。仕上けにヒースやペンで模様をつけると、ふかふかの動物が完成。 (小3以上、1時間)
	こねロウ動物 溶かしたらうを冷ましながらかねて、動物の形を作る。木の枝で手足をつけたり、ペンで模様を描いたりすると完成。 (小3以上、1時間)
	ヌノアニマル 新聞紙で動物の形を作り、布で包む。針金やいろいろな布で飾りは完成。 (小2以上、1時間)
25周年 スタ シオ 展	竹・タケ・たけ 1本の竹を、のこぎりて斜めに数個切り分け、切り口の方を少しつつすらしながらはり合わせていく。曲かったりねじれたりして不思議な形になった竹に、自由に飾り付けをすると、竹のオブジェの完成。 (小3以上、1時間 30分)
	ボントダイコ 自由な形に切った段ホールの内側を切り抜き、トレーシングペーパーをはる。ハチてたたくと、さわやかな音が響く太鼓かてきあがる。 (小3以上、1時間 30分)
	アルミハッシ アルミの板を、“しゅもくつつ”という鍛金用の特殊なつちて打ち出して作るハッシ。世界にたった1つのオリジナルハッシ作りに挑戦。 (小3以上、1時間 30分)
道と 造形	くみかえ道路 3枚のへニヤ板に、それぞれ紙の帯をはって道を作り、道のまわりには、紙やくぎ、針金を使って木や建物を作る。3枚の板を自由に組み替えると、道路の形をさまざまに変えて遊べる。 (小3以上、1時間)
	たんたん DE 道(みち) 段ホールの板を切ってさまざまな形を作り、土台に重ねてはると、高さの異なる地面と、切った段ホールの形に沿った道かてきる。あとは自由に飾り付ける。 (小3以上、1時間)
	クルッと うつるん通り 道に見立てたアルミ針金を“らせん状”に曲けて、鏡面状の紙をはった土台の板に取りつける。飾りつけをして動かすと、その様子が地面に映り込む。 (小3以上、1時間)
	あみこみ山の くねくね道 金網を好きな形に曲けて作った山に、毛糸を編み込んでいき、くねくね道を作る。最後に人や動物、乗り物などを作ると、くねくね道の上を自由に動かして遊べる。 (小3以上、1時間 30分)
	くみかえ道路 (ダンボール Ver.) 3枚の段ホール板に、それぞれ紙の帯をはって道を作る。道のまわりは、木や建物などで自由に飾る。3枚の段ホール板を自由に組み替えると、道路の形をさまざまに変えて遊べる。 (新小4以上、1時間 30分)
こと も 歳 時 記	はしれ!! コイ車 アルミ板に彫金技法で模様をつけた後、かまぼこ型にして、台に固定する。木の枝で作ったタイヤをつけると、カラカラと音を立てて走るコイ車の完成。 (小3以上、1時間 30分)
	クリスマスおて かけサンタ 薄い段ホールの板を切り抜いて、スポンシで作ったサンタが通る道を作り、まわりをシオラマ風に飾る。完成後、下から磁石で動かすと、その動きに合わせてサンタが動く。 (小3以上、1時間 30分)
	お正月 うさコロリン 発泡スチロールを切ってうさぎの体を作り、底におもりを入れて飾り付けをする。コロリンと動く干支の起き上がりこぼしの完成。 (小3以上、1時間 30分)
	節分フェルト鬼 羊毛をせっけん水でもんでフェルトの玉を作り、鬼を作る。もみ紙で鬼の家も作ると、節分らしい鬼のオブジェの完成。 (小3以上、1時間 30分)
	モヒーナ 長いアルミ線の両端をまるめて、土台の柱にハランスかとれるように乗せる。おひな様の飾りをつけて、桃の節句ならてはのモヒールを作る。 (小3以上、1時間 30分)

音楽事業部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場とする形を基本としている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、〔こどもの城〕のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

平常期間の一般利用については、平日は1日1回の音楽遊びのメインイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー！」を数回実施している。音楽遊びのプログラムは、特に親子のスキンシップがはかれるオリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなど。1回30分のプログラムの流れで、“動”と“静”のめりはりをつけたプログラム構成としている。

日曜日・祝日は、11時30分から17時まで、プログラムが9本組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー！」、音楽遊びプログラム「みんなであそぼう！音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」、管楽器や打楽器などによる編成でリズミカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band ミニライブ」——自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、親子が一緒になって音楽を遊べるスペースと

なっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽などを定期的に取り上げたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間は、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供している。夏休み特別期間には、親子で参加できる「手作りリサイクル楽器フェスティバル」や「音楽体験ワークショップ」などの短期講習会を実施した。

講座・クラブは、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽・民族音楽系なども含むラインアップで運営している。

グループ活動は、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。



うたっておとってハッピーハロウィーン

2. 音楽ロビーの活動から

本年度もオリジナルのプログラムをいくつか開発した。主なものは以下の通り。

(ア) うたカラみつけた 色イロハッピー♪ ～みんなであそぼう夏本番！どれみふぁプレミアム～

夏休み特別期間に実施した、歌を得意とする 2 人のスタッフが中心となって考案したプログラム。テーマは、〈うたと色〉。2 人で歌うと、素敵なハーモニーが生まれる。子どもたちにも、一緒に歌う楽しさを感じて欲しいということがねらい。

導入は、歌いながら子どもたちに好きな色をたずね、実際にその色を探してみる。「ここにあった」「ここにも！」と、いろいろな場所や服の模様を指差し、身の回りにある〈色〉に注目する子どもたち。次に、ある形が切り抜かれた紙芝居状のパネルが登場する。色のパネルと組み合わせると何に見えるか、という仕掛けである。例えば、赤い色の時はケチャップだが、白い色を合わせるとマヨネーズに。黄色を入れて逆さにすると電球になる、という具合である。

最後は絵の具を使い、混ぜると何色になるか、と問いかける。刷毛を用いて、赤い絵の具で弧を描き、少し重ねるように黄色で弧を描く。オリジナルソング「色イロハッピー♪」を全員で歌いながら色を重ね、描き続けるときれいな“にじ”が表れる。

混ざり合うことで生まれるハーモニーを、〈色〉と重ね合わせた。

工夫した点は次の 2 点。1 点目は、“混ざり合う”イメージの視覚化である。色のパネルを用いたり、子どもたちの目の前で絵を描き、変化するところを見せたり、歌の振りとして混ざりあうような動きをつけたこと。2 点目は、子どもからの発想を引き出すこと。スタッフは「何色が好き？」「どこにある？」「何になる？」「どんな

色になる？」など、さまざまな問いかけをすることで、子どもたちからの声を取り上げながら進行した。しかし、全てを取り入れるのはなかなか難しかった。見てまねる、動きながら歌うなど、複合的に組み合わせた部分は、小さな子どもたちに少し難しい点でもあった。

これらを今後改善しつつ、さらに子どもたちと楽しめるプログラムに発展させていきたいと思う。

(イ) うたっておどってハッピーハロウィーン

「ひなまつり」「七夕」に実施している、子どもたちがステージにあがって、歌ったり踊ったりするプログラムの新シリーズ。ハロウィーンといえばこれっ！という歌はないので、「PAN PAN PUMPKIN!」というオリジナルソングを作った。歌詞に出てくる「パン」という音に対し、手拍子で「パン」と合わせることで、踊りやすい振り付けになるよう工夫した。

今回の特徴は、音楽ロビー全体をハロウィーンパーティ会場のように演出した点である。ロビー中央の天井には、特大の手作りカボチャをディスプレイした。既存のシリーズでは、頭に付けるカチューシャを用意するが、それに加えてマントや帽子など貸出用の衣装も用意した。自ら仮装して来館する子どもたちもおり、家族で楽しむ姿が多くみられた。

子どもたちがステージにあがり、だれでも主役になれるプログラムとして、定着しているシリーズである。

(ウ) 遊び横丁 みんなでハジけてベンのベン

“手作りの弦楽器”に取り組んだ。春休み特別期間の催し。打楽器に比べ“音を出すこと自体が難しく”、太鼓のように“大きな音を出すにも限界”がある。スタッフも弦楽器を扱うプログラムは初めてのため、楽器の鳴らし方、大勢の子どもで扱う場合の安全面での注意点、どうしたら子どもたちに充実感・達成感を感じてもらえるかなどが、課題となった。

楽器は「ベン」と名付け、何を用いたらベンと鳴るのか？と試作を重ねた。子どもたちが扱うために、軽さ、持ちやすさ、扱いやすさを考え、またコスト的にも身の回りにあるような物を利用して製作した。

できあがった楽器は、植木鉢にドーナツ型の厚紙をはりあわせて胴体に。ネックは業務用ラップのしん。弦にはテグスを用いた。一見おもちゃのギターのようなだが、ネック全体に糸を張ってしまうと、子どもたちが持った時に弦がおさえられ、鳴らなくなってしまうので、ネックの途中から糸を張るように工夫。ネックを持ってポーズしながらでも、響く音が出せるようになった。弦が短く張力も弱いので、ギターのように指先で強く押さえ



うたカラみつけた 色イロハッピー♪

なくても、握ることによって音程を変化させることもできる。

年齢に制限なく参加してもらおうと、幼児向けにはギター型の厚紙にテグスを張った「チビベベン」を製作した。

私たちが楽器を使った活動をする際、一番多く用いているのは打楽器である。手でもパチでも、たたけば音が出る。大きな音や小さな音を、たたきわけすることも可能。音を出すことが容易な分、少し難しいことにも取り組める。たたいて音を出すことは〈発散的な行為〉でもあり、大きな音を出したり、そろって演奏できると、高い満足感につながる。それに比べ、弦楽器は楽器の扱いが難しく、また、手作りのため音量的にも限界がある。

そこで私たちは、さまざまな工夫を試みた。音量の小ささは、みんなでそろって演奏することで得られる〈一体感〉を強調することで補った。手作りのオリジナル楽器に興味を持ってもらうために、おもしろく仕組みを紹介したり（多くの保護者が興味を示していた）、スタッフがポップな三味線風オリジナル曲のデモンストレーションを行った。

演奏だけではなく、エアギターのようにアクションもつけようと考え、子どもたちが自然に動けるように、種が芽を出し、花が開くというストーリー性（活動一覧表参照）を持たせた。参加の動機を高めるため、みんなの演奏とかけ声で、天井に“種”に見立てたレーザーの光が現われたり、柱に隠されていた花が現れるという視覚的な効果ももたせた。

結果として、「ベベン」に興味を持ち、鳴らしたり、動いたりしながら、ストーリーに入り込む子どもたちの姿が多く見られた。幼児向けの「チビベベン」も大好評で、多くの保護者が記念写真を撮影していた。

移動する時は、楽器を抱えて忍び足でというように、ストーリーの上で動きをコントロールすることにより、接触などもなく安全に実施することができた。

ストーリーを重視すると、楽器の体験色が薄まる。楽器の操作に重点を置くと、遊び感が薄まっていく。どの部分にフォーカスをあて、バランスをとっていくか、それぞれのスタッフが、毎回試行錯誤をし続けた。

初めての弦楽器導入や視覚的なしなかけ、ストーリーなど、本年度は新しいアイデアがたくさん生まれた。今

みんなてハシけてヘヘンのヘン



後も継続して取り組み、子どもたちにとって魅力的なプログラムに仕上げていきたい。

3. まとめ

本年度もいくつかの新しいプログラムが生まれ、成果が得られた。「うたっておどってハッピーハロウィーン」のように、ステージに子どもたちが上がって、即興的に歌って踊るスタイルのダンスイベントは、シリーズ化され、〔こどもの城〕ならではのプログラムとなった。今後は、少しずつ改良を加え、さらに進化をはかりたい。

本年度の新プログラム「うたカラみつけた 色イロハッピー」や「遊び横丁 みんなでハシけてベベンのベン」は、これまでの枠にとらわれずに、斬新な切り口で構成された。過去のさまざまなノウハウを生かしつつも、常に新しいものを生み出そうとするスタッフの姿勢のあらわれである。

講座・クラブについては、充足率の低い講座の閉講に踏み切った。開館以来の歴史を積み重ねてきたものを打ち切るのは苦渋の選択であったが、現在〔こどもの城〕がおかれている、厳しい経済事情を踏まえるとやむをえない。外部講師に委託するのではなく、スタッフが講師というスタイルで、どのように〔こどもの城〕ならではの音楽を提供していくかが、今後の課題である。

講座閉講により、空きスペースとなることが多くなったAスタジオの有効活用も、要検討事項である。来館児者のニーズが高いのが乳幼児専用スペースであり、Aスタジオでの運用を積極的に考えていきたい。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日	時	内 容
みんなてライフ！	火曜日	15 00 ～ 15 30	子どもたちがよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。 (音楽ロビー)
ほんわかおんかくタイム	火曜日	16 15 ～ 16 30	ほかの曜日でも実施している 15 分間のショートプログラムを火曜日にも取り入れた。主に、ハイオリンとピアノの演奏。夕方のひととき、子どもだけでなく保護者にもゆったり音楽を楽しんでもらおうと、クラシック的なものや、ゆったりとした曲調のものも取り入れている。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 はぶりんパラダイス	火～金曜日	開館時間中 (催し開催時を除く)	0 ～ 1 歳児と保護者のコーナー。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流をもてる場になっている。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日・祝日	14 30 ～ 15 00 14 00 ～ 14 30 16 00 ～ 16 30 14 15 ～ 14 45 13 15 ～ 13 45 16 00 ～ 16 30 11 30 ～ 12 00 13 00 ～ 13 30 11 30 ～ 12 00 13 00 ～ 13 30 15 00 ～ 15 30	ハント形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなど。リクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することかてきた。土・日曜日、祝日の午前中の回はすっかり定着し、早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評であった。(音楽ロビー)
ストリートオルカン やってみよう！	火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日	16 30 ～ 17 00 13 30 ～ 14 00 15 30 ～ 16 00 16 15 ～ 16 45 15 15 ～ 15 45 16 30 ～ 17 00 12 30 ～ 13 00 12 15 ～ 13 00 16 30 ～ 17 00	ロビー常設のオランダ式手回しオルカン。親子、兄弟、友だち同士などてペアになり、演奏を楽しんだ。本年度から、火曜日は 14 時まで幼児向けプログラム(「赤ちゃんサロン」「ぽかぽか広場」)を実施しているため、13 時 30 分の回は実施されなくなった。 (音楽ロビー)
すいよう パチパチパーク	水曜日	14 30 ～ 15 00	歌遊び、手遊びなどの参加型プログラム。これに加え、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を週替わりで演奏し、鑑賞の時間も設けている。親子も、スタッフも参加して、一体となって音楽を感じあえるイベントを行っている。 (音楽ロビー)
うきうきタイム	木曜日	16 00 ～ 16 15	新プログラム。毎回担当する職員の個性に合わせて、さまざまな内容を試みた。マリンハやピアノなどで昔から歌い継がれてきた童謡の演奏、絵描き歌、子どもたちにマイクを持って歌ってもらう ― 等々。手遊び・歌遊びを積極的に促すのではなく、親子でゆったりと過ごせるプログラム構成を心かけた。夕方の時間帯は、参加する親子も少人数のことが多く、スタッフとの距離も近くなり、アットホームな雰囲気でのプログラム。(音楽ロビー)
木曜なかよし広場	木曜日	13 45 ～ 14 15	スタッフの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。内容は、遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なダンスなどが中心。(音楽ロビー)
みんなの楽器屋さん	木曜日	15 00 ～ 15 30	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。スタッフが「楽器屋」の店長・店員にふんするという〈あそび〉の演出をしている。活動には女性ボランティアも参加。演奏のみならず、楽器体験時のサポート役としても活躍。レパートリーも増え、アンクルン、トーンチャイム、ミュージックヘルを中心に季節の童謡を演奏。最近では、〔こどもの城〕内の催しにも、演奏で参加している。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
みかんちゃんスの オバオバサンハ!	金曜日 14 15 ~ 14 45	女性ボランティア中心の活動。サンハのリズムに合わせて体を動かす「サンハ新聞」と、手作りシェイカーを使って言葉とリズムで遊ぶ2つのプログラムに取り組んだ。ボランティアの一人ひとりが、プログラムリーダーとしてスキルアップをはかり、活動を支えている。 (音楽ロビー)
音楽あそびマーケット	土曜日 13 30 ~ 14 00	パネルシアターや絵本に音楽を組み合わせて楽しんでもらう鑑賞型の活動と、手遊び、音楽遊びという参加型の活動を組み合わせた。土曜日であることから、幅広い年齢層に楽しんでもらえる内容を心かけた。 (音楽ロビー)
宅配! ミュージック ボックス	土曜日 14 00 ~ 14 30	演奏を聴く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおして、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。時間になると宅配ボックスが届き、その中に紹介する楽器や音楽のヒントが入ってる——という設定。国・地域や楽器の素材、奏法など、さまざまな角度から楽器を紹介した。 (音楽ロビー)
ポコ・ア・ポコ 土曜音楽倶楽部	土曜日 14 30 ~ 15 20	高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「三味線」、2期は「 ^こ 箏」、3期は初めての試みとして「木琴・鉄琴」を取り上げた。どの楽器も、参加した子ども同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなて演奏する楽しさを伝えられるようにした。2月11～13日には、体育・AV・プレイ事業部と企画研修部の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽事業部は、アフリカの太鼓と日本の箏、インドネシアのアンクルンで参加。プレイホールで発表(ミニ・コンサート)も行った。 (音楽ロビー)
みんなてあそぼう! 音楽広場	日曜日・祝日 13 30 ~ 14 00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えたハラエティー豊かなプログラム(「わいわいスタシオ」のある日は実施しない)。 (音楽ロビー)
Oshiro Band ミニライブ	日曜日・祝日 14 45 ~ 15 00 16 00 ~ 16 30 ×「みんなてあそぼう! 音楽広場」がないとき 13 55 ~ 14 15	「クシコスポスト」「トランペット吹きの休日」「トルコ行進曲」など、リズミカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、ハイオリン、フルートなどで演奏。オリジナルアレンジで、スタッフのソロを入れ、来館児・者にアピール。子どもだけでなく、大人も一緒になって手作り楽器を演奏したり、手拍子をしたり、ロビー全体が一体となるライブになった。 (音楽ロビー)
めずらし楽器に チャレンジ	日曜日・祝日 14 00 ~ 14 30 ×「みんなてあそぼう! 音楽広場」がないとき 14 15 ~ 14 45	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。 (音楽ロビー)
わいわいスタシオ	日曜日・祝日 (ほぼ隔週) 13 30 ~ 14 00 15 30 ~ 16 00	演奏者を招いたコンサートと、身近な材料を使って手作りして楽器を作るワークショップの2種がある。ワークショップは、フィルムケースやペットホルルのキャップを利用した鳥笛作り。小学生対象のプログラムと幼児も参加できるプログラムがある。コンサートは「サンハのワークショップ」「草笛」「フラメンコ」「音楽と楽しむ絵本」を実施。クリスマスは2つのコンサート——毎年おなじみになった「モーモーずのようこそクリスマス」(牛にふんした2人が繰り広げるおはなしと遊びのコンサート)、管楽器とピアノと歌で「クリスマスのおくりもの〜ポップクラシックコンサート」(出演した「先生のたまこハント」はわいわいスタシオ初出演)を行い、多くのファミリーに楽しんでもらった。 (Bスタシオ)



わいわいスタシオ「カムランコンサート」



わいわいスタシオ「サンハのワークショップ」

名 称	日 時	内 容
うたってハッピー！ セタスペシャル	7・3・4 11 30 ～ 12 00 13 00 ～ 13 30 15 00 ～ 15 30 × 15 00 は 7・4 のみ	星の飾りを身につけ、子どもたちがステージに上がって歌い、踊る場面を設けた「うたってハッピー！」のスペシャル版。 (音楽ロビー)
トキトキッス オンステージ	H23 2・27、3・6、13、20、21	音楽事業部講座・クラブ発表会をかねる、一般来館児・者向けのコンサート。 □花のお江戸の助六太鼓（和太鼓グループ）＝ 2 月 27 日／ 14 00 ／音楽ロビー □ひらけ！リズム・ムービングのとひら（リズム・ムービング、リズム・ムービング＆パーカッション）＝ 3 月 6 日／ 14 00 ／B スタジオ □イントネシア ジャワ島のカムランのコンサート（カムラン講座）＝ 3 月 13 日／ 13 50 ／音楽ロビー ×東日本大震災のため中止。平成 23 年 6 月 19 日に開催。 □三味線三味（三味線）＝ 3 月 20 日／ 13 30 ／B スタジオ □サンハ・フェスティバル！（レッツ・プレイ・サンハ初級、レッツ・プレイ・サンハ）＝ 3 月 21 日／ 13 30 ／音楽ロビー

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 めずらし楽器に チャレンジ	4・29 5・1～3 14 00 ～ 14 40 14 10 ～ 14 50	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 うたってハッピー！	4・29、5・1～5 11 30 ～ 12 00 13 00 ～ 13 30 15 00 ～ 15 30	平常期間と同じ。5 月 1～3 日は、11 時 30 分と 13 時、4・5 日は 11 時 30 分の回のみ実施。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 ストリートオルカン やってみよう！	" " 12 15 ～ 13 00 16 30 ～ 17 00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 Oshiro Band ミニライブ	4・29、5・1～5 14 55 ～ 15 10 16 10 ～ 16 30	平常期間と同じ。4 月 29 日は 14 時 45 分と 16 時。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 みんなてあそぼう！ 音楽広場	4・29 13 30 ～ 14 00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 みんなてダンス！ ノっちゃって！ おとっちゃって！	5・1～3 13 30 ～ 14 10 15 10 ～ 15 50	「こともの日」にちなんで、子どもたちによりスポットが当たるように工夫したプログラム。体全体を使ったまねっこ遊びのウォーミングアップから始め、次第にそれらが組み合わせたり、知らず知らずのうちにダンスになっているという進行。最後は年齢ごとにステージにあかり、[こともの城] オリジナルソングにあわせて披露する。 (音楽ロビー)
〈 " " 〉 おんかくてあそぼう！ カトカトコンサート	5・4・5 13 00 ～ 14 30 15 00 ～ 16 30	[こともの城] から生まれた、6 人編成のハントの公演。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれが音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、ダンス、民族楽器紹介、シャクリンクなど多彩な内容を展開。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 ストリートオルカンやってみよう!	7/21～8/31 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 みんなてあそぼう夏本番! とれみふぁプレミアム	7/21～8/15 13:15～13:55	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとハラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 夏のこいっしょ ライブ!	7/21～8/15 11:30～12:00 15:00～15:30 8/16～31 11:30～12:00 14:30～15:00	ハント形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、大変人気のあるプログラムであることから、夏休み特別期間をとおして実施した。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ!	7/21～8/15 14:00～14:45 8/16～31 13:00～13:45 15:00～15:45	世界の民族楽器を紹介するコンサート。8月16日からは「めずらし楽器にチャレンジ!スペシャル」。1日に2回、内容を変えて実施。宿題に役立ててもらおうと、期間前から演目の予定表を配布したり、参加者には楽器のイラストと解説を書いた「オリジナル楽器カイト」をプレゼントした。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	7/21～8/15 13:00～13:15 14:45～15:00 16:00～16:30 8/16～31 14:10～14:30 16:00～16:30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈冬休み〉 みんなてあそぼう音楽広場	12/25 13:30～14:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ スペシャル	12/25 14:00～14:30 12/26～28 13:00～13:30 15:00～15:30	12月25日は平常期間と同じ。26～28日は、13時の回か和太鼓・箏・三味線などの日本の楽器、15時の回かインドネシア・ブラジル・中国などの楽器を特集。演奏と体験を行った。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってハッピー	12/25 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30 12/26～28 11:30～12:00 14:30～15:00 H23/14～10 11:30～12:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルカンやってみよう!	12/25～28 12:15～13:00 H23/13～10 16:30～17:00	平常期間と同じ。1月3日は12時30分から。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	12/25、H23/13～10 14:45～15:00 16:00～16:30 12/26～28 14:10～14:30 16:00～16:30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってファミリー	H23/13～10 13:00～13:40 15:00～15:40	家族そろって出かけることの多いお正月に、大好評のプログラム。家族でエントリーして、生ハントの演奏にあわせてステーションで歌を披露。1回に8組の家族がエントリー。0～11歳の子ともたちが親子で出演。子ども用のカラフルな小型マイクを用意したり、AV事業部の協力で、館内テレビでライブ中継を行った。今回、オリジナルのテーマソングもてき、華やかなステーションになった。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 日本のタイコ やってみよう	1/3～10 13:50～14:15	お正月の和太鼓の体験は初めての試み。スタッフによるデモンストレーション演奏の後に体験。4歳以上は立ってたたく中太鼓、小さな子どもたちは保護者と一緒に締太鼓に参加。年齢によって太さの違うハチを用意して、体験しやすくした。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 日本のお箏 やってみよう	1/3～10 14:15～14:45	箏だけでなく、三味線も取り上げた。スタッフによるデモンストレーション演奏(箏＝さくらさくら、三味線＝すいすいすくろはし)の後、体験の時間になる。年齢制限はないので、小さな子どもも体験できて、保護者も満足な様子であった。(音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 あそび横丁みんなて ハシけてへへのへん	3 25 ～ 4 5 13 15 ～ 14 00	新プログラム。手作りの弦楽器“へへん”を鳴らすと、天井に光の“種”が現れる。“種” か柱にとまったら、そっと近づいて「たね、くん、ぱっ」(たね 種を握るようにネックを 握る／くん 芽かくん、と伸びるようにネックを上げる／ぱっ 花が咲くようにジャンプ) の呪文開始。みんなの演奏が盛り上がると、柱にとまった“種”から花が咲く、という仕 掛け。最後はオリジナルソング「たねくんたねくん」で“へへん”を鳴らし、ポーズをキ メます。(音楽ロビー)
〈 “ ” 〉 うたってハッピー！	3 25 ～ 4 5 11 30 ～ 12 00 15 00 ～ 15 30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 “ ” 〉 ストリートオルガンやってみよう！	“ 12 15 ～ 13 00 16 30 ～ 17 00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 “ ” 〉 Oshiro Band ミニライブ	“ 13 00 ～ 13 15 16 00 ～ 16 30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 “ ” 〉 めずらし楽器にチャレンジ	“ 14 00 ～ 14 40	平常期間と同じ。(音楽ロビー)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム・ムービーク	(人) 3 ～ 5 歳児 (20)	(人) ① 11 ② 9 ③ 6	火曜日 15 30 ～ 16 20 (全 31 回)	身の回りのことからリズムを感じさせ、感覚を揺り動かし、創造性をはくくむ。 打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを演奏できるオルフ楽器を使用。本 年度で閉講。受講料＝ 1 期 20,500 円、2 期 17 500 円、3 期 15,500 円。
リズム・ムービーク & パーカッション	小 1 ～ 6 (15)	① 9 ② 8 ③ 7	火曜日 16 30 ～ 17 20 (全 31 回)	リズムによる自己表現を行う。読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏 法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行 う。本年度で閉講。受講料＝ 1 期 20,500 円、2 期 17,500 円、3 期 15,500 円。
みんなて楽しい リトミック I	(組) 3 歳児と親 (20)	(組) ① 18 ② 16 ③ 15	水曜日 14 00 ～ 15 00 (全 32 回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親 子のコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うこと をめざしている。受講料＝ 1 期 19 000 円、2 期 20,500 円、3 期 15 500 円。
“ ” II	4 歳児と親 (20)	① 17 ② 16 ③ 13	水曜日 15 00 ～ 16 00 (全 32 回)	I (初級)でつちかかってきた、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心 かけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達をうながす。 受講料＝ 1 期 19,000 円、2 期 20,500 円、3 期 15,500 円。
“ ” III	5 歳児と親 (20)	① 22 ② 21 ③ 21	水曜日 16 00 ～ 17 00 (全 32 回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士 の接触の機会が多くなる時期。ここでは音楽を楽しみながら、次へのステップ アップをめざす。受講料＝ 1 期 19,000 円、2 期 20 500 円、3 期 15,500 円。
おんかく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック I	ダウン症の 2 歳 6 か月 ～ 6 歳児と 親 (10)	① 10 ② 10 ③ 10	木曜日 15 00 ～ 16 15 (全 29 回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみ ながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目 的の一つとして活動を行っている。 受講料＝ 1 期 20 000 円、2 期 20,000 円、3 期 18 000 円。
“ ” II	I 修了の 小 1 ～ 6 (10)	① 14 ② 14 ③ 14	木曜日 16 30 ～ 17 45 (全 29 回)	I のステップを修了した小学生を対象としたクラス。活動をととし、親から の自立、表現能力、運動能力の発達を、音楽を楽しく学びながらうながす。 受講料＝ 1 期 20 000 円、2 期 20,000 円、3 期 18,000 円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
和太鼓グループ	(人) 小3～高3 (12)	(人) ① 12 ② 12 ③ 12	土曜日 1400～1530 (全32回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
レッツ・プレイ・サンハ I ～演奏とステップ～	小1～4 (10)	① 13 ② 12 ③ 11	土曜日 1300～1400 (全15回)	低学年向け初級講座は、サンハ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。“サンハ”をとおして、仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じてもらう。受講料＝各期7,000円。
レッツ・プレイ・サンハ II	小4～高3 (10)	① 13 ② 11 ③ 13	土曜日 1530～1700 (全15回)	ブラジルの打楽器を使い、サンハのリズムを楽しくアンサンブルする「レッツ・プレイ・サンハI」の進級コース。本年度からステップの活動も加え、より幅広い活動に変化した。高度で力強い演奏を展開。受講料＝各期7,000円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 36 ② 33 ③ 32	土曜日 1400～1530 (全32回)	遊ぶことをとおして、無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動。修了後は、「児童合唱団I、II」へ。受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座 修了者・40)	① 47 ② 47 ③ 44	土曜日 1530～1730 (全32回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験。総合的にプログラムを展開。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
〃 II	小4～中3 (合唱講座 修了者・80)	① 135 ② 135 ③ 130	土曜日 1700～1900 (全32回)	
混声合唱 ～こどもに聞かせる おとなのコーラス～	高校生以上 (40)	① 79 ② 79 ③ 78	土曜日 1930～2100 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめさし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
三味線A(初心者)	小2～高3 (12)	① 6 ② 6 ③ 5	日曜日 1000～1130 (全32回)	各種演奏会にOB・OGとともに参加し、一緒に演奏をした。「こどもの城三味線講座 開講25周年記念公演」(9月26日/Bスタジオ)、「《アジア音楽祭2010 in 東京》の「藝大とあそぼう2010 アジアの子ともサミット(邦楽器による子どものためのコンサート)」(10月2日/東京藝術大学奏楽堂・同演奏芸術センター/東京藝術大学音楽学部主催)、講師として長年指導にあたられた故・田島佳子さんの「東音田島佳子 七回忌追善 三味線のつとめ」(11月23日/紀尾井 小ホール/三味線のつとめ実行委員会主催)など。本年度で閉講。受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。
〃 B(経験者)	小2～高3 (12)	① 9 ② 9 ③ 9	日曜日 1130～1245 (全32回)	
カムラン講座	小1～高3 (15)	① 7 ② 9 ③ 9	日曜日 1330～1500 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「カムラン」の初心者と継続者のクラス。三味線講座と同様に「藝大とあそぼう2010 アジアの子ともサミット」(10月2日/東京藝術大学奏楽堂・同演奏芸術センター/東京藝術大学音楽学部主催)に出演。コンサートとワークショップを実施した。講座生にとっても、練習の成果を披露するの格好の場となり、励みになっていた。本年度で閉講。受講料＝1期19,000円、2期20,500円、3期15,500円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんかく星みつけた～就園前のリトミック～	(組) 2歳児と親 (30)	(組) ① 30 ② 28 ③ 27	木曜日 1030～1130 (1・2期10回、3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめさす。受講料＝1・2期17,000円、3期15,500円。

〈短期講習会〉

名 称		対象・定員	受講数	日 時	内 容
音楽体験ワークショップ	Dance ^{カンコイ} [E] プロジェクト Vol.4	(人) 小2～6 (15)	(人) 15	8 17 10 30～16 00 8 18 10 30～15 00 (2日間コース)	本年度も2日間コース。オリジナルの曲にヒップホップを基調とした振り付けて、子どもたちが考えた振りも取り入れた。18日には、音楽ロヒーのステーションで、生ハントをハックに来館児・者に向けて練習の成果を披露。受講料＝2,500円。 (Bスタジオほか)
	ふれよう世界の音楽 アフリカン・ シェンヘ	小1～高3 ×小4以上は 子どもだけの 参加も可。中 級編は、これま でに「シェン ヘ」コースを 受講した人 (20)	15 11	8 22 (初級編) 13 00～15 30 8 29 (中級編) 13 00～15 30	22日は、ワカン・ンシャエ・ロースさん(西アフリカ・セネカルのパーカッションリスト)に西アフリカのリズムを教えてもらう初級編。少しずつリズムを覚え、最後にはワカンさんと共演するミニコンサート。29日は、これまでに実施したワークショップでシェンヘを製作した人が対象。“マイ・シェンヘ”を持参し、ワカン・ンシャエ・ロースさんのパワフルな指導で、演奏技術を高めた。質問コーナーを設け、講師との親睦をはかりながら進めた。受講料＝親子ペア4,000円、子どものみ2,000円。 (Bスタジオ)
手作りリサイクル楽器フェスティバル	ゴム楽器 ぶんぶん丸	小1～高3 ×小4以上は 子どもだけの 参加も可 (20)	計 31	8 21、23、27 13 00～15 30	身の回りにある材料や廃材を素材として使った楽器作りと演奏。リサイクル手作り楽器と命名。新規プログラム。主な材料は割りばしと幅の広い輪ゴム。意外性のある“ブーンブーン”という大きな音を楽しんだ。受講料＝親子ペア2,200円、子どものみ1,100円。 (Bスタジオ)
	ヒヨヨン お風呂マイク	// (20)	計 34	8 24、26、28 13 00～15 30	新規プログラム。主な材料はプラスチック製のコップとはね。簡単な工夫により、お風呂で歌を歌った時のようなエコー感覚が作れ、意外性のある音を楽しんだ。受講料＝親子ペア2,200円、子どものみ1,100円。 (Bスタジオ)

3. その他

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
こともの城児童合唱団 夏季合宿 (新潟県)	8 22～26	新潟県立ことも自然王国で行われた26回目の合唱団の合宿は、老人ホームの慰問や、地元小・中学校を招待しての交流コンサート。また、自然王国職員との共同プログラムを展開し、新潟の自然や多くの人との出会いを楽しんだ。
こともたちからのサウ ントメッセージ	H23 3 12・13 (中止)	合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱が出演する「たくさんの一歩」、おかあさんもいっしょリトミックⅠ・Ⅱ・Ⅲ、おんかく大好きミュージックパーク、合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱が出演する「くさのめちゃんの音楽会」を青山円形劇場で開催する予定だったが、東日本大震災ため中止。4月10日に、東日本大震災チャリティー公演「こともたちからのサウトメッセージ～たくさんの一歩～」を青山劇場で開催。



トキトキッズオンステージ「三味線三味」

A^(オーディオ・ビジュアル)V 事業部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

開館 25 周年を迎えた本年度は、「こどもの城」を取り囲むさまざまな社会状況の影響もあり、これまで以上に、事業の効率的な運営、企業などとの連携が求められた。AV 事業部も、運営人数が削減となるなか、できるだけ効率的な運営をめざしながら、質の維持・向上を担保するように努めた。

長期的な視点に立つと、ビデオ機器の家庭への普及、ビデオ・オンデマンドをはじめ、インターネットによる映像配信の普及など、映像を取り巻く社会状況を考えた場合、ビデオライブラリーの役割は少しずつ縮小していくことが予測される。一方、子どもたちの科学離れはなかなか歯止めがかからず、知的な好奇心を触発するような、科学的要素を内包した遊びの必要性は高まっていくことが予測される。そのため、これまでの「サタデー・ラボラトリー」などの取り組みに加えて、より積極的に“科学遊び”にも取り組んでいくことが必要であると考え、そのための構想を練り始めた準備期でもあった。

2. ビデオライブラリー「歴史特集」

ビデオライブラリーは、22,000 タイトル以上の映像作品を所蔵する“ビデオの図書館”。前年度から年間テーマを設定し、視聴促進活動を実施している。

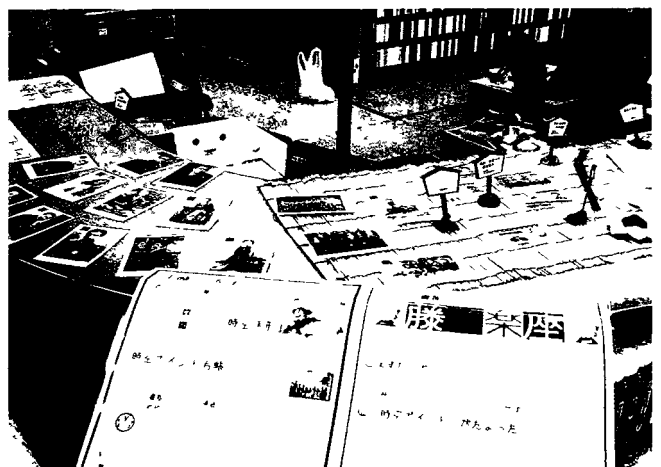
本年度は、子どもたちに遊びを通して日本の歴史にも関心を持ってもらいたいと考え、〈歴史〉をテーマに設定した。特別期間ごとのプログラムを関連づける上で、年間を通じて「時空図書館」のタイトルをつけて、時空を超える探検家・ニャン丸というキャラクターを設定し

てイベントを展開した。特別期間ごとに、大きく 3 つの時代「戦国時代」「幕末」「昭和（1960 年代）」に分けて行った。

催しを実施する上で、展示が単なる知識を得るためだけの展示にならないように、遊びとのつながりを常に意識した。展示にあわせて、展示内容がヒントとなるようなクイズを実施したり、パソコンを活用した「福笑い」「神経衰弱」なども設置した。また、「戦国時代」では鎧兜の展示、「幕末」では等身大「坂本龍馬像」などを作成し、子どもたちの目をひくようにした。

特集の第 1 弾（春休み特別期間）と第 2 弾（ゴールデンウィーク特別期間）は、「戦国時代」をテーマに実施。戦国武将のパネルや鎧兜の展示、子どもたち自身が戦国武将になれる兜作りのコーナーを設置した。

第 3 弾（夏休み特別期間）のテーマは、「幕末」。幕末関連の話題がメディアでも取り上げられることが多く、実施時期としてタイミングがよいものとなった。幕末の



ビデオライブラリー特集「時空図書館」

人物は個性的であり、クイズなどのゲームも充実した内容のものができた。夏休み特別期間の最後には、館内ラリーを実施。動線の確保や内容など、苦労した点もあったが、多くの子どもたちが参加してくれ、よいイベントとなった。

第 4 弾（冬休み特別期間）は「昭和（1960 年代）」をテーマに実施。テレビアニメの草創期であり、懐かしいアニメや特撮作品などを中心に特集した。あわせて、おもちゃの展示なども行った。子どもだけでなく、保護者にとっても新鮮であり、親子でタイムスリップ気分が味わえる内容となった。年明けからは、「駄菓子屋」も実施。大いに盛り上がった。

今回、歴史をテーマに事業展開したが、遊びと結びつけるためには、展示やクイズなどだけでは難しく、スタッフが積極的に子どもたちとかわかることで、遊びと結びつけることが可能となったように感じる。また、ビデオライブラリーの視聴促進という点では、第 4 弾の「昭和（1960 年代）」については一定の成果が見られたが、まだまだ工夫の余地があると感じた。

3. その他の活動

（ア）「サタデー・ラボラトリー」から「小学生ラボ」へ

土曜日の小・中学生プログラムとして、プレイ事業部と共同で実施してきた「サタデー・ラボラトリー」の実施スタイルを本年度から大きく変更した。

これまで、2つの事業部で担当する日を決め、分担してプログラムを実施してきた。しかし、経費削減に伴うスタッフ数の減少をカバーするため、実施する日は基本的に両事業部共同でプログラムを行うこととした。また、一部の小学校で任意の土曜日に授業が行われるようになりつつあることを踏まえて、土曜日から土・日曜日へと実施日を変更。隔週土曜日（月 2 回）実施していたも



集まれ！小学生～小学生ラボスペシャル「機械の中をみてみよう」

のを、月 1 回にした。年間実施日数を前年度と同程度にすることで、材料費や実施スタッフの負担を調整した。

土曜日に実施する科学プログラムという意味の「サタデー・ラボラトリー」というタイトルも、実施曜日の変更にともない、2 期から「小学生ラボ」に変更した。小学生が対象のプログラムであることを強く表現する目的もある。

□「小学生ラボ 夏休みスペシャル」の実施□

例年、夏休み特別期間の前半にスペシャルプログラム「サタデー・ラボラトリーまつり」を実施してきたが、本年度は実施時期を夏休み後半に変更した。

これは、夏休み特別期間前半の小学生の来館が年々減少しつつある（「サタデー・ラボラトリーまつり」の参加者は、平成 17 年＝05 年が 1 日平均 79 人、平成 21 年＝09 年が 1 日平均 63 人）ことへの対応と、夏休み特別期間後半の小学生向けのプログラムが、やや乏しいのではと考えたからである。また、夏休み後半になると、自由研究の素材探しなどの需要もあるだろうと見込んだこともある。

参加人数については、実施時期を遅らせたことがよかったのか、1 日平均 124 人の子どもたちでにぎわった。参加人数は、〔こどもの城〕全体の来館児・者数の傾向に大きく左右されるため、数年継続しなければ、効果のほどを判断することは難しい。また、数年を経ると来館児・者全体の傾向が変わるため、来館児・者のニーズにあう実施日を的確に導き出すことは、容易ではないと思われる。

新規プログラムとして、熱を加えることで現像ができる特殊な感光紙を使用した「日光写真にチャレンジ」と、遠近法を利用してふしぎな立体感を体験する「遠近法であそぼう」がある。また、以前実施していた視覚がん具のプログラム「ライトパノラマ」（風景写真に針で穴を開けて、夜景のイルミネーションを再現する）をリニューアルした。風景写真の素材が 10 年以上前のものだったため、写真を新たに撮影し、東京の新旧の風景も楽しめるように試みた。

□「集まれ！小学生」の実施□

毎年 2 月の建国記念日の週に、〔こどもの城〕の小中学生プログラムを特集した「集まれ！小学生」を実施している。AV・プレイ事業部共同の「小学生ラボ」、体育事業部の「ビッグサタデー」、造形事業部の「クリエイティブコーナー」、音楽事業部の「ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部」の 4 プログラムが、それぞれスペシャル版を実施する。

本年度の「集まれ！小学生」では、各プログラムがスペシャル版であるに加えて、参加した子どもたちの

活動発表を行った。「小学生ラボ」では「機械の中をみてみよう」を実施。家電などを分解し、でてきた部品を写真に撮影し、そこへ感想を書き込んでもらった。

音楽のプログラムのよう「発表」という形式に向いているものもあった反面、「小学生ラボ」「ビッグサタデー」のように「発表」という行為に結びつけるのが難しいプログラムもあった。それぞれの活動内容に、より適した発表形式を模索することが、今後の課題である。

“発表”をとおして、参加した子どもたちの“声”が聞こえてくる可能性があると考えている。「集まれ！小学生」では、今後も“発表”という形式をとおして、参加した子どもたちの“声”をひき出していくように取り組みたい。

（イ）団体や企業とのタイアップ

〔こどもの城〕では、社会情勢の変化に伴い、近年では団体や企業などとのタイアップに少しずつ取り組むようになってきている。本年度はAV事業部でも、今まで以上に積極的にタイアップに取り組んだ。

団体とのタイアップでは、JAXA（独立行政法人 宇宙航空研究開発機構）と宇宙教育ワークショップを実施した。宇宙教育指導者向けのワークショップと、JAXAの講師によるロケットをテーマとした小学生向けのプログラム「コズミック・カレッジ」を行った。企業とは、トヨタ自動車㈱とタイアップして「TOYOTA 科学のひっくり箱！なぜなにレクチャー」を「小学生ラボ」のスペシャルプログラムとして実施した。

どちらもプログラムとして非常に完成度が高く、参加者からは大変好評だった。また、〔こどもの城〕の来館児・者層としては少ない、高学年の子どもたちの参加者が多いことも特筆すべきことである。今後も、さまざまな団体・企業とのタイアップを検討していきたい。

ビデオライブラリーには、映画会社などからのタイアップの打診が多いが、実際には双方にメリットがある形でプログラムを実施することはなかなか難しく、本年度は映画『アーサーと魔王マルタザールの逆襲』と『ガリバー旅行記』の2作品とのタイアップのみを実施した。『ガリバー旅行記』では、ビデオライブラリーを活用した館内クイズラリーを実施したこと、ピロティに巨大なガリバーの靴を展示するなど、これまでにない取り組みとなり、今後のタイアップの大きな参考となった。

（ウ）プログラムアレンジの課題

25周年記念事業「みんな集まれ！チャレンジ25」のなかで、いくつかのプログラムをリニューアルして実施した。

JAXA コズミックカレッジ・スペシャルプログラム



「不思議な映像実験室」のなかで実施した「おはなしばたばたアニメ」は、機材の進歩がめざましく、以前はビデオカメラとビデオデッキで行っていたものが、デジタルカメラとパソコンで制作できるようになり、プログラムの流れも大きく変わってきた。新しい機材に適合するよう、「おはなしばたばたアニメ」のワークフローを再構築して対応した。

この作業のなかで気をつけたことは、対象年齢を現在の〔こどもの城〕の来館児・者層にいかにかマッチさせるかということである。「おはなしばたばたアニメ」は、小学校高学年対象で行ってきたプログラムだが、現在の来館児・者の主流は幼児から小学校低学年である。10月と11月の2回の実施のあいだに、よりワークショップの内容を理解しやすい用紙への改良や、幼児でも体験しやすい作業量の調整などを試みた。結果的には“ストーリーを作る”という作業自体が幼児には困難で、今後とも改良の必要があると思われる。

「小学生ラボ スペシャル」では、前身の「サタデー・ラボラトリー」の第1回のプログラムを取り上げた。会場が、落ち着いて作業ができるフリーホールから、遊具などで遊ぶ子どもたちの歓声が響き、“落ち着いて、じっくり作業をする”には難しい環境であるプレイホールに移動したこともあり、プログラムの進め方も工夫した。

また、数年前に可能であった作業が、同じ年齢の子どもにとって、難しい作業になっているようにスタッフは感じているので、プログラムをリニューアルするにあたっては、より体験しやすいものにすることを心がけた。言い換えれば、より簡単に体験できるようにアレンジを加え、興味を持った子どもはより深い内容を体験できるように、体験のバリエーションを作るようアレンジした。

〈環境〉や〈子どもの変化〉への対応を工夫することで、常に新鮮で、子どもたちが楽しく参加できるプログラム

とり+かえっこ屋



を提供することができる。プログラムをどのようにアレンジしていくかも、大切な課題だと考える。

(エ) ビデオライブラリーの居場所機能の充実

ビデオライブラリーは、多くのビデオ作品を楽しむ機能だけでなく、一部の子どもたちにとっては〈居場所〉としての機能を果たしている。〔こどもの城〕に来館すると、まずビデオライブラリーに顔を出し、スタッフに一言声をかけ、ビデオを見てから音楽ロビーや造形スタジオに遊びに行く。遊び疲れると、再びビデオライブラリーに戻ってくるという感じである。

〈居場所〉としての側面も、ビデオライブラリーの大切な機能でもあり、これから充実させていきたいと考え、「とり+かえっこ屋」というプログラムを試行的に実施した。これまで全館的に取り組んできた「とり+かえっこ」を小規模にし、“銀行”“お仕事相談所”などとそれ

ぞれ独立していたものを、すべて集約して“よろず屋”として行うものである。

ビデオライブラリーを〈居場所〉として利用している子どもたちに声をかけ、「とり+かえっこ屋」の店主となってもらい、おもちゃの交換からゲームコーナーの運営までを行った。当日遊びに来た子どもたちも、参加者として楽しめるので、運営側として参画して新たなゲームを考えたり、店員として働いたりしていた。

店主として参加した子どもたちは、プログラム運営に参画することで、スタッフや来館児・者から認められ、“認められた”という感情が、〈居場所〉としての思いを強くしているのだと感じた。今後も定期的の実施することを検討していきたい。

4. まとめ

開館25周年を迎えた本年度は、社会の情勢の変化に伴い、〔こどもの城〕を取り囲む状況も激変した年であり、それに対応していくために、事業の運営についてもさまざまなマイナーチェンジが必要な年であった。

ビデオライブラリーについては、システムの耐用年数の問題もあり、中・長期的な視野から新たな姿を模索していく必要がある。また、映像を取り巻く状況の変化により、AV事業部の活動も少しずつ変化が求められている。

これまで蓄積してきた映像関係のノウハウを十分に生かしながら、オーディオ&ビジュアルという範疇だけでなく、より広く科学的な遊びについても今後取り組んでいきたいと考えている。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ヒテオライブラリー 自由利用	開館時間中	幅広いジャンルの特集ソフト 22,000 以上のタイトルを所蔵するヒテオの図書館。利用者は、35 のブース (小部屋) で好みのソフトを視聴できる。 (ヒテオライブラリー)
親子の ZOO っと広場	火～金曜日 12 30 ～ 17 00	ヒテオライブラリーの一角に設置した乳幼児と保護者のための小さな広場。木のおもちゃやぬいぐるみなどを設置している。 (ヒテオライブラリー)
おもしろヒテオ館	金曜日 15 30 ～ 16 00	ヒテオライブラリーにある上映可能なヒテオソフトから、テーマを決めて選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあとに手作りの絵本を作っている。 (B スタジオ)
なかよし映像広場	金曜日 13 30 ～ 14 00 (月 1 回)	乳幼児親子を対象とした映像遊びプログラム。スクリーンに映し出される映像を見て、まねっこ遊びをしたり、色を感じる照明遊びなど。親子のコミュニケーションやスキンシップなどを、遊びとおして感じてもらう。 (B スタジオ)
不思議な映像実験室	土曜日 15 30 ～ 17 30 第 4 日曜日 12 30 ～ 17 30	映画発明以前からあった、絵が動いてみえるおもちゃ (視覚かん具) の展示とワークショップ。日曜日版は、スタッフ数の削減にともない、開場時間を 11 時から 12 時 30 分に変更し、3 つの特別ワークショップを 2 つにした。土曜日版は、2 枚の絵を描いてつくる「くるくるアニメ」や円盤のウラとオモテの絵が合成されてみえる「ソーマトロープ」の工作、ボランティアスタッフの協力による視覚かん具の紹介を実施。年度末には、使用するモニターのワイド化にともない、ぱたぱたアニメの作画サイズを 16 9 の縦横比に変更した。 (土曜日 音楽ロビー／日曜日 B スタジオ)
サタデー・ラボラトリー 改め 小学生ラボ	土・日曜日 (月 1 回) 13 00 ～ 16 00	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。小学校の部分的な土曜日授業の復活などに対応し、隔週土曜実施から、月 1 回土・日曜日実施に変更。これに伴い 2 学期より「サタデーラボラトリー」から「小学生ラボ」に名称変更。(プレイホール)
こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	第 2 日曜日 13 35、14 35、15 35	フィルム・コレクション「武蔵行雄記念文庫」収蔵の NFBC のアニメーション作品を上映。本年度から上映回数を 3 回に変更。 (B スタジオ)
映画をみよう！『アーサーとミニモイの不思議な国』上映会	4 17 12 45 / 15 00	『アーサーと魔王マルタサールの逆襲』の公開に先駆けて実施したタイアップ事業。映画館さながらの上映会を実施した。 (フリーホール)
GO! GO! ミニウィークル	6 5・6 / 9 11・12 / 12 4・5 11 00 ～ 17 00	プラレールで遊べるコーナー。本年度は、ワイヤレスリモコンでプラレールを操作できる運転台を用意し、シオラマのなかを走らせるコーナーも設置した。 (フリーホール)
秋まつり 星空映画会	9 18・19 18 15 / 18 45	「秋まつり」のイベントの一つとして、屋上ふしきが丘からヒテオライブラリー・造形スタジオの壁面につるした白いシートに 16 mm 映画の上映を行った。 (屋上ふしきが丘)
みんなてかざろう クリスマス	11 20 ～ 12 25 開館時間中	「親子の ZOO っと広場」に折り紙のクリスマスツリーが作れるコーナーを設置。季節行事の一環として実施した。 (ヒテオライブラリー)
とり+かえっこ屋	11 21、12 9 13 00 ～ 17 00	「とり+かえっこ」を小規模にした個人商店のようなもの。システムはほぼ同したか、子どもたちとのコミュニケーションが密にはかれ、子どもたちの参画場面を臨機応変に作るこ (ヒテオライブラリー・4 階ロビー)
GO! GO! ウィークルへく ラシックカーがやってくる！	11 27・28 11 00 ～ 16 00	ピロティに、クラシックカーが来ることにあわせて、チョロQで遊べるコーナーを設置した。 (ヒテオライブラリー)
小学生ラボスペシャル 「TOYOTA 科学のひっくり箱！なせなにレクチャー」	12 11 14 00 ～ 16 00	トヨタ自動車㈱の社会貢献活動「科学のひっくり箱！なせなにレクチャー」シリーズから「二足歩行ロボット」のワークショップを実施。定員 24 人 (申し込み 24 人出席 23 人)。事前募集。参加費無料 (割引引き入館券が必要 100 円)。 (プレイホール)
Go Go! ウィークルへ開幕！フーバーサーキット GP	H23 1 29・30 11 00 ～ 17 00	チョロQで遊ぶコーナーのほか、ペダルカーの体験コーナー、赤外線操作できるミニカーのコーナーを設置した。 (フリーホール)

名 称	日 時	内 容
小学生ラホスペシャル	2 11 ～ 13 12 30 ～ 16 30 (受け付け時間)	小学生プログラム特集「集まれ！小学生」の一環として、「機械の中をみてみよう」を実施。家電などの身近な機械を分解し、その仕組みに触れるプログラム。「お気に入り」の部品を写真に撮影し、そこにコメントを書きくわえてプレイホールに掲示した。(プレイホール)
JAXA 宇宙教育ワーク ショップ	2 19・20	JAXA（独立行政法人 宇宙航空研究開発機構）との共催。宇宙教育関係者の育成・情報交換を目的としたセミナーを実施。 (会議室)
JAXA スペシャル上映会／ かさ袋ロケット工場	〃	宇宙教育ワークショップの一環として、「小型惑星探査機『はやぶさ』の帰還」などのヒテオ上映会（14 時と 15 時）および、かさ袋を利用してロケットを作るワークショップ（11 時～ 17 時）を実施した。 (フリーホール・ビデオライブラリー)
JAXA コズミックカレッシ・ スペシャルプログラム	2 20 10 15 ～ 12 15	「宇宙の謎をさくってみよう」というタイトルで、大気圧やロケットの実験をしなから、宇宙にかんするさまざまなエピソードを紹介するプログラム。事前申込み制。 (フリーホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ビデオライブラリー特集「時 空図書館もっと戦国時代～み んなてなろう！戦国キッズ～」	4 29 ～ 5 5 開館時間中	ヒテオライブラリー視聴促進活動 ― 歴史作品の紹介と特集イベント。歴史特集の第 2 弾として春休み特別期間に引き続き「戦国時代」をテーマに、有名戦国武将をパネル展示や、自分自身が戦国武将になれるゲーム（戦国ラリー）やパソコンゲームなどを展開した。 (ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 キャスルクエスト 2010 紋章の騎士団	5 1 ～ 5	企画研修部とプレイ事業部のプログラム。最終場面となるチャンケンゲーム会場の運営。チャンケンの組み合わせ表の、コンピュータでの自動化などを試行。 (B スタジオ)
〈夏休み〉 ヒテオライブラリー特集 「時空図書館～夏た！発見・ 冒険！幕末トラヘル！～」	7 21 ～ 8 31 開館時間中	ヒテオライブラリー視聴促進活動 ― 歴史作品の紹介と特集イベント。歴史特集の第 3 弾として時代の激動期の「幕末」をテーマに、有名な幕末の人物のパネル展示、等身大坂本龍馬像の設置、幕末にちなんだクイズゲームなどを実施。夏休みの終わりには、坂本龍馬、西郷隆盛、土方歳三をモチーフにした幕末ラリーを行った。 (ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	7 24 ～ 8 1 11 00 ～ 17 00	視覚かん具の展示とワークショップ（2 枚の絵を描いてつくるアニメおもちゃ「くるくるアニメ」を実施）。動きの参考になるイラストが印刷された 2010 年版の用紙作成に加え、25 周年のロゴの周知のために、25 周年バージョンの用紙も作成。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 アニメフェスタ 2010	8 4 ～ 15 11 00 ～ 17 00	円盤の円周上に描いた動画が動いてみえる「驚き盤」を特殊なヒテオ装置で撮影してテレビに映す「円盤アニメ」コーナーと、パソコンでアニメ撮影を体験するコーナー（5 種類）を設置。パソコンでの撮影コーナーには、今回新たに人形アニメ用の骨格を動かしてみるコーナーを加えた。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 小学生ラホ 夏休みスペシャル	8 28 ～ 31 12 30 ～ 16 30 (受け付け時間)	小中学生を対象とした科学遊びプログラムの特別版。「日光写真にチャレンジ」(28 日)、「ライトパノラマ」(29 日)、「すすめポンポン船」(30 日)、「遠近法であそぼう」(31 日) の日替りプログラムのほか、期間中毎日「3 面ソーマトロープ」を実施。 (プレイホール)
〈冬休み〉 ビデオライブラリー特集 「時空図書館～おいでや！よう こそ！なつかし横丁へ～」	12 25 ～ H23 1 10 開館時間中	ヒテオライブラリー視聴促進活動 ― 歴史作品の紹介と特集イベント。歴史特集の第 4 弾として「昭和」をテーマに、お父さん・お母さん世代のアニメ作品や昭和 30 年代のモノクロ作品などを特集。ヒーローやアニメキャラクターなどのパネルや当時のおもちゃなどの展示、日光写真の体験コーナー、クイズやパソコンゲームなど。1 月 3 ～ 10 日には、駄菓子屋“よってけ屋”もオープン。 (ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 ひっくりヒテオ広場	1 3 ～ 10 11 00 ～ 17 00 × 3 日は 12 30 ～	ヒテオのミラーエフェクトを楽しむコーナーなど、ヒテオを使った遊びを体験する展示型のプログラム。制作コーナー「赤青アニメ」、「自分のニュース」を発表する「お城 TV ニュースキャスター体験コーナー」も行った。 (B スタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 ビデオライブラリー特集「ミラクルライブラリー〈冒険特集〉〜春くる!ミラクルアトヘンチャー〜」	3 25 ~ 4 5 開館時間中	ヒデオライブラリー視聴促進活動。“冒険”をテーマにした映像作品を特集。冒険・探検小説の作品紹介の展示パネルや実際に本を手にとって読めるコーナーの設置。 (ヒデオライブラリー)
〈 “ ” 〉 カリハー旅行記〜小人の国探検ツアー〜	H23 3 25 ~ 4 5 11 00 ~ 15 30 (受け付け時間)	館内ラリー、「小人の国探検ツアー」を実施。3 分程度の導入ビデオを見たのち、指示にもとづいて館内にあるポイントを探し、課題に挑戦。ヒデオライブラリーを利用する形は初めて。映像を活用した遊びとして、今後も試行錯誤を続けていきたい。映画『カリハー旅行記』(20 世紀フォックス映画)とのタイアップ。 (ヒデオライブラリー)
こどもの城映画劇場 すてきな絵本のアニメーション	4 1 ~ 5 11 35 / 13 35 / 14 35 / 15 35	渋谷区視聴覚ライブラリーから借用した、エリック・カールの絵本を映像化した作品と、ヒデオライブラリー所蔵のムーミンのアニメーション作品を上映。A プログラム〈エリック・カールコレクションⅠ〉= 『はらぺこあおむし』『たんまりこおろき』『こちゃませカメレオン』。B プログラム〈エリック・カールコレクションⅡ+トーハ・ヤンソン〉= 『パパおつきさまとって』『うたかみえる、きこえるよ』『それからとうなるの?』。1 日の 11 時 35 分の回、5 日の 15 時 35 分の回はお休み。 (B スタジオ)
館内テレビ自主放送 「お城 TV」	特別期間	特別期間の催し案内を中心に、各部を取材して番組を作成。館内テレビで放送した。必要に応じて、平常期間にも番組を作成・放送。 (映像調整室/マスターコントロール室)

2. 講座・クラブなど

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み こ と も 映 像 研 究 室	(人) 計 40 小 1 ~ 高 3 (子ども 1 に保 護者 1 同伴可 / 各回 10)	(人) 計 97 小 3 ~ 高 3 (① 14、② 10)	7 24・25 ① 10 10 ~ 12 40 ② 14 00 ~ 16 30	紙コップで作った人形を背景セットに配置して、パソコンでコマ撮り。オリジナルのアニメ作品を作る。作品の動画データは CD-R 化して持ち帰る。今回は、会場の広さを確保するため 11 階会議室を使用したか、しゅうたん敷のため撤収時の清掃に苦労した。受講料= 2,000 円。 (会議室)
			7 24 ~ 27 ① 13 00 ~ 14 45 ② 15 30 ~ 17 15	塩化ビニールパイプやホール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡“マックロースコープ”を作る。1 日 2 回実施の 1 回目を 14 人、2 回目を 10 人として募集。受講料= 2,300 円。 (B スタジオ)
			7 29 ~ 8 1 ① 13 00 ~ 15 00 ② 15 30 ~ 17 30	ばらばらマンカを、アニメのように連続して見ることかてきる装置・キノーラを制作。装置を組み立て、15 ~ 30 枚の動く絵を描いてセットする。受講料= 2,100 円。 (B スタジオ)
			8 4 ① 13 00 ~ 15 00 ② 15 30 ~ 17 30	立体写真を見るための器機“ステレオスコープ”を作る。参加者本人の立体写真も作成。受講料= 2,000 円。 (B スタジオ)



アニメをつくろう〜君もパペットアニメーター

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み こ と も 映 像 研 究 室	手作り映像おもちゃ で映画のしくみを体験! ヘリオシネグ ラフ	(人) 小1～高3 (① 14、② 10)	計 47 8 6・7 ① 13 00～14 30 ② 15 30～17 00	スリットのあいた円盤こしに、動画の描かれた円盤をのそくと、絵が動いてみえる視覚かん具を制作。動画を描くのが苦手な子ども向けに用意している塗り絵用紙に新しいものを追加。円盤はネジで固定してあるので、交換できる。 (Bスタジオ)
	いきもの図鑑	小1～高3 (小1～3は要 保護者同伴/ ① 14、② 10)	計 25 8 9 ① 13 00～15 00 ② 15 30～17 30	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」を制作。「ノコギリクワカタ」「オオカマキリ」「ブルーモルフォチョウ」などの、おまけ型紙付き。受講料＝1,800 円。 (Bスタジオ)
	手作り映像おもちゃ で映画のしくみを体験! プラクシノス コープ	小1～高3 (① 14、② 10)	計 73 8 11～13 ① 13 00～14 30 ② 15 30～17 00	映画が発明される前にあった視覚かん具のプラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,500 円。(Bスタジオ)
	こどもの城リサイクル アニメーション キットを作ろう	//	計 26 8 15 ① 13 00～14 30 ② 15 30～17 00	売店で販売している「つくるキット」を組み立てる講座。工作が苦手な子どもも「つくるキット」を楽しめるよう、組み立ての難易度が高い「ソートロップ」を中心に工作指導。受講料＝2 100 円。 (Bスタジオ)

3. その他

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	体育事業部の講座「母と子のすくすくラント」(Part 1～3)などをヒテオ取材し、ソフト化して参加者に販売。「こともの城の秋祭り」やピロティでの特別イベントなどの全館的事業を記録した。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの 各特別期間	〔こともの城〕の館外活動に同行してヒテオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育事業部「チャレンジキャンプ 2010」「スキースクール」(Part 1-1 期、同-2 期および Part 2)。また、プレイ事業部「ちひっこ冒険団 2010」「フェローシップキャンプ 2010」「ゆきんこ冒険団 2010」、および企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール 2010」は、キャンプスタッフの撮影した記録映像の編集協力を行った。上記作品はオリジナルソフトとしてヒテオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	「高谷静治と仲間たち」(8 月 18 日/青山劇場)、「こともの城児童合唱団 25 年記念コンサート」(11 月 7 日/青山劇場)、「タントさんのふしぎなレストラン～タントさんときょうりゅうのひみつ」(平成 23 年 1 月 3～9 日/青山円形劇場)の公演映像を収録、編集した。11 月 7 日の収録は、ホワイト画面に対応するため、HDV のカメラを劇場内に 3 台設置して収録した。

保育研究 開発部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

本年度は、地域における多様な需要に対応するために、事業にさまざまな変更を加えて実施した。

「おやこクラブ」は、就労しながら育児を楽しめるように改善を加えた。「保育クラブ」は、家庭育児におけるライフスタイルにあわせて、さまざまなタイプの保育プログラムが利用できるようにコースを増設、定員の増員を行った。「幼児グループ」も増員して対応した。

指導者・保育者向けプログラムは、より実践的な内容にした。また、「ニュースレター」は、企画研修部、小児保健部との合同企画に変え、一層の内容の充実をめざした。さらに、運営の効率化も同時にはかり、収益向上に取り組んだ。

2. 保育事業の活動から

本年度の保育活動は、個々の観察力・想像力を生かし、①一つひとつの遊びがつながりながら、時間をかけて子ども・保護者自身が、自発的に活動を発展させていくことの楽しさを知る ②活動をとおして、人と人とのかわりを豊かにはぐくむ — の2点を各年齢の活動に盛り込み実施した。この活動内容と同時に、プログラムにかかわった子どもたち・保護者の姿を紹介する。

(ア) おやこクラブ

〔こどもの城〕の開館当初、母親が1歳児の育児の楽しさを再発見する講座「母親教室」を開講。平成6年度＝94年度から、母・父と1歳児・兄弟家族も楽しめるように「親子教室」(年3期開講／10回)に変更した。

そして本年度から、母・父どちらでも参加しやすいように、すべての実施日を土曜日に移動した「おやこクラブ」をスタートさせた。「親子教室」との違いは、父親も参加しやすい曜日に変更したことと、父親も参加しやすい遊びを増やしたこと。

全10回中8回は、親子または親同士で身体を動かして遊ぶ「動いて遊ぼう」、物の感触を手触りで感じて楽しむ「触って遊ぼう」、身近な素材を使って作り物を楽しむ「作って遊ぼう」、伝統的な行事を経験する「季節の行事」——季節的な要素をふまえながら遊びのプログラムを行った。他の2回は、小児保健部の臨床心理士と管理栄養士による講義と子育ての悩み相談。

「作って遊ぼう」では、親同士が“遊べる”“つながる”プログラムを3つ実施。親同士が相談しながら、遊びを工夫する時間を持つことにより、日常の緊張から解放され、発散できるプログラムになった。

□親同士が“遊べる”“つながる”プログラム①

「くだものの樹」□

トレーシングペーパーに、作る果物の色を手で塗る絵の具遊び。絵の具を手で塗る作業は、ペトペト、ヌルヌルの感触に違和感を感じながらも、親自身が作業に夢中になっていた。着色されたペーパーで、親自身がイメージする果物を思い思いに作りあげた。最後に、全員で一つの樹を作りあげた。

□親同士が“遊べる”“つながる”プログラム②

「染め物」□

「布遊び」を行うにあたって、4～5人の親が集まり、大きな白いシーツをどのように染めるのかを相談。親同士が気持ちを一つにして、息を合わせて染め上げた。達

成感の大きいものとなった。

□親同士が“遊べる”“つながる”プログラム③

「羊毛ボール」□

羊毛の柔らかい感触を親子で味わったのち、親は羊毛でボール作りをする。羊毛は初めてという親がほとんどで、互いに作り方を聞いて教え合うなど、協力しあって数個のボールを作った。

(イ) 保育クラブ

■ 2 歳児の保育■

近年、2 歳児の「保育クラブ」希望者が多く、抽選での利用となっていた。本年度はコースを増設して実施。短時間就労の場合は、週 1 日 3、4 時間の保育で対応ができるケースもあり、家庭支援と同時に短時間就労支援に役立っている。

家庭で育ち、初めて集団生活に入る子ども、すでに集団生活を経験している子どもとさまざまではあるが、身の自立を集団のなかで経験し、家庭外の過ごし方を身につけていくには、週 1 日 3、4 時間であっても、効果が高い。保育内容は、集団で楽しめる遊びと、生活習慣の自立を中心に組み立てている。

本年度は、1 日の定員を 14 人から 2 人増員した 16 人クラス（定期利用 14 人、フリー利用 2 人）と新設 10 人クラス（定期利用 8 人、フリー利用 2 人）の 2 クラス 26 人、月～金曜日の 5 日間保育を実施した。毎週、曜日ごとに顔ぶれの違う子ども 130 人を保育することになったが、木曜日の 1 クラスは開設に至らず、毎週 120 人の子どもが利用した。そのほか、登録をしていますが、ひんぱんにはフリー利用をしていない 2 歳児もいた。2 歳児保育のニーズの高さかかわれた。

本年度の保育は、「2 歳児同士が活動をとおしてたくさんかかわれる遊び」を中心に考えた。その一つが「お店屋さんごっこ」。お店屋さん並べる品物作りは、素材作り（染め紙・にじみ絵）から始め、品物（アイスクリーム・ドーナツ）まで作り上げた。そして、買い物バック作りは、自分好みの色で染める遊びを取り入れ、活動が連続し、かつ展開するように組み立てた。

□「紙」を染めて素材作り□

【染め紙】和紙をクシャクシャに丸めて、染め粉を溶かした色水に浸して紙を染める。3つのポイント（自分で好きな色を選ぶ／色水が垂れないように紙を絞る／紙が破れないように広げる）を子どもたちに伝えた。

保育者が色水を用意すると、「あかだ〜」「きいろだ〜」と次々に子どもたちから声があがった。和紙を配るとすぐにクシャクシャと丸め、色水が手元に届くのを待っていた。色水を配ると、色水に和紙を浸しては絞り、浸し

ては絞りを繰り返して、何度も楽しんでいた。保育者は「自分で絞れるのかな？」と思っていたが、クチャクチャになった紙を絞る手の力はとても強く、子ども自身は色水が垂れないように気をつけていた。

【にじみ絵】和紙に水性ペンで色を塗り、霧吹きをかけて、だんだんと色をにじませる。保育者がにじませる様子を子どもたちに見せると、「じぶんでやる〜」「ピンクにぬりたい」とやる気満々の声があがる。ペンで色を塗る時には、いろいろな色を使おうとしたり、白い部分がないように気をつけて塗ったり、同じところを塗りつぶしたり、端からていねいに塗っていったりと、それぞれの子どもたちが、自分で考えて取り組んでいた。

□素材の風合いを生かした、ごっこの遊び道具作り□

染め紙遊びやにじみ絵遊びで作った、色とりどりの和紙で、お店屋さんごっこに使う「アイスクリーム」と「ドーナツ」を作ることにした。

【包む】新聞紙をしんにして、自分たちで染めた和紙で包んだ。和紙は好きな色を選ぶのだが、“色を選ぶ”というよりは、子どもたちは“好きな味”を選ぶ。「ぼくは、バナナ味がいい！」と決めて黄色の和紙を取りに来る子もいれば、目の前で「とれにしようかな」と長い時間をかけて考え込んでいる子もいた。

アイスクリームは、和紙でふわっと包んでカップに入れた。ドーナツは、細長い新聞紙に和紙をクルクルと巻き、棒状になったものを保育者がドーナツ状にした。

【飾る（デコレーション）】アイスクリームは、包んだ和紙の上にボンドのクリームをつけて、黄色や赤・緑などのビーズをのせてトッピング。カップにふたをして完成。2 歳児が作っても、本物のアイスクリームのよう。

ドーナツは、スタッフがリング状にしたものの上に、「違う味のソースをつけようね」と子どもに声をかけ、別の色の小さい和紙を選び、はりつけた。

「わたしのアイス、ぶどう味だよ〜」「チョコのドーナツできたよ〜。イチゴのソースつけたの」と子どもたち。自分で作り上げたという満足感と、本物のように仕上がったドーナツやアイスを見て、目を輝かせていた。

□「布」を染めて作品の素材作り□

【布（バック）】を染める】①色選び＝紙を染める経験をした子どもたちは、〈染める〉ことがとんなことか、よく分かってきた様子。お店屋さんごっこのように、保育者の「染め粉屋さん」で好きな色を選ぶようにした。

いろいろな色を目の前にして、悩んでしまう子もいたが、「何色がいいですか？」と見本の色を見せると、「これ！」と自分で選ぶことができていた。小さなスプーンで、染め容器に粉を入れると子どもは顔をほころばせ、お店さんの保育者とのやりとりを楽しんでいた。

②助剤を入れる＝別の保育者が「塩屋さん」になって、子どもに声をかけた。染めの助剤として、塩をひとつまみ自分で容器に入れてから、水を入れた。ペットボトルに入っている水を子ども自身が、こぼれないように染め容器に入れた。慎重派・おもいっきり派とさまざま。

③混ぜる＝材料が全部入ったら、保育者が染め容器のふたを閉めて子どもたちに返した。自分でシャカシャカと混ぜた。200mlの水は子どもの力では少し重く、苦勞しているようだった。染め液が混ざったかどうか、そーっと開ける時も、ウキウキとした顔でのぞき、「あわあわだから混ざったよ！」と大きな声を上げていた。

④染める（振る・転がす）＝混ざった染め液に、白いバックを投入。さらに重くなった容器をがんばって振った。すぐに「もう（やめても）いい？」という子どももいたが、「（振らないで）転がしてもいいよ」と声をかけると、みんなはりきってゴロゴロと転がして楽しんでいた。すぐにでも開けて見たいところだが、できあがりは翌週までのお楽しみとなる。

□ごっこ遊びへ～お店屋さんごっこ□

2学期になると友だちとのかかわりが増え、遊びを楽しめるようになってきた。子ども同士のかかわりを深めながら、いろいろな子どもと交流し、やりとりを楽しみたいと思い、お店屋さんごっこを取り入れた。

「ドーナツください」「何味のドーナツですか？」「チョコレート味」「はい、チョコレートですね、少々お待ちください」。店員は、ドーナツを Tongue で紙袋に。思うように袋に入らずに苦戦。やっと、袋に入れて客に渡すと、他の店員が「100 円になります」。客は紙袋をマイバッグに入れながら、あわててポケットからお金を出して、無言で渡す。店員から受け取ったおつりをポケットに入れ、満足そうにバッグを握りしめて戻っていった。

□2 歳児 26 人でお店屋さんごっこ□

子どもたちはみんな、役割を意識してか、緊張した面持ちで、店員になったり客になったりして遊んでいた。始めは保育者が一緒にかかわっていたが、何度か回を重ねるうちに、大きい声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」「バナナのアイスください」「こちらのいちご味はいかがですか」など、言葉のやりとりも盛んになり、自分が思うことを伝えられるようになった。

また、なかなか言い出せない子どもも、じっとその場のやりとりを見つめ、お店が空いてからゆっくりと買いに行き、お店さんの雰囲気を楽しみながら買い物をしているのが印象的だった。

□活動をとおして□

お店屋さんごっこをとおして、子どもたちの遊び方や興味に幅が出た。店員と客とのやりとりのなかでは、相

手の話を聞くこと、自分の気持ちを相手に分かるように伝えること、相手が望んでいることを考えたり感じたりすることを少しずつ学ぶことができた。また、買った品物をみんなで食べる際には、友だちにスプーンを渡したり、コップにジュースをついだりと、自然に遊びが盛りあがり、広がりが出てきた。特に 2 クラス合同で同じ遊びを楽しめたことで、いろいろな友だちと遊ぶことができ、互いに刺激を得ることができたようだった。

同じ遊びを共有したことで、互いの行動面にも関心が出て、生活面でも自立が進んだようだ。「あの子は、お花のパンツをはいている!!」と、いろいろな場面で自分以外の他児の姿に関心が高まり、他児の生活習慣の自立（排泄など）に促された 2 歳児が、自分の生活習慣の自立が進むきっかけとなった。

給食で隣の席に座った子に「にんじんおいしいよ」と声をかけられて、苦手なにんじんを食べるようになったり、「自分のもの」という意識が高まり靴下やバックなど、自分の持ち物の管理に気持ちを向けられるようになったりと、子ども同士のかかわりのなかで、集団生活や生活習慣の自立が進んだ、2 歳児の姿が見られた。集団生活の影響を受け、2 歳児が自ら考えて行動する力がはぐくまれた。

■3 ～ 5 歳児の保育■

火～金曜日に、10 時～ 14 時（4 時間保育）と 10 時～ 16 時（6 時間保育）の 2 つの枠で、定期利用・フリー利用を受け入れている。週 2 日の定期利用で、集団生活に慣れることを希望するケースも多かった。

保育内容の一つとして、「ぬる・きる・はる」をテーマにした造形活動を行った。また、少しでも自然にふれる活動を取り入れようと、1 期は、ベランダでじゃがいもの栽培・収穫を経験し、『あらいぐまどねすみたち』の絵本をテーマにねすみごっこを楽しんだ。2 期は、保育室で飼っているかぶとむし、ざりがに、すずむし、あげはちょうのたまご、かまきりについて知識を広げ、造形活動を展開した。



お店屋さんごっこを楽しむ 2 歳児

生き物の飼育をしたことで、身近な生き物に興味広がった。幼児グループの虫制作に刺激を受けた 3～5 歳児は、散歩中に観察したかわいらしいありの行列、総勢 30 ぴきを紙粘土・ワイヤー・墨・ニスを使って作った。あわせて、みつろう粘土でえさになるキャンディーを制作した。「ぬる・きる・はる」造形活動を紹介する。

□「ぬる・きる・はる」造形活動□

子どもの造形の主な活動 — クレヨンで塗る／はさみで切る／のりではる — この 3 つの要素を一つの作品に込めた。

【ぬる】紙を前にして、慣れない子どももためらうことなく描き始められるように、きっかけを大切にした。散歩の途中に座り込んで見た、ありの動く様子を思い出し、画面いっぱいにありの動きを好きな色で描いた。さらに、いろいろな色でどんどん塗り重ねていった。

筆記具は塗り重ねてもきれいな色が出るように、オイルパステルを選んだ。重ねるごとに色の変化を楽しみながら、ダイナミックな力強いものになっていった。筆圧が弱くて色が薄く、塗り込めない子どもには、塗り重ねてきれいと思われる色のパステルを選んで、横にして描くことも勧めた。色がにじんで淡い風合いになった。

【きる】パステルで塗った画用紙の裏には、あらかじめ 2cm 幅の線を 4 本入れておいた。線に沿って切る。細長く切れたら、今度は 1 回切りでチョキチョキ、線の無いところは思い思いに好きなように切った。

家でも使い慣れているのかスイスイと切っていく子ども、どこに指を入れればよいのか迷っている子ども、指を入れたものの刃先を開けない子ども — 焦らず、ゆっくり、紙が切れる音までも楽しんで欲しいと思った。

【はる】切った画用紙を、好きなように構成しながらはった。手拭き用の濡れふきんを、あらかじめ用意しておいた。のりを薄く伸ばすよう伝え、調節しながら良い感じの量を塗り込むことができるようになってきた。

この作品を作ってから、3 歳児の子どもたちも制作台で、夢中になって作っている姿を見るようになった。描いたものや作ったものを、うれしそうに保育者に見せにきたり、友だちに見せて話をしたり、遊びに使って楽しんだり、と作ることの喜びや楽しさを、みんなでもに味わうようになった。

(ウ) 幼児グループ

野菜の栽培や収穫、虫の観察などをとおして、気づいたり、経験したりしたことを取り入れた活動を行った。「虫」をとおした活動を紹介する。

□虫の飼育□

子どもと自然は、切っても切り離せない存在であり、

本年度はなかでも身近な存在である“虫”に着目した。

1 期から保育室の生き物コーナーで、さまざまな虫を飼育した。はじめは虫が苦手だった子も、毎日飼育ケースをのぞき、えさをあげるうちに愛着がわいてきて、「ちょっとさわられるようになった！」とうれしそうに話したり、世話をしたり。「虫の観察日記」をつけて成長を楽しみにするようになった。

【身近な生き物「かまきり」の飼育をとおして】かまきりがお腹を減らし弱っていることに気づき、みんなでどうしたらいいか話し合った。かまきりの生態（生きた虫しか食べないこと）が分かると、さっそく 5 歳児の女の子が、家や公園でくも・がを捕まえて持ってきた。おそろおそろ飼育ケースのなかに入れ、ドキドキした様子で観察。かまきりがじっと獲物をねらい、素早い動きで獲物を狩ってムシャムシャ食べる姿に、目を丸くして驚き、さまざまな生態を持つ虫がいることを理解した。

生き物を飼育するということは、みんなが虫のお父さんお母さんになって世話をし、たくさんの愛情を注がないと、はかない命になってしまうことを学んだ。

【「あげはちょう」の飼育をとおして】あげはちょうを、ゆずの葉につく卵から観察した。脱皮を繰り返して、卵→幼虫→サナギ→成虫と、日々姿を変えていく様子を興味深く観察した。

ある日、柚子の葉っぱをモリモリ食べるあおむしを観察していると、突然“くさい臭い”が。よく見ると、頭から臭いのするオレンジ色の角を出し、子どもを威嚇してきた。自然界で生きる（敵から身を守る）ために、さまざまな術をもっていることを、子どもたちは観察をとおして発見した。

美しいちょうになった翌日、遠足先の公園で放した。歩いて 50 分ほどの道中「狭い虫かごのなかで、あげはちょうさん弱っていないかな？」と気かけ、声をかけていた。あげはちょうが青空に向かって気持ちよさそうに飛び立つ姿は、本当に感動的だった。

寿命を迎え死んでしまった生き物は、お墓を作って葉っぱや花を供えた。「たくさん遊んでくれてありがとう」と手をあわせ、命について考えるきっかけにもなった。

□生き物の観察から制作へ

「生き物の世界ってどんなところ？」□

4 月から観察を始め、9 月には共同制作「生き物が住む世界」、10 月ごろには個人制作「生き物づくり」で 3～5 歳児は表現活動をした。

【生き物の世界の設計図作り（共同制作）】それぞれの生き物は、自然界のどこに住んでいるかをみんなで話し合い、クレヨンで設計図の共同画 — 土・草・木・池・空を描いた。「もっと大きな木がほしいなあ」「この池は

赤ちゃんざりがにの家にしよう」「ざりがにの池はドロドロだったよ」「この草むらには、すずむしが隠れているんだ」と、友だちと声をかけあいながら、あっという間ににぎやかな“生き物の世界の設計図”ができた。

【背景作り（共同制作）】背景となる“空と原っぱ”は、大きなタイベック紙にローラーとハケを使って、顔も足も絵の具だらけになりながら、ダイナミックに描いた。のびのびと描けるように、保育室内ではなく、屋外（砂場裏）で活動。保育クラブ（主に3歳児）も参加した。

できあがった“空と原っぱ”に、樹の幹になるクシャクシャにもみこんだ茶色や灰色の画用紙（赤、緑、茶、紫、オレンジ色の染め液で染めてある）をつなげてはっていき、虫たちの住む森を仕上げた。

【虫研究員になり、生き物を観察・話し合い・発表】さらに虫を詳しく知るために、自称「虫の研究員」になり、5つのグループに分かれて、「虫図鑑」や実際の“生き物”を虫眼鏡で観察。発見したことを話し合った。図鑑の写真も見ながら、虫についての思ったことを話し合う。ワクワクした様子で生き物と向き合う子どもたちの姿が印象的だった。

□生き物の設計図作り（個人制作）□

生き物の特徴がわかったところで、“生き物の設計図”を描いた。「かぶとむしの角をかつこう良くしたい」「すずむしの羽を広げて素敵にしたい」「かまきりのかまを強そうにしたい」「あげはちょうの羽の先をとがらせたい」などと、生き物のポイントを意識しながら、クレヨンでダイナミックに描き、体作りに取り掛かった。

前年度に動物作りをした5歳児が、さっそく「骨を作るの？」と質問をしてきたので、人間は体のなかに骨があるけれど、虫は体の表面が骨になっていると話すと、子どもたちは驚いた様子で聞いていた。

菓子箱や洗剤のボトル、ペットボトル、新聞紙などを組み合わせ、描いた設計図を見ながら、ボディの形を組み立てていった。何度も箱を組み替え、新聞紙を巻いていった。「もう少しお腹をふくらませたいんだけど」と相談にきて、納得いくまでがんばる子どももいた。

【制作方法「はる・まく・つつむ」／材料選び】材料をボディに取り付ける方法が、〈はる〉〈まく〉〈つつむ〉の3つあることを紹介し、どの材料をどの方法でつけていきたいか、一人ずつ聞いていった。自分が想像する生き物のイメージに、ぴったりの材料がすぐに見つかる子がいれば、ボディにいろいろな材料をあわせながら「こっちの方がかっこいいかな？」とじっくり考える子などさまざま。どの子どもとても意欲的で時間をかけながら、ていねいに大切につけていった。

生き物の世界の設計図作り（共同制作）



ボディができたら、手足をつけ、しっぽ、羽、目玉、触角作り。今度はもっと細かい材料（瓶のふた、卵のパック、ガチャポンの容器、どんぐり、ビーズ、モールなど）のなかから材料を組み合わせ、一つずつ保育者と一緒につけていった。「こんな生き物をつくりたい!」という思いがどんどん形になり、ついに完成すると、子どもたちは自分の分身のように抱え、うれしそうに友だちと見せ合っていた。

□虫クイズ作成（共同制作）□

冬のクリスマス会では、子どもたちは5つのグループごとに“虫クイズ”を考えて発表した。1・2学期をとおして身近になった虫の生態について、自信を持って皆に発表するまで虫に詳しくなった。たくましい姿だった。

□活動をとおして育てたかったこと□

生き物の命にふれることで、さまざまな角度（観察・飼育・制作・話し合い）から感性を豊かにしていった。飼育してみなければわからないこと、意識して見なければ気付かなかったことがたくさんあった。一人ひとりの子どもと保育者が相談しながら、イメージを形にしていくことで、自由に表現していく楽しさを味わえた。

保育室で飼育する生き物をきっかけに、みんなで作り上げた“生き物の世界”は、みんなの思いがたくさん詰まったものになった。

3. まとめ

子どもや保護者が、日常触れることをテーマに取り上げたことで、結果として、さまざまな個人活動・集団活動に結びつけながら発展させることができた。活動をとおして人とかわることで培われた創造力は、一人ひとりの作品や言葉にあらわれていた。人とかわることで互いに影響しあう姿、生活習慣を身につけようとする姿にも成長を感じた。

遊びをとおして一人ひとりが自信をつけ、「保育クラブ」「幼児グループ」全体が持つ力も成長したと感じる。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足	5 16 10 31	「保育クラブ」の 2 ～ 5 歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかるのかねらい。春は代々木公園（渋谷区）で親子遠足。ウオーミンクアップの「パチパチマン体操」、コミュニケーションゲームの「親子でおんふ競争」「先生を探せ、ピンコゲーム」を実施。子ども 101 人、大人 135 人が参加。秋は砧公園（世田谷区）で親子ウオークラリー。東急田園都市線用賀駅北口から「いらか道」でウオークラリー（4 ポイント）を楽しみながらコールの砧公園へ。子ども 14 人、大人 20 人参加。家族同士、他の家族と協力して楽しめるプログラムを用意。
保育活動展	H23 2 1 ～ 13	テーマは「こどもようパートⅧ」。「幼児クループ」を中心に「保育クラブ」の 2 ～ 5 歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、作り物、写真などで紹介した。本年度の「幼児クループ」と「保育クラブ」3 歳児の保育活動は、野菜の栽培や収穫、虫の観察や飼育などをとおしてさまざまなことに気づいたり、取り入れたり、遊んだりできることを大切に保育を進めた。また、収穫にあわせて『あらいくまとねすみたち』の絵本をテーマに、ねすみこっこや虫の制作、さらに、個性あふれる「等身大の自分」「自分の顔」を制作。2 歳児保育では、「お店屋さんこっこ」遊びで使う「ハック」「アイスクリーム」「トーナッツ」を染める活動を行い、作品を展示。「おやこクラブ」では、親子遊びで体験した活動のなかから「くたものの樹」「手と手と手」「染め物」を展示した。（キャラリー）
よちよちクラブ	6 26、7 24、10 23、12 25、 H23 1 29、2 26 （土曜日） 11 00 ～ 12 00 13 30 ～ 14 30	一般来館の 1 ・ 2 歳の親子のための子育て支援プログラム。年間 6 回。親 124 人、子ども 104 人が参加。家族（父・母・子）で参加する姿が増えてきた。1 歳前後の遊び場、内容を求める参加者が多かった。参加した父親の、よくかかわって遊ぶ姿が見られた。予約制だが、当日参加も可。1 月 29 日と 2 月 26 日は 13 時 30 分の回のみ。（保育室 1）
保育室の一般開放	土・日曜日、祝日 10 00 ～ 17 00	1 ・ 2 歳のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こともの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。こともの城ボランティアが定期的に絵本の読み語りを行っている。（保育室 2）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房 「ブックリフィッシュで さかなつり」	8 21・22 10 30 ～ 12 00 13 30 ～ 15 00 15 30 ～ 17 00	カラフルな帯状の画用紙を数本組み合わせ、親子で“さかな”を作った。しくみは簡単だが、てきあかりはさまざまな形の魚になった。クリップをつけて、釣れるように仕上げた。大人も十分に楽しむことができた。2 日間で、大人 97 人、子ども 110 人参加。（保育室 1）
〈 “ ” 〉 小中高生 保育体験プログラム	7 21 ～ 8 29 10 00 ～ 14 00 14 00 ～ 16 00	「幼児クループ」修了児の小学 5 年生～中学 3 年生を中心に、夏休み特別期間に幼児とふれあう機会を提供した。参加者自身が思春期にさしかかったこの時期に、幼児期にかかわった保育者と再会することは、自信を取り戻す良い機会となる。自己を肯定し、自分自身を発揮する力としていくこともねらいとしている。前年度同様、本プログラムに参加経験のある高校生まで対象を広げて、参加希望者を募った。近年は、学校の夏休みの課題としてこのプログラムを活用する参加者も増えている。参加者は 13 人、延べ 48 人が参加（うち、高校生 1 人）。学校生活や受験勉強などで忙しく、希望はあっても日程が合わない場合もあり、前年度と比較して参加者は少なかったが、延べ人数はほぼ同じであった。幼児と過ごし、自分自身が必要とされることで、ふたんの学校生活では気付きにくい思いやりや譲歩の気持ちを味わった。また、事前に目標を立てて参加するようにしたので、より良い幼児のかかわりを考えるのに役立ったようだ。（保育室 1・2 ほか）
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10 00 ～ 17 00	〔こともの城〕に来館する 1 ～ 2 歳の親子がおもちゃなどで自由に遊べる場の提供。（保育室 2）

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4 歳児 (13) 5 歳児 (13)	(人) 14 12	火～金曜日 10 00 ～ 14 00	〔こどもの城〕を保育の場とする週 4 日、2 年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に 3 歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。本年度は、栽培・虫の観察などをテーマにした活動を展開した。保育活動展かその発表の場になった。「保育クラブ」に連動している。保育料 41,000 円、給食費 4,800 円 (いずれも月額)。延長保育を希望する家庭が多い (別途保育料)。
保育クラブ	2 ～ 5 歳児 (定員 460 人／登録数 約 413 人)	4 ～ 7 15 ～ 18 6 4 (1 日あた りの保育 枠)	月～金曜日 (2 歳児) 10 00 ～ 13 00 10 00 ～ 14 00 火～金曜日 (3 ～ 5 歳児) 10 00 ～ 14 00 10 00 ～ 16 00	登録をして使う会員制の保育。登録数は 413 人。会員サービスには次の 3 つがある。保育プログラムは、①異年齢児混合保育 (2 歳児・3 ～ 5 歳児) 2 歳児保育は定期保育 (週 1 回利用) とフリー利用保育。3 ～ 5 歳児保育は定期保育 (週 1 または 2 回利用) とフリー利用保育、その他に延長保育を実施。②チーム保育 (各保育者の持ち味を生かす) ③保育ボランティア (小 5 ～ 社会人) の参加——などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足 (春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信 (おやとこ)」年 4 回発行、小児保健部と連携しての「健康診断 (春)」など。ほかに、登録期間中は会員証で〔こどもの城〕の入館もできることを伝えた。 入会金 15,000 円、年会費 5,000 円。保育料、2 歳児 1,350 円 (1 時間)、3 歳児以上 1,000 円 (1 時間)。給食代 600 円、おやつ代 200 円 (1 回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おやこクラブ ①	(組) 1 歳児親子	(組) 15	土曜日 10 00 ～ 12 00	「親子教室」を改編して、本年度から始まった講座。さまざまな親子遊びをと おして、子育ての楽しさを体験するプログラム。小児保健部と連携し、心理・ 発達、子どもの食事についてのアトハイスも行った。両親とどちらかが参加する。 受講料 27,000 円。
〃 ②	(各期 18)	18	(全 10 回)	
〃 ③		8		

春の親子遠足 コミュニケーションゲーム「親子ておんふ競争」



おやこクラブ 小麦粉粘土で遊ぼう

＜専門指導者向け講習会＞

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
家庭支援の理論と実践～2歳から10歳までの支援～ 第1回 〃 第2回 〃 第3回	(人) 子育て相談担当者など (各回 50)	(人) 40 59 51	6 12 10 00 ～ 16 30 9 25 〃 H23 2 12 〃	1 日コース。テーマを変え年 3 回開催。受講料各 7,000 円。各回のテーマと講師は以下のとおり。監修＝山崎美貴子 神奈川県立保健福祉大学。(敬称略) 第 1 回「気になる子どもへの対応～2 歳児から低学年までの 子どもの行動と対応～」(市川奈緒子 白梅学園大学) 第 2 回「気になる保護者への対応」 (倭文真智子 元東京都足立児童相談所児童心理司) 第 3 回「家族を支える子育て支援とは」 (金子恵美 日本社会事業社会福祉部准教授)
保育室で使える遊びのメニュー	保育関係者など (80)	57	8 28 10 00 ～ 17 00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。今回は、保育室で、できる遊びの紹介や保護者会などで、保護者同士かてきる遊びを紹介した。受講料 7,000 円。テーマは、「なんとかわれしいひろかるあそび～愛知県児童総合センターの遊びの活動から～」(田嶋茂典、牛田康弘 愛知県児童総合センター)。

3. その他

＜その他＞

名 称	日 時	内 容
子育て支援のニュースレターの発行	第 37 (通巻 53) 号＝ 7 15 第 38 (通巻 54) 号＝ 11 1 第 39 (通巻 55) 号 ＝ H23 2 15	子育てをめくる情報、現場などの動きをはしめ、各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。また、本年度から企画研修部、小児保健部との合同企画となり、内容の強化をはかった。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学などで年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料 2,000 円 (郵送料、印刷代一部負担金)。

家庭支援の理論と実際～2歳児から10歳児までの支援～ (グループ発表)



保育室で使える遊びのメニュー (実技)

小児保健部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

小児保健部は、一貫して子どもの心身の健康の問題——主に乳幼児の子育て支援の活動に取り組んできた。その中心は、予約制の診療を行っている小児科の「小児保健クリニック」である。身体面では生活習慣に関係する肥満を中心にやせ・夜尿など、発達・心理面では発達障害の疑い・集団生活への適応の問題・情緒不安など、子どもの健康や発達上の心配ごとについて受診・相談ができる。初診時から、ていねいに話を聴くことを旨としている。

小児保健部の活動内容は以下になる。

- ①「小児保健クリニック」での診療・相談
- ②グループで行う講座や催し（“子どもの肥満改善”や“保護者の子育て支援”など）
- ③“子育て支援”の現場にかかわる専門職への啓発活動
- ④活動の成果をまとめるための研究

スタッフは、医療や心理の専門職であり、①と②の実践で得られた子どもたちや家庭の状況、保護者の悩みなどを踏まえ、現在の社会の動きをとらえるようにしている。その蓄積を③と④に生かし、児童館・保育所などの子育て支援の現場に役立てるように努力している（詳しくは活動一覧表参照）。

本年度から、5階のプレイルーム2を保育研究開発部の保育室に転用したため、6階の内部会議室をプレイルーム2と相談室2に改装し、心理相談に用いることになった。6階に行き来する必要も生じているが、少し小さめで落ち着いて遊べるプレイルームと、明るい相談室が

でき、土曜日など混み合う日でも効率的に使えるようになった。

診療・相談については、後に述べるようにさまざまな工夫を行った結果、保険診療で行う診療や公費の乳幼児健康診査は、大幅な件数の増加がみられた。

当クリニックでは、小児科を受診した後、発達の評価や援助、カウンセリング・心理療法などが必要な場合は心理相談を行っている。場合により、小児精神科や小児耳鼻科で、専門的な診断や助言を受けられるようにしている。今回は、心理相談における家族の様相をまとめた。

「子育て支援活動」については、前年度に新型インフルエンザの流行のため中止した全館行事「赤ちゃん大集合」は復活し、427組もの親子でにぎわった。また、平常期間の乳幼児対策として、本年度から小児保健部が行っている「赤ちゃんサロン」(3か月～1歳6か月の親子対象)は毎月第1・3・5火曜日に、事業本部が中心となって各部が協力して運営している「ぽかぽか広場」(3か月～2歳11か月の親子対象)は第2・4火曜日に行うようになり、火曜日の《こどもの城の子育て広場》が定着しはじめている。

5月のゴールデン・ウィーク(児童福祉週間)特別期間に、企画研修部・保育研究開発部と共同で催していた乳幼児親子の居場所「バブバブ・ベビータウン」(9階研修室)は、夏休み・冬休み特別期間にも4階のAスタジオで毎日開催し、企画研修部が主となった全館の一事業となった。3・4階の「こども活動エリア」のなかにあることから、兄弟姉妹や家族連れでも利用しやすく、発展した形となっている。

乳幼児(3か月～1歳6か月)とその保護者を対象と

した「赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会」は継続して開催し、盛況であった。春休み特別期間の 3 月末に予定していた回は、東日本大震災のため中止した。

大震災の当日に「季節の離乳食」の講習会が行われていた。交通機関が止まり危険もあったため、乳幼児と母親教組が、他の一般来館児・者とともに、〔こどもの城〕の「こども活動エリア」で一晩過ごすことになった。災害時の乳幼児親子への対策という課題を考えさせられる出来事だった。

講座では、肥満の小学生を対象とした「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」が、定員にまで回復している。子育て支援の専門職を対象とした講習会では、講義だけではなく、現場の事例についての質疑応答・討議の時間を中心とした講習会「心とからだの健康 012 歳児～事例から学ぶ～」を開始した。1 回目は「心理的な理解と対応」、2 回目は「食生活の理解と対応」であった。

2. 診療・相談活動

本年度の診療・相談件数を表 1 に示した。本年度は、3 年ぶりに診療総件数や新規の来所者の件数が増加した。総件数は、平成 20 年度の 2,161 件から 2,409 件に 248 件 (11.5%) 増、新規来所者は平成 21 年度 252 件から 346 件に 94 件 (37.3%) 増となっている。公費の乳幼児健康診査件数は、新規の来所者で 66 件から 104 件へと増加し、健診の再来者も 32 件に達している。

増加の背景には、最近インターネットから医療機関を探して受診する傾向があるため、ホームページの案内を見直して分かりやすくしたこと、診療と健診の時間枠

【新規来所者の診療・相談内容内訳】(表 4)

内 容	件数 (%)
発達・発達の相談(疑いも含む)	
自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)	52 (15.0)
学習障害・注意欠陥多動性障害	26 (7.5)
精神遅滞	18 (5.2)
言語発達遅滞	10 (2.9)
ダウン症、その他先天異常	7 (2.0)
小 計	113 (32.6)
情緒・行動面の相談	
情緒障害・情緒不安	22 (6.4)
不登園・不登校	16 (4.6)
神経症(強迫神経症・恐怖症など)	6 (1.7)
育児不安	5 (1.4)
集団不適応	3 (0.9)
小 計	52 (15.0)
身体的・心身症的な相談	
肥満(心理的な問題含む)	23 (6.6)
習癖(チック・抜毛症など)	9 (2.6)
夜尿・遺糞・頻尿	3 (0.9)
その他身体疾患(起立性調節障害・低身長など)	9 (2.6)
その他心身症(過敏性大腸炎など)	3 (0.9)
小 計	47 (13.6)
合 計	212 (61.2)
健 診	
乳幼児健康診査(公費)	104 (30.1)
健康診断(自費)	30 (8.7)
合 計	134 (38.8)
総 計	346 (100)

を調整して予約をとりやすいように工夫したことがあげられる。さらに、講座を行っている小児肥満の来所者数が回復し、再診が増えたこともその一因である。一方、心理相談(本年度から、心理相談と発達相談を総称して

【小児保健クリニック月別診療・相談件数(初診・再診内訳)】(表 1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H23 1月	2月	3月	合 計
診 療	140	89	110	101	73	102	101	90	102	101	98	91	1,198
健 康 診 査 (公費)	12	9	7	6	7	9	11	16	16	9	23	11	136
健 康 診 査 (自費)	0	24	4	4	0	2	10	26	1	1	0	3	75
育 児・健 康 相 談	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	1	0	6
心 理 相 談	74	82	67	76	65	82	92	78	88	75	74	69	922
ダ ウ ン 症 療 育 相 談	7	9	7	4	5	4	8	5	8	10	5	×	72
合 計	233	213	195	191	152	199	223	215	216	197	201	174	2,409
内 初 診 (新規)	34	30	27	24	28	24	32	31	33	23	37	23	346
再 診	199	183	168	167	124	175	191	184	183	174	164	151	2,063

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】(表 2)

居住地域	渋谷区	世田谷区	港 区	葛飾区	新宿区	その他の区部	市郡部	小 計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他	小 計	合 計
人 (%)	73 (21.2)	35 (10.1)	23 (6.6)	17 (4.9)	15 (4.3)	117 (33.9)	14 (4.0)	294 (85.0)	20 (5.8)	8 (2.3)	8 (2.3)	16 (4.6)	52 (15.0)	346 (100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】(表 3)

年 齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12～14 歳	15 歳以上	合計
人 (%)	85 (24.7)	40 (11.6)	15 (4.3)	25 (7.2)	32 (9.2)	16 (4.6)	22 (6.4)	19 (5.5)	23 (6.6)	18 (5.2)	7 (2.0)	16 (4.6)	24 (6.9)	4 (1.2)	346 (100)

心理相談と呼ぶことにした)とダウン症療育相談は、前年度よりやや減少した。3月の大地震の影響で来談数が減ったことも理由の一つである。

新しく来所した人の居住地域別内訳(表2)は、東京都在住の人の割合が85.0%前後に達しており、例年の80.0%前後よりやや多い。前年度と同じく上位にある、渋谷・世田谷・葛飾・新宿などの各区が微増していて、比較的近隣の人の利用が目立っている。近県からの受診は横ばいか、わずかに減っているが、「その他」には、海外6か国から一時帰国した人の来所が含まれている。

新しく来所した人の年齢の内訳(表3)では、乳幼児健診(公費)の増加に伴い、0歳児が平成21年度の41件から85件に倍増し、0歳児が占める割合も、全体の16.2%から24.7%へと増加し、約4分の1に達している。また1歳児は33人から40人に増えているが、その割合は、13.0%から11.6%に下がっている。

「赤ちゃんサロン」の参加者が、2,505人から2,108人へと前年度より減少しているのとは反対の傾向であり、「こどもの城」の一般来館児・者対象の「子育て広場」事業とは、必ずしも連動していないようである。乳幼児健診の増加は、渋谷区の利用が多いことも合わせると、近隣の地域の評判などによるものかもしれない。

その他は、年齢による変動は大きな変化は少ないが、0～1歳児の利用が36.3%、2～5歳が25.3%、6～8歳が18.5%、9～11歳が11.8%、12～14歳が6.9%、15歳以上が1.2%で、乳幼児期が約6割、小学生が約3割という結果となっている。増加したのは、主に3、4、8歳であった。

診療・相談内容別(表4・主に初診によるもの)では、「発達の相談」は、全体で75件から113件へと38件増え、割合も2.8%上昇し、3分の1になっている。その内訳をみると、「自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)」が28件から52件へと増加し、「学習障害・注意欠陥多動性障害」は18件から26件へ、「精神遅滞」は13件から18件へ、「ダウン症、その他の先天異常」も2件から7件へと、全体に増加傾向にある。

前年度に引き続き、インターネットで発達障害について調べて、わが子の行動を心配して受診されることが多いように思われる。

「情緒・行動面の相談」は14件増加しているが、割合としては横ばいである。「不登園・不登校」は学校などで早期に対応することが増えて減っていたが、本年度は16件に増えている。「情緒障害・情緒不安」「育兒不安」「神経症(強迫神経症・恐怖症など)」「集団不適応」などは横ばいとなっている。

実際には、保護者が発達障害を疑って来所し、初診で

その疑いと診断されるものの、心理相談・小児精神科に紹介された後、背景の理解が深まるにつれて、実は情緒的・環境的な要因が大きく、そこに焦点をあてて相談を継続することもある。

「身体的・心身症的な相談」は48件から47件へと横ばいだが、診療・相談に占める割合は19.0%から13.6%へと減り、「肥満(心理的な問題含む)」の受診は6件減って23件となっている。本年度は特に「習癖(チック・拔毛症など)」が目立っていた。

〔こどもの城〕の小児保健クリニックは、就学前の乳幼児の利用が多いが、乳幼児健康診査の件数の増加や幼児期から子どもの発達障害を心配して受診する人たちの増加が、本年度の特徴といえる。

3. 家庭環境の変化と「心理相談」による援助

既に述べたように、現在では保護者にも発達障害の知識が行きわたり、子どもが自閉的な傾向すなわち広汎性発達障害(PDD)や、動きまわることが多く注意が移りやすい注意欠陥多動性障害(ADHD)、能力にアンバランスのある学習障害(LD)などではないかと、心配して受診されることが多い。実際には、家庭内の状況の変化や親子関係など、環境的な要因が子どもの状態に関係していることも少なくない。当クリニックから見た25年間の、特徴的な家庭環境の変化と、「心理相談」での親子に対する援助について触れてみたい。

【高齢化による子育てのとまどい】

幼児を持つ保護者の心配ごととしては、言葉の発達の遅れ、情緒的な不安、集団生活への不適応などがある。その場合は、親子一緒に、臨床心理士がおもちゃのある板張りのプレイルームで相談を行っている。

そこでは、子どもの自発的な遊びにつきあい、その様子を見ることで発達の様子が評価できる。また、子どもに働きかけて遊びを活発にすることが、広い意味で発達の援助になる。保護者にも、その場の遊びをとおして子どもの発達や心理的な状態を伝え、理解してもらう。子どもがプレイルームに慣れてきたころから、担当者はさらに保護者の心配ごとについてたずね、子どもの生育歴や生活の背景などを聴くことが多い。

立って遊ぶ子ども、床に座って話している保護者と担当者の三者が、同じ空間で過ごしているうちに、親子のふだんのやりとりが自然に表れ、50分の時間内で変化する様子もとらえることができる。時には、あらかじめ記入してもらった発達質問紙などの結果も踏まえて、最後には、現在の子どもの様子の見立てや日常生活で心がけることを助言していく。

1～2歳児では、視線が合わない・呼びかけても振り

向かない・こだわりが強いなど、いわゆる自閉的な傾向ではないかと疑って相談に来ることもある。こだわりなどは、この年齢にはよく見られる行動の場合もあり、内容をよく聞かないと判断が難しい。また全体に自閉的な特徴を表していたとしても、背景に保護者のかかわりが乏しかったり偏っていたりすることが影響している場合もある。実際には、ある程度周囲の大人が子どもにかかわり、意識して遊んであげることで、子どもの発達を上向くことも多い。

このような相談に来られる保護者が、30 代後半から 40 代という高年齢のことも珍しくない。子育てが高齢化している背景には、女性の社会進出が目ざましく、まず仕事や趣味などの活動に日々を過ごし、社会経験を積んでいくという傾向がある。子育てを身近に見ることや、生活の体験が少ないまま、比較的高齢になって結婚や出産を迎えることになる。こうした保護者にも、若い年齢層と同様に子育て不安は大きい。

これを裏付けるように、平成 22 年度＝10 年度の「人口動態統計」(厚生労働省)によると、男性の平均結婚年齢は 30.5 歳、女性は 28.8 歳であり、若い世代の未婚化、晩婚化の傾向が明らかである。女性が出産する年齢は、同じ年の統計では第 1 子が平均 29.9 歳、第 2 子が 31.8 歳、35 年前より約 4 歳上がっている。「母子保健ハンドブック 2010」(財団法人母子衛生研究会)によると、もはや 20 歳代までに初産をする人は 6 割を割っており、30 歳代のお産が増えて 40 歳代も増加傾向にある。その配偶者である父親も同じように年齢があがっているといえる。

出産の高齢化には、医療が進歩して高齢出産でもリスクが少なくなったこと、体外受精を含む不妊治療が一般化したこと、さらに非正規雇用が多くなったことなど経済状況の不安定さも反映していると考えられる。

子育てには、それまでの社会で培った経験とはまったく違う、生活や生き方の変化が求められる。夫婦だけの生活とは違い、子どもに合った住居・食事・生活リズムに変更すること、ゆっくりと身体や五感を働かせてつきあうことなどが必要である。子どもはスケジュールどおりに動いてくれない。子どものペースに合わせて世話をすることは、時として言葉でのやりとりやインターネットで情報を使いこなすことよりも、難しく感じられる。泣いたり体で訴えたりすることでの欲求や情緒の表現は、大人同士のコミュニケーションとは異なるのである。大人の尺度で判断してしまうと、子育てがうまくいかなくなってしまいがちである。

「プレイルーム」での心理相談は、子どもの遊びという日常のやりとりに、保護者が喜びや意味を見出してい

けるよう、その力を引き出していくことが一つの目的である。1 か月ごとの来談でも、子どもの発達の様子も変化し、保護者の姿勢も成長する様子がみられる。

子ども自身の発達の援助ばかりでなく、子どもへのかかわり方がよくわからないでいる保護者を支援して、よい親子関係を築いていく意味を持っている。

【離婚やひとり親家庭の増加】

「心理相談」には、親の離婚を経験した子どもが不安定になり、心身の症状や集団生活の不適応を理由に来談することも多くなった。子どもをひきとっている保護者自身が混乱していて、子どもの状態にどう対応していいかわからなくなってしまう。また、すてにひとり親家庭として親子で何年も暮らしているが、子どもの成長過程でさまざまな問題に直面して来談することもある。

「人口動態統計」(厚生労働省)によれば、離婚件数は平成 14 年＝02 年の約 27 万件を最高に、平成 22 年＝10 年で 25 万件と下がってはきているが、もはや珍しいことではなくなっている。子どものいる世帯の離婚では、母親側が子どもをひきとっているケースが約 8 割という実情もあり、3 歳未満の子どもを持つひとり親家庭も増えているという。

背景には、男性も女性も結婚や家という枠組みに縛られることが少なくなり、離婚や再婚、内縁関係などが以前よりも自由に行われるようになってきたことがある。女性も社会的に活動し、精神的・経済的に自立することが増え、自己主張をすることも多くなった。その結果、結婚生活で不調和があると、長くがまんをしていることが少なくなったといえる。

厳しい家庭状況から抜け出し、人生の再出発をするために、離婚は必ずしも悪いことではないが、子どもにとっては、それまでの家族関係・居住環境が大きく変化することを意味する。祖父母など周囲の援助が得られればよいが、経済的に自立した生活を営んでいくことと、十分に子どもの世話をし、情緒的にかかわっていくことを両立させるのはたやすいことではない。子育てにさまざまな援助が必要になる。

「心理相談」では、まずは子どもの立場にたって心情を理解することが必要である。離婚に際して、大人が秘密にしている経過や別れた保護者の状況なども、意外に子どもは感じとっており、逆に現在同居している親に気持ちを言えないでいることがある。親子それぞれに、表現できない葛藤、怒りや悲しみを抱えていることもしばしば感じられる。言葉で言えない分、それらが身体症状や人間関係の不調につながることもある。

「心理相談」では、小学生まではプレイ・セラピー(遊戯療法)といって、遊びをとおして心の表現や成長をは

かる方法を、中学生以上ではカウンセリングを行っている。また、保護者のカウンセリングをとおして、大人の側の気持ちの整理にもつきあうようにしている。

両者を並行して継続することで、子どもが自分の気持ちに素直に気づき、それを抑え込まずに大人と話し合えること、自分が今いることに自信を持ち、周囲の人々との新たな関係を築いていけることをめざしている。

【家族の国際化

～国際結婚や海外での生活・帰国後の適応】

国際化が進むなか、「心理相談」でも国際結婚をしている親子に出会うことが珍しくなくなってきた。

国際結婚している家族が、皆困難を抱えているというわけではないが、「心理相談」を求めてきた子どものなかには、国際結婚ゆえの悩みが感じられることもある。日本人とは異なる肌や髪の色、大きな体格など、容姿が目立っていると、小さいころから“自分たちと違う”と特別視されてしまう。すると、“自分がどこかおかしいのでは”と感じ、自信をなくすなど、人とうまくかわれなくなる場合がある。

本人の価値観や考え方は日本の文化の影響を受けているにもかかわらず、容姿の違いから日本人扱いをされない場合、日本にも、もう一つの母国にも同化することが難しくなり、苦しみもある。また、容姿は日本人に見えても、異なる習慣や文化を持っていることが他の子どもにはうまく理解されず、からかいの対象となり傷つくこともある。こうした場合も、プレイ・セラピーやカウンセリング、保護者の面接で援助している。

保護者の海外赴任のため外国での生活が長く、言葉の発達の遅れなどの心配で受診する幼児、帰国後の適応に困難が生じて受診する小学生以上の「心理相談」もある。

幼児の発達の遅れでは、一時帰国時に受診・来談することが多い。本人自身に発達の障害があるのか、外国で日本語も使いながら暮らすという環境から生じる混乱なのか、保護者が心配になっている。プレイルームでの遊びをとおした観察のほか、時には知能検査・発達検査を含めて子どもの状態を見立てて、保護者と話合う。必要があれば、小児精神科の診察も受けるようにすすめる。短期間に保護者の不安が少しでも解消でき、今後の見通しがたてられるように配慮している。

小学生以上の場合、平成 21 年度＝ 09 年度「文部科

学省学校基本調査」によると、平成 20 年度＝ 10 年度に 1 年以上海外に滞在した帰国児童生徒数（高等学校も含む）は、全国に約 1 万 2 千人いるという。長期に海外で過ごした場合、帰国後、子どもが学校などになじめないことがある。

日本の文化は、自分を主張するよりも、自分を抑制して場に合わせること、微妙な空気が読めることを、評価する傾向がある。しかし、欧米のように自己主張が評価される社会で自我の形成期を過ごした子どもにとっては、“自分を抑えて合わせる”ことが“許せない”“理解できない”ものとなる。その違いにとまどい、友だちとの交流がうまくいかなることがある。

これらの問題についても、遊戯療法・カウンセリング・保護者の面接などの「心理相談」で援助していく。本人と家族が海外での体験をどのように受け入れ、自分たちのなかで統合し、適応していくかが課題となっている。

4. まとめ

診療・相談については、設備の若干の変更があったが、件数が増加し、順調に推移したといえる。現代の子育てで不安に陥りがちなさまざまな心配ごとの解決に、小児科に受診しやすい体制が大切だとあらためて感じられた。また、小児保健部が経験を重ねてきた一般来館の乳幼児親子向けのプログラムも、少しずつ全館での対応へと発展してきている。

今回は、小児保健クリニックの「心理相談」にみられる、現代の特徴的な家族の変化を、「高齢化による子育てのとまどい」や「離婚やひとり親家庭の増加」「家族の国際化～国際結婚や海外生活・帰国後の適応」にしばってまとめてみた。小児保健クリニックでは、小児科、心理相談、小児精神科などが協力して、こうした子どもの悩み・子育ての難しさを共に考え、解決していけるよう診療・相談のなかで取り組んでいる。個人の悩みであるとともに、社会の現象としてもとらえることを大切にしていきたい。

3 月 11 日の東日本大震災以降、また家族のつながり、人とのつながりがいかに大切かということが見直されている。今後も、子どもたちの健康や発達を見守るという視点を大切に活動をしていきたい。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理・発達相談 タウン症療育相談	休館日を除く毎日 9 30 ～ 17 00 木曜日・金曜日 (各月 1 回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる (週 2 回小児精神科・月 1 回小児耳鼻科を含む)。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は、相談料 1 回 5,000 円。心理・発達相談は、担当者 1 人の場合 1 回 50 分 5,000 円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ 7,000 円、専門相談のタウン症療育相談は、相談料 8,000 円。 専門医師が担当。(小児保健クリニック)
赤ちゃんサロン	火曜日 (年 17 回) 11 00 ～ 14 00	対象は 3 ～ 18 か月の乳幼児とその保護者、妊婦。親たちが自由に交流し、赤ちゃんたちがふれあう場。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ 2 108 人が参加。入館券対応。(音楽ロビー)
第 25 回マタニティ・コンサート 「ヴァイオリンとピアノによる母へのプロローグ」	7 4 15 00 ～ 17 00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすこしもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。ヴァイオリンの野口千代光さんとピアノの加納麻衣子さんのアンサンブル、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。野末源一日本赤十字社医療センター副院長産婦人科医師と巷野悟郎こともの城小児保健クリニック小児科医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。266 人参加。劇場事業本部との共同事業。(青山山形劇場)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間・夏休み・冬休み・春休み〉 ハフハフヘビータウン	4 29、5 1 ～ 5 / 7 21 ～ 8 31 / 12 25 ～ 28、H23 1 3 ～ 10 / 3 25 ～ 4 5 10 00 ～ 17 00	乳幼児の居場所作りを目的として、児童福祉週間 (コールテンウィーク)、夏休み、冬休み、春休みの各特別期間の全日程に実施した。企画研修部、小児保健部、保育研究開発部以外の事業部も参加し、全館あけて取り組んだ。シフト制にしてスタッフを配置し、“見守り”を中心にして、時々アトハイスを行った。(研修室・A スタジオ)
〈開館 25 周年記念〉 第 16 回赤ちゃん大集合	11 4 10 30 ～ 15 30	3 か月から 2 歳未満の乳幼児と保護者が対象。研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で、「小児科医師の話」「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また、8 階の育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」のほか、開館 25 周年記念企画として 2 階で「離乳食試食コーナー」、1 階ピロティで「ヘビーカー試乗コーナー」を実施。他の事業部も「みんなて遊ぼうにこここパーク」「ころころハイハイ/たっちたっちタッタタッ/てくてくピョンピョン」「うたってハブリん/あそんでハブリん」「ビデオとうふつえん」などを実施した。参加者は、867 人 (427 組)。全館事業として実施。入館券対応。(研修室ほか)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第 27 期	(組) 太りすぎの小学生とその親 (20)	(組) ① 25 ② 24 ③ 25	土曜日 14 00 ～ 17 00	太りすぎの改善のために医学指導 (東京女子医科大学東医療センター医師)・栄養指導 (和洋女子大学ほか)・体育指導 (体育事業部。水泳と体育を交互に実施)を行う。食事と心理の保護者向けレクチャーと親子合同の体育プログラムを実施した。親子での屋外活動を年 2 回実施 (平和島アスレチック、大森ふるさとの浜辺公園)。夏合宿は、埼玉県青少年総合野外活動センター (秩父市)へ。体育事業部との共同事業。受講料 = 1・2 期 (各 12 回) 各 24,000 円、3 期 (9 回) 18,000 円。(小児保健クリニック/体育室/プールほか)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (25)	(人) 4月 17 5月 15 6月 19 7月 15 8月 16 9月 17 10月 12 11月 16 12月 14 H23 1月 14 2月 19 3月 19 (計193)	火・木曜日(月7回) 11 00～12 00 ×夏休み特別期間(7 18～ 8 31)は10 30～11 30 ×4月とH23年1月は6回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友たち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、育良クリニック産科医師・助産師と小児保健スタッフが担当、年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金 10,000 円、受講料 13,000 円(月額)。(プール)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(人) 5 か月～1 歳 6 か月の 乳幼児と親 (各回 10)	(人) 計 73	金曜日(年9回) 13 30～14 30 ×4 23=5 / 5 28=9 / 6 25=2 / 9 24=13 / 10 22=11 / 11 12=16 / H23 1 28=5 / 2 18 =2 / 3 11=7	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 受講料 2,000 円(1 回)。(小児保健部プレイルーム)
夏休みことも1日 トック	(組) 小・中学生 親子(10)	(組) 3	7 21 12 30～17 00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児保健クリニックで診察、尿検査、血圧測定、身体計測、保健相談、栄養相談、性格テストを、体育事業部で体力測定を実施。これらの結果に基づいて診断・指導を行う。また、保護者向けに、小児科医師の話「あらためて、早起き、早寝、朝ごはん」を行った。受講料 10,000 円。(小児保健クリニック/健康開発室)
赤ちゃんほっとタイム 夏休み子育て学習会	3 か月～1 歳 6 か月の 乳幼児と親 (各回 30)	42	7 30 11 00～15 00	赤ちゃんの健康、栄養、発達、子育てのあれこれを学ぶ、親向けの学習会。夏休み子育て学習会は、「赤ちゃんの発育を正しくとらえるために」(小児科医師)、「赤ちゃんの病気とけかの対応」(看護師)と「子育て Q&A」。冬休み子育て学習会は、「医学的にみた乳幼児の早期教育」(小児科医師)、「赤ちゃんの遊びと発達」(臨床心理士)と「子育て Q&A」。食事コーナーも設け、ハキーも預かった。受講料 2,000 円。春休み子育て学習会は、東日本大地震のため中止した。(会議室)
〃 冬休み子育て学習会		15	H23 1 7 11 00～15 00	
〃 春休み子育て学習会		—	3 25 11 00～15 00 ×東日本大震災のため中止	



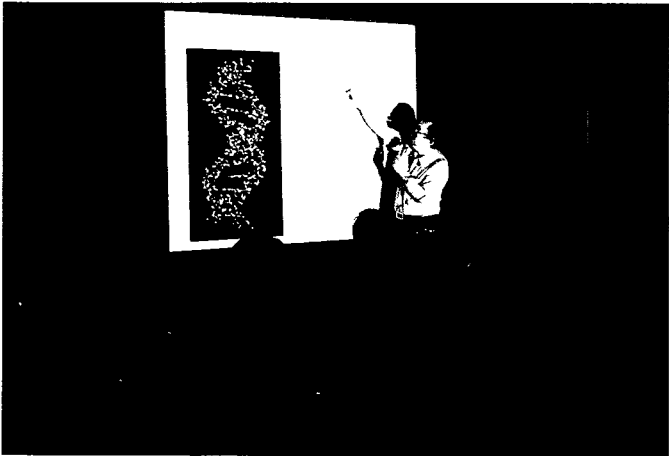
マタニティ・コンサート～リラックス体操の指導



赤ちゃんほっとタイム

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第 25 回小児保健 セミナー「多様化 する親子へのかか わり方～話の聴き 方・伝え方～」	(人) 保育士・栄養士・児童厚生員・看護師など (100)	(人) 90	10 30 10 00 ～ 17 00	離婚・再婚・ひとり親家庭などが増加し、家族のあり方が多様化しているなかで、保護者との信頼関係を築くための配慮や、私たち自身の人とのコミュニケーションのもち方、子どもの心身の発達と保護者の支援などについて取り上げた。「親の心の問題への対応」(宮本信也 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授・小児科医師)、「わかりやすい伝え方・聴き方」(中川信子さん 子どもの発達支援を考える ST の会・言語聴覚士)、「親との人間関係を円滑にするコミュニケーション・マナー」(萩原久美子さん ハーティス・コンサルタンツ㈱)。受講料 7,000 円。(研修室)
心とからだの健康 0 1 2 歳児～事例 から学ぶ～ 心理的な理解と対応	保育士・栄養士・児童厚生員など (各回 30)	5	5 27 13 00 ～ 16 00	0 1 2 歳児にかかわる現場の悩みを具体的な事例をあけて、最善の対応を考える講習会。講師は、小児保健部スタッフ。「心理的な理解と対応」(臨床心理士)、「食生活の理解と対応」(管理栄養士)。受講料 5 000 円。(会議室)
〃 食生活の理解と対応		27	10 8 13 00 ～ 16 00	
子育て支援講習会 (第 15 回／第 16 回) 「心とからだの健康 0 1 2 歳児～小 児保健の基礎と実 際～」	保育士・栄養士・保健師 看護師など (第 15 回 70) 〃 (第 16 回 50)	59 57	6 26 (第 15 回) 10 00 ～ 17 00 H23 2 25・26 (第 16 回) 10 00 ～ 16 30	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「0 1 2 歳児の保健の基礎と子育ての考え方」「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育士、栄養士、児童厚生員などが参加。第 16 回は定員を上回る申し込みがあった。第 15 回(1 日)は受講料 7,000 円、第 16 回(2 日間)は受講料 13 000 円。(会議室)
第 2 回こともの城 食育講習会「乳幼 児期からの健康つ くり～生活習慣病 予防に向けて～」	栄養士・保育士・児童厚生員など (50)	30	7 16 10 00 ～ 16 30	乳児期における「食育」の考え方、幼児期における「食育」の具体的な取り組みを中心とした講習会。「食をめぐる諸問題」(村田光範小児科医師)、「わかりやすい食事アトハイスのポイント」(太田百合子管理栄養士)、「運動遊びの実践から」(島田綾子体育事業部主任指導員)。受講料 7,000 円。(研修室)



こともの城食育講習会



小児保健セミナー

企画 研修部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

企画研修部は、企画課と研修課に分かれ業務を行っている。

企画課は、〔こどもの城〕の事業部全体にかかわる調整、事業終了後の総括のほか、全館事業や共有スペースを使った催しの実施、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、外部関連団体との協力事業を行った。

研修課は、ボランティアの養成から日常活動のコーディネート、夏休み・春休み特別期間の野外活動の実施、高校生の社会参加を目的としたグループ活動「LIT」(Leader In Training)を実施した。また、児童厚生員等実技指導講習会など、指導者向け研修会の企画運営にあたるほか、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受けて全国レベルでの子育て支援にかんするモデル事業を(助成金事業については「こどもの城から全国へ」= 151 ページ=の項参照)を実施した。



ハブハブヒータウン〜パパママいっしょのスペースだよ〜

2. 事業調整機能の強化

企画課の業務内容でもっとも重視しているのが、事業調整機能である。

各事業部が、その独自性を生かして実施するそれぞれの事業を取りまとめ、総合施設としてその全体で効果的で先駆的な事業運営が実施されるように、コーディネートした。特に本年度は、来館児・者増と〔こどもの城〕の事業内容の積極的な発信を重点に、以下の取り組みを行った。

(ア) 特別期間のテーマとねらいの設定

事業調整機能の強化策として、特別期間のテーマを設定し、文章化して確認することによって、全館の統一感を出すことに力を注いだ。

児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間は、〈子どもを主役に遊びの世界をつくる〉をテーマとし、ごっこ遊びを取り入れた「キャスルクエスト 2010 〜紋章の騎士団〜」や、人形を作って劇に参加する「ゴールデンウィーク人形劇フェア」、乳幼児がゆったり過ごせる空間「バブバブベビータウン〜パパママいっしょのスペースだよ〜」など、子どもが主体的に参加しやすいプログラムを工夫した。

夏休み特別期間は、前期・中期・後期と3つの期間に分け、あらかじめ予測した来館児・者動向をもとに、それぞれの期間の来館児・者層にあわせたプログラムの充実に心がけた。同時に、各部協力のもとに、乳幼児対策としてゴールデンウィークに引き続き「バブバブベビータウン」を実施したり、〈ミニ全館事業〉を企画・運営

した。

冬休み特別期間には、〈伝統・伝承〉をテーマに、正月遊びなどのプログラムをとおして、親子の交流促進がはかれるように調整した。

来館児・者が多い春休み特別期間は、〈みちくさ〉をテーマに、階段や廊下、屋上、壁面などさまざまな場所に、各部ごとにちょっとした“みちくさ遊び”の工夫を行い、遊びに来た子どもたちが混雑のなかでも遊べるように調整をはかった。

（イ）ピロティの有効利用

〔こどもの城〕の存在を外部に向けてアピールしていくために、劇場事業本部とスケジュール調整を行い、青山通りに面するピロティで、各種のイベントを試みた。

11 月に初めて JA 熊本果実連、㈱ NK ベジフル、新宿ベジフル㈱との協賛事業として、来館児・者への“みかん配布”を行い好評を博した。その後、トヨタ博物館の協力を得て、クラシックカーの展示イベントを行うなど、“城への注目度をあげる”をねらい、ピロティを活用した外部企業との協賛事業に積極的に取り組んだ。

12 月には、こどもの城児童合唱団によるクリスマスコンサートを実施し、多くの注目を集めた。1 月には桐ヶ丘児童館（東京都北区）の和太鼓クラブを招いて、新春和太鼓コンサートを実施した。子どもたち自身による歌や楽器の演奏活動をとおし、“こどもの城らしさ”を大変効果的に、外へアピールすることができた。

春休み特別期間には、改修工事のために使用できない体育室にかわって、体育事業部と企画研修部のプログラムをピロティで実施した。大勢の人の目につきやすい場であることから、“子どもの遊び場”としての〔こどもの城〕をアピールする効果は非常に大きかった。

これらの試みをとおして、〔こどもの城〕をアピールする場としてピロティを活用することは、大勢の人の目に留まることから大変効果が高いことがうかがえた。今後も、ピロティの有効活用に積極的に取り組んでいきたい。

（ウ）外部団体・企業との協賛・協力

〔こどもの城〕は、“社会に開かれた施設”として、ボランティアをはじめさまざまな立場の人々に、健全育成事業の運営を支えてもらっている。多くの人に、健全育成事業にかかわりを持ってもらうことで、子どもたちが育つ環境を社会全体で改善していけるよう考えている。

外部団体や企業との協賛・協力事業を積極的に実施するのは、こうしたねらいを持っている。予算の制約も

あり、事業規模の縮小を考えなければならない状況では、団体・企業から資金面や物質面の支援を受けることは、非常に重要な要素とも考えている。また外部団体・企業との協力事業は、〔こどもの城〕のスタッフに刺激を与え、魅力的で充実したプログラムを生み出すきっかけとなっている。

社会を構成する一人ひとりの市民および、その市民が所属する団体や企業が、子どもの育ちを見守り、応援する環境を作ることが、今後ますます重要になってくるだろう。今後、こうしたソーシャルアクションを児童館が中心になって行うための、さまざまな事例や方法を開発していく必要があるだろう。

（エ）各部協力事業の実施

〔こどもの城〕は、各部門がその特性を生かした事業プログラムを年間をとおして実施している。そのなかで、年間数回行われる各部協力事業は、それぞれの専門性を融合させ、総合施設ならではの特徴あるプログラムを生み出すきっかけとなっている。

本年度は、以下の各部協力事業を実施した。各部で実施している小学生向けプログラムを集中的に実施することで、小学生の来館促進をねらった「小学生プログラムスペシャル」、ふだんとは違う〔こどもの城〕の魅力をアピールする「秋まつり」、子どもが主体になってプログラム作りを行う“子どもの参画”をねらいとした「とり+かえっこ」「とり+かえっこ×ドルッチャ遊び市」である。

こうした取り組みは、来館児・者の増加や健全育成事業の質的な視点からも、一定の効果をあげたと考える。しかし、2 月に実施した「とり+かえっこ×ドルッチャ遊び市」のように、各部のコンセンサスを得ながら組み立てていく事業形態は、実施までに十分なプロセスが必要になり、各部に負担をかける結果となった。今後は、各部のプログラムと協力事業とのバランスを考えた事業計画が必要だろう。

3. ボランティアの活動と養成

〔こどもの城〕のボランティアの活動も、開館 25 周年を迎えた。〔こどもの城〕独自の研修を行い、子どもの育ちを支える〈遊びのボランティア〉として養成してきた。この間、社会環境も大きく変化し、企業の社会貢献活動や市民団体との連携など、社会資源との協働が一つの課題になってきている。

今後、〔こどもの城〕がはたすべき社会的役割を見極めることと、同時に社会資源と協働する場合のリスク管理や活動の質の保証を含め、どのように対応していくか

を検討しながら、実施していく必要性を感じている。

(ア) ボランティアセミナー

ボランティア活動希望者（18歳以上の青年層）を対象に、2回の「ボランティアセミナー」（62・63期）を実施。40歳代から60歳近くまでの受講があり、リタイア後の生き方としてボランティア活動の準備を始める人が増えていると感じた。

62期セミナーは、5～6月に開催し、21人が修了した。この時期は受講生が少ないため、大学事務局への広報活動を行い、これまで参加のなかった大学からも参加があった。イベント活動などへ積極的に参加する受講者が多く、特に学生企画・参加による「ティーンズカフェ」は盛況だった。

63期セミナーは、平成23年2～3月に実施し、定員を超える44人が参加。進路の決まった高校3年生から60代まで幅広く、活気あるセミナーとなった。高校生が多く、セミナー修了後、卒業式後の自由な時間にボランティア活動に参加していた。また震災の影響で、〔こどもの城〕が臨時休館し、活動できない時期もあったが、大学の始業や入学式が遅くなったこともあり、春休み特別期間のイベントに積極的に参加していた。

(イ) ボランティアコーディネート

「こどもの城ボランティア」は、年度ごとの更新登録制になっている。新規セミナー修了者を含め、年度末までに366人が登録。延べ5,441人（前年度は4,974人）が活動した。各部からの活動協力要請は、増加傾向にあり、加えて「乳幼児対象プログラム」への協力を求める声も多く、前年度比約1割の増加となった。

乳幼児対応などについては、若いお母さんにも安心感を与えることができる年配層の女性から母親より若いお姉さんまでが活動する。ボランティアの幅広い年齢層を生かした、さまざまな取り組みが期待され、さらにニーズが高まっていくことが予想される。

ボランティアの活動は、日常活動、特別期間の活動、野外活動、ボランティアの自治的活動の4つに区分することができる。これらの活動が円滑に行えるように、〔こどもの城〕とボランティアの間に立ってコーディネートしていきたい。

4. 講座・クラブ

「LIT」（Leader In Training）は、高校生の社会参加活動プログラム。9月から始まったLITのメンバーは21人と、10人程度人数が減少した。これまでは、〔こ

ときあかせ！るちやと村の七不思議（LIT）



どもの城〕のキャンプに参加していた人が多かったが、本年度は「ユースクラブ」や一般からの参加者が多くなった。キャンプの参加経験者は、LITに対して共通イメージを持っているため、一人ひとりの活動参加に対する目標が集約しやすく、グループの凝集性が自然に高まる傾向にあった。本年度は多様な目標、ニーズ、課題を持ったメンバーとなったため、それを集約し、全員納得のもとで活動を進めるために、さまざまな配慮が必要となった。

多感な高校生世代の活動は、〈居場所〉と〈明確な目標を持った活動〉の2つをバランスよく配置することが望ましいと考える。本年度直面したメンバーの多様性という課題は、中高生世代を対象にした事業を実施する時に、必ず乗り越えなければならない課題だと考えられる。今後は、本年度のケースを特殊なものとしてとらえずに、課題解決にあたることが望ましいだろう。

5. まとめ

開館25周年を向かえ、〔こどもの城〕が新たな局面を迎えた年と考えられる。特に行政刷新会議の事業仕分けによって、国立総合児童センターとしての〔こどもの城〕の役割が改めて問い直されたと言えよう。また、さまざまな社会的要因により、より効率的な事業運営が求められた。

〔こどもの城〕が培ってきた25年の実績の質と量を落とさないまま、効率的で効果的な事業運営をめざすとともに、〔こどもの城〕の役割や意義を社会へ、そして全国へ発信していく事業を、より積極的に実施していく必要性が明確になった。

企画研修部が、各部の事業全体を把握し、それを有機的に結びつけることで、総合的な効果を生み出す事業計画を中心となって進めなければならない。その役割を再認識するとともに、各部と課題を共有しながら事業運営にあたる必要があるだろう。

平成 22 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
《主催事業》 小学校開校記念日招待 (渋谷区・港区)	通年	渋谷区・港区の公立小学校の開校記念日にあわせて、指定された期間中利用可能な無料招待引き換え券を児童数分配布。利用促進につなげた。対象となる小学校は 39 校、児童数は約 12,000 人。
ぽかぽか広場	4 13、27、5 11、25、6 8、22、 7 13、9 14、28、10 26、11 9、 12 14、H23 1 25、2 8、22、 3 8 (火曜日) 11 00 ～ 14 00	3 か月～2 歳 11 か月の乳幼児と保護者のための広場。「赤ちゃんサロン」より年齢対象を広げた自由参加型の広場。子どもたちと保護者の交流、子育ての情報交換、幼児の生活や遊びについてのアトハイスなどを行っている。各部のショート・プログラムも紹介。入館券対応。全 16 回。年間延べ 1,034 組の親子が利用。 (音楽ロビー)
〈全館事業〉 とり+かえっこ	6 19・20 13 00 ～ 16 30	使わなくなったおもちゃを〈ハンク〉で売り、引き換えたポイントで別のおもちゃと交換できる遊び。〔こともの城〕の特色を出すために、館内のプログラムに参加して遊んだり、「お仕事体験」をするとポイント引換券がもらえ、おもちゃと交換できる仕組みになっている。子どもが運営に参画できるよう、小 3 以上を対象に「子ども実行委員会」を組織。8 人が参加し、事前に 3 回の実行委員会を開催。ポスターやちらしを作ったり、ゲームの企画・準備、当日の運営をした。 (キャラリー)
サンタにととけ！ うたおうクリスマス	12 18 15 30 ～ 16 00 16 30 ～ 17 00	こともの城児童合唱団によるクリスマスソングとハントヘルのコンサート。「赤い鼻のトナカイ」など 13 曲を披露した。 (ピロティ)
みんなてかざろう クリスマス	11 20 ～ 12 25 開館時間中	用意した紙に、メッセージや絵などを子どもたちに書いてもらい、ツリーに飾ってもらった。来館児・者ととも館内の装飾を作り上げるプログラム。 (館内各所)
小学生プログラム スペシャル 「あつまれ！小学生」	H23 2 11 ～ 13	小中学生の来館促進をねらいに実施。イベント参加をきっかけに、毎週土曜日に実施している小中学生対象の活動への継続的参加につなげるように、共通の参加カードを作成するなどの仕掛けを準備。また、活動をほかの来館児・者にアピールするため、参加者による活動発表会と活動内容の掲示を行った。期間中は、「土曜日パス」を使用できるようにした。 □実施プログラム□小学生ラホ「機械の中を見てみよう」／造形クリエイティブコーナースペシャル「クルッとうつるん通り」／ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部スペシャル「シェンヘ」「お箏」「アंकクルン」／ヒックサタデースペシャル「スポーツ鬼っこ大会こともの城 CUP」「バスケットホール」「同 大会」。各活動の発表会を実施し、活動紹介をする掲示を行った。 (プレイホール、造形スタジオ、音楽ロビー、体育室ほか)
〈全館事業〉 とり+かえっこ×トル ッチャ=あそび市	2 19・20 13 00 ～ 16 30	これまでに実施してきた子ども参画事業「とり+かえっこ」と「トルッチャ」を併せて実施した。小 2 ～高 3 を対象に「子ども実行委員」を募り、37 人が参加、4 回の準備活動を行った。プロジェクトチームを組んだスタッフ 4 人が全体のコーディネート。各事業部のスタッフも、子どもたちのゲーム作りの活動をサポートした。キャラリーで「とり+かえっこ」の“まち”を、館内で 7 種の遊びを運営した。 (キャラリーほか)
《協賛・協力事業》 おもちゃ図書館 マックロー	水曜日 12 30 ～ 15 00 ×〔こともの城〕の休館日を除く (特別期間中 11 00 ～ 16 00)	障がいのある子どもが気軽に利用できる遊び場「こともの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も 4 人のボランティアを中心に運営され、延べ 48 回開催した。利用者数はその日によってまちまちだが、年間 300 人近い利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しを行い、他のおもちゃ図書館との交流もはかった。 (会議室)
子どもアートオリンピ ック展	5 15 ～ 23 開館時間中	第 4 回子どもアートオリンピック（世界子どもフェスティバル）の代表を選ぶ展覧会。4 年に 1 回募集し、アートとスポーツで平和な世界を作ること目的としている。今回は、「私の好きなスポーツ」というテーマで、世界から募集した 8 ～ 12 歳までの子どもの絵画またはデジタル作品を展示。15、16 日の 13 時から書道のワークショップも開催。共催 日本アートオリンピック組織委員会。 (キャラリー)

名 称	日 時	内 容
2010 年ヒト展 ～わたしのかそく～	6 6～13 開館時間中	渋谷区在住または在園、在学の子ともたちや、ユネスコ運動に共鳴した大人の絵画や立体造形作品を集めて開かれている交流作品展。ヘトナム、アフガニスタン、カンボジア、ミャンマー、ネパール、インドなどアジア地区の子どもの作品も展示された。本年度のテーマは「わたしのかそく」。共催 渋谷ユネスコ協会。(ギャラリー)
「東京・音楽の祭日」 コンサート	6 19 13 15～14 00	夏至の日に、世界各国で開催される「Fete de la Musique」というフランス発祥のイベント。東京では、「東京・音楽の祭日」の名称で都内各所で開催。そのなかの一会場として、「こどもの城」で実施。出演は、女性トリオのプリコロハウス。サクソでアニメソングなどを演奏。共催「音楽の祭日」主管事務局。(音楽ロビー)
地球最古の恐竜展 こともナイトミュージアム	7 17・18 20 00～9 00 (宿泊)	博物館に宿泊し、恐竜についての知識を深めてもらうとともに、仲間との協同生活体験をとおして社会性・協調性を深める機会として、森アーツセンターへ協力した。小3～小6の22人が参加。主催 森ヒル(株)、NHK、NHK プロモーション。(森アーツセンター)
ことも写真展	9 17～23 開館時間中	「夏休みの思い出」のテーマで、子どもたちが撮影した写真の展覧会。首都圏の一部の写真店で、子どもたちに写真を楽しんでもらうことで、写真文化を維持することを目的としている。約100点の写真を展示。主催 富士フイルム(株)。(4階ロビー)
平和・国際都市 渋谷の日	10 1 開館時間中	10月1日は、渋谷区が制定した「平和・国際都市 渋谷の日」。啓発活動の一環として、区内施設の無料開放に賛同し、利用促進につなげた。渋谷区内在住・在学の子とも3～17歳のみ利用無料。利用者は、受付簿に氏名を記入し、44人が来館した。
子供未来 とうきょうメッセ 2010	12 17 10 00～17 00	子どもや子育て支援をしている民間団体や自治体をはじめ、多様な団体が日々の取り組みを紹介する場として実施されるイベントへ協力した。子どもたちが楽しく遊べるよう、外遊びキットの遊具の貸し出し、造形プログラム・音楽プログラムの提供を行った。主催 子育て応援とうきょう会議。(東京国際フォーラム)
アートスケープ 2011	H23 2 26～3 6 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクールに通う子どもたちの合同美術展。13校から、小5(8歳)～高3(18歳)の生徒たちによる、600点におよぶ絵画・版画・写真・陶芸など、平面と立体が入り混じったさまざまなジャンルの作品を展示。(ギャラリー)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
《主催事業》		
〈児童福祉週間〉 ハフハフヘヒータウン～パ バママいっしょのスペースたよ～	4 29、5 1～5 10 00～17 00 ×5日は16 00 まで	乳幼児の“居場所”として設営。4月29日と5月2日は企画研修部(ホランティア)、1日は保育、3～5日は小児保健部が担当。ホランティアが在室し、親子にゆったりかかわることかできた。ホランティアによる手作りおもちゃが好評。(Aスタジオ)
〈夏休み〉 ハフハフヘヒータウン～パ バママいっしょのスペースたよ～	7 21～8 31 10 00～17 00 ×31日は16 00 まで	3か月～2歳11か月の子ともとその保護者を対象にした親子のためのスペース。常時スタッフとホランティアがいることで、来館児・者との関係性を築き、繰り返しの来館を促進する。全館事業として各部協力のもとで運営。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 めさせ! 恐竜ハンター	7 30・31、8 20・21 11 00～16 00	恐竜に興味を持っている子どもたちに、「こどもの城」への繰り返し入館を促進するために、「地球最古の恐竜展」(森アーツセンター)の協力を得て、日時限定で、恐竜カードを集めるという遊びを実施。各部協力のもとで行うミニ全館事業として実施した。資料提供 地球最古の恐竜展。(館内)
入館者 2,500 万人 記念セレモニー	11 3 12 45～13 10	「こどもの城」の来館児・者の合計が、2,500万人に達した。記念したセレモニーを実施し、2,500万人目の来館者に、感謝状や記念品を授与した。(音楽ロビー)
〈冬休み〉 おそなえ餅つくり ～年末にお餅つき～	12 26 10 15 / 13 00 / 15 00	うすときねでもちをつき、自分の手で家に飾るおそなえもちを作る親子ワークショップ。「お正月」「おそなえ餅」についても学んだ。54家族 175人参加。(フリーホール)
〈 〃 〉 ハフハフヘヒータウン～パ バママいっしょのスペースたよ～	12 25～28、H23 1 3～10 10 00～17 00 ×10日は16 00 まで	3か月～2歳11か月の子ともとその保護者を対象にした親子のためのスペース。常時スタッフとホランティアがいることで、来館児・者との関係性を築き、繰り返しの来館を促進。全館事業として各部協力のもとで運営。かん具提供 プラントイシヤパン(株)。(Aスタジオ)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 新春〜ひひけ！ めてタイコ〜	H23 15 11 00〜11 30 13 00〜13 30	桐ヶ丘児童館太鼓クラブ（東京都北区）の子ともたちによる太鼓の演奏。（ピロティ）
〈 “ ” 〉 青森りんこフェア	1 5 13 30〜15 00	身近な果物であるりんこの魅力を子ともたちに知ってもらうためのイベント。りんこ 1 個を無料配布。先着 1,000 人。協力 京浜関東青森リンコの会、青森 JA つかる弘前、東京新宿ヘシフル㈱、㈱エヌケイヘシフル。（ピロティ）
〈春休み〉 ハブハブヘビータウン〜パ ママいっしょのスペースたよ〜	3 25〜4 5 10 00〜17 00 × 5 日は 16 00 まで	春休み特別期間は、企業協力のシミュレーションとして、かん具を提供してもらう代わりに企業 PR に協力。かん具提供 プラントイシャパン㈱。（A スタシオ）
〈 “ ” 〉 みんなて「みちくさ」 あそぼうみんなて、外あそび！	3 27〜4 5 11 00〜16 00	“長くつながる異板”や“すのこ”など助成金事業で製作した外遊びキットを用いて、外で遊ぶことの大切さを感じてもらう機会とした。〔こともの城〕の取り組みなども紹介し、道行く人へ〔こともの城〕を PR した。協力 TOKYO PLAY。（ピロティ）
〈児童福祉週間・ 開館記念・お正月〉 マックロー・グリーディング	5 5、11 3、H23 13 開館時間中（3〜4 回）	こともの日や〔こともの城〕の開館を記念して、子ともたちと握手をしたり記念撮影をして、〔こともの城〕をアピールした。（ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など）
《協賛・協力事業》 〈児童福祉週間〉 パパとキッズのアートプログラム part2 世界でたった一つのか たち with ノッポさん	4 29 13 00〜16 00	ノッポさんをナビゲーターとし、父と子が共同作業をとおしてコミュニケーションを深めながら、大きなケント紙などを使って、互いの等身大の作品＝世界でたった一つの父子の“かたち”を作るワークショップ。30 組が参加。作品は夏休みにギャラリーに展示した。（体育室）
〈 “ ” 〉 ミツ矢サイダー環境プロモーション くうそうの森 たんけん隊	4 29、5 1〜5 開館時間中 (ワークショップ受け付けは 16 00 まで)	森を守っている不思議な種から育つ木や花を想像して、製作してもらうことにより、環境の大切さを伝えるとともに、創造性を豊かにすることを目的とした展示とワークショップ。ワークショップでは、さまざまな素材を使用した不思議な花を制作し、木に飾ってもらった。共催 ミツ矢サイター、CAMP。（ギャラリー）
CAMP くうそう・ しょくぶつ・図鑑 ワークショップ	4 29、5 1〜5 13 30〜17 00	小 1〜小 3 の子ともたちを事前募集し、特別ワークショップを開催。子ともたちは、植物の研究員になって、“くうそうの森”から届いた不思議な〈たね〉を調査。みんなて相談して花を咲かせて、観察し、新しい植物図鑑を完成させた。参加者は、6 日間で延べ 41 人。共催 ミツ矢サイター、CAMP。（ギャラリー）
〈 “ ” 〉 アイスクリームのプレゼント	5 4 11 00〜12 00 13 00〜15 00	5 月 9 日のアイスクリームの日にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力 社団法人日本アイスクリーム協会。（フリーホール）
〈夏休み〉 パパとキッズのアートプログラム part2 「世界でたった一つのかたち with ノッポさん」大展覧会	7 17〜8 31 開館時間中	平成 20〜22 年＝08〜10 年に全国 8 都市で実施してきた、『世界でたった一つのかたち with ノッポさん』の全作品 218 組（2 作品 1 組）を一同に展示した。観覧は無料。共催 コスモ石油㈱。（ギャラリー）
ワークショップ 「世界でたった一つ のかたち〜かお」	7 17〜8 31 13 00〜16 30	雑誌などを切り抜いてカラーシュした〈かお〉を製作するワークショップ。“コンタくんのパパ”とよばれる枝常弘さん（『世界でたった一つのかたち with ノッポさん』のアーティストディレクター）による特別ワークショップ「かおにもいろいろあるよ」を 7 月 25 日、8 月 8、23 日に実施（各日 14 時〜15 時 30 分）。共催 コスモ石油㈱。（ギャラリー）
〈 “ ” 〉 夏のハーブイベント	7 30 11 00／13 00	演奏家・毛利沙織さんによる、スタシオシブリのアニメーション映画で使用された音楽を中心とした演目のハーブ演奏。演奏をしていない時間帯は、ハーブにさわられる体験（10 時〜17 時 30 分）。協力 銀座十字屋ハーブ＆フルートサロン。（アトリウム）
〈 “ ” 〉 第 18 回キンター・フィルム・フェスティバル	8 10 15 00／17 30	18 回目を迎えた子とものための映画祭。映画の上映だけではなく、声優吹き替え、審査員、司会進行、受け付けなど、映画祭進行のすべてに子ともたちが参加した。主催 キンター・フィルム・フェスティバル実行委員会。（青山劇場）

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 青山コモンズ くまもと おいしいみかんがてきるまで	11 27 13 00 ～	身近なみかんをより知ってもらうためのイベント。みかんがてきるまでの紹介ビデオの上映、みかんが実った鉢植えの展示、「熊本みかんしてん」とみかん 2 個を先着 1,000 人に無料配布。共催 JA 熊本果実連、㈱エヌケイヘシフル、東京新宿ヘシフル㈱。(ピロティ)
〈 〃 〉 青山コモンズ GO'GO'ウィー クルススペシャル クラシック カーがやってくる	11 28 10 00 ～ 16 00	20 世紀初めに活躍した、4 台のクラシックカー（電気、蒸気、木炭カス、カソリン車）を展示し、自動車燃料（動力源）の変遷を紹介。また、11 時と 14 時の 2 回、トヨタ博物館学芸員による約 30 分の展示解説ツアーを実施した。共催 トヨタ博物館。(ピロティ)
〈冬休み〉 きれいな未来へ。 プリヂストンこともエ コ絵画コンクール展	12 25 ～ 28、H23 1 3 ～ 10 開館時間中	第 7 回プリヂストンこともエコ絵画コンクール「なかよくくらす しせんといきもの」をテーマに子どもたちが描いた作品のうち、受賞した 101 点を展示。展示会の環境に触発されて絵を描いて遊ぶコーナーや、遊びながらコムについて学べる「コムの不思議研究所」のコーナー（13 時～ 17 時 30 分）も実施。共催 ㈱プリヂストン。(ギャラリー)
〈春休み〉 ニッサンゆかいな絵本と 童話展 ～ちよっと空まで～	3 25 ～ 4 5 開館時間中 ×ワークショップ受け付けは 16 00 ま で（27 日はお休み）	第 26 回ニッサン童話と絵本のクランプリ受賞作品の原画展示、カラーシュで小鬼を作るワークショップ、事前募集した子どもたちによるクルマのイラストと、それをもとに日産自動車のカーデザイナーが描いたデザイン画の展示で構成。クランプリ受賞者の宮崎優・俊枝さんが、自動車の内装材などを使って会場を装飾。共催 日産自動車㈱。(ギャラリー)
みんなて夢のクルマ をデザイン！～日産 自動車のカーデザイ ナーと遊ぼう	3 27 15 00 / 17 30	関連イベントとして、カーデザイナーと子どもたちの交流プログラム。来場した子どもたちの目前で、デザイナーがパソコンを使って実際にクルマをデザインする過程を披露。子どもたちは専用の用紙に色を塗るなどしてデザインを体験した。クルマの絵の応募者も来場し、記念品の授与を行った。共催 日産自動車㈱。(ギャラリー)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
グループ活動	特別期間を除く 平日の午前中	平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、遊びのプログラムを提供。本年度は、152 団体 3,055 人（前年度は 156 団体 3,267 人）を受け入れた。全体の 3 分の 2 が未就学の児童、残り小学生と特別支援学級や特別支援学校、自主保育グループ。中高校生の利用が 3 件あった。
こどもの城友の会	通年	家族単位で入会し、「こどもの城」の活動をサポートする。会報「こどもの城友の会通信」を年 12 回発行。特典は、入館招待券のプレゼント、友の会限定のプログラム開催（3 件）、青山劇場・青山円形劇場公演への招待・優待（3 件）、〔こどもの城〕内外の催しへの招待・優待（12 件）、遊び場以外の施設利用割引（売店・ホテル）などがある。新規プログラム実施の際の、モニター機能も持つ。本年度末の会員数は、600 家族（前年度は 760 家族）。
来館促進活動	〃	各種優待パスの企画、入館キャンペーンの企画・実施、〔こどもの城〕の地元となる渋谷区・港区内の小中学校などへの働きかけなど、〔こどもの城〕への来館を促進するための活動を行っている。



みんなて「みちくさ」 あそぼうみんなて、外あそび！



新春～ひひけ！めてタイコ～

2. ボランティアの活動

〈定例活動〉

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 10 00 ～ 16 30	保育スタッフとともに、2 歳児クラス、または 3 ～ 5 歳児グループに入り、運営補助。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	月 2 回火曜日 11 00 ～ 14 00	小児保健スタッフとともに、乳児とその親を対象にした広場事業の運営サポート。 (音楽ロビー)
紙芝居 (プレイ)	第 1・3 水曜日 (練習は隔週) 15 00 ～ 15 30	親子を対象に紙芝居を行う。「みんなのにこにこ広場」。 (プレイホール)
女性人形劇 (プレイ)	第 2 水曜日 (練習は毎木曜日) 15 00 ～ 15 30	手作りの人形を使い、脚本から上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。 (プレイホール)
影絵 (プレイ)	第 4 水曜日 (練習は毎火曜日) 15 00 ～ 15 30	人形、背景、脚本など手作りで実施。昔話や童話をオリジナルの演出・構成で実施。 (プレイホール)
おりかみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14 30 ～ 15 30	毎回 1 ～ 2 種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。 (プレイホール)
みんなの楽器屋さん (音楽)	木曜日 15 00 ～ 15 30	プログラム導入の手遊びや、音楽プログラム「みんなの楽器屋さん」で参加する子どもたちをサポート。年数回、ボランティアが楽器の演奏も実施。 (音楽ロビー)
絵本であそぼっ (企画研修)	金曜日 14 45 ～ 15 15	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたりを実施。 (A スタジオ)
みかんちゃんスの オパオパサンハ (音楽)	金曜日 15 00 ～ 15 30	スタッフとともに“サンハ”のリズムを中心に子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。 (音楽ロビー)
布おもちゃ (企画研修)	第 2・4 金曜日 10 30 ～ 15 30	プレイホール幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を製作。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。 (ボランティアオフィス)
親子のほっとタイム (小児保健部)	金曜日 (2 日×2 回 6、10 月) 13 30 ～ 14 30	小児保健部の講座で、赤ちゃんをサポートする。平成 18 年度から参加。 (小児保健クリニック)
ピックサタデー (体育)	土曜日 10 00 ～ 12 00	小学校 4 年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、ハレーホール、サッカーなどを実施。 (体育室)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15 00 ～ 17 30	来館児・者を対象に行う視覚かん具作りのワークショップ (主にくるくるアニメ) の運営補助。 (音楽ロビー)
手足の不自由な子の水泳 (体育)	土曜日 17 00 ～ 18 00	講座に参加する子どもたちにボランティアが一对一につき、水泳の補助。 (プール)
土曜昔あそびの会 (企画研修)	第 2 土曜日 14 00 ～ 17 00	屋上ふしきか丘を中心に、来館した子どもたち、その親を対象に、こまや三つ馬などの伝承遊びを実施。 (ふしきか丘ほか)
キッズクラブ (プレイ)	月 2 回土曜日 15 00 ～ 17 00	小学 1 ～ 4 年生を対象に行う年間をととしたクラブ活動を運営する。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)
こともの城アトヘンチャー (企画研修)	月 1 回土曜日 14 00 ～ 16 30 (受け付け時間)	子ども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウォークラリー形式のゲームを実施する。 (全館)
ユースクラブ (プレイ)	月 2 回日曜日 13 00 ～ 17 00	小学 5 年生～中学 3 年生を対象に行う年間をととしたクラブ活動で、プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)

名 称	日 時	内 容
LIT =高校生ボランティア (企画研修)	月 2 回日曜日 10 00 ～ 16 00	〔こともの城〕を活動基盤に、年間をととして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアトハイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。 (会議室ほか)
絵本の読みかたり (企画研修)	第 2 日曜日 14 00 ～ 15 00	保育室の 1 ～ 2 歳の遊び場で実施。お話し会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであける時間も設けている。 (保育室 2)
つくってあそぼう (企画研修)	月 1 回日曜日 14 00 ～ 17 30	小学校低学年を対象に、身近な素材で手作りおもちゃのワークショップを行う。独自に、手作りおもちゃの開発も行っている。 (フリーホール)
日曜クラブ	月 1 回日曜日 14 00 ～ 17 00	縄跳び、フラフープ、トッシーホールなどを実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。 (ふしきか丘)
青年人形劇 (企画研修)	月 1 回日曜日 11 30 ～ 12 00	パネルシアターのグループと合同公演することが多くなった。〔こともの城〕のマスコット“マックロー”の棒使い人形を使ったオリジナル人形劇。 (プレイホール)
パネルシアター (企画研修)	月 1 回日曜日 13 00 ～ 14 30	パネルシアターの公演と、パネルを使って遊ぶワークショップ。青年人形劇との共同公演が定着し、互いに活動をサポートしながら、内容の充実をはかった。 (プレイホール)
ホラカフェ (企画研修)	月 1 回土曜日 18 30 ～ 20 30	青年ボランティア各グループのメンバーで構成される組織。全体の活性化をめし、ボランティア同士の交流会、学習会、機関誌の発行などを行う。ボランティアのセルフヘルプ活動。部門ごとの打ち合わせ・活動もある。
女性総会 (企画研修)	月 1 回(年度始めに提示/火～金曜日) 11 00 ～ 12 00	女性ボランティア各期のメンバーが、毎月交代で会議に参加し、連絡事項、検討事項を話し合う。女性ボランティア全体の活性化をめざすことが目的。

〈特別期間中の活動〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こともの城キャスル クエスト 2010 ～紋章の騎士団～	5 1 ～ 5 11 00 ～ 16 00	この世に平和と秩序をもたらすため、子どもたちは悪に立ち向かうブンテル騎士団になるための修行を行い、騎士となり、クエスト(謎解き)を解いて、闇の化身サクナスを倒すロールプレイングゲーム。遊びをととして、子どもたちが交流し、仲間作りをする楽しさを体験してもらう。 (ふしきか丘ほか)
〈 〃 〉 あそひのおもちゃ箱	5 3 ～ 5 12 30 / 14 15 / 16 00	人形劇、パネルシアター、紙芝居の公演と“葉っぱ”作りのワークショップ。活動のへースには、青年ボランティアの人形劇グループや女性ボランティアの読みかたり、パネルシアター、紙芝居のグループなどの日常活動がある。 (研修室、会議室)
〈夏休み〉 ウォーターアートハンチャー 2010 ～ウォーターザブーンは大さわぎ～	8 13 ～ 15 (13 日のみ 12 00 ～)	ふしきか丘を舞台に、水の街“ワンターサフーン”を乗っ取ろうとする海賊たちから街を守るために、リーターと子どもたちでパトロール隊“パシャーン隊”を結成し、生活の源である水を守る遊び。水鉄砲を使い、夏らしい遊びを展開した。 (ふしきか丘)
〈 〃 〉 ときあかせ！るちゃと 村の七不思議	8 28・29 11 00 ～ 16 00	高校生ボランティア LIT による遊びの祭り。リット海にやって来た子どもたち(一般未館児・者)がゲームにチャレンジし、海賊をめざす。事前募集で集まった小学 1 ～ 4 年生が「ちひっこ海賊団」となり、子どもたちがチャレンジするゲームを考えた。(フリーホール)
〈冬休み〉 2011 新春あそひのお年玉 ～びよんとこいこい福よこい！ みんなあそびおめでと！	H23 1 3 ～ 10 11 00 ～ 16 00 (3 日は 13 00 ～)	こま、へいこま、カルタやおはしきなど、正月ならではの“家族で遊べる遊び(昔遊び)”を提供。遊びに参加すると〈お年玉券〉がもらえ、3 枚ためると“おみくし”をひくことができるようにして、くりかえし遊びに参加できるふんいき作りも行った。プレイ事業部との共同企画。 (屋上遊園、プレイホール)
〈春休み〉 春た！あそんしゃ王国 ダンダンチャレダン大集合！	4 2 ～ 5 13 00 ～ 16 00	ボランティアによる段ホールを使ったゲーム。‘おもちゃ博覧会’をテーマに、段ホールを素材したチャレンジゲームを 7 つ提供。子どもたちは、ゲームに挑戦しながら、ゲームの人気投票も行った。ゲームは、2 月の 63 期ボランティアセミナーで新人メンバーが考えた遊びをへースに行った。 (ふしきか丘)

3. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
L.I.T (Leader In Training)	(人) 高校生 (30)	(人) 31	日曜日 13 00 ～ 15 30 (原則／月 2 回)	高校生の社会参加プログラムとして実施。トレーニング中のリーダーという意味で、[こともの城]のなかで、〈あそび〉をとおして子どもたちとふれあうボランティア活動。平成 21 年 9 月から平成 22 年 8 月まで、月 2 ～ 3 回、計 33 回活動を実施した。主な活動は、こともの城開館特別期間行事への参加、親睦ハーヘキュー、冬のキャンプトレーニング、一般来館児向けプログラム「アリさんマークの建設社」、キャンプ活動への参加（ジュニア・スプリング・キャンプ／ジュニア・アウトドア・スクール／ちひっこ冒険団）、一般来館児向けプログラム「ときあかせ！るちゃと村の七不思議!!」など。受講料＝ 10,000 円（1 年間）。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
しゅいんクラブ 小中学生のための福祉講座 「エンジョイ手話」	(人) 小 4 ～ 中 3 (20)	(人) —	H23 3 21 (中止)	「しゅいんクラブ」は、入門編としての手話の習得のみならず、ノーマライゼーションを理解するために、障害者やさまざまな立場の人の人権問題などを考える場。手話の指導は、外部講師・中野佐世子さん（手話通訳士）を予定。春休み特別期間に短期講習会として「エンジョイ手話」を実施する予定だったが、東日本大震災の影響を受けて中止した。

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 22 年度 登録ボランティア 研修	(人) 平成 22 年度 こともの城 登録希望ボ ランティア	(人) 延へ 245	4 11、5 9、5 13、5 15 各日 9 30 ～ 12 00	4 日間同じ内容で、いずれか 1 日を選んで受講。参加者は 4 月 11 日 88 人、5 月 9 日 59 人、13 日 58 人、15 日 40 人。内容は以下のとおり。講師はいずれも内部スタッフ。「こともの城ボランティア～その現状と課題～」「子どもと遊び」「ボランティアか元気になる秘訣（ワークショップ）」。（会議室）

ボランティアセミナー

期 数	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第 62 期	18 歳以上 (高校生不可) (30)	21	5 9 ～ 28 19 00 ～ 21 00 (宿泊研修 5 21 ～ 23)	学生 8 人、社会人 7 人の計 15 人が修了。座学はオリエンテーションなどを含め 8 回。5 月 15・16 日にボランティア体験実習。「ボランティアってなんだろう？～あなたが施設の風になる～」(児童健全育成推進財団・阿南健太郎さん)、「発見！あそびこころ・こともココロ～集団遊びにチャレンジ！～」(こともの城・松下浩市)、「あそびは子どものこはんた！～今ときの“子ども事情”～」(同・佐野真一)、「明日からはしまるボランティア」(同・熊澤桂子)、「子どもの笑顔はチカラの源！～ボランティア活動ホントのココロ～」(こともの城ボランティア)ほか。宿泊研修は、神奈川県三浦ふれあいの村。事前のオープンキャッスルには、22 人が参加。
第 63 期	18 歳以上 (進路決定の 高校生可) (30)	44	H23 2 5 ～ 3 2 19 00 ～ 21 00 (宿泊研修 2 25 ～ 27)	高校 3 年生 9 人、学生 22 人、社会人 13 人の計 44 人が修了。座学はオリエンテーションなどを含め 8 回。2 月 12・13 日にボランティア体験実習。座学は「子どもの心をつかむ集団あそびにチャレンジ」(こともの城・岡野正和)、「ボランティアの 4 つの原則・4 つの役割」(同・佐野真一)、「実践！子どもが惹きつけられるプログラムづくり」(同・専門スタッフ)、「専門家に聞く！子どもの今、児童館の今」(大正大学教授・西郷泰之さん)ほか。宿泊研修は、神奈川県三浦ふれあいの村。事前のオープンキャッスルに 24 人参加。

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ボランティアクレートアップ講習会				
夏季野外活動	(人) こどもの城 ボランティア (30)	(人) 13	7 10・11	「ジュニア・アウトドア・スクール」(小4～中3)に参加するボランティアが対象。主な内容は「野外生活の基礎づくり～テント・タープの建て方・ランタン、コンロの使い方」「野外炊事実習」「自然を利用したプログラムの開発と実際」など。また、1泊2日のキャンプを、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれ運営。本番のキャンプ本部運営をシミュレートした。船橋市大神保青少年キャンプ場(千葉県)。
冬季野外活動	(人) こどもの城 ボランティア (30)	(人) 13	H23 2 18～20	「ジュニア・スプリング・キャンプ」(小3～中3)に参加するボランティアが対象。主な内容は「歩くスキーコース徹底把握」「雪上プログラムの研究①～③」「巨大な雪の造形物製作」「イクルー作りの基礎学習」「イクルーホームパーティー体験」など。ボランティア同士の関係を深め、相互援助の活性化をめざした。講師に桃井泰彦さんを招く。国立妙高青少年自然の家(新潟県)。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ジュニア・ アウトドア・スクール 2010	8 5～11	小学生27人、中学生28人、高校生5人、ボランティア23人、スタッフ3人の合計86人か参加。6泊7日。テント営。参加者は定員75人を下回る55人、小学生と新規参加者の減少が顕著である。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場(宮城県)。 【主なプログラム】 □オーナハナイトソロ(中学生)＝キャンプ4日目に実施。テントサイトから30分ほど離れた若いフナの森で、それぞれが15m以上離れて、ブルーシートで作ったシェルターに包まり、1人で一晩を過ごす冒険プログラム。午後3時から翌朝の午前5時まで。 □熊野岳登山(小学生)＝蔵王エコーライン途中の大黒天(1450m)から、蔵王連峰最高峰の熊野岳(1841m)をめざす登山プログラム。9時30分に大黒天を出発し、12時15分には山頂に到着した。晴天に恵まれ、美しい“お釜”の姿を何度も見るこがてきた。また“お釜”の近くを走り抜ける、熊の姿も見るこがてきた。 □個人選択プログラム＝各自の興味に応じて取り組めるプログラム。本年度は「佐々木先生とネイチャークラフト」「杏利のタンス」「野遊び」「流しそうめん」「かほちゃプリン」「ところてんセリー」「森に絵をかこう」「みつろうキャントル」の8プログラムを実施した。
ジュニア・ スプリング・キャンプ 2011	H23 3 27～31(中止)	小学生43人、中学生28人、高校生11人、ボランティア25人、スタッフ3人の合計111人か参加。4泊5日。宿舎泊。独立行政法人国立妙高青少年自然の家(新潟県)で実施予定だったが、3月11日に発生した東日本大震災の影響で中止した。



みんなてかざろう クリスマス(アトリウムのクリスマスツリー)

とり+かえっこ×トルッチャ=あそび市



平成 22 年度「グループ活動」プログラム一覧表

プログラム名		対象年齢	内 容
体 育	すてきな新体操	3 歳児～中 3	ホール・リンク・縄などの手具を使って楽しく体操する。
	たのしい体育・運動	3 歳児～中 3	身近な道具を使った運動や、マット・跳び箱などを使ってサーキットなどのゲーム。
	レクリエーション	3 歳児～中 3	おにっこやしっぽとり・フラインクティスク・パラハルーンを使って楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう！	3 歳児～中 3	ウオールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タクラクヒーなどの球技から選択。
ブ レ イ	劇遊び「森へ行こう」	4 歳児～小 2	森のお姉さんや木こりと一緒に森のなかを探検する、っこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	4 歳児～小 2	悪者忍者の挑戦を受け、忍者修行に挑む、っこ遊び。月齢・人数によって内容が変わる。
	みんなてあそぼうパペットラント	4 歳児～小 2	紙コップでねずみの人形を作り、ねずみにちなんだ遊びをしなから、お話の世界で遊ぶ。
	みんなてあそぼうパペットラント	3 歳児～小 2	靴下であおむしの人形を作り、あおむしになりきって、お話の世界で遊ぶ。
	みんないっしょに	3 歳児～小 2	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどを組み合わせた「つといの広場」。
	わくわくオリンピック	4・5 歳児	幼児からできるレクリエーションゲーム“オリンピックっこ”。
	こともの城オリンピック	小 1～	オリンピック種目を愉快地アレンシしたレクリエーションゲーム大会。15 人以上。
造 形	パソコンであそぼう	小 1～	合成写真や紙飛行機的设计制作など、さまざまな機能を使った 5 種類の活動から選び体験。
	かけをうつそう	4 歳児～小 6	自分の影をブレイクホートに写し取り、その影のなかを絵の具でデザインする。
	木をつくろう	4 歳児～小 6	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る計画の楽しさを知る。
	粘土でシャンクル旅行	5 歳児～小 2	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作りながら、みんなてシャンクル旅行。
音 楽	竹体験	小 1～	日本の伝統的な植物「竹」の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら竹の造形。
	忍者ってほんとうにいたの？	3～5 歳児	子どもたちのイマシネーションによる忍者っこ遊び。
	スカーフであそぼう	3～5 歳児	スタシオの照明に映えるスカーフで楽しく遊ぶ。
	まつりはやし	3～5 歳児	お祭り広場になった音楽スタシオで、楽しく和太鼓をたたく。
	やってみようカムラン	3 歳児～	イントネシアの打楽器オーケストラ、カムランを演奏したり、踊ったりする。
	サンハておとろう	4・5 歳児	ブラシルのカーニバル気分てサンハに挑戦。自分で作った楽器を持って踊る。
	たたいてみよう日本の太鼓	4・5 歳児	いろいろな種類の和太鼓を思いきりたたいてコンサート。リズムは簡単！
A V	イントネシア・アングルン	小 1～	イントネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3 歳児～	アフリカ・中国・イントネシア・ブラシルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。
	みんなてつくろう“ばたばたアニメ”	4 歳児～	みんなが描いた 2 枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメ体験する。
	フィルムに絵を描いてみよう	小 2～	透明な映画フィルムに着色して映写すると、スクリーンに楽しい図柄が映し出される。
	ヒデオであそぼう	小 3～	突撃インタビュー・ヒデオてしりとり・伝言ゲーム。ここてはみんなかカメラマン。
V	ピンホールカメラをつくろう	小 1～	針穴があいたたけのカメラ——ピンホールカメラを作る。
	混虫（ませむし）工場	小 1～	昆虫の“ワンピース・ペーパークラフト”を制作。

劇場 事業本部



TAIKO JAPAN 2010 東京打撃団「和太鼓」ワークショップ

平成 22 年度の活動

1. はじめに

劇場事業は、児童・青少年の芸術・文化の振興を目的として運営しているが、社会・経財環境の悪化にともなう、より一層の劇場事業の収支改善をめざして事業運営を行うために、「自主（共催）・提携公演の実施方針」を策定した。その方針にのっとり、自主公演としては青山劇場で2公演、青山円形劇場で6公演、提携公演として青山劇場で1公演、青山円形劇場で10公演を実施した。

このうち『ア・ラ・カルト2～役者と音楽家のいるレストラン～』『高円宮殿下記念 ローザンヌ・ガラ 2010』『TOKYO DANCE TODAY Vol 6』は文化庁の芸術創造活動特別推進事業に選ばれた。

劇場貸与については青山劇場が21件、青山円形劇場が21件であった。稼動日数は、青山劇場使用可能日数331日中292日、青山円形劇場使用可能日数359日中315日と、90%に近い稼動であった。

(公演演目一覧表＝140ページ参照)

2. 主な自主・提携公演

(ア) 青山劇場

■高円宮殿下記念「ローザンヌ・ガラ 2010」■

平成16年＝04年と平成19年＝07年に《高円宮憲仁親王殿下メモリアル》として開催した『ローザンヌ・ガラ』の3度目となる公演で、本年度から《高円宮殿下記念》と改めた。芸術監督を平成元年＝89年の「ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催」でゴールドメ

ダルと特別賞の高円宮賞を受賞した熊川哲也が務め、ローザンヌ国際バレエコンクールの日本人の歴代受賞者から、国内外の一流バレエ団の中核として実績を重ねている9組のダンサーたちが集った。

長年所属したネザーランド・ダンス・シアターを退団した後、精力的に創作活動を行っている中村恩恵が、ベジャールの「ボレロ」などで人気を博した首藤康之をパートナーに迎えて参加したほか、SHOKO（中村祥子）、齊藤亜紀、蔵健太、崔由姫などのヨーロッパ組、アメリカからはTBSテレビ「情熱大陸」で取り上げられるなど注目の高まる加治屋百合子が初参加、国内からはKバレエカンパニーの荒井祐子、清水健太などのスターダンサーが、華やかに舞台を盛り上げた。

平成22年＝10年1月に入賞したばかりの佐々木万璃子が、コンクールでの課題2作品を披露したほか、オープニングではキミホ・ハルバート振付作品を、平成21・22年＝09・10年の同コンクール準決選出場以上のジュニア10人が、フレッシュに踊り、大きな拍手が贈られた。

若手ダンサーのプロへの登龍門として名高い同コンクールだが、近年の受賞者はそのまま海外のバレエ団に就職するケースが圧倒的に多く、残念ながらその舞台を“生”で見られる機会は限られている。観客からの大きな期待が満席の客席にあふれ、大阪公演（8月11日＝森ノ宮ビロティーホール／主催＝ダンスウェスト）も合わせて盛況裡に終えることができた。

□会場□青山劇場

□日時□8月7・8日

□出演□荒井祐子、清水健太（Kバレエカンパニー）／

高円宮殿下記念「ローサンヌ・カラ 2010」



崔由姫、平野亮一（英国ロイヤルバレエ団）／加治屋百合子、シャレット・マッシューズ（アメリカン・バレエ・シアター）／神戸里奈（K バレエカンパニー）、蔵健太（英国ロイヤルバレエ団）／金田あゆ子（金田・こうのバレエアカデミー）、横関雄一郎（山本禮子バレエ団）／河野舞衣、ルカス・スラヴィツキー（バイエルン国立歌劇場バレエ）／齊藤亜紀、ウィム・ヴァンレッセン（ロイヤル・フランダース・バレエ団）／SHOKO（中村祥子）、ヴィエスラフ・デュデック（ベルリン国立バレエ団）／中村恩恵、首藤康之（フリー）／佐々木万璃子（川口ゆり子バレエスクール） ※所属は公演時

□オープニング作品出演□アクリ瑠嘉／衛藤ひなの／池田武志／益子倭／宮崎真衣／水谷実喜／中ノ目知章／佐々木まどか／山本勝利／吉田合々香

□スタッフ□芸術監督 熊川哲也／フェスティバル・ディレクター 高谷静治／照明 足立恒／音響 実吉英一／映像 福井正紀／舞台監督 森岡肇／プロデューサー 高輪育子（こどもの城劇場事業本部）／制作協力 平岡久美（Dance in Deed!）

□主催□財団法人児童育成協会

□助成□文化芸術振興費補助金（芸術創造活動特別推進事業）

□協賛□世界の子供服マ・メール／チャコット(株)

□協力□(株)アートオブセッション／新書館「ダンスマガジン」

□後援□ベルギー大使館／スイス大使館／東京アメリカン・センター／プリティッシュ・カウンスル／Prix de Lausanne

■ TAIKO JAPAN 2010 ■

〈太鼓〉は古来より、祭りや民俗行事、古典芸能などに用いられてきたが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。祭りから離れて一人歩きする民俗の太鼓、新しい感性が生んだ創作の太鼓——その歩みのなかに、時を彩り、今なお生きて胸を打つのが〈太鼓〉。

『青山太鼓見聞録』は平成 18 年＝ 06 年から、東京新聞と浅野太鼓文化研究所が主催する『東京国際和太鼓コンテスト』および『和太鼓カレッジ』と開催時期を合わせ、『TAIKO JAPAN』という太鼓フェスティバルとして開催している。鑑賞と体験、そしてチャレンジ——太鼓のさまざまな魅力をそなえ、青山劇場と青山円形劇場、〔こどもの城〕全体で展開し、参加者の便宜と宣伝などの相乗効果に成果をあげている。音楽事業部と連携して実施した、来館児・者を対象としたワークショップも好評を得た。

□主催□財団法人児童育成協会、財団法人浅野太鼓文化研究所、東京新聞

◆青山太鼓見聞録〈伝統のチカラ〉

グループの枠を越え、実力ある太鼓打ちを集めて構成する『青山太鼓見聞録』の第 7 回公演。今回のテーマは〈伝統のチカラ〉。日本の太鼓は、天に願いを届けるために強打する「打ち込み」と、祭りの場で神々を囃し（はや）し、人々の心を浮き立たせる「打ち囃し」の二つの特徴がある。どちらも日本人の民俗性の基層に響き、それゆえ太鼓音楽は深く根強い支持を得てきた。この公演では、伝統曲や伝統技法を取り入れた曲をとりあげ、日本人が古来いできてきた太鼓の本質、すなわち〈伝統のチカラ〉を検証する。民俗の太鼓と現代の創作太鼓の演奏家により構成した。

□会場□青山劇場

□日時□ 8 月 13 日 19 時開演

□曲目・演奏□「大太鼓」 藤本吉利、地下朱美／「石見神楽」 今福優&今福社中（堂本英里、末長愛）＋加藤木朗、木村俊介、高篠雅也／「三宅島神着神輿太鼓」 三宅島芸能同志会（津村明男、津村和宏、津村秀紀、津村春快）／「おこし〜鬼剣舞」 藤本吉利、今福優、加藤木朗、木村俊介、堂本英里、末長愛／「梁山泊、野走りの丘、百花の乱」 舞太鼓あすか組（飛鳥大五郎、宇野寛至、河原淳一、折本慶太、三浦隆博、田中佑介、永野広樹、陶山寛太、田端真人）／「JINGI」 藤本吉利＋今福優

□企画・構成・演出□太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利（財団法人浅野太鼓文化研究所理事長）、小野晋司（こどもの城劇場事業本部）、平沼仁一（アートウィル、東京打撃団主宰）、茂木仁史（平凡社新書「入門日本の太鼓」著者）
□スタッフ□舞台監督 金子芳浩（ニケステージワークス）／照明 片田光彦／音響 武藤一郎（こどもの城劇場事業本部）

◆太鼓見聞録外伝〈大江戸助六太鼓、一本！〉

斜めに置かれた中太鼓を、粋な横打ちで打ち込む。助六流の太鼓は、昭和 42 年＝ 67 年に 4 人の太鼓自慢が

集い、作られた。彼らは東京の盆踊りの太鼓名人で、その後、歌舞伎鳴り物を学んで、その打法に磨きをかけた。盆踊りも歌舞伎鳴り物も、横打ちである。この打法は踊り手や役者の方を見ながら打ちやすく、疲れにくい姿勢で、袖のある着物でも打てるという特徴がある。“粋でイナセ”と評される助六流。『青山太鼓見聞録外伝』では、大江戸助六太鼓のトークと演奏により、見聞録のテーマ〈伝統のチカラ〉を掘り下げた。

□会場□青山円形劇場

□日時□8月12日 19時開演

□出演□大江戸助六太鼓(小林正道、糸原昌史、座古瑞穂、篠崎大育、高橋一生、若山和之、増田真吾、渡辺勇太)

□スタッフ□舞台監督 田畑祭(ニケステージワークス)／照明 元木浩一(こどもの城劇場事業本部)／音響 武藤一郎(こどもの城劇場事業本部)

◆第9回東京国際和太鼓コンテスト

『東京国際和太鼓コンテスト』は、課題曲と自由曲により、演奏技術ばかりだけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部門の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、本年度もレベルの高い舞台となった。

□会場□青山劇場

□日時□8月14日 組太鼓部門青少年の部／15日 大太鼓部門・組太鼓部門一般の部

□審査結果□

大太鼓部門＝最優秀賞 山部哲誠／優秀賞 荒川正輝／敢闘賞 築瀬和重

組太鼓部門(青少年の部)＝最優秀賞 鼓遊／優秀賞 転輪太鼓 風雲児 風組／敢闘賞 和太鼓キッズ ゆりかご

組太鼓部門(一般の部)＝最優秀賞 鬼島太鼓／優秀賞 勤労障がい者長崎打楽団 瑞宝太鼓／敢闘賞 山木屋太鼓「山猿」

□本選出場者(演奏順)□

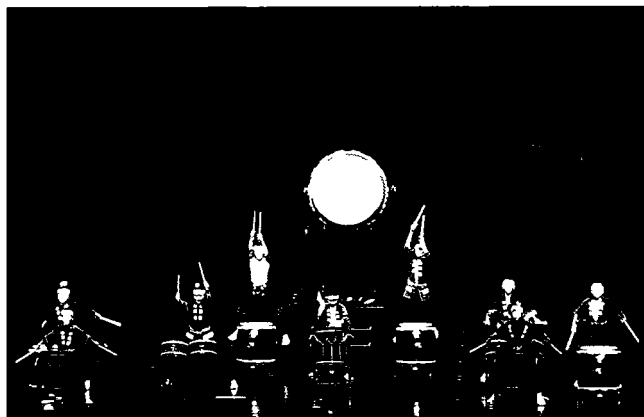
【組太鼓部門青少年の部】(14日)

与一太鼓 子供の部(栃木県)／川越ふじ太鼓(埼玉県)／大野見こども太鼓(高知県)／山木屋太鼓「鼓狐」(福島県)／和太鼓キッズ ゆりかご(栃木県)／香島津太鼓 息吹(石川県)／四万十川 とどろき 結太鼓(高知県)／鼓遊(東京都)／転輪太鼓 風雲児 風組(愛知県)／田島太鼓クラブ龍巳会(福島県)

【大太鼓部門】(15日)

佐々木彬(東京都)／荒川正輝(千葉県)／山本将史(岡山県)／澁谷巴人(東京都)／塚本鷹(千葉県)／トン

第9回東京国際和太鼓コンテスト 組太鼓(青少年の部) 最優秀賞「鼓遊」



ト石井(埼玉県)／築瀬和重(愛知県)／上光(栃木県)／山部哲誠(岡山県)／木下節生(ブラジル)

【組太鼓部門一般の部】(15日)

創作和太鼓集団 打鼓音(神奈川県)／山木屋太鼓「山猿」(福島県)／和太鼓 梵迦(愛知県)／岐阜県立飛騨高山高等学校太鼓部(岐阜県)／子不知太鼓(新潟県)／県立岐阜総合学園太鼓部 team「風光児」(岐阜県)／鼓摩の会 和太鼓和楽(山梨県)／勤労障がい者長崎打楽団 瑞宝太鼓(長崎県)／鬼島太鼓(長野県)／のさか太鼓(千葉県)

◆和太鼓カレッジ

多彩なワークショップのほか、親子で参加してミニ太鼓を作る工作教室など、バラエティーに富んだ講座を「こどもの城」と青山円形劇場で開催した。また、音楽ロビーでは「こどもの城」来館児・者を対象に、東京打撃団によるワークショップも行った。

□日時□8月13～15日

□プログラム□

【カレッジ】「チャップパの極意～竜太郎奏法の基礎～」

金子竜太郎／「繋がり響き～アンサンブルの大基本～」 金子竜太郎／「助六打法基本コース」 小林正道、糸原昌史(大江戸助六太鼓)／「相打つ大太鼓～藤本吉利と地下朱美の太鼓ワールド～①②」 藤本吉利(鼓童)・地下朱美(焔太鼓)／「太鼓の軸～からだの心の軸を発見する～」 加藤木朗／「篠笛が吹きたい基礎向上編～太鼓に負けない音色を手に入れる～」 村山二郎(東京打撃団)／「ホントの太鼓入門～基本リズムから～」 長谷川暢、守田充利(東京打撃団)／「太鼓に役立つダンスワークショップ」 島崎麻美／「締太鼓中級～こうやってリズムにアクセントをつける！～」 浅野町子

【レクチャー】「実践作曲講座 とにかく一曲作ろう～色々なテクニックを質疑応答を交えながら～」 細谷一郎

【工作教室】「楽しいカスタネット作り①②」 地下朱美(焔太鼓)／「ミニ太鼓作り①②」 浅野太鼓

青山演劇 LABO#004 モダンスイマーズ「真夏の迷光とサイコ」



【こどもの城ワークショップ（参加自由）】「和太鼓 ①
②」 東京打撃団

(イ) 青山円形劇場

■青山演劇 LABO#004

モダンスイマーズ「真夏の迷光とサイコ」■

人気若手劇作家を抱え、青山円形劇場の使用を希望しながら、さまざまな理由から躊躇してきた劇団と提携し、興行形態を模索しながら公演を実現する「青山演劇 LABO」。青山円形劇場を代表する傑作公演を生み出すべく、〔こどもの城〕発信の演劇企画として平成 21 年度＝ 09 年度に立ち上げた。

第 4 弾は、各方面で話題の人気若手劇作家・蓬莱竜太を擁するモダンスイマーズ。テレビ、映画で話題の YOU を客演に迎え、青山円形劇場のステージを高台に立つ屋敷に見立て、女主人の孤独を打ち出した。蓬莱の確かな筆致力と実力ある劇団員の演技力で、人気劇団としての存在感を示した。

今後も、「青山円劇カウンスル」（プロデュース公演）、「Aoyama First Act」（未経験者）とあわせ、その趣旨によって使い分け、対外的には演劇界の活性化に貢献し、同時に青山円形劇場のラインナップの質の向上をはかり、〔こどもの城〕にさらなる注目を集めたい。

□日時□ 7 月 7 ～ 18 日

□作・演出□ 蓬莱竜太

□出演□ YOU、モダンスイマーズ（古山憲太郎、小椋毅、西條義将）、古川悦史ほか

□企画制作□ モダンスイマーズ

□提携□ 財団法人児童育成協会

■月猫えほん音楽会 2010 えほん×ジャズ

＝めっちゃ² 楽しいシアターライブ■

“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。大きな月（スクリーン）に絵本を映しながらの読み

月猫えほん音楽会 2010



聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。

希望する観客は、フェイス・ペインティングで猫にふんし、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功している。

「月猫えほん音楽会」は平成 11 年＝ 99 年に始まり、今回が 12 回目。毎回たくさんの応募があり、定員 2,240 人のところ、約 2,905 世帯 7,584 人の応募があった。

□日時□ 7 月 22 ～ 25 日

□出演□ 佐山雅弘（ピアノ）／保亜美（進行）／本多愛也（パントマイム）／能祖将夫（朗読）

□スタッフ□ 演出 吉澤耕一／構成 能祖将夫／美術 小竹信節／協力 東京動物園ボランティアーズ

□主催□ 財団法人こども未来財団／財団法人児童育成協会

■青山円形劇場プロデュース ア・ラ・カルト 2

～役者と音楽家のいるレストラン～■

平成元年＝ 89 年から 20 年間上演してきた「ア・ラ・カルト」が、新しいキャストと構成のもと、「ア・ラ・カルト 2」としてリニューアルオープンした。

「ア・ラ・カルト 2」は、クリスマスの時期を迎えたフレンチレストランでの、ショートショートのお芝居とバンドマンの生演奏でつづる音楽劇。“料理と恋のお話としゃれた音楽でつづるおしゃべりなレストラン”を、役者と音楽家が一体となって創り上げた。豪華で多彩な日替わりゲストも、リニューアルオープンに花を添え、幅広い年齢層が楽しめるしゃれたエンターテインメントショーになった。

□日時□ 12 月 4 ～ 26 日

□出演□ 高泉淳子、山本光洋、本多愛也
中西俊博（Violin）、クリス・シルバースタイン（Bass）、
竹中俊二（Guitar）、林正樹（Piano）

レギュラーゲスト 中山祐一朗

日替わりゲスト (50 音順) 今井清隆、川平慈英、今拓哉、近藤良平、篠井英介、巻上公一、山寺宏一、ROLLY
□スタッフ□演出 吉澤耕一／台本 高泉淳子／音楽監督 中西俊博

□協賛□富士通(株)、メルシャン(株)

□制作協力□遊機械オフィス

□助成□文化芸術振興費補助金 (芸術創造活動特別推進事業)

■第 23 回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ 「タントさんのふしぎなレストラン」

～タントさんときょうりゅうのひみつ～ ■

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづる正月恒例のファミリーオペレッタ。〔こどもの城〕のスタッフで創作するこの作品は、本年度で 23 回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気を保っている。

本年度は、『タントさんのふしぎなレストラン』シリーズの第 5 弾でシリーズ最終回。シリーズとおしてのテーマは〈食育〉。野菜の国で巻き起こる事件と出会いや別れをとおして、今回のキーワードである〈大切なもの・守りたいもの〉を考えた。親と子が共に過ごす時間、語り合うこと、ふれあうことの大切さを描いた。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財に選定された。

□日時□平成 23 年 1 月 3～9 日

□スタッフ□脚本 吉村温子／演出 高谷静治+皆出豪

□出演□オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、金田・こうのバレエアカデミーほか



ア・ラ・カルト 2 ～役者と音楽家のいるレストラン

タントさんのふしぎなレストラン



□主催□(財)キリン福祉財団／(財)児童育成協会

■中西俊博 Leapingbow2011

Reel's Trip ～水の記憶～ ■

中西俊博が、毎回新しい実験的な音楽にチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。中西が若手凄腕ミュージシャンと結成した [Reel's Trip] が昨年に続き登場した。青山円形劇場でのコンサートは、Reel's Trip のメンバーが 1 年かけて行ってきた実験的なライブによって構築された音楽の集大成である。今回の公演では「水の記憶」というテーマを設け、バンドの紡ぎ出すアンサンブルで水をイメージする情景を呼び込み、色や香りまでも漂う世界を表現した。

中西の音楽活動のなかで、若者の奥底にある才能を引き出すことも大切な役割である。若手音楽家の新しい感性を生かしながらより深いサウンドを追求した。

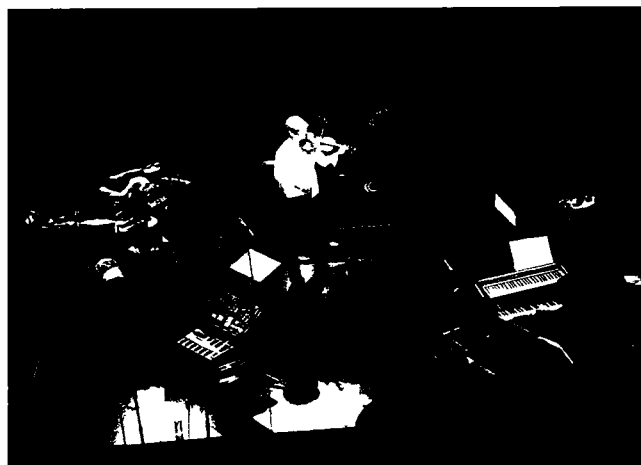
□日時□平成 23 年 1 月 29・30 日 (2 回公演)

□出演□中西俊博 (Violin)、木村将之 (Bass)、ファルコン (Guitar)、伊賀拓郎 (Piano)、はたけやま裕 (Percussion)

□スタッフ□演出 吉澤耕一

□協力□ヤマハ(株)

□制作協力□(株)エムアンドビーデザイン



中西俊博 Leapingbow2011 Reel's Trip ～水の記憶～

TOKYO DANCE TODAY#6 小野寺修二作・演出『あらかしめ』



■ TOKYO DANCE TODAY #6

小野寺修二作・演出『あらかしめ』■

演出・構成力のある振付家とアーティストが、約 40 日間、劇場にレジデンスして真摯に作品作りに臨み、青山円形劇場のユニークな空間を生かした、独創的な作品を発信した。

ダンス、演劇、マイム、音楽、アートの境界を超えて融合して、強度あるオリジナリティで新たな地平をひらく小野寺修二への期待はさらに高まっている。その演出・構成力で、観客だけではなく、舞踊、演劇をはじめ舞台芸術関係者や次代を担うアーティストにも発信した。話題作の再演に、中山祐一朗（阿佐ヶ谷スパイダース）を新たに起用し、近藤良平（コンドルズ主宰）が音楽で参加したことも話題となり、新聞、情報誌、専門誌、一般紙・誌などに多数紹介された。

9 万枚のちらしを作成し、東京近郊のダンス、演劇公演を中心に配布。特に演劇の観客層へアプローチすることに心がけた。また、「横浜ダンスコレクション」と「TPAM in 横浜」の期間中には、赤レンガ倉庫 1 号館 2 階に PR ブースを設け広報宣伝につとめた。

東日本大震災が発生した 3 月 11 日は、けいこの真っ最中。大きな揺れのたびに中断。交通機関もストップしたが、運転再開までけいこは続いた。もともと翌 12 日はけいこ休み。13 日には、演出家と制作者が可能な限り日常に近い形で行いたいという方向性を確認し合った。中止するリスクと開催するリスク——総合的に考えると、どちらを選択しても大きなリスクがあることは事実。舞台芸術はそれ自体大きな営みであり、できる限り止めないことに全力を傾けたいという選択をした。

全体の調整、劇場技術による設備・機構の点検ののち、14 日から青山円形劇場で仕込み。余震が続くなかで、リハーサルは辛抱強く進行した。キャスト、スタッフ

間で、公演中に万一の事態が発生した場合の中止・続行の判断方法や、シアターフェイスによる避難・誘導方法の確認をして初日を迎えた。

3 月 11 日以降、チケット前売が止まったため入場料収入が伸び悩んだ。原発の事故と計画停電の実施、公共交通機関の乱れ——余震が続く状況のなかで、初日から 3 日目まで平日の当日券は伸びなかったが、少しでも都内の情勢が落ち着いた、4 日目の土曜日から祝日の月曜までの 4 回公演では、当日券を求める観客が平均 30 人ほどになり、ほぼ満席の状態となった。

また、土曜日の 19 日に 13 時 30 分の回限定で、子ども・高校生以下料金を設定した。67 人が家族とともに鑑賞し、楽しんだ。高校生以下の世代への可能性を大きく広げた。

公演を行うことについて疑問視する、一般からの電話が数件あったが、観客から寄せられた多くの感謝の言葉・メッセージ、観客の子どもたちの笑い声にキャスト・スタッフは本当に励まされた。千秋楽までの全公演を無事に行うことができ、改めて劇場に足を運んでくれた観客のありがたさが身にしみた。

□日時□ 3 月 16～21 日

□振付・演出□ 小野寺修二（カンパニーデラシネラ）

□出演□ 佐藤亮介、中山祐一朗、藤田桃子、宮下今日子、小野寺修二

□スタッフ□ 舞台美術 石黒猛／衣裳 堂本教子／テキスト 小里清（フラジャイル）／楽曲提供 近藤良平（コンドルズ）／照明 磯野真也（アイズ）／音響 田中裕一（サウンドウェッジ）／舞台監督 筒井昭善、シロサキユウジ、原口佳子／照明操作 アイズ／音響操作 入倉幸司／衣裳製作 アトリエ 88％／衣裳助手 富永美夏／リハーサル助手 中村蓉／宣伝美術 太田博久（golzopocci）／協力 高樹光一郎（ハイウッド）、平岡久美（Dance in Deed!）、ゴーチ・ブラザーズ、吉住モータース、qunada、ユニオンビズ／制作助手 中山静子（カンパニーデラシネラ）／制作 小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

□主催□ 財団法人児童育成協会

□助成□ 文化芸術振興費補助金（芸術創造活動特別推進事業）／東京都芸術文化発信事業助成

EU・ジャパンフェスト日本委員会

■ Classical ROLLY 2010 ■

エンターティナー ROLLY による、クラシックをテーマにしたコンサートの第 3 弾を、平成 23 年＝11 年 3 月 24～27 日に予定していたが、東日本大震災の影響で、8 月 30 日～9 月 1 日に延期することになった。

□演出□ 吉澤耕一

□音楽監督□中西俊博

□出演□ROLLY (Vocal / Guitar)、中西俊博 (Violin)、
クリス・シルバースタイン (Bass)、楠均 (Percussion)、
林正樹 (Piano)

□共催□ソニー・ミュージックアーティスツ

3. まとめ

劇場事業は、「こどもの城」開館以来、「児童の健全育成に資する」という理念のもと、〈文化施設〉と〈文化事業機関〉の両輪でスタートし、運営してきた。劇場を“貸すこと”と、“自主（共催）・提携公演を行うこと”である。

「こどもの城」を取り巻く政治、社会、経済情勢の変化にともない、「こどもの城」の運営・財政は、かつてない厳しい状況に置かれている。そのため、〈文化事業機関〉としての自主（共催）・提携公演の日数制限や演目の選定基準を設けるなどの「自主（共催）・提携公演の実施方針」を定め、より一層の収支改善をめざし運

営を行うこととした。

しかしながら、問題はつきない。ハード面では、ハイテクな劇場機構を維持していくための、更新・メンテナンスに膨大な経費がかさむということ。ソフト面では、「自主（共催）・提携公演の実施方針」により、自主公演といえども、「こどもの城」の財政の負担となる演目は認められないことになったので、低廉な料金で質の高い芸術・文化を提供するという〈文化事業機関〉としての側面を減少させざるを得なくなる。劇場設立の理念を考えると、苦渋の選択である。

〈文化施設〉としての劇場使用料の改定や、〈文化事業機関〉としての自主（共済）・提携公演の見直しなど、劇場事業本部の自助努力だけでは、解決できないものも少なくない。青山劇場・青山円形劇場を含む、「こどもの城」全体の運営にもかかわってくる。かつてない厳しい社会・経済環境のなかで、これからの「こどもの城」のあり方について、早急に全館的な検討が必要だと思われる。

平成 22 年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
高円宮殿下記念 ローサンヌ・カラ 2010 ～青山劇場 25 周年記念事業～	8 5 ～ 8	2	S = 9,000 / A = 7,500	2,364	2,266	95 85	
青山太鼓見聞録 伝統の力	8 12 ・ 13	1	S = 4,500 (前売 = 4,000) / A = 4,000 (前売 = 3,500)	1,090	697	63 94	
第 9 回東京国際和太鼓コンテスト (東京新聞)	8 14 ・ 15	2	大人 = 2,500 / 中学生以下 = 1,000	2,316	1,647	71 11	
(自主・提携公演 小計) 3 件	8	5		5,770	4,610	76 3	
〈内部利用〉							
こともの城開館 25 周年記念 合唱団コンサート ことものちからのサントメッセ ～スタートライン～	11 6 ・ 7	2	S = 2,500 / A = 2,000	2,220	1,316	59 28	音楽
(内部利用 小計) 1 件	2	2		2,220	1,316	59 28	
〈貸し館〉							
天使のララ Presents「戯伝写楽」 (東宝芸能)	4 2 ～ 17	15	SS = 11,000 / S = 9,800 / A = 5,500 / 立見 = 5,000	17,928	12,572	70 12	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4 19 ～ 5 10	25	S = 8,000 / A = 6,000 / 立見 = 4,000	28,041	25,055	89 35	
ダンス・ミュージカル 「絹の靴下 Silk Stockings」 (梅田芸術劇場)	5 12 ～ 30	15	S = 11,500 / A = 9,500	15,630	9,811	62 77	
マシュー・ホーンの白鳥の湖 (キョートー東京)	6 1 ～ 27	24	S = 12,600 / A = 10,500	28,203	21,184	75 11	
PLAYZONE 2010 ～ ROAD TO PLAYZONE ～ (ヤングコミュニケーション)	7 1 ～ 8 1	33	S = 8,500 / 立見 = 6,300	36,234	35,599	98 25	
第 18 回 キンダーフィルムフェスティバル (キンダーフィルム)	8 10	2	18 歳以上 = 1,500 (前売 = 1,200) / 3 ～ 17 歳 = 1,000 (前売 = 800)	2,384	1,925	80 75	
天使のララ Presents 藤原ノリマサコンサート「Appassionato」 (東宝芸能)	8 19 ～ 22	3	6,500	3,487	2,930	84 03	
D - BOYS STAGE 2010 trial - 2 「ラストゲーム」 (ワタナヘエンターテイメント)	8 23 ～ 9 5	15	S = 7,000 / A = 6,000	17,268	13,419	77 71	
井上芳雄 10 周年記念コンサート (日本テレビ)	9 7 ～ 20	10	10,000	11,420	10,391	90 99	
フロートウェイ・ミュージカル「Pal Joey」 (クオラス)	9 24 ～ 10 17	17	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500 / 立見 = 8,000	19,448	18,034	92 73	
フロートウェイ・ミュージカル 「Wonderful Town」 (梅田芸術劇場)	10 19 ～ 11 4	16	S = 12,000 / A = 10,000 / ワンタフルシート = 6,000	18,496	13,669	73 90	
名倉シャスタンススタジオ 第 19 回公演 「CAN'T STOP DANCIN' 2010」 (名倉シャスタンススタジオ)	11 8 ～ 14	6	SS = 8,500 / S = 7,500 / A = 6,000	6,612	6,448	97 52	
SAMURAI 7 (ネルケプランニング)	11 16 ～ 12 5	23	S = 9,500 / A = 7,500	26,644	18,844	70 73	
サクラ大戦巴里花組・紐育星組ライブ 2010 ～可憐な花々 煌く星々～ (セカ)	12 8 ～ 12	4	SS = 9,000 / S = 8,000 / A = 6,000 / ファミリー = 15,000 / 立見 = 3,000	5,896	4,958	84 09	
サクラ大戦トークライブ 2010 「It's Voiceful World ～サクラシヨへようこそ!」 (セカ)	12 12	1	2,000	1,198	740	61 77	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
アダム・パスカル&アンソニー・ラップ Live in Concert: Japan Tour 2010 (キョートー東京)	12 17 ~ 22	6	S = 7,800 / A = 6,000 / B = 4,800	6,936	3,093	44 59	
Le Velvets "Santaa's Coming Live" (キョートー東京)	12 23	1	6,800 (前売 = 6,300)	1,156	895	77 42	
アニークリスマスコンサート (キョートー東京)	12 24・25	4	S = 5,800 / A = 4,800 / 立見 = 3,000	4,840	4,182	86 40	
木下工務店 PRESENTS 舞台「銀河英雄伝説」 第一章 銀河帝国編 (キティ)	H23 1 3 ~ 17	15	S = 8,500 / A = 7,800 / 立見 = 6,500	18,174	16,863	92 79	
TAKARAZUKA WAY TO 100th ANNIVERSARY DREAM TRAIL 〜宝塚伝説〜 (梅田芸術劇場)	1 20 ~ 30	11	S = 11,000 / A = 9,000 / 立見 = 6,000	13,222	12,751	96 44	
LLADRÓ presents 愛と青春の宝塚〜恋よりも生命よりも〜 (フシテレヒ)	2 4 ~ 28	26	S = 12,000 / A = 9,000 / B = 5,000 / 学生 = 3,000	30,264	23,814	78 69	
(貸し館 小計)	21 件	282	272	313,481	257,177	82 04	
(青山劇場 合計)	25 件	292	279	321,471	263,103	81 84	

2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 ミュージカル・レビュー 「タウン・フォーリーズ VOL 7 ー男らしく轟しくー (提携 オー・サーフル)	4 1 ~ 13	12	8,000	3,745	3,304	88 22	
嫌われ松子の一生 (提携: ネルケプランニング)	4 14 ~ 28	21	6,800	5,922	5,055	85 36	
2LDK (提携: ネルケプランニング)	4 29 ~ 5 5	10	5,000	2,190	1,808	82 56	
玉川大学芸術学部 + 青山円形劇場提携公演 「Performing Arts Fair 2010 in 青山」 (提携 玉川大学)	6 7 ~ 13	6	3,000 (前売 = 2,500) / 学生 = 2,500 (前売 = 2,000)	1,536	1,394	90,76	
青山演劇 LABO #004 モダンスイマーズ「真夏の迷光とサイコ」 (提携: ハハネラ)	7 5 ~ 18	15	4,800 (前売 = 4,500) / 学生 & 青年 = 3,500 (前 売 = 3,000)	2,863	2,364	82 57	
月猫えほん音楽会「えほん×シャズ=コトモ もオトナもめっちゃ楽しいシアターライブ」 (共催: こども未来財団)	7 20 ~ 25	7	入場無料 (応募制招待)	2,520	2,327	92 34	
太鼓見聞録外伝「大江戸助六太鼓、一本！」	8 12	1	3,500 (前売 3,000)	262	114	43 52	
和太鼓カレッシ (提携: 東京新聞)	8 13 ~ 15	9	2,000 ~ 4,000	285	251	88 07	
the MUSICAL「今の私をカハんにつめて」 (提携 クオーレ)	9 21 ~ 10 11	19	7,500	5,583	5,091	91 19	
BS - TBS プロデュース「ボテチ」 (提携 BS - TBS)	10 12 ~ 24	14	6,500 (前売 6,000) / 24 歳以下 4,500 (前売 = 3,500)	3,682	3,040	82 56	
ア・ラ・カルト 2〜役者と音楽家のいるレ ストラン	11 30 ~ 12 26	20	6,300	6,627	5,983	90 28	
第 23 回こともの城・麒麟・ファミリー・オ ペレッタ「タントさんのふしきなレストラ ン〜タントさんときょうりゅうのひみつ〜」 (共催: 麒麟福祉財団)	12 27 ~ 29、 H23 1 3 ~ 9	11	2,800	3,637	2,983	82 02	
中西俊博 Leapingbow 2011 Reel's Trip 〜水の記憶〜	1 28 ~ 30	2	6,000	582	496	85 22	
金魚 (鈴木ユキオ)「HEAR」 (提携・金魚)	2 2 ~ 6	3	4,000 (前売 3,500)	565	472	83 54	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
サ・シェイプ・オブ・シンクス ～モノノカタチ～(提携・ホリプロ)	27～24	22	8,400	7,482	7,298	97.51	
TOKYO DANCE TODAY #6 「あらかしめ」	314～21	7	4,000 (前売＝3,700)	1,848	1,144	61.90	
(自主・提携公演 小計) 16 件	171	179		49,331	43,124	87.42	
〈内部利用〉							
第 25 回こともの城マタニティ・コンサート ～ワイオリンとピアノによる母へのプロ ローグ～	74・5	1	無料 (応募制招待)	322	266	82.61	小児保健
シャワのカムランと舞踊のコンサート 「天地 (あめつち) の響～シャワ・カムラン による共生～」	726・27	2	4,500 (前売＝4,000)	524	457	87.21	音楽
シャワのカムランと舞踊のコンサート「天地の響」関連企画 こともの城カムラン講座開講 25 周年記念 「みんなてカムランを演奏しよう」	727	1	1,000	260	106	40.77	〃
(内部利用 小計) 3 件	4	4		1,106	829	74.95	
〈貸し館〉							
劇団本谷有希子第 15 回公演「甘え」 (ウィレッヂ)	56～66	32	6,000	9,831	7,932	80.68	
coba プロデュース 音波少年～音楽は肉体で魅せるもの～ (キョートー東京)	618～20	4	5,500	784	675	86.10	
少年社中 第 23 回公演「ネハーラント」 (少年社中)	621～27	8	4,200 (前 売＝3,800) / ペア席＝7,000	2,327	2,137	91.83	
～あさみちゆきセルフプロデュース～ ふれあいコンサート (サ・カンパニー)	71・2	2	6,000	752	683	90.82	
パントラの箱舟 Music × Paint Concert (サンライズプロモーション東京)	719	1	5,300 (前売＝4,800) / 学 生＝3,000	265	247	93.21	
劇団ステーション第 19 回公演 「魔女は永遠に」 (ステーション)	731・81	3	2,500	942	829	88.00	
fulare_pad 風風風 LIVE (トゥモローハウス)	85	1	3,500	153	113	73.86	
やなわらはーワンマンライブ 「ややや! やな祭り」 (キョートー東京)	87	1	4,500	367	337	91.83	
かたり 2010 戦火に散ったプロ野球選手 (山田企画)	811	2	昼の部 (親子向け) ＝ 2,000 ／夜の部 (大人向け) ＝ 3,500	629	520	82.67	
シス・カンパニー公演「叔母との旅」 (シスカンパニー)	816～95、 97～19	32	6,000	10,459	9,968	95.31	
高橋さん家と新垣さん家～即興演劇サート ステーシ～ (提携:BS-TBS)	1025～29	7	5,000 (前売＝4,800)	2,262	1,916	84.70	
ハッピー・ハロウィンイベントアクション・ リーディング「おとうさんはウルトラマン」 (BS-TBS)	1030・31	6	大人＝2,000 / 子とも＝ 1,000	1,992	347	17.42	
方南くみ 企画公演「THE 面接」 (LDH)	111～14	15	5,800	5,015	4,696	93.64	
鈴木恵美子ハレエ・コンタクト vol 3 「La Double ～ラ・トゥフル～」 (Dance in Deed!)	1118～20	3	5,500 (前売＝5,000)	528	310	58.71	
パーカッシフ・ムーブメント vol 8 (梯郁夫)	1121	1	5,000 (前売＝4,500)	290	230	79.31	
もうひとつの竜馬伝一配役を探す八人の登 場人物 (レイネット)	1122～25	4	6,000	1,356	1,228	90.56	
アキコ・カンタ・モダンダンス公演 「愛のセレナーデ」 (アキコカンタ事務所)	1126～28	4	5,250	666	554	83.18	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈貸し館〉 パンダラコンチャ セカントアルハム公演 「ちんけさんと大きな女たち」 (トライヘッカ)	H23 1 11 ~ 23	12	6,800 (前売 = 6,500)	2,975	2,382	80.07	
ハーレスクレピュウ「Birth ~誕生~」 — memento mori — (レイネット)	2 25・26	3	5,000	993	649	65.36	
MIKAI 7th ANIVERSARY LIVE ~ CRYSTAL VOICE ~ (レイネット)	2 27	1	5,000	172	154	89.53	
リアルエチュート「みんなの家」 ~カールスステーシ and ホーイスステーシ~ (BS - TBS)	3 3 ~ 10	13	カールスステーシ 5,000 (前売 = 4,800) ホーイスステーシ S = 6,500 / A = 5,000 (前売 = 4,800)	4,171	3,689	88.44	
(貸し館 小計)	21 件	140	155	46,929	39,596	84.37	
(青山円形劇場 合計)	40 件	315	338	97,366	83,549	85.81	

3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2009 (APAS) など〉

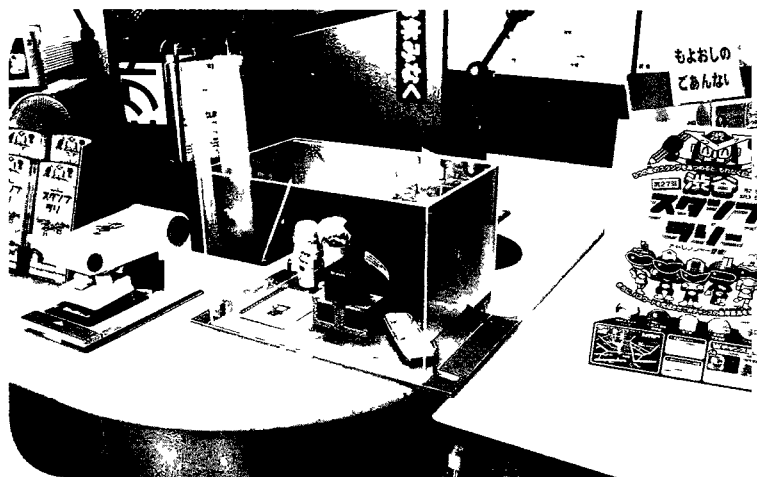
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第7回 海外で活躍する日本人アーティストから、海外のアート環境を聞く会	一般 (人) 30	(人) 21	5 20 19 00 ~ 21 00	トーク/ゲスト=若生祥文(フランス) / 進行= JOU / 無料 / B リハーサル室
第8回 "	" 30	32	7 29 19 00 ~ 21 00	トーク/ゲスト=伊藤郁女(フランス) / 進行= JOU / 無料 / 研修室
島崎麻美ダンスワークショップ "新しい感覚を覚える"	ダンサー 20	16	8 10・11 18 30 ~ 20 30	ワークショップ/講師=島崎麻美/受講料= 6,000 (全2回) / B リハーサル室
"	小1~4 20	12	8 10 14 00 ~ 15 45	ワークショップ/講師=島崎麻美/受講料= 2,000 / B リハーサル室
和太鼓カレッジほか (TAIKO JAPAN2010)				
チャッパの極意 ~電太郎奏法の基礎~	一般 30	30	8 12 10 30 ~ 13 00	ワークショップ/講師=金子竜太郎/受講料 15,000 円(チャッパ持込 4,000 円) / 青山円形劇場
繋かりの響き ~アンサンブルの太基本~	" 30	30	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=金子竜太郎/受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
大江戸助六斜め打法 基本コース	" 30	18	" 17 30 ~ 20 00	ワークショップ/講師=小林正道・糸原昌史(大江戸助六太鼓) / 受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
相打つ太鼓 ~藤本吉利と地下朱美の太鼓ワールト~	" 30 " 30	29 29	8 13 10 30 ~ 13 00 " 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=藤本吉利(鼓童)・地下朱実(炎太鼓) / 受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
太鼓の軸 ~からだの軸を覚える~	" 30	32	" 17 30 ~ 20 00	ワークショップ/講師=加藤木朗/受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
篠笛が吹きたい 基礎 向上編~太鼓に負けない 音色を手に入れる~	" 40	20	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=村山二郎(東京打撃団) / 受講料 6,000 円(笛持込 4,000 円) / 会議室
ホントの太鼓入門 ~基本リズムから~	" 40	22	8 14 10 30 ~ 13 00	ワークショップ/講師=長谷川暢・守田充利(東京打撃団) / 受講料 = 2,000 円 / 青山円形劇場
太鼓に役立つダンス ワークショップ	" 25	22	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=島崎麻美/受講料 = 3,000 / 青山円形劇場
篠太鼓中級~こーやって リズムにアクセントをつける!~	" 40	39	" 17 30 ~ 20 00	ワークショップ/講師=浅野町子/受講料 = 4,000 円 / 青山円形劇場
実践作曲講座 とにかく一曲作ろう~ 色々なテクニックを質疑 応答を交えながら~	" 40	28	" 14 00 ~ 16 30	レクチャー/講師=細谷一郎/受講料 = 2,000 円 / 会議室

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
和太鼓カレッジほか (TAIKO JAPAN2010)				
楽しいカスタネット作り	一般 30 " 30	30 29	8 13 13 00 ~ 13 30 8 15 "	工作教室／講師＝地下朱実（太鼓）／受講料＝ 500 円（材料費込み）／ピロティ
ミニ太鼓づくり	" 30 " 30	4 10	8 14 14 00 ~ 15 30 8 15 "	工作教室／講師＝浅野太鼓／受講料＝ 4,000 円（材料費込み）／ピロティ

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

名 称	期 間	回 数	内 容
月猫えほん音楽会 2010	5 4・5 8 4・5 8 6・7 9 4・5 9 9～11 9 24・25	1 1 1 1 2 1	滋賀県立芸術劇場ひわ湖 中ホール（滋賀県大津市） 北九州芸術劇場 中劇場（福岡県北九州市） 阿武町町民センター（山口県阿武町） 七ヶ浜国際村（宮城県七ヶ浜町） あさこ・ささゆりホール（兵庫県朝来市） 西新井西新井文化ホールギャラクシイ（東京都足立区）
ローサンヌ・カラ大阪	8 10	1	森の宮ピロティホール（大阪府大阪市）
デーモン小暮の邦楽維新	H23 3 12	1	富士市文化会館ロセシアター中ホール（静岡県富士市）

広報部



平成 22 年度の活動

1. はじめに

「こども活動エリア」という健全育成施設を運営すると同時に、健全育成思想の普及という役割を持つ〔こどもの城〕の広報活動は、広報＝PR (public relations) と宣伝 (advertisement) の2つの側面を持っている。たくさんの人に、〔こどもの城〕を利用してくださいと呼びかける“宣伝”だけではなく、子どもの健やかな〈育ち〉を支えることの必要性や重要性＝健全育成思想の普及ということ、〔こどもの城〕が具体的に推進しているということを理解してもらうための広報が重要になってくる。

〔こどもの城〕の“遊びのプログラム”は、楽しいひとときを過ごすだけの“遊び”ではない。ほとんどの場合、“遊びのプログラム”のなかに意図的に人やものとの出会いの場を設けて、子どもたちに体験してほしいこと、知ってほしいことなどを盛りこんでいる。したがって、〔こどもの城〕の活動に参加してもらうこと自体が、健全育成の普及にもつながっている。

各種メディアも、さまざまな形で〔こどもの城〕の活動を取り上げてくれている。定期的に情報を提供していることや、これまでの活動実績をふまえて、子どもの〈あそび〉の重要性を理解してもらっているからだと考えている。

本年度の取材件数は、新聞、テレビなど年間 157 件（前年度 171 件）にとどまったが、25 周年事業では、主要報道機関からの取材があり、それぞれのメディアで取り上げられ、〔こどもの城〕の存在を広く社会に知らしめることができた。

取材を受けたメディアには、定期的に情報を提供。引き続き、〔こどもの城〕への理解と協力をお願いしている。

2. 限られた予算で効果的な広報を

〔こどもの城〕の広報経費も、社会・経済環境の変化に対応して、大幅な減額を余儀なくされた。例年、夏休み特別期間に向けて新聞などへ出稿していた広告を、一部メディアを除いて中止した。また、23 年度の講座・クラブ受講生の募集に際しても、一般紙への折り込みを止めて一般住宅だけに配布先を絞り込むことができる、ポストインのみを行うなど、限られた予算の範囲で有効利用に努めた。

日本全体を見ても、電通発表の資料によると、平成 22 年（10 年）の日本の広告費は、総額 5 兆 8,427 億円（前年比 13% 減）だという。アメリカの金融危機に端を発した世界同時不況を背景に減少に転じ、平成 20 年（前年比 95.3%）、21 年（同 88.5%）、22 年（同 98.7%）となっている。身の回りを見渡しても、駅バりのポスターや車内つりの広告などが、いつのまにか少なくなっているのに気づかされる。さまざまなところで、広告（宣伝）の見直しが行われている。

女性誌の多くが読者層を極端に絞り込んで作られていること、総合誌と呼ばれている老舗の雑誌が苦戦していることなどが報じられている。価値観が多様化した社会では、“一般”より“個”の関心が高まっているという背景があるのかもしれない。〔こどもの城〕も、漠然とした“親子”ではなく、多様化した“親子”への対応を考えなければならないのかもしれない。

広報＝PR（public relations）については、このような時代だからこそ、これまで以上の地道な努力の積み重ねが必要と考えている。「こどもの城ニュース」などの自前のメディアをとおして、〔こどもの城〕の活動や子どもにとっての〈あそび〉の重要性・必要性＝児童健全育成の意味を、おりにふれて伝えていくことが重要だと考えている。

3. まとめ

〔こどもの城〕の広報は、〔こどもの城〕の活動と不即

不離の関係にある。〔こどもの城〕の活動があってこそ、広報すべきものが生じてくる。広報することで、多くの人の共感を得ることができれば、〔こどもの城〕の活動も活性化する。活性化すれば、社会的な認知も高まるのではなかろうか。

経費削減というのは、マイナスの要素ばかりではない。これまで、漫然と行ってきた事業を見直す好機でもある。何故？ なんのために？ なにをしたいのか？— など、広報活動の原点を改めて見直す契機になるのではなかろうか。



GW あそびイキイキ GO!GO!! こどもの城

2010 ゴールデンウィーク 特別期間
4月29日(木)～5月5日(水)

5月5日「こどもの日」はこども入場無料!!

Wall Cup Soccer
5月1～5日 14:00-17:30

「端午の節句」
5月4～5日 14:00-17:30

おんがくであそぼう! ガクコンサート
5月4～5日 14:00-17:30

こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL: 3797-5000 FAX: 3797-5015
http://www.kodomonoshiro.jp

児童福祉週間(ゴールデンウィーク) 特別期間ちらしデザイン・クワデザイン



GO!GO! 夏休み いっぱい あそぼう こどもの城

2010 夏休み特別期間
7月21日(金)～8月31日(火)

夏休み期間中 17:45～19:00 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

夏休み期間中 10:00～17:30 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

夏休み期間中 10:00～17:30 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL: 3797-5000 FAX: 3797-5015
http://www.kodomonoshiro.jp

夏休み特別期間ちらしデザイン・クワデザイン



冬休み 元気にビョン! あそび いっぱい こどもの城

2010-2011 冬休み特別期間
12月25日(金)～1月10日(火)

冬休み期間中 10:00～17:30 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL: 3797-5000 FAX: 3797-5015
http://www.kodomonoshiro.jp

冬休み特別期間ちらしデザイン・クワデザイン



はじめてビョン! みちくさ たのし こどもの城

2011 春休み特別期間
3月25日(金)～4月5日(火)

春休み期間中 10:00～17:30 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

春休み期間中 10:00～17:30 入場料 大人 400円(小学生以下 200円) 小学生以下 100円

こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL: 3797-5000 FAX: 3797-5015
http://www.kodomonoshiro.jp

春休み特別期間ちらしデザイン・クワデザイン

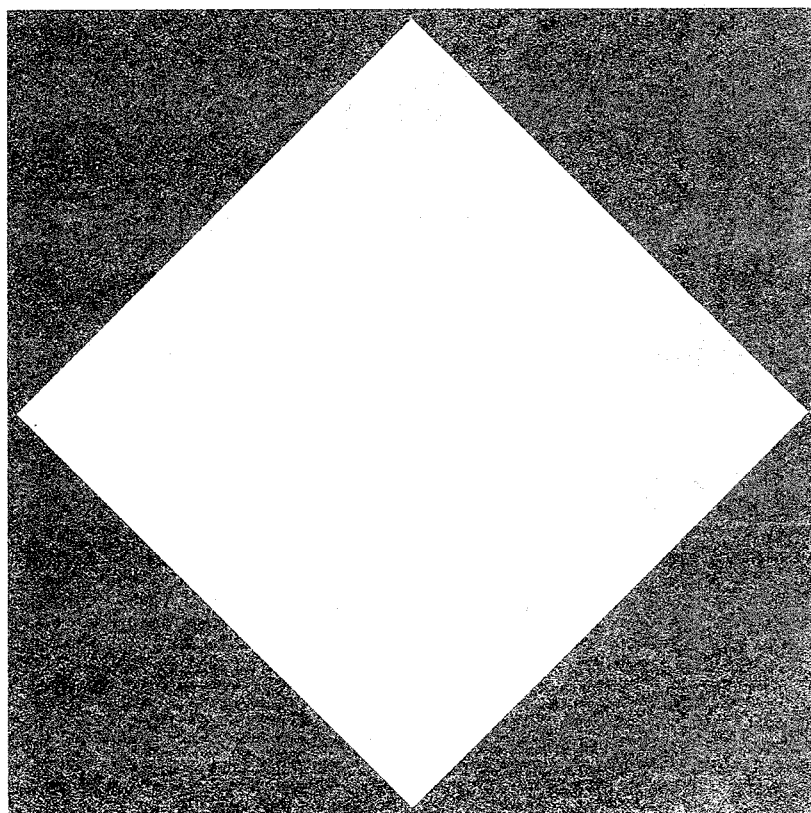
平成 22 年度活動一覧表

名 称	日 時	内 容
「こどもの城ニュース」の編集・発行	毎月 1 日発行	毎月 1 日発行。B3 判、表面 4 色、裏面 1 色印刷。各号 17,000 部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など（3,310 部）／都道府県児童福祉主管課（3,710 部）／こどもの城友の会（約 1,000 部）／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校（340 部）／渋谷区町会ほか（220 部）／市町村（1,000 部）／その他・一般来館児・者、視察・見学者など（約 7,420 部） ◇主な内容◇ 第 216 号（4 月 1 日号）＝「赤ちゃんサロン」と「ぼかぼか広場」～ふたつの“子育て広場” 第 217 号（5 月 1 日号）＝手作り楽器のワークショップ ～“わたしが作った楽器”で“私の音”を楽しむ～ 第 218 号（6 月 1 日号）＝身近にある“あそびのもと”～新聞紙を使った遊び 第 219 号（7 月 1 日号）＝〔こどもの城〕のカムラン講座～“やわらかな関係”生み出す音楽 第 220 号（8 月 1 日号）＝造形遊び～イメージする“わたし”、感じる“わたし”、造形する“わたし” 第 221 号（9 月 1 日号）＝みんなあつまれ！チャレンジ 25 ～開館 25 周年記念特別期間行事 第 222 号（10 月 1 日号）＝第 11 回全国児童館おりがみ作品展 むかしはなし 第 223 号（11 月 1 日号）＝25 歳 ハッピー・ハースティ〔こどもの城〕 第 224 号（12 月 1 日号）＝いきいき家族写真展／入館児・者 2,500 万人達成 第 225 号（平成 23 年 1 月 1 日号）＝いつでも ところでも 親子で仲よく〈運動遊び〉 第 226 号（2 月 1 日号）＝みんなてタンス！おとっちゃおう！！音楽ロビーの活動から 第 227 号（3 月 1 日号）＝私たちのパフォーマンスを見てください～講座・クラブ発表会
〔こどもの城〕のホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心としたサイトの運営を行っている。月間スケジュール、日替りカレンダー、講座・講習会などの募集案内など。無理なく継続的に運営していくために検討していかなければならないことは多いが、できる範囲で更新に努めている。年間、700 万件近いアクセスがある。
「こどもの城写真ニュース」の制作・掲示	毎月 20 日	館内に掲示している A3 判横サイズ・カラーの写真ニュース。毎月 20 日に更新。 4 月 20 日＝新体操発表会／赤ちゃんほっとタイム／時空図書館 ほか 5 月 20 日＝ウオールサッカー大会／ハブハブヘヒータウン／キャスルクエスト ほか 6 月 20 日＝サンハの体験ワークショップ／児童厚生員等実技指導講習会 ほか 7 月 20 日＝マタニティ・コンサート／親子でパチャパチャ ほか 8 月 20 日＝月猫えほん音楽会／島崎麻美タンスワークショップ ほか 9 月 20 日＝こどもの城の秋まつり／ときあかせ！るちゃと村の七不思議 ほか 10 月 20 日＝三味線講座／チャレンジ 25 プログラム ほか 11 月 20 日＝サウントメッセージ／赤ちゃん大集合 ほか 12 月 20 日＝こどもの城水泳記録会／焼きいも大会 ほか 平成 23 年 1 月 20 日＝おそなえ餅つくり／新春ひひけ！めてタイコ ほか 2 月 20 日＝節分会大まめまき大会／集まれ！小学生／保育活動展 ほか 3 月 20 日＝JAXA「宇宙の謎をさくってみよう」／アートスケープ 2011 / ほか
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の 1 か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成した。 ○児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間ちらし（A4 判／4 色×2 色／23,000 部） ○夏休み特別期間ちらし（B4 判 2 つ折り／4 色×1 色／48,000 部） ○冬休み特別期間ちらし（A4 判／1 色×1 色／18,500 部） ○春休み特別期間ちらし（A4 判／4 色×2 色／27,000 部） ×英語版（1 色／簡易印刷）もあわせて作成した。
その他のちらしの作成	通年	講座・クラブの募集ちらし（2 期、3 期、夏休み短期講座）や土曜日プログラム・高学年プログラムなどのちらしのほか、月間スケジュール（カレンダー／毎月発行）などを作成した。
平成 23 年度 講座・クラブ一覧	H23 1 月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4 判 2 ページ（2 色）。168,000 部印刷。一部をポストインちらしとして使用。
平成 21 年度版事業年報	11 1	平成 21 年度の〔こどもの城〕の事業報告。A4 版、128 ページ。

名 称	日 時	内 容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、経費削減のため一部を除き、夏休み特別期間の広告出稿を取りやめた。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞（年 14 回）と毎日小学生新聞（年 3 回）に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7 14、28	埼玉少年少女スポーツ新聞（タブロイト半 2 段）に夏休み特別期間の広告を掲載。
その他の広告		新聞以外の広告媒体を使って「こともの城」の催し物の案内を行った。
23 年度講座・クラブ受講生募集ちらしのポストイン	H23 2 5	経費削減のため。朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞への折り込みを休止し、配布先の絞り込みかてきるサンケイリヒンクのポストインのみ実施した。
ウェブ	通年	ウェブサイト「エリア毎日」で「こともの城」の案内および PR を行う。無料。
読者プレゼント	随時	「こともの城」で 365 日 首都圏版（ぴあ版）、「るるふことものとあそび」首都圏版（JTB パブリッシング）、「ファミリーウォーカー」（角川マーケティング）、「京王沿線子育てファミリーお出かけマップ」（京王エージェンシー）などの雑誌のほか、ウェブサイト「α Lavie」（キャップ・シャパン）で読者プレゼントに入館招待券を提供し、「こともの城」の案内を掲載してもらった。無料。
取材関係	通年	取材の申し込みもあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞 30（30）、テレビ・ラジオ 22（22）、雑誌 49（60）、その他 56（59）で、全体では 157（171）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
「こともの城」ホームページのメンテナンス	通年	「こともの城」の公式ホームページの「こともの活動エリア」のメンテナンスを担当。掲載内容の選定・集約、ページ制作、内容確認、更新などを行っている。
第 27 回 渋谷スタンプラリー	7 21 ～ 8 31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHK スタジオパーク、こともの城、たはこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館の 5 館で共催した。参加者は約 1 万人。
あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力して PR 活動などを行う。NHK スタジオパーク、渋谷 CC レモンホール、たはこと塩の博物館、トーキョーワンターサイト渋谷、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリー TOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、地球環境パートナーシッププラザ、国連大学ギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、東京都立中央図書館、エビスヒール記念館、山種美術館、JICA 地球ひろは、東京都写真美術館、こともの城の 21 施設が参加している。「渋谷ふるさとまつり」（11 月 6・7 日）に参加して「あ・ら・かるちゃー」を PR した。さらに、旅行業界、出版業界対象のプレス発表「施設めぐり」を 10 月 12 日に開催。約 20 社が参加した。
青山・赤坂共育情報局	〃	赤坂・青山地区の子どもを対象とする団体が集まり、交流・情報交換を行い、子ども向け事業の情報提供を行った。赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校、青少年対策赤坂地区委員会、青少年対策青山地区委員会、青山児童館、赤坂子ども中高生プラザ「なんて〜も」、赤坂図書館、NPO 法人 檜町公園遊びを考える会、サントリー美術館、21.21 DESIGN SIGHT、フシフィルムスクエア、先端技術館@ TEPIA、すみっこ文庫、青山ライオンキッズクラブ、港 SC、みなとスポーツ吹矢会、こともの城の 20 施設・団体が参加している。

4

こどもの城から 全国へ



こどもの城 から全国へ



平成 22 年度の活動

1. はじめに

〔こどもの城〕が単なる大型児童館としての機能だけでなく、地域の児童館や子育て支援の活動をしている人たちに必要な情報を発信する、ナショナルセンターとしての機能は、ますますその重要性を増している。児童館・児童センターだけではなく、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所、子育て支援のための NPO 団体などの健全育成や子育て支援の動きを視野に入れて、活動を展開することが望まれている。

児童館・児童センターなどの、現場で活動する職員を対象とした「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、〔こどもの城〕で開発したプログラムを題材に実践・研修・情報交換を行い、児童館活動の活性化をはかる〈動くこどもの城〉事業の展開、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなどをとおして、児童健全育成の推進をはかっている。

2. 事業の概要

(ア) 児童厚生員等指導者対象の講習会

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」は、児童館で活動する児童厚生員など、子どもにかかわる指導者の技能向上のための講習会。本年度から、これまで一般向けに実施していた「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」も、「こどもの城児童厚生員等実技講習会」に組み入れて実施した。

「つくって演じる人形劇」は、例年“つくる”と“演じる”を別々にして開催していたが、充足率が低く、より

効果的・効率的にするために、一本化した。

第 4 回講習会「子どもの育ちを考える～子どもと季節行事～」は、定員をオーバーする状態となった。単なるプログラム紹介にとどまらず、子ども文化の背景となる地域の風習や文化にも着目した。児童館における子どもに対する実技指導やプログラム立案に際して、単に現象面での〈実技〉だけでなく、プログラムの目的を明確にするためにその背景にある歴史、文化を理解することもニーズとして高まっていることがうかがえる。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、研修生 22 人を受け入れた。実習生は、大学・短期大学・専門学校から依頼のあった保育、博物館学等の科目履修の実習の場として、本年度は 21 人の学生を受け入れた。

中学生・高校生については、キャリア教育としての〈職場体験〉や次世代育成としての〈乳幼児とのふれあい体験〉など、授業の一環として体験実習を希望する件数は、年間をとおして定着の傾向にある。本年度は中学生 7 件 20 人、高校生 3 件 31 人の受け入れを行った。

(ウ) 講師派遣

地域で開催される児童健全育成の研修会や催しのために、〔こどもの城〕の職員が講師として招かれた件数は 139 件であった。基本的に職員の勤務時間外に行われているとはいえ、〈動くこどもの城〉などの派遣事業と補完関係にある。講師として出向くことが、職員の自己啓発や技能向上につながるケースも多い。

他の事業とのバランスに考慮しつつ、地域からの派遣

要請に応じていきたい。

（エ）国庫補助金による事業

【児童館巡回等支援活動事業＝〈動くこどもの城〉】

国庫補助金を受け、全国の児童館をはじめとする、児童健全育成事業を行っている施設に、〔こどもの城〕で実践してきた〈遊びのプログラム〉を紹介する事業。児童館が地域社会から求められる、多様なニーズに対応するために活用されている。指導者研修会を同時に開くことにより、プログラムが地域でより活用してもらえるような工夫をしている。

派遣に際しては、〔こどもの城〕のプログラム紹介という一方通行に終わらないよう、地域での活動の聞き取りを行ったり、地域児童館およびスタッフ間の交流の場としても活用されるように配慮している。

ここ数年要望の多かった、乳幼児をもつ親に対する子育て支援プログラムは、9か所と需要が一段落した印象である。代わって、幼児や児童を対象としたプログラムへの要望が 12 か所と増加した。ほかに、「全国児童館おりがみ作品展」などの展示プログラムが 17 か所、〈遊びのプログラム〉の実技指導講習が 30 か所、重複か所を除くと全国 47 か所に派遣を行った。

【啓発活動事業】

〔こどもの城〕のもつ児童健全育成事業についての方法論を、児童館をはじめとする全国の健全育成関係者、行政の担当者、市民活動でかかわる人たちなどへ広く伝え、具体的な活動の紹介をとおして、児童健全育成事業の具現化と活性化につなげようとするもの。

「こどもの城ニュース」をはじめ、各種資料の制作と配布をとおして、健全育成理念の啓発と普及に努めた。

【中央児童厚生施設事業】

〔こどもの城〕の事業のなかで培われた、ボランティアの育成や活動支援の方法論を活用して、児童館活動の活性化をはかる事業である。ボランティアの育成や交流を促進し、ボランティアを活用して地域の子育て支援のネットワーク化につなげるプログラムである。

本年度は、特に乳幼児を持つ親に向けた「乳幼児の発達と大人とのかかわり」や、ネットワークを広げるために〈かえっこ〉という、使わなくなったおもちゃを交換する〈遊びのプログラム〉をツールとして使う「とりとかえっこ」への関心が高かった。

児童健全育成施設で活動している、ボランティアの交流も行った。一度だけではあったが、4 地域からの代表

が一堂に会することができた。

（オ）助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の助成を受け、「屋外遊びを通じたネットワークづくり事業」を行った。児童館における屋外遊びの活性化を目的に、全国 3 か所でモデル事業を実施したほか、移動式屋外遊具キットの開発、報告書「もっと外で遊ぼうよ！～移動型遊び場による地域ネットワークづくり」の作成と全国の児童館等への配布を行った。

日本のセンター児童館として、先駆的な事業展開の研究、提言をしていくことは重要な役割であり、今後も機会があれば、チャレンジしていきたい。

今後につながる新しい事業の芽を、大切にしていかなければならないが、事業の試行にあたって公的な助成を受けられるものについては、〔こどもの城〕の活動を社会的に評価してもらう一つの機会ととらえ、積極的に取り組んでいきたい。

3. まとめ

〔こどもの城〕は、大型の児童館としての事業のほか、全国の児童館・児童センターなどへ向けた情報発信や〈動くこどもの城〉などをとおした支援を行うセンター機能にも力を入れてきた。今、子育てをめぐる社会の環境は著しく変化をし、それにつれて〔こどもの城〕への社会の期待も大きく変わってきている。

各地の子育て環境は様でない。地域のそれぞれの児童館が、子育て支援センターが、NPO などの民間団体が、あるいは個人が、子どもの良き育ちのために努力している。〔こどもの城〕は、こうした人たちの一助となる事業にも積極的に取り組んでいきたい。

これまでの活動の蓄積のなかに、地域の健全育成事業に参考になることが、たくさんあるに違いない。それを提供していくだけではなく、社会的なニーズに積極的に取り組んでいくことが必要であると考え。具体的には、児童館だけではなく、児童館を中心とした子育て支援のための地域資源の発掘とネットワークの構築、放課後児童クラブや子育て支援センターなどの支援システムの研究と、その成果の還元といったことなどである。

また外部への働きかけ、外部からの情報の収集が、担当する一部の部署だけのものに終わらないように、〔こどもの城〕のなかでの情報の共有化と事業のコンセンサス作りに引き続き努力していきたい。

平成 22 年度活動一覧表

1. 講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 22 年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第 1 回 遊びの専門技術 「手技を楽しむ ②」	(人) 児童館職員 ほか (50)	(人) 32	6・9・10 10:00～16:00	「遊びの専門技術～手技を楽しむ②～」をテーマに、「風を遊ぶ①～気軽に楽しむモヒール・風車～」 「風を遊ぶ②～とへとへ折り紙ヒコーキ! 紙飛行機を究める」 「いろいろなコマを楽しもう! ～誰でもまわせる遊びのテクニック～」 「手は唄う～手話ソングを楽しもう!～」を実施した。(研修室ほか)
第 2 回 つくって演じる 人形劇	// (30)	16	8・22 10:00～17:00	児童館や保育の現場で活用できる人形をウレタンなど自作し、操作の仕方、人形劇としての演し方、子どもとの活動への生かし方などを実習。講師は人形劇・木くつ木の鹿島佳子さん。(会議室)
第 3 回 おりかみにつよ くなる初心者向 け指導者講習会	// (50)	47	11・13 10:00～17:00	日本折紙協会講師の指導による、児童館や保育の現場で活用できる折り紙の講習会。折り図の見方から学ぶ初級編。基本形とそれを発展させたもの、山折り・谷折りでできる作品、クリスマスの3つのテーマを設定。折り方だけでなく、子どもたちに教える場合のコツ、遊びへと広げていくアイディアを盛り込んで指導した。(会議室)
第 4 回 子どもの育ちを 考える～子ども と季節行事～	// (50)	59	H23 1・19～21	「子どもの育ちを考える～子どもと季節行事～」をテーマに、3日間の講習会を実施。「子どもの育ちを考える～季節行事と通過儀礼～」 「こどもの城の活動から～つくってあそぶ季節行事～『こども歳時記』の活動紹介」 「子ども文化と季節行事」 など、講義と実技を交え、最終日には、小グループで、児童館での新たな季節行事を立案した。(研修室)



遊びの専門技術「手技を楽しむ②」 いろいろなコマを楽しもう!



つくって演じる人形劇

全国児童館おりかみ作品展（こどもの城ギャラリー）

2. 〈動くこどもの城〉（派遣プログラム）ほか

〈動くこどもの城プログラム一覧〉

名 称		内 容
子 と も と の 家 族 を 対 象 と し た 活 動 の 実 践	〈乳幼児とその家族を対象とした活動の実践〉	
	お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をする。
	親子ふれあい体操“1・2・3”	1・2歳または、2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
	親子いっしょに うきうき! おんかくあそび!	音楽にあわせて体を動かしたり、親子で手遊び・歌遊びなど。子どもの成長に応じた「親子のふれあい」「家族では得難い集団での遊び」を紹介。親子のスキンシップを大切にしたいプログラム。
	親子で遊ぶパペットラント	幼児にとって小さな人形は、安心して接することのできる大切な友たち。幼児とその親を対象に、身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、“親子のふれあい”プログラム。対象年齢別に、1歳6か月～3歳向けの「ふれあい遊び」と、3歳以上向けの「劇遊び」がある。
	ほかほか広場 乳幼児と親のための 交流広場	児童館では、乳幼児とその親が気軽に集まり、親同士で話をするなかで子育ての悩みを解消し、仲間作りがてきえる「広場」への取り組みが始まっている。そのような“ふれあい広場”の実践を紹介。 【「広場」の持ち方と相談（小児保健部ほか）】 乳児とその親を対象とした「広場」の環境設定、雰囲気作り、子育て相談の持ち方などの運営方法を紹介。 【「広場」で遊ぼう（音楽事業部・保育研究開発部ほか）】 ワンポイントの音楽遊びなどとおして、親子でふれあって遊ぶ楽しさを体験。親同士の仲間作りを促進。 【身近なもので遊ぼう（プレイ事業部ほか）】 親子の時間を豊かにするために、ハンカチや新聞紙など身近なものを使って体を動かして遊んだり、親子のスキンシップを楽しむショートプログラムを紹介。
	〈幼児や学童を対象とした遊びのプログラム〉	
	身近な道具で スポーツあそび	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも・そして特定のスポーツの道具として使うことが多いホールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
	「おにっこ」で 楽しく体力づくり	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に伸ばしていった。現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。簡単に転んだり、上手によけることのできず、ふつかつてしまったり。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
	カトカトコンサート 「おんかくカスキ!」	従来のように参加者に聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれているコンサート。演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
活 動 の 実 践	竹の響き 「アングルンコンサート」	アングルンは竹で作られたインドネシアの民族楽器で、「竹のハントヘル」とも呼ばれている。竹が奏でる優しく素朴な音のハーモニーを楽しむ。また、子どもたちがアングルンを体験するコーナーもある。
	絵本の読み語り 「おはなしコンサート」	スライドで写し出した大きなイラストと、ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語り。絵本の楽しさを家族一緒に体験してもらうことのできるプログラム。小劇場向けの「心をこめた贈り物」と、小さなスペースでも上演できる「おはなしおんかくパンパカパン」がある。
	音楽ゲームセンターで遊ぼう 「スーパースターゲッター」	日常の子どもたちとの遊びの活動のなかから作り上げた、オリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」などさまざまな音楽的要素を含んだゲームが屋台のように並ぶ。
	アニメ・ワークショップ	遊びとおして、映像の仕組みを考えることのできるプログラム。2枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚かん具」の制作などとおして映画、映像の仕組みを体験。また、ワークショップでは制作の難しい、複雑な「視覚かん具」などの展示も行う。
実 践	映像探検 写真ワークショップ	写真の“写る仕組み”を体験するプログラム。写真の発明以前に、画家たちがテッサンの補助的器具として用いていた「カメラ・オブスクラ」や、レンズを使わないカメラ「ピンホールカメラ」を使ったワークショップを行う。また、写真の仕組みや歴史を学ぶ展示も併設。

名 称	内 容
子どもとその家族を対象とした活動の実践	〈幼児や学童を対象とした遊びのプログラム〉
	こどもの城映画劇場 子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、こどもの城フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」の収蔵作品から数本を選んで上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナタ国立映画制作庁 NFBC のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品約 110 本が収蔵されている。
	科学あそびにチャレンジ音のふしぎ 音が作る不思議な世界を体験するプログラム。糸電話の工作、録音した声を逆再生して正しく聞こえる“言葉”作り、音の波形（図形）を描いて音にするプログラムなど、幅広く紹介。目に見えない音の姿を見たり、音の伝わるしくみに触れる展示もある。
	みんなで遊ぶパペット・ラント 人形作りと人形遊び。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、こっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプログラム。
	レクリエーションゲーム大会「忍者マスター決定戦」 こっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマに、ファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはくむことをねらいとしている。
子どもとその家族を対象とした活動の実践	やってみよう！パソコン遊びのプログラム パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。実施するプログラムは、「きれいなクラフィック遊び」やさまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインし、実際に作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、今まで〔こどもの城〕のパソコンルームで実施したプログラムのなかから、いくつかを選択して実施。
	〈展示とワークショップ〉
	造形ワークショップ展 〔こどもの城〕造形スタジオのプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。パネル展示が中心となるプログラム。「素材アラカルト」「こども歳時記」「絵本の世界へ」「竹体験ワークショップ」「音・光体験」の 5 種。
児童厚生員やボランティアなどを対象とした研修会	お父さんの少年時代 児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんか子どもがたつころ、昭和 30 ～ 40 年代の〈遊び〉の展示。めんこ、へいこま、たこ、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、子どもたちに昔遊びのエッセンスを体験してもらう。
	〈0 歳からの子育て支援研修〉
	つくって遊ぼう 紙・布・木など身近な素材を使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プログラムの研修。子どもと一緒に造形活動を行う時の素材・道具の使い方や、環境設定などについて学ぶ。
	乳幼児の食生活 乳幼児の食生活（授乳・離乳食など）について、親の悩みはつきない。食生活の基本的な考え方などを、子育ての実情をふまえて、管理栄養士が説明。
	乳幼児の健康管理と応急処置 乳幼児の成長をふまえ、けかの応急処置をはじめ、事故の予防や日常生活の健康管理などを看護師が説明。
児童厚生員やボランティアなどを対象とした研修会	乳幼児の発達と大人のかかわり 0 ～ 2 歳の子どもは、遊び、言葉、自己主張など、目覚ましい発達をとけ、親が接し方に悩む時期でもある。この時期の発達の特徴や大人のかかわり方などについて臨床心理士が説明。
	〈遊びの実技研修〉
	不思議な映像実験室 《映像の時代》ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは欠かせない。映像の基本的な原理について、遊びを通して理解できるプログラムを紹介。
	手作り楽器のワークショップ ふたんは、からくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、音が出るようにする。金属の缶やペットボトルなどが、音の道具に早変わり。そして制作終了後には、全員で作った楽器で音をたして遊ぶ。
	打楽器で遊ぶワークショップ ブラシルのサンハを中心に、アフリカの太鼓・タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用して、リズム遊び。元気づく打楽器をたたき、アンサンブルを楽しむ。
	想像遊びのワークショップ さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。簡単なカードの制作をとおして協同制作者とのコミュニケーションをはかる。
	人形遊びのワークショップ 紙コップ・タオル・靴下など身近な素材を使って人形を制作し、遊びにつなげていくための講習会。人形を使った表現遊びをするためのノウハウを学ぶ。

名 称		内 容
児童厚生員やボランティアなどを対象とした研修会	〈遊びの実技研修〉	
	パソコン遊びのワークショップ	パソコンを使った遊びのプログラムをいくつか体験しながら、活動テーマの設定、ソフトやデータの準備など、子どもたちにパソコン遊びを提供するまでの具体的な方法を紹介する。
	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	レクリエーションゲームに“こっこ遊び”の要素を取り入れることにより、子どもたちがより意欲的にプログラム参加する。ストーリー性のあるレクリエーションゲーム大会の演出方法について、実践例を参考に考える。
	造形ワークショップ	素材・発想・技法など、さまざまなプログラムが生まれる。とこにでもある素材を用いて、ほんの少しだけ発想を変えると、ふたは見ええないものが見えてくる。そうしたプログラムを何種類か参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。
児童館などでのボランティア養成のための研修	〈児童館などでのボランティア養成のための研修〉	
	ボランティア 1・2・3	児童館が地域と密着して、豊かな事業を展開していくためには、ボランティア活動のコーディネートが必要不可欠。児童厚生員を対象にした研修、ボランティアの資質向上を目的にした研修を選択して実施。「児童館のボランティアコーディネート 1・2・3」「児童館でのボランティア活動 1・2・3」「児童館ボランティア交流研修」がある。
	児童館を拠点としたネットワークづくり	【研修】児童館が地域の子育て支援拠点として機能するためには、地域の社会資源を結びつけるコーディネート機能が大切。さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ。 【実践】「とり+かえっこ」を通したネットワーク作り。おもちゃの交換を中心とした“子どもの街”を使って、地域のさまざまな社会資源とのネットワークを築ききっかけに。
おりかみ作品展	全国児童館おりかみ作品展	各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、寄せられた 26 作品を「こどもの城」での展示。終了後、全国で巡回展を実施。

〈動くこどもの城派遣実績一覧〉

都道府県	開 催 団 体	実 施 日 時	プ ロ グ ラ ム 名	研修	催し	展示
愛媛県	伊予市児童館あすなろ	平成 22 年 6 月 26 日	「おにこっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
佐賀県	鳥栖市児童センター	7 月 6 日	親子いっしょに うきうき！ おんかくあそび！	○	○	
宮城県	登米市福祉事務所子育て支援課	7 月 16 日	手作り楽器のワークショップ	○		
鹿児島県	キッズランド児童館	9 月 4 日	「おにこっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
愛知県	一宮市社会福祉事業団（朝日東児童館）	9 月 13 日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○		
青森県	子ども家庭支援センター	9 月 19 日	身近な道具でスポーツあそび 五所川原	○	○	
〃	子ども家庭支援センター	9 月 20 日	〃 弘前	○	○	
東京都	台東区松が谷児童館	9 月 21 日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
横浜市	横浜市港南区子育て連絡会	9 月 27 日	親子ふれあい体操“1・2・3”	○	○	
徳島県	子育て支援センターみらい	9 月 29 日	ぽかぽか広場ー乳幼児と親のための交流広場ー	○	○	
静岡県	裾野市立南児童館	10 月 9 日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○		
岩手県	気仙沼市鮎立児童館	10 月 19 日	〃	○		
山形県	ふたは児童館・保育園	10 月 22・23 日	からくた楽器のコンサート	○	○	
福島県	会津美里町立あやめ保育所	11 月 11 12 日	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
広島県	三原市児童館	11 月 21 日	アニメ・ワークショップ	○	○	
群馬県	くまこどもの国児童会館	11 月 26・27 日	親子ふれあい体操“1・2・3”	○	○	
岡山市	岡山市保健福祉局こども福祉課	11 月 30 日	親子いっしょに うきうき！ おんかくあそび！	○	○	
山口県	山口県児童センター	12 月 9 日	造形ワークショップ	○		
秋田県	かんは学童教室	平成 23 年 1 月 6 日	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
栃木県	壬生町児童館	1 月 15・16 日	カトカトコンサート「おんかくかすき！」	○	○	
広島市	広島市児童館連絡協議会	1 月 28 日	からくた楽器のコンサート	○		
埼玉県	新座市児童センター	1 月 28 日～2 月 15 日	お父さんの少年時代	○	○	○

都道府県	開催団体	実施日時	プログラム名	研修	催し	展示
東京都	杉並区立四宮森児童館	2月10日	親子ふれあい体操“1・2・3”	○	○	
茨城県	守谷市北守谷児童センター	2月11日	おりかみ研修会	○		
埼玉県	秩父市立中村児童館	2月18日	親子ふれあい体操“1・2・3”	○	○	
兵庫県	姫路市立北児童センター	2月26日	おりかみ研修会	○		
埼玉県	白岡市子育て支援課	2月28日	児童館を拠点としたネットワークづくり	○		
岩手県	花巻市こども課	3月1日	おはなしおんかくパンパカパ〜ン	○	○	
兵庫県	宝塚市子ども家庭支援センター	3月17日	親子で遊ぶパペットラント	○	○	
愛知県	豊橋市こども未来館	3月21日	アニメ・ワークショップ	○	○	
香川県	さぬきこどもの国	3月26・27日	「おにこっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
京都市	京都市久我の杜児童館	平成22年4月5～9日	全国児童館おりかみ作品巡回展（21年度作品）			○
愛媛県	今治市伯方児童館	4月7～11日	〃			○
福岡県	宗像ユリックス	4月24日～5月9日	〃			○
鹿児島県	キッスラント児童館	5月15～31日	〃			○
福島県	福島市野田児童センター	6月5～12日	〃			○
滋賀県	東近江市立あかね児童館	6月5～13日	〃			○
茨城県	守谷市北守谷児童センター	6月5～13日	〃			○
三重県	伊勢市明照児童館	6月19～24日	〃			○
札幌市	札幌市中の島児童会館	12月4～21日	全国児童館おりかみ作品巡回展（22年度作品）			○
滋賀県	東近江市立あかね児童館	平成23年1月4～14日	〃			○
山口県	山口県児童センター	1月21日～2月4日	〃			○
茨城県	守谷市北守谷児童センター	2月11～17日	〃			○
兵庫県	姫路市立北児童センター	2月23～27日	〃			○
埼玉県	ふしみ野市立児童センター	3月5～9日	〃			○
京都市	京都市久我の杜児童館	3月15～24日	〃			○
神戸市	神戸市総合児童センター	3月30・31日	〃			○

〈中央児童派遣実績一覧〉

	開催団体	実施日時	プログラム名	研修	催し
熊本県	合志市社会福祉協議会西児童館	4月17・18日	ネットワークづくり「とり+かえっこ」	○	○
山梨県	富士河口湖町子ども未来創造館	6月19日	ボランティア活動123	○	
宮城県	仙台ひと・まち交流財団貝ヶ森児童館	9月25日	ネットワークづくり「とり+かえっこ」	○	○
〃	〃 鶴ヶ谷児童館	10月13日	〃		○
〃	〃 南吉成児童館	10月16日	〃		○
〃	〃 虹の丘児童センター	10月23日	〃		○
神奈川県	辻堂児童館	10月29・30日	〃	○	○
〃	〃	11月28日	〃		○
長崎県	いさはやこどもの城・小城市児童センター	2月11・12日	ボランティア交流研修	○	
宮崎県	宮崎市子育て支援課	2月17日	乳幼児の発達と大人の関わり	○	
東京都	サンライズ万世（母子福祉従事者会）	2月24日	乳幼児の食生活	○	
埼玉県	草加市新栄児童センター	3月10日	乳幼児の発達と大人の関わり	○	

3. 助成金による事業

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業〉

名 称	日 時	内 容
屋外遊びを通じたネットワークづくり事業	5 月～ H22 2 月	児童館が地域の遊びの拠点となる取り組みとして、公園・児童遊園等を活用したスタッフによる移動児童館を活性化させるための事業を実施。①運営委員会・プログラムキット作成委員会の実施 ②屋外遊びのプログラムキットの開発 ③出前児童館・移動児童館にかんするヒアリング調査 ④モデル事業としてキットを活用した屋外遊びの試行的実施 ⑤屋外遊びの実施マニュアルの作成。活動をまとめて掲載した報告書を作成し、全国の児童館と都道府県・区市町村の児童館主管課と教育委員会、児童館連絡協議会、児童福祉関係団体等に配布した。

こどもの城 事業年報

平成 **22** 年度

平成23年11月1日発行

[編集・発行]

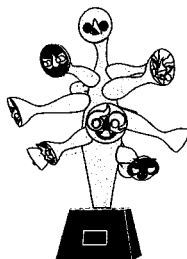
財団法人 児童育成協会

理事長 小山敬次郎

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

<http://www.kodomono-shiro.jp/>

表紙イラスト／KOHYA
デザイン／COIL
印刷所／シンソー印刷(株)



財団法人 児童育成協会



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676

<http://www.kodomo-shiro.jp/>